2020年度

シ　ラ　バ　ス

桐生大学　医療保健学部

栄養学科

講義コード	20010001
講義名	哲学・倫理学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 村上 隆夫	指定なし

授業の概要と教育目標

西欧の哲学および倫理学という学問に関する基本的な事柄について学ぶことを教育目標とする。そのために、古代ギリシアにおける哲学・倫理学の成立と、古代ユダヤのヘブライ文化を源流とするキリスト教の成立とを跡付けて、その後の西欧の哲学と倫理学の発展を近代にいたるまで概観する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

広い基礎的な教養の獲得を目指す選択科目として卒業認定・学位授与の方針と関連する。

到達目標

古代および近代のヨーロッパの哲学・倫理学のみならず、現代の哲学・倫理学についての入門的な文献を読解できるようにすることを目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	＜古代地中海世界の文化＞ 古代地中海世界におけるギリシャ人の文化とユダヤ人の文化について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する（30～60分程度）
第2回	＜ギリシア哲学の形成（１）＞ ソクラテスの生涯とその哲学・倫理学について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する（30～60分程度）
第3回	＜ギリシャ哲学の形成（２）＞ 上に同じ		講義内容について、主にインターネットで検索する（30～60分程度）
第4回	＜ギリシャ哲学の展開（１）＞ プラトンの哲学・倫理学について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する（30～60分程度）

第5回	＜ギリシア哲学の展開（２）＞ 上に同じ		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第6回	＜ギリシア哲学の展開（３）＞ アリストテレスの哲学・倫理学について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第7回	＜ギリシア哲学の展開（４）＞ 上に同じ		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第8回	＜キリスト教の成立（１）＞ イエスの生涯とその倫理思想について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第9回	＜キリスト教の成立（２）＞ パウロによるキリスト教思想の形成について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第10回	＜キリスト教神学の形成＞ アウグスティヌスのキリスト教神学について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第11回	＜キリスト教神学の展開＞ 中世キリスト教神学における普遍論争について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第12回	＜宗教改革の思想＞ マルティン・ルターとジャン・カルヴァンのキリスト教思想について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第13回	＜近代哲学・倫理学の形成（１）＞ トマス・ホッブズの哲学・倫理学の近代的性格について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第14回	＜近代哲学・倫理学の形成（２）＞ デカルトの哲学・倫理学の近代的性格について説明する。		講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）
第15回	＜総括と討論＞ これまでの講義について補講を行い、さらに総括のための討論の時間を設ける。	講義内容についての意見と討論を求める。	講義内容について、主にインターネットで検索する （30～60分程度）

教科書

特に使用しない。講義の際にレジュメを配布する。

参考書

講義のなかで適宜指示する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。学期末試験（１００％）による評価を行う。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業の後で関連する事項について検索をおこなうなど、復習することが望ましい。
評価は期末試験によって行い、要望があれば具体的に講評する。

履修のポイント

レジュメに関連してノートに補足してまとめることが望ましい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応ずる。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C070

講義コード	20020001
講義名	心理学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	×
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

ものを見ること、覚えること、考えること、泣いたり笑ったりすることなど、私たちが意識するとしないとにかかわらず、人のあらゆる活動に心はかかわっている。心理学は、そのような私たちの心のはたらきを明らかにすることを目的としているが、そのはたらきはさまざまである。そして、人は常に、状況に応じて適切な判断を下し、その場に合った行動をうまく選択し、自分にとって必要で大切だと思うことをきちんと覚えておくような存在かというと、そうでもない。本講義では、そうした人の心の多様なはたらきについて取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによって視聴覚にうったえる試みもする予定である。なお、人の心のはたらきについての基礎知識の習得し、人に対する理解を深めることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的な展望としては、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

１．知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる専門用語の意味を理解する。
２．知覚・記憶・学習・発達・性格・感情と欲求・適応機制などにかかわる心理学理論について理解する。
３．日常的な出来事を心理学の理論に沿って理解する。
４．人の心の全般的なしくみについて理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
			予習90分：教科書

第1回	心理学のいろいろ	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など） 心理学の系譜を概観しながら、日常生活から社会の動きまでのトピックスをワークシートを使いながら理解を深める。	第1章を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	知覚心理学	錯視をはじめとし、見えの不思議について、教科書のワークをしながら知覚の不思議を体験する。 （DVDの視聴あり）	予習90分：教科書pp.20-34を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	学習心理学	テスト勉強で何かを覚えるだけでなく、知らず知らず身につけてしまう学習について取り上げる。日常生活で我々が知らず知らず身に着けている行動の例についてグループで考える。	予習90分：教科書pp.34-43を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	認知心理学	記憶や思考についてのワークをしながら理解を深める。	予習90分：教科書pp.43-54を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	人格心理学	いくつかの心理検査を行い、自分自身についての理解を深めながら、パーソナリティについての理解を深める。	予習90分：教科書pp.56-70を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	発達心理学①	発達の基本概念について取り上げる。発達を促進する遺伝的要因と環境要因について考えを深める。	予習90分：教科書pp.71-83を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	発達心理学②	自分らしさを作り上げる過程から死を迎えるまでの発達について取り上げる。心理検査等により自分のアイデンティティについての理解を深めながら、青年期の発達課題について理解する。	予習90分：教科書pp.84-101を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	社会心理学①	対人関係における印象形成、対人魅力、恋愛について自分の考えを深める。	予習90分：教科書pp.102-118を読む。 復習90分：配布資料を

			見直す。
第9回	社会心理学②	人を動かす心理学について自分の考えを深めする。 （DVD視聴あり）	予習90分：教科書pp.119-135を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	社会心理学③	援助行動と攻撃行動について自分の考えを深める。	予習90分：教科書pp136-148を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	健康心理学①	心の健康、適応について自分の考えを深める。	予習90分：教科書pp.149-158を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	健康心理学②	ストレスについて自分の考えを深める。	予習90分：教科書pp.158-163を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	健康心理学③	心の健康の維持、回復について取り上げるが、まず正常と異常の違いについて多面的に考える。 （DVD視聴あり）	予習90分：教科書pp.164-171を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	臨床心理学	無意識の発見から明らかになった知見について取り上げる。 心の病と心理療法について取り上げる。 （DVD視聴あり）	復習90分：配布資料を見直す。
第15回	社会現象と心理学	心理学から見た社会現象について取り上げる。 （DVD視聴あり）	予習90分：教科書pp.172-182を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

藤本忠明他 『ワークショップ心理学』 ナカニシヤ出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）もしくは小論文テスト40％
レポート・課題30％ 授業への積極性・態度30％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。授業時間外の学習として、予習は各回の主題に該当する教科書の章に目を通すこと、復習は配布資料・ノートの整理することを勧めます。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。
※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C001

講義コード	20030001
講義名	教育原論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

教育に関する基本的な事項について学ぶ。これまで受けてきた家庭教育・学校教育・社会教育での経験を踏まえながら、「教育とは何か」について、また教育がもたらす弊害についても考える。そして、「主体的・対話的で、深い学び」とは何かついて理解を深めていく。※「読む」「書く」「話す」という実践的訓練（スキル）を毎時間行う。特に「話す」については、授業内容に即して発言を求める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーと関連して、人間のもっている社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面についての理解を深めることを目指して、人間の存在・成長・発達に関わって教育のもっている意味を理解する。そして、そのことを通じて、学び続けることの重要性を実感できることを目指す。

到達目標

教育とは何か、人間として生きるために、また人間として成長するために、なぜ教育が必要であるかということについて考えます。その上で、現実に行われている教育について考える視点をもつことができるようになることを目標とします。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	これまで受けてきた教育を振り返りながら、家庭教育・学校教育・社会教育についての考え方を共有する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第2回	人間が存在するようになった時代を想像しながら、教育の有り様を考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。

			復習90分：配付資料を見直す。
第3回	乳幼児の成長を追いながら、親・家族の存在と教育（保育）について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第4回	児童期を迎えた子どもたちと小学校での教育（初等教育）と家庭・地域との連携・協力について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第5回	生徒期を過ごす子どもたちと中学校・高等学校での教育（中等教育）と家庭・地域との連携・協力について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第6回	学生期を過ごす青年たちと大学の教育（高等教育）と地域との連携・協力について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第7回	人間についての観念（人間観）の歴史的変遷と教育を踏まえ、その内容と方法について 考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第8回	近代教育史を中心にして、その変遷と価値観の転換について考える。また、日本の近代公教育の成立を踏まえながら、権利としての教育（憲法）、教育基本法、学校教育法について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第9回	学校の中心的な教育活動である授業と学習の関係について考える。	「主体的、対話的で深い学び」とは何かについて、考える。「アクティブラーニング」とは何について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第10回	学校という組織の運営と計画、教育内容の組織化と形態、教育課程の編成、学習指導要領について学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第11回	教科外教育としての生徒指導（生活指導）や特別活動、道徳教育の役割と課題について考える。また、教科外教育において、今日の学校環境を取り巻く学校安全についての理解を深める。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第12回	学校保健安全法をとりあげ、生活安全・交通安全・災害安全について学び、その意義を理解する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
			予習90分：教育

第13回	今日求められる「開かれた学校」について学び、その意義を理解する。		に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第14回	教育や学習とは何かという問いに基づきながら、社会構成的学習（参加・対話型）を実際に行ってみる。	「主体的、対話的で深い学び」とは何かについて、考える。「アクティブラーニング」とは何について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第15回	教育の現状を踏まえながら、これからの教育のあり方について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『学生のための教育学』西川信廣・ほか編、ナカニシヤ出版。
文部科学省『幼稚園教育要領』（平成29年）。
文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年）。
文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年）。
文部科学省『生徒指導提要』（平成22年）。
※適宜資料を配付する。

成績評価の方法・基準

定期試験（80%）、授業時のレポート（20%）
単位認定基準60%以上

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので、授業の振り返りとして役立てること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館
※授業終了後にも、適宜受け付けます。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C002

講義コード	20040001
講義名	法学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

社会において、生活を営み、職業に従事する場合、少なからず法が関わってくる。特に、保健医療・健康・栄養に関する分野は、他の職業領域と比較して、国による規制および国によるサービスが実施されることが圧倒的に多い。そのため、保健医療・健康・栄養の従事者は法令により、その業務を行わなければならない。また、最近は、法的紛争に巻き込まれるケースは以前と比較して、格段に増加してきている。
本講座では、日常生活や職場において必要とされる最低限の法的ことがらについて学習し、生活者として、また職業人として必要不可欠な法に関する知識を身につけることを目ざす。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間に対して社会的な側面から理解する。人間の健康を規定する要因である社会・環境を科学的に理解し、健康生活と社会との関係について理解するための基礎である法的知識を理解する。食の専門職としてのみならず、社会人として守るべき法令とその目的について理解する。

到達目標

１．法とは何か、また法令の基本構造、法令の読み方を理解する。
２．日常生活に関わりのある法令のうち、社会人として特に必要な具体的法令を理解する。
３．専門職として理解しておく必要のある具体的法令のうち基礎的なものを理解できるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	私たちが生活している中で、法がどのようにかかわっているのか、具体的な場面を通して、理解していく。		予習90分： シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウト第1回に記載してある内容を読んで、復習する。
	「法」には、いくつかの種類があ		予習90分： ハンドアウト

第2回	る。その種類とそれぞれの関係について学習し、それらが具体的な場面において、どのような役割を果たしていくのか、理解する。		第2回を読む。 復習90分：ハンドアウト第2回に記載してある内容を読んで、復習する。
第3回	法令は、条文という形で、一般的な文章とは異なる形式で存在している。医療保健関係の具体的な法令を利用して、条文の法令全体の構造、規定の意味等について理解する。また、法令用語についても基本的なものについて理解する。		予習90分： ハンドアウト第3回を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある内容を読んで、復習する。
第4回	「法」の具体的種類である「法律」「政令」「省令」「条例」がどのように形作られていくのかについて、具体的な法令を利用して理解する。	グループごとに法律・政令・省令の関わりについての具体例を発表する。	予習90分： ハンドアウト第4回を読む。グループごとに指定された具体的な法律・政令・省令の相互の関わりを調べる。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある自分のグループが指定された以外の法令の条文を読んで、復習する。
第5回	「法」の多くは、時間がたつと改正される。ここでは、法令の改正について学習する。改正の仕方はどのようなものであり、また改正後に条文がどのようになるのか、医療保健関係の具体的な法令を利用して、学習する。		予習90分： ハンドアウト第5回を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある内容を読んで、復習する。練習問題をやっておく。
第6回	健康・栄養に関しては、職業として携わる人に関する「栄養士法」、市民の健康を守るための「健康増進法」「食品衛生法」、その他の「健康・栄養に関わる法」がある。それらの現状について概観する。		予習60分： ハンドアウト第6回を読む。 復習120分：ハンドアウト第6回に記載してある内容・法令の条文を読んで、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第7回	他人の権利を侵害した場合には、民事上の責任が発生する。不法行為に関する基礎を学習した上で、特に健康や栄養に関わる人による職場での事故により、どのような責任を負うか、具体的に検討する。	〈アクティブ・ラーニング〉 健康・栄養に関する判例のうちいくつかを取り上げ、議論する。	予習60分： ハンドアウト第7回を読む。 復習120分：ハンドアウト第7回に記載してある内容・法令の条文を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第8回	保健については、さまざまな行政上の規制が存在している。そうした行政上の規制をいくつか取り上げ、免許制度との関係で、検討する。 中間確認テスト(40分間)を実施する。		予習90分： ハンドアウト第8回を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある内容・法令の条文を読んで、復習する。
第9回	家族について規定している法を学習する。具体的には、結婚・離婚に関する法規定について理解する		予習90分： ハンドアウト第9回を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある内容・法令の条文を読んで、復習する。

第10回	前回につづき、家族について規定している法を学習する。具体的には、親子関係、相続に関する法規定について理解する。		予習120分： ハンドアウト第10回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第10回に記載してある内容・法令の条文を読んで、復習する。返却されたテストの誤った部分について、正解を検討しておく。
第11回	労働者の権利を中心に学習する。労働条件の最低基準を定めた労働基準法を中心に、労働者保護のための諸法令について、理解する。		予習120分： ハンドアウト第11回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第11回に記載してある内容・法令の条文を読んで、復習する。
第12回	現代の労働環境において、大きな問題となっている「過労死」、「ブラックバイト」などへの労働者の対処法を学習する。 授業終了時にレポートを提出する。課題は「医療保健福祉に関するニュースもしくは課題を法学的に検討する。」Ａ４用紙１枚以上を条件とする。		予習120分： ハンドアウト第12回を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第12回に記載してある内容・法令の条文を読んで、復習する。
第13回	情報化の進展、特にインターネットを様々な分野で活用することによって、利便性が向上する一方で、さまざまなトラブルが発生している。インターネットをもぐる法令、法的トラブルの危険性について、学習する。		予習60分： ハンドアウト第13回を読む。 復習120分：ハンドアウト第13回に記載してある内容・法令の条文を読んで、復習する。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第14回	ＡＩがさまざまな分野で活用されはじめている。爆発的な普及によって、多数のトラブルの発生が予想されている。医療分野をはじめとしたＡＩの普及状況と予想される問題や法的規制について、検討する。		予習60分： ハンドアウト第14回を読む。 復習120分：ハンドアウト第14回に記載してある内容・法令の条文を読んで、復習する。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第15回	これまでの学習について、健康・栄養をめぐる法という観点から、再検討する。 最終確認テスト(40分間)を実施する。		予習90分： ハンドアウト8～14を確認する。 復習90分：最終確認テストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説でチェックする。

教科書

使用しない

参考書

『ポケット六法』山下友信・山口厚 編集代表 （有斐閣）

成績評価の方法・基準

平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等）［25%］、レポート［25%］、確認テスト［50%］を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。
課題等に対する フィードバックの方法
第8回に実施する中間確認テストの解答例と解説は、第11回の授業時に行う予定である。採点した答案は、第10回の授業時に返却する予定である。第12回に提出を義務づけたレポートについては、採点および講評記載の後、第15回の授業時に返却する予定である。第15回の最終確認テストについては、解答例及び解説を「桐生大学学生共有フォルダー」の「栄養学科1年・法学」のフォルダーにPDFファイルで掲載する。採点した答案については、希望する者には返却する。11号館３階研究室11に取りに来ること。
履修のポイント
具体的な医療・福祉関係法令を学習する前提となることがらに関する授業なので、よく理解しておくこと。「公衆衛生学」に関連する知識についても学習する。
オフィス・アワー
月・水・金曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館３階研究室11
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C003

講義コード	20050001
講義名	日本国憲法
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

社会保障費の増大と消費税増税、地方自治体の消滅可能性、働き方改革など、国の課題は山積している。そんな中、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、大学生全員が選挙権を有することになってから、すでに何回かの選挙が行われている。本講座においては、私たちの生活や安全に大きな関わりをもつ国の基本法である日本国憲法を素材に、私たちの生活を考えていく予定である。
憲法の基本原理とその根底に流れる思想を学習した後、われわれの生活に深く関わりのある現代的なトピックを取り上げ、できる限りくらしとの関わりに留意しながら、主権者としての判断能力を身につけられるよう、学習していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

憲法を素材として、人間に対して、社会的諸側面から理解できるように学修する。憲法に関わる事がらを学修し、人間の健康を規定する要因である社会を科学的に理解できるようにする。

到達目標

１．憲法とは何か、また法令の基本構造、および法令における憲法の位置づけを理解する。
２．憲法に規定されている基本的人権は何か、またその具体的内容について理解する。
３．国の政治のしくみについて、憲法はどう規定しているかを理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	現在、日本国憲法に関してどのような問題が生じているのかについて学習した後、憲法とはどのような法かを学習する。立憲主義についても学習する。		予習90分： シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウト第1回に記載してある内容を読んで、復習する。
	日本国憲法の制定過程につい		予習90分： ハンドアウト第2回およ

第2回	て、第二次大戦後からＧＨＱによる憲法案の提示、国会での審議等について、ＶＴＲに沿って学習する。		び『目で見る憲法』p.viii、p.2～p.4を読む。 復習90分：ハンドアウト第2回に記載してある内容を読んで、復習する。
第3回	日本国憲法の基本原理である「国民主権」について、規定と意味について学習する。さらに、「基本的人権の尊重」に関する規定とその概要について学習する。	憲法の制定過程についてのドキュメンタリーVTRに対するコメントを発表する。	予習90分： ハンドアウト第3回および『目で見る憲法』p.5～p.7を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある憲法や関連法令の条文を読んで、復習する。
第4回	日本国憲法の基本原理である「平和主義」について、規定内容を学習し、さらに日本の防衛政策の現状、安保関連法制との関係について、学習する。		予習90分： ハンドアウト第4回および『目で見る憲法』p.8～p.10を読む。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。
第5回	憲法が保障している法の下の平等の意義・内容について学習する。現実に生じている平等をめぐる問題について、判例を素材として検討する。		予習90分： ハンドアウト第5回および『目で見る憲法』p.23～p.29を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある憲法や関連法令の条文、判例、その他の内容を読んで、復習する。
第6回	信教の自由を中心に学習する。なぜ認められる必要があるのか、その歴史的沿革、内容について学習する。また、政教分離原則について学習し、信教の自由に関する判例と政教分離に関する判例を素材として、学習する。		予習60分： ハンドアウト第6回および『目で見る憲法』p.30～p.33を読む。 復習120分：ハンドアウト第6回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第7回	表現の自由の意義とその内容について、学習する。また、プライバシー権との関係についても学習する。さらに、表現の自由・プライバシー権をめぐる判例を検討する。	表現の自由とプライバシー権に関する判例のうちいくつかを取り上げ、議論する。	予習60分： ハンドアウト第7回および『目で見る憲法』p.34～p.42、p.19～p.20を読む。 復習120分：ハンドアウト第7回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、議論について、復習する。中間確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第8回	憲法が保障する「人身の自由」について学習した後、刑法との関係について理解する。また、犯罪と刑罰制度の概要を学習し、特に死刑制度について、その現状とそれに対する議論を検討する。		予習90分： ハンドアウト第8回および『目で見る憲法』p.48～p.50を読む。 復習90分：ハンドアウト第8回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復

	中間確認テスト(40分間)を実施する。		習する。
第9回	社会権と区分される人権について学習した後、「生存権」についての規定について学習した後、医療保健福祉行政にどのように関わっているかを中心に、その概要を学習する。		予習90分： ハンドアウト第9回および『目で見る憲法』p.51～p.52を読む。 復習90分：ハンドアウト第9回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第10回	「労働者に関わる人権」と「教育を受ける権利」について学習し、理解する。		予習120分： ハンドアウト第10回および『目で見る憲法』p.53～p.56を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第10回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。返却されたテストの誤った部分について、正解を検討しておく。
第11回	国会のさまざまの権能、国権における地位について概観する。衆議院と参議院の関係、国会の意思決定過程、具体的な役割について学習する。さらに、選挙制度についても、学習する。		予習120分： ハンドアウト第11回および『目で見る憲法』p.57～p.61、p.69～p.84を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第11回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第12回	内閣の地位・役割について、学習する。「議院内閣制」の内容とメリット、内閣総理大臣の選出方法、国務大臣の任免、さらに内閣の具体的な役割、意思決定の方法等について、主に学習する。 ※授業終了時にレポートを提出する。課題は「憲法に関するニュースもしくは課題を法学的に検討する。」Ａ４用紙１枚以上を条件とする。		予習120分： ハンドアウト第12回および『目で見る憲法』p.85～p.92を読む。レポート(第12回提出)を作成する。 復習60分：ハンドアウト第12回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。
第13回	裁判のしくみについて、概要を学習した後、刑事裁判で取り入れられている裁判員制度について、ＶＴＲに沿って学習する。		予習60分： ハンドアウト第13回および『目で見る憲法』p.93～p.103を読む。 復習120分：ハンドアウト第13回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
			予習60分： ハンドアウト第14回および『目で見る憲

第14回	憲法が規定する「象徴天皇」の地位・権能、またそれを規定している皇室典範について、学習する。また、地方自治に関する規定内容について学習し、さらに、憲法改正の手続、憲法改正に関する各政党・学界・国民の考え方について理解する。	裁判員裁判に関するVTRに対するコメントを発表する。	法』p.104～p.113を読む。 ハンドアウト8～14を確認する。 復習120分：ハンドアウト第14回に記載してある憲法や関連法令の条文、その他の内容を読んで、復習する。授業で取り上げた判例を読んで、復習する。発表されたコメントについて、自分の意見と対照させる。最終確認テストに向けて、これまでのハンドアウトを見直す。
第15回	これまでの学習について、全体をまとめ、憲法を取り巻く状況とその課題について検討する。最終確認テスト(40分間)を実施する。		予習90分： ハンドアウト8～14を確認する。 復習90分：最終確認テストの解答・解説を確認し、間違ったところを解説にチェックし、ハンドアウトで復習する。

教科書

『目で見る憲法』初宿正典・大沢秀介・他 編著（有斐閣）

参考書

『ポケット六法』山下友信・山口厚 編集代表 （有斐閣）

成績評価の方法・基準

平常点（授業への参加度・学習態度・授業内課題等）［25%］、レポート［25%］、確認テスト［50%］を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

課題等に対する
フィードバックの方法

第8回に実施する中間確認テストの解答例と解説は、第11回の授業時に行う予定である。採点した答案は、第10回の授業時に返却する予定である。第12回に提出を義務づけたレポートについては、採点および講評記載の後、第15回の授業時に返却する予定である。第15回の最終確認テストについては、解答例及び解説を「桐生大学学生共有フォルダー」の「栄養学科1年・憲法」のフォルダーにPDFファイルで掲載する。採点した答案については、希望する者には返却する。11号館３階研究室11に取りに来ること。

履修のポイント

教員免許を取得しようとする学生は、必ず履修すること。

オフィス・アワー

月・水・金曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館３階研究室11

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C020

講義コード	20060001
講義名	国際文化論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要と教育目標

グローバル化は、政治、経済、文化、歴史を含め、人々を取り巻く社会を大きく変容させた。本講義では、近代以降を中心として、社会学の視点から歴史や文化について学ぶ。
本講義の目標は、幅広い視野に立ち、歴史や文化あるいは現代の問題を理解することである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間に対する理解を深めるため、他者への理解として歴史や文化を学び、幅広い知識を身に付ける。

到達目標

1. 世界の歴史や文化への興味・関心を高め、国際的な課題に対する認識を深める。
2. 多様な文化の成立過程を理解し、文化や歴史を説明できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	国際文化論の課題		予習90分：この分野への知識や関心を高める。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	近代社会の誕生と成立		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	近代人の精神とＳＦの世界		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
			予習90分：事前学習をす

第4回	文明の探求と世紀末の発見		る。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	欧米のツーリズム	19世紀末の旅に関する作品を鑑賞し、コメントを書き、意見を述べる。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	日本のツーリズム		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	オリエンタリズム		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	日本イメージの形成	日本のイメージについて事例を紹介する。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	アメリカ移民の歴史		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	移民と文化		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	ポストコロニアリズムと文学		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	女性と文化		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	戦争の世紀と人々の語り		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	歴史の見方		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	他者への理解		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

必要な資料は随時配布

参考書

授業時に随時紹介

成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。 （レポート60%、授業内課題40%）
課題等に対する フィードバックの方法
リアクションペーパーを課す場合がある。重要点の確認や疑問点を解説し、学習内容の理解に役立てる。
履修のポイント
授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C080

講義コード	20070001
講義名	家族関係論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義は、近代以降の家族をめぐる問題に関して、社会学や歴史学をはじめ多様な学問領域の視点を踏まえ、教育やジェンダーの視点を用いて歴史的に読み解くことを前提とする。また、現代の家族が抱える問題に着目し、家族を支援する諸制度も扱う。
本講義の目標は、家族の概念や歴史を学び、基本的な知識を身に付け、柔軟な思考力を養うことである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間に対する理解を深めることを目指し、家族について社会学をはじめとする複数の学問の視点から学ぶことで幅広い知識を身に付ける。

到達目標

1. 家族の概念や歴史についての基本的な知識や用語を用いて説明できる。
2. 家族が抱える現状や課題を踏まえ、現代の家族が直面している問題を理解できる。
3. 「ジェンダー」の視点から家族を考察することができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	家族への着目		予習90分：この分野への知識や関心を高める学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	近代社会と家族		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
			予習90分：事前学習を

第3回	家族研究の主題と方法		する。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	現代のライフコース	ライフコースについてのプリントを書く。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	育児支援政策の展開		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	子どもの誕生と家族の役割		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	メディアにおける家族・女性像	作品を鑑賞し、その時代の家族のあり方や生き方の違いをまとめる。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	恋愛結婚の誕生と未婚化の時代		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	女性の社会進出		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	欧米の近代家族		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	日本の近代家族と人口政策	日本の人口政策について考え、意見を述べる。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	セクシュアリティ		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	家族が抱える子の問題（不登校、ひきこもり、児童虐待など）		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	高齢化と家族の課題		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	家族の未来		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

必要な資料は随時配布
参考書
授業時に随時紹介
成績評価の方法・基準
単位認定 60 点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。 （期末レポートあるいは定期試験70%、授業内課題30%）
課題等に対する フィードバックの方法
リアクションペーパーを課す場合がある。重要点の確認や疑問点を解説し、学習内容の理解に役立てる。
履修のポイント
授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C040

講義コード	20080001
講義名	スポーツ科学I
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 武井 英夫	指定なし

授業の概要と教育目標

本授業は数種目の運動・スポーツを題材として、スポーツ心理学、スポーツ社会学、スポーツ生理学などのスポーツ科学的側面を取り入れ実践していく。その際、運動・スポーツの楽しさを味わいながら、基本スキルの習得・向上、仲間や教員とのコミュニケーション力の向上を重点的に取り上げ授業を進めていく。なお本科目は運動・スポーツの科学的理解と健康的な生活を送ることのできる能力の育成を目標としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部看護学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解していくことが求められており、スポーツの科学的な理解や実践を通して、その目的達成に必要な知識や体力を養う。

到達目標

１．自己の体力レベルや健康状態を把握することができる。
２．運動・スポーツの基礎知識、トレーニング方法などを科学的に理解することができる。
３．スポーツの基本スキルを習得することができる。
４．グループ内の個人の役割を意識し、自らコミュニケーションをとって動くことができる。
５．技術の高低や得意・不得意にとらわれず、運動・スポーツを楽しむことができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	武井英夫	オリエンテーション（授業の概要、成績評価、諸注意など） 体育概論①（運動・スポーツのすすめ）		予習60分：生活習慣病について調べる。 復習60分：配布資料を見直す。

第2回	武井英夫	体育概論②（運動と筋肉）		予習60分：トレーニングにおける「超回復」について調べる。 復習60分：本日の授業「運動と筋肉」について確認する。
第3回	武井英夫	体育概論③（運動と骨）		予習60分：「骨の構造と役割」について調べる。 復習60分：本日の授業「運動と骨」について確認する。
第4回	武井英夫	体育概論④（運動とダイエット）		予習60分：「米国のフィトネスブーム」の歴史を調べる。 復習60分：本日の授業「運動とフィットネス」について確認する。
第5回	武井英夫	体育概論⑤（体力・各種トレーニング）		予習60分：体力やトレーニングの方法について調べる。 復習60分：本日の授業「体力・各種トレーニング」について確認する。
第6回	武井英夫	バドミントン（基本スキルの習得とルール把握、ゲーム）		予習60分：バドミントンの歴史や基本スキルを調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第7回	武井英夫	ユニフォック（基本スキルの習得と、ゲーム）	各チームごとに話し合って、作戦を練ってからゲームに取り組む。	予習60分：ユニホックの歴史と基本スキルを調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第8回	武井英夫	フットサル（基本スキルの習得とルール把握、ゲーム）		予習60分：フットサルの歴史とフットサルとサッカーとのルール比較をしておく。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第9回	武井英夫	ソフトバレーボール（基本スキルの習得とルール把握、ゲーム）		予習60分：ソフトバレーボールの歴史について調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第10回	武井英夫	バスケットボール（基本スキルの向上とゲーム）		予習60分：バスケットボールの歴史について調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第11回	武井英夫	スポーツ大会１．チーム分け	各チームごとに話し合い、ポジションやフォーメーションを決め、戦術を立ててゲームに取り組む。	予習60分：出場するスポーツ種目の戦術を調べる。 復習60分：実践した戦術を確認する。

第12回	武井英夫	スポーツ大会２．ゲーム	プレー中、積極的・協力的にチームに関わる	予習60分：チームに積極的・協力的に関わる方法を調べる。 復習60分：チームへの参加態度を確認する。
第13回	武井英夫	スポーツ大会３．ゲーム		予習60分：戦術やチームに積極的・協力的に関わる方法を調べる。 復習60分：戦術とチームへの参加態度を確認する。
第14回	武井英夫	スポーツ大会４．ゲーム	ポジションやフォーメーションを決め、戦術を立てて積極的・協力的にゲームに取り組む。	予習60分：戦術やチームに積極的・協力的に関わる方法を調べる。 復習60分：戦術とチームへの参加態度を確認する。
第15回	武井英夫	スポーツ大会５．ゲーム		予習60分：戦術やチームに積極的・協力的に関わる方法を調べる。 復習60分：戦術とチームへの参加態度を確認する。

教科書

特定の教科書は使用しない。資料は必要に応じて配布する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法・基準

実単位認定60点以上
実技試験40%、課題・レポート20%、授業への参加度40%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。特に指定はしませんが、季節にあった運動着、運動靴（体育館用シューズ・グランド用シューズ）を準備してください。

オフィス・アワー

講義前後に、適宜受け付けます。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C021

講義コード	20090001
講義名	スポーツ科学II
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 武井 英夫	指定なし

授業の概要と教育目標

本授業は数種目の運動・スポーツを題材として、スポーツ心理学、スポーツ社会学、スポーツ生理学などのスポーツ科学的側面を取り入れていく。その際、運動・スポーツの楽しさを味わいながら、スポーツ科学Iで履修した内容の発展的な学習を目指し、生涯にわたってスポーツに取り組む態度の育成を重点的に授業を進めていく。なお本科目は、スポーツの科学的理解と生涯スポーツへの基礎を身につけることを目標としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療、保健学部看護学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解していることが求められており、スポーツの科学的な理解や実践を通して、その目的達成に必要な知識や体力を養う。

到達目標

１．自己の体力レベルや健康状態課題を把握し、改善するための運動を実践することができる。
２．各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解し説明することができる。
３．各スポーツの発展的な技術をスキルをすることができる。
４．生涯にわたって運動・スポーツをすることの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成する資質を身につけることができる。
５．技術の高低や種目の得意・不得意にとらわれず、運動・スポーツを楽しむ能力を身につけることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	武井英夫	オリエンテーション（授業の概要、成績評価、諸注意など） 体育概論①（生涯スポーツのすす		予習60分：シラバスを読む。生涯スポーツと競技スポーツの違いについて調べる。 復習60分：配布資料を見

		め）		直す。
第2回	武井英夫	体育概論②（運動と筋肉）		予習60分：トレーニングにおける「超回復」について調べる。 復習60分：本日行った授業「運動と筋肉」について確認する。
第3回	武井英夫	体育概論③（運動と骨）		予習60分：「骨の構造と役割」について調べる。 復習60分：本日行った授業「運動と骨」について確認する。
第4回	武井英夫	体育概論④（有酸素運動と無酸素運動）		予習60分：有酸素運動の効果について調べる。 復習60分：本日行った授業「有酸素運動と無酸素運動」について確認する。
第5回	武井英夫	体育概論⑤（生涯スポーツの現状と課題）		予習60分：生涯スポーツの現状と課題について調べる。 復習60分：本日行った授業「生涯スポーツの現状と課題」について確認する。
第6回	武井英夫	ネットッボール①（歴史とルールの把握、基本スキルの習得、ゲーム）		予習60分：ネットボールの歴史、ルールについて調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第7回	武井英夫	ネットッボール②（基本スキルの向上とゲーム）	各チームごとに話し合い、ポジションを決め作戦を立ててゲームに取り組む。	予習60分：各プレーヤーの役割について調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第8回	武井英夫	バドミントン（基本スキルの習得とルールの把握、ゲーム）		予習60分：バドミントンの歴史やルールについて調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第9回	武井英夫	ソフトバレーボール①（基本スキルの習得とルールの把握、ゲーム）		予習60分：ソフトバレーボールの歴史とルールについて調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第10回	武井英夫	ソフトバレーボール②（基本スキルの向上とゲーム）	各チームごとに話し合い、ポジションやフォーメーションを決め、作戦を立ててゲームに取り組む。	予習60分：ソフトバレーボールの基本スキルを調べる。 復習60分：本日行った運動について確認する。
第11回	武井英夫	スポーツ大会１．チーム分け	ポジションやフォーメーションを決め、戦術を立ててゲームに取り組む。	予習60分：出場するスポーツ種目の戦術を調べる。 復習60分：実践した戦術

				を確認する。
第12回	武井英夫	スポーツ大会２．ゲーム	プレー中、積極的・協力的にチームに関わる。	予習60分：チームに積極的・協力的に関わる方法を調べる。 復習60分：チームへの参加態度を確認する。
第13回	武井英夫	スポーツ大会３．ゲーム		予習60分：戦術やチームに積極的・協力的に関わる方法を調べる。 復習60分：戦術とチームへの参加態度を確認する。
第14回	武井英夫	スポーツ大会４．ゲーム	ポジションやフォーメーションを決め、戦術を立てて積極的・協力的にゲームに取り組む。	予習60分：戦術やチームに積極的・協力的に関わる方法を調べる。 復習60分：チームへの参加態度を確認する。
第15回	武井英夫	スポーツ大会５．ゲーム		予習60分：戦術やチームに積極的・協力的に関わる方法を調べる。 復習60分：戦術とチームへの参加態度を確認する。

教科書
特定の教科書は使用しない。資料は必要に応じて配布する。
参考書
必要に応じて紹介する。
成績評価の方法・基準
実単位認定60点以上 実技試験40%、課題・レポート20%、授業への参加態度40%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。特に指定はしませんが、季節にあった運動着、運動靴（体育館用シューズ、グランド用シューズ）を準備してください。
オフィス・アワー
講義前後に、適宜受け付けます。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C030

講義コード	20100001
講義名	環境論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	環境保全に関する研究と自治体の環境政策の立案支援に関する実務経験に基づいて環境論の授業を行う。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 園田 陽一	指定なし

授業の概要と教育目標

環境問題は社会、経済、健康、自然環境への影響は多岐にわたります。過去の社会は、環境保護、自然保護のように環境を人間活動から保護することが目的でした。しかし、これからの社会は、環境共生型社会であり、持続可能な社会が求められています。私たちは、地球の生物多様性を基盤とし、それらを消費して生きています。生物多様性は、地球の気象調節から国土や都市の基盤であり、農林水産業、観光業など自然を利用するものだけでなく、多くの社会経済の基盤となる重要な要素です。本授業では、身近な環境問題を生物多様性の観点から概観し、持続可能な地域社会の在り方について講義します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学のディプロマポリシーに示すように、人間を取り巻く環境について、社会環境、自然環境など多角的な側面から環境を科学的に理解し、人間が健康で豊かに暮らせる社会の実現にたいして、看護学や栄養学と関連付けて、貢献できるようになる。

到達目標

環境問題について、過去に問題となっていた公害や近年の地球温暖化など、劇的に変化する地球環境について、学生が大学生活を通して、持続可能な社会を築くための活動を実践するとともに、現代社会の中で話題となっている環境問題について科学的に説明できる基礎的な知識を身につける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	園田陽一	ガイダンスと環境問題 本授業の目的や到達目標と成績評価の方法についてのガイダンスと環境問題について概説します。	学生のアンケート結果に基づいて、環境問題についての基礎知識を確認し、授業計画に活かす	毎日30分程度新聞に目を通し、現代社会における環境問題に関する記事を読む
	園	生物多様性と持続可能な利用	生物多様性につい	授業の前後に1～2時間

第2回	田陽一	なぜ、生物多様性なのか。生態系サービスとなぜ持続可能な利用が必要なのかについて理解する。	てDVDを視聴し、生物多様性とはどのようなものかを視覚的に理解する。	程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第3回	園田陽一	生態系サービスとは 地球と自然環境、生態系の構成要素とその役割を理解します。		授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第4回	園田陽一	生物多様性への劣化 人間活動と生物多様性の危機、生態系サービスの劣化、公害問題等について理解します。		授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第5回	園田陽一	都市化と環境問題 グローバルな人口増加と都市の集中がもたらす環境問題を理解します。		授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第6回	園田陽一	地球温暖化と都市のヒートアイランド現象 地球温暖化とヒートアイランド現象の違いについて概説し、その影響がもたらす気候変化のメカニズムを理解します。		授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第7回	園田陽一	小テスト グローバルな地球環境の変化 オゾン層の破壊、砂漠化、酸性雨、森林減少などグローバルな地球環境の変化について理解します。	6回までの内容について小テストを行い、テストの成果を学生にフィードバックし、内容を復習する 地球温暖化による地球環境への影響を映像を通して体感する	授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第8回	園田陽一	環境をめぐる世界的な動き 地球環境問題を解決するための世界的な動向、日本の取り組みについて理解します。		授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第9回	園田陽一	わが国の環境に関わる法律 日本の環境施策について理解します。		授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第10回	園田陽一	環境アセスメントとミティゲーション 開発行為に対して、公害や自然環境の破壊を未然に防ぐ法的措置とその代替技術について理解する。		授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第11回	園田陽一	カーボンオフセットと生物多様性オフセット 二酸化炭素排出量削減の取り組みや同様のオフセット制度		授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に

		の仕組みを理解する。		目を通す
第12回	園田陽一	生物多様性地域戦略とは わが国の生物多様性基本法、生物多様性国家戦略に基づいた生物多様性地域戦略について理解します。	教員が自治体の施策立案支援で行った戦略策定のプログラムを用いて環境政策への理解を深める	授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第13回	園田陽一	環境への関心を高める取り組み 環境共生型まちづくりや、エコツーリズムなど環境へ関心をもつための仕組みづくりや取り組みについて紹介します。	実際のエコツーリズムの内容を理解し、学生自身が環境共生社会への理解を深める	授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第14回	園田陽一	環境教育とESD 環境教育や持続可能な開発のための教育についてふれ、次世代の子供たちの教育について考えます。 企業の社会的責任と自然資本 現代企業の社会的責任としての自然環境保全から自然資本としての積極的な活用へ、企業の取り組みについて理解します。	ESDについて環境教育プログラムを用いて、授業の中で実践する。	授業の前後に1～2時間程度テキストの内容とインターネット等を活用して、最新の記事に目を通す
第15回	園田陽一	試験の実施 14回までの内容について試験の実施		試験に備えて、14回までの内容の復習する

教科書

東京商工会議所編著 ECO検定（環境社会検定試験）公式テキスト 日本能率マネジメントセンター

参考書

必要なとき講義中に提示する

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
レポートの提出(20%)、期末試験(80%)をもとに総合的に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

アンケートや小テスト、試験を実施した際に、学生の回答に対して、正しい回答をフィードバックする。

履修のポイント

レポートの提出を求めることがある。

オフィス・アワー

授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C081

講義コード	20110001
講義名	人間発達学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義は、人間の発達過程に関して、社会学や心理学の視点から検討する。また、社会状況や社会的役割の変化によって生じる個人の諸問題を具体的に取り上げ、誕生から人生の終わりにいたるまでの人間の成長のあり方を考える。
本講義の目標は、それぞれの発達段階における課題を考察するとともに、現代人の抱える問題を理解することである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間についての理解を深めるため、社会・心理的側面から人間発達の基本的知識を身に付ける。また、人間のライフステージやライフサイクルに関する知識は、他者への理解を助け、実践の場でも役立つことになる。

到達目標

1. 人間の発達に関する知識を学び、人の一生を社会学及び心理学の視点から説明できる。
2. 人生のあり方を学び、自己や他者への理解と関心を深める。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	発達課題		予習90分：この分野への知識や関心を高める。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	発達概念と発達の理論		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	生涯発達の視点		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。

第4回	乳幼児期の発達		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	児童期の発達	児童期の発達に関する作品を鑑賞し、コメントを書く。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	家族の役割と社会化		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	青年期の発達		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	成人期の発達と課題		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	現代社会と若者		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	就労と職業生活		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	女性のキャリア形成		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	中年期の抱える問題		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	老いと社会参加		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	道徳性の発達	個人で課題に取り組み、グループで話し合う。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	発達と自己		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

必要な資料は随時配布

参考書

授業時に随時紹介

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。
（定期試験あるいは期末レポート70%、授業内課題30%）

課題等に対する
フィードバックの方法

リアクションペーパーを課す場合がある。重要点の確認や疑問点を解説し、学習内容の理解に役立てる。

履修のポイント

授業内容に関して、意欲的に学習する。また、自分自身の成長と関連づけて考える。

オフィス・アワー
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C004

講義コード	20120001
講義名	物理学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 椛沢 龍次郎	指定なし

授業の概要と教育目標

看護や栄養の専門分野を学習するうえで、「物理学」は重要な役割をもっています。本授業では、物理学の基礎知識や数的処理の方法、さらには、物理学の原理・原則を理解し、医療技術や臨床現場での応用まで発展させて学習します。専門科目を理解するための導入・基礎科目として、高等学校で物理を履修していなくても、十分理解できる内容と構成になっています(物理学の基礎をまじえながら応用・事例の解説をする）。教育目標としては、看護教育や栄養教育に必要な物理学的内容を、医療・看護・食と健康の現場との関連性を考慮していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部看護学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、物理現象の基本や法則性の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。看護学の基礎となる人体のしくみを理解する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

・物理学の基礎「原理・原則」を理解できる。
・看護・栄養分野への物理学の応用を理解できる。
・基礎から専門分野への発展・応用ができるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	・物理量と単位系 ・物理量の測定 ・物理学と医療機器	予習90分：高校の教科書があれば見直す。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	・人体のてこ ・垂直跳び ・歩行と振り子 ・医療機器と力学	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	・大気圧と静水圧 ・圧力計 ・弾性薄膜 ・表面	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。

	張力 ・陰圧 ・肺胞と表面張力	復習90分：配布資料を見直す。
第4回	・心臓と血液の流れ ・血圧の変化 ・血圧測定	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	・気体を流す場合 ・液体を流す場合（点滴装置の原理）	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	・温度と温度計 ・熱と比熱 ・融解と蒸発 ・熱と仕事（エネルギー）	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	・体温と温度調節 ・体内で発生する熱 ・身体からの放熱 ・生理的体温調節機構 ・物理的放熱機構	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	・平衡温 ・水銀温度計 ・電子体温計 ・耳式体温計 ・サーモグラフィー	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	・音の性質 ・耳の構造 ・聴覚 ・音波の医療への応用	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	・反射と屈折 ・スペクトル ・レンズとメガネ ・光の医療への応用	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	・電流、電圧、電気抵抗 ・直流と交流 ・電力と熱	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	・生体における静電気現象 ・心臓の刺激伝導系 ・医療における主な応用機器	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	・原子の構造と原子核 ・原子の定常状態 ・放射線と性質	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	・放射線の基礎知識 ・放射線による障害とその防護	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	・医療における放射線の応用 ・Ｘ線ＣＴ ・ＭＲＩ装置 ・ポジトロンＣＴ装置	予習90分：新聞や雑誌等で医療保健の問題を考える。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

特に使用しません。

参考書

適宜紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上。
最終レポート（各回に対応する課題をまとめて提出）100％で評価します。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で課題を出した際には、その解説を行うので（フィードバック）、事後の学習内容の理解に役立てること。

履修のポイント
新聞や雑誌・書籍等を通して、科学技術と人間及び医療保健について考えるようにする。健康や医療に関する種々の事象・応用が、どのようなしくみで成り立っているのかを考えながら履修すること。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C005

講義コード	20130001
講義名	生物学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

管理栄養士になるために学ぶ教科目の中で、生物学が関与する内容は非常に多い。高校時代に「生物」を履修してこなかった学生にも解りやすく、今後の授業で障害とならないよう、特に私たちヒトに関する内容（細胞、遺伝、免疫など）を中心に講義する。また最新のバイオテクノロジーやバイオサイエンスの情報なども織り込んでいく。管理栄養士として“私たちのヒトのからだのメカニズム”を知る上で必要な基礎的な知識を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、私たちヒトのからだのメカニズムに対する理解を深めることを目指し、さらに本学の建学の精神である“社会に出て役立つ人材の育成”に基づき、管理栄養士として必要な生物学の基礎を習得させることを目指すものとする。

到達目標

生命の基本単位である“細胞”に共通の基本構造および機能を踏まえ、細胞の発生・遺伝・進化のしくみについて理解する。またこれらを通じて、私たちの生体内で起こる様々な生命現象を理解するための基礎を身につけることを目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	進化論の登場、地球上の生物に共通すること、生物体のつくりと階層性など	私たちヒトがどのようにして生まれてきたのか、また進化してきたのかなど質疑応答する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解で

			きなかった内容について調べる。
第2回	細胞を構成している物質、細胞小器官の構造と機能など		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第3回	形質を決めているものを求めて、遺伝子としてのDNAなど		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第4回	ATPの産生、代謝経路のネットワークなど		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第5回	タンパク質のさまざまな機能	“たんぱく質とは何か”をもとに学生たちがイメージするものを回答させ、私たちに対してたんぱく質がどのように機能・関与しているのかを理解する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第6回	細胞間の情報交換、ホルモンと受容体で情報を伝えるなど		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第7回	DNAの複製、細胞周期と体細胞分裂など		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容につ

			いて調べる。
第8回	減数分裂、生殖細胞の形成、受精など	私たちにとって体細胞分裂や減数分裂が行われなかった場合にどのような不具合が生じるかを意見させ、細胞分裂の意義について検討する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第9回	非特異的生体防御機構、特異的生体防御機構、免疫機能の制御など		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第10回	細胞の再生、細胞が死ぬとき、老化・寿命と遺伝子の関係など		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第11回	内部環境を一定に、制御中枢による情報の処理と調整、動物の行動など		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第12回	進化と多様性の創出、地球上の生物多様性を守るためになど		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第13回	遺伝とは、メンデルの研究と遺伝の法則など		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

第14回	さまざまな遺伝	“さまざまな遺伝”について説明後、血液型や耳あかなど私たちの身近な遺伝の優劣について調査し、日本人全般の優劣の比率とクラスの比率に差があるのかを検討する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第15回	性と遺伝、性染色体と性の決定、伴性遺伝など		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

教科書

『基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学』第３版 和田 勝著（羊土社）

参考書

単元ごとにプリント教材を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 筆記試験100％

課題等に対するフィードバックの方法

授業内に問題を提示したり、課題を課すことがある。学期末の筆記試験にも関与する事柄なので、必ず復習しておくこと。また、単元ごとに復習問題を配付するので、必ず問題を解いて授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C006

講義コード	20140001
講義名	化学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

化学の知識は、管理栄養士・栄養士として、栄養学を理解し、実践するために必須である。単位換算や濃度計算、栄養学に関連する化学の基礎を理解することを目標とする。
高校で化学を学習していない、あるいは、化学に苦手意識の強い学生が、生化学や栄養学を理解できるよう物質の成り立ち、溶液の濃度や性質、化学変化など化学の基礎を学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

化学は学部共通科目（人間と環境）に配当された選択科目であり、栄養学を理解するうえで、化学の知識は必須である。本学の建学の理念である「社会に出て役立つ人間」となり得る知識を修得した管理栄養士・栄養士になるために、そして、卒後に栄養学の理解をさらに深めるためにも化学の基礎を身に着けることが大切である。

到達目標

栄養学を理解するための化学の基礎知識を身に付け、次の１）～５）ができる。
１）パーセント濃度、モル濃度、希釈の計算
２）SI 単位の理解、単位変換
３）原子、分子、イオン、化学結合の理解
４）酸・塩基、酸化・還元、浸透、pHの理解
５）化学反応と化学平衡

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	小林	第1章 単位 単位換算 有効数字 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説	これまでの化学の学習状況について意見交換し、自分に必要な勉強方法	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分

	葉子	する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	を考える。	問題集を使用し、授業内容を復習する。
第2回	小林葉子	第2章 原子 イオン スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第3回	小林葉子	第3章 元素 周期表 電子配置 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第4回	小林葉子	第4章 イオン結合 共有結合 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第5回	小林葉子	第4章 金属結合 その他の結合 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。 。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第6回	小林葉子	第5章 原子量 分子量 物質量 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第7回	小林	第5章 化学反応式 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問す	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分

	葉子	する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	る、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	問題集を使用し、授業内容を復習する。
第8回	小林葉子	第6章 溶液の濃度 パーセント濃度 モル濃度 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第9回	小林葉子	第6章 溶液の濃度 パーセント濃度 モル濃度の変換 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第10回	小林葉子	第6章 パーセント濃度 モル濃度の変換 希釈 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第11回	小林葉子	第7・8・9章 酸化・還元 物質の三態 気体の性質 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第12回	小林葉子	第10章 化学反応と熱エネルギー スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第13回	小林葉	第11章 化学反応と化学平衡 スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のた	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使

	子	め、授業時間内に教科書の問題を解く。	読んで理解する	用し、授業内容を復習する。
第14回	小林葉子	第12・13・14章 水と溶液 浸透圧 酸・塩基 pH スライド、教科書、参考書を用いて、学習内容を解説する。理解度の確認のため、授業時間内に教科書の問題を解く。	前回の授業範囲の理解度を、小試験として確認する。わからなかった問題は、授業内の質問時間に質問する、あるいは、各自問題集の解答を読んで理解する	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。
第15回	小林葉子	第1章～第14章の範囲のまとめ 課題 第1章～第14章の範囲の総合的な問題を解き、理解を確認する。	化学の授業で学んだ範囲の総合的な問題を解き、解答を出す。課題がわからなかった場合、各自で調べると共に、相互に議論し理解を深める。	予習90分 学習範囲の教科書を読む 復習90分 問題集を使用し、授業内容を復習する。

教科書

はじめて学ぶ化学 野島高彦 化学同人
インプレス基礎化学 浜島書店
サイエンスビュー化学総合資料

参考書

入学前教育テキスト

成績評価の方法・基準

授業内の総合的な問題及び小試験の評価が60点以上 （総合的な問題 80% 小試験 20%）

課題等に対する
フィードバックの方法

時間内の小試験は、インプレス基礎化学や教科書から問題を選ぶ。小試験の回答から、必要と判断した場合は時間内に解説する。

履修のポイント

2回目以降は、前回の授業範囲のインプレス基礎化学の問題の小試験を行う。
自らで学習し、理解するようにする。授業内で理解したつもりになっても、自己学習をすると理解できていないことに気づくことがある。その場合は、教科書を調べ、理解をするようにする。
授業のスライドは、配布しない。
理解度により授業進行を変更する場合がある。授業内容の変更は授業内で説明するため、授業は休まないで出席すること。
高校までの履修状況に差があるため、各自の努力のみならず、受講者間での学び合いも必要である。

オフィス・アワー

月～金の昼休み（だたし、3限が授業の日を除く） 11号館3階16研究室

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C007

講義コード	20150001
講義名	生活とデザイン
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 久保田 恵美子	指定なし

授業の概要と教育目標

私たちは、多くの優れたデザインに囲まれ生活をし、大きな影響を受けています。
その デザインの言葉の語源はラテン（designare）から由来していると言われ、意匠、設計、創意工夫です。
つまりアイデアを何らかの形として創意工夫しながら表現するともいえるでしょう。
本授業ではデザインの歴史を学びながら、生活とデザインの関係性について考察しデザインする上で重要なカラー（色）についても多角的に学び、カラー（色）が人に対する影響、“色の持つパワー”により、生活空間を快適にさせ、” 目 ”” こころ ”で判断する以前に、色を肌で感じ、また、体内で感じ、色が人間に与える影響等々を視野に入れながら生活とデザインを学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学科のディプロマ・ポリシーと関連させ、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面からデザインや、色に対する理解を深め、生活とデザインの関係を考察し知識を養い、生活の中で実践できることを目標とします。

到達目標

デザインの意味や歴史を学び、また、生活の中で色が人間に与える影響等々を考察し、いかに生活空間を快適にさせ、より良い社会生活が営まれることを目標としながら、それを踏まえた上でアイデアを何らかの形として表現することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	久保田恵美子	デザインとは何かI	履修者に対し質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： デザインについて考察する 復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをする
	久保田	デザインとは	履修者に対し	予習９０分： デザインについて考察する

第2回	恵美子	何かII	質問・ディスカッション等を行う	復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをする
第3回	久保田恵美子	デザインとは何かIII	履修者に対し 質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： デザインについて考察する 復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをする
第4回	久保田恵美子	デザインの近代史I	履修者に対し 質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： アーツ・アンド・クラフツ運動について調べる 復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをする
第5回	久保田恵美子	デザインの近代史II → レポート提出	履修者に対し 質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： アール・ヌーボーやアール・デコについて調べる 復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをし、レポートをまとめる
第6回	久保田恵美子	色の潜在力I	履修者に対し 質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： 色のパワーついて調べる 復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをする
第7回	久保田恵美子	色の潜在力II	履修者に対し 実験、体感、質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： 色のパワーについて調べる 復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをする
第8回	久保田恵美子	色の潜在力III	履修者に対し 実験、体感、質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： 自分の好む色について調べる 復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをする
第9回	久保田恵美子	快適生活の色彩I	履修者に対し 体感、質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： 快適生活の中の色彩調査 復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをする
第10回	久保田恵美子	快適生活の色彩II → レポート提出	履修者に対し 体感、質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： 生活の中で一般的に多く使われている色の調査 復習９０分： 授業内容の復習や配布資料の見直しをし、レポートをまとめる
第11回	久保田恵美子	生活の中の雑貨デザイン制作	履修者に対し 体感、質問・ディスカッション等を行う	予習９０分： 自分で制作する雑貨を考える 復習９０分： 自分で制作する雑貨デザインを考え素材を検討し研究する
				予習９０分：

第12回	久保田恵美子	生活の中の雑貨デザイン制作	履修者に対し 質問・ディスカッション等を行う	自分で制作する雑貨デザインを考える 復習９０分： 雑貨デザイン考え決定
第13回	久保田恵美子	生活の中の雑貨デザイン制作	履修者に対し 質問や意見交換等を行う	予習９０分： 自分で制作する雑貨デザインの素材を検討し研究／材料の準備 復習９０分： 材料の調達／作品の制作
第14回	久保田恵美子	生活の中の雑貨デザイン制作	履修者に対し 質問や意見交換等を行う	予習９０分： 制作する雑貨に必要とする素材研究し準備する 復習９０分： 作品の制作
第15回	久保田恵美子	生活の中の雑貨デザイン制作 → 作品を完成させ提出	履修者に対し 質問や意見交換等を行う 作品の講評	予習９０分： 制作する雑貨を完成するよう準備する 復習９０分： 作品を完成させる

教科書

使用しません

参考書

使用しません

成績評価の方法・基準

単位認定 ６０点以上
レポート ３０％
課 題 ５０％
授業に対しての姿勢２０％

課題等に対する
フィードバックの方法

プリントを配布しますので授業内での理解に役立てて下さい
授業内でレポートや実技課題を課します

履修のポイント

授業に対し積極的に取り組んで下さい

オフィス・アワー

月曜９時～13時20分
11号館同窓会事務局内

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C071

講義コード	20160001
講義名	地域社会学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 篠原 貴子	指定なし

授業の概要と教育目標

近代社会は、社会構造や生活様式に大きな変化をもたらした。特に、農村から都市への人口流出や都市化は、コミュニティや個人を取り巻く環境を転換させた。本講義では、都市や農村に関する社会学の展開を中心に学ぶとともに、社会を構成する主要な組織が担う役割や課題を経済や文化の側面から把握する。
本講義の目標は、地域社会の歴史や課題を理解し、社会学的思考を身に付けることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間に対する理解を深めることを目指し、社会的側面から学ぶことで多角的な視点から物事を捉える能力や柔軟な思考力を養う。

到達目標

1. 講義内容を踏まえて、地域社会が抱える現代的課題を発見し、読み解く力を培う。
2. 講義で紹介した概念や理論を用いて、地域社会の問題や身近な事象を説明できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	地域社会学の意義と課題		予習90分：この分野への知識や関心を高める学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	都市社会学の展開		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
			予習90分：事前学習をする。

第3回	近代化論		復習90分：配布資料を見直す。
第4回	都市空間と人間形成		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	高度経済成長と農村社会	高度経済成長期を描いた作品を鑑賞し、これまでの学習した知識を踏まえてコメントを書く。	予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第6回	地域と政治		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	町内会の変遷と課題		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	東京の都市空間		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	グローバル化と地域社会の変貌		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	エスニック・コミュニティの形成		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	住民生活と行政		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	現代の農村社会		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	地域の復興と観光	地域活性化の観光事例の紹介やフィールドワークでの経験を話し合う。	予習90分：課題内容を学習する。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	新たなコミュニティの創出と地域社会		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	地域社会学の展望		予習90分：事前学習をする。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

必要な資料は随時配布
参考書
鈴木広監修 『地域社会学の現在』 （ミネルヴァ書房）
成績評価の方法・基準
成績評価 60点以上 授業態度や試験結果で総合評価する。 （レポートあるいは定期試験70%、授業内課題30%）
課題等に対する フィードバックの方法
リアクションペーパーを課す場合がある。重要点の確認や疑問点を解説し、学習内容の理解に役立てる。
履修のポイント
授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C072

講義コード	20170001
講義名	人間工学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	両名とも理学療法士として医療・介護分野での勤務経験があります。本講義では人体の運動機能の理解を深め、生活場面でどのように機能しているのかを学び体験します。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 松村 昌俊	指定なし
教 員	亀井 実	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、我々を取り巻く社会環境への理解を深め、人間の運動機能を理解し、日常生活動作を考慮した福祉機器、住環境に関して医療・福祉の分野での実践的知識や、日常生活における動作を運動学的視点から分析する方法を学び、障害者や高齢者の日常生活を援助する観点から福祉用具の活用や住環境整備の方法を説明できるようになることを目指します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本講義では、偏見や先入観を持たずに、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から全人的に対象者を理解するために、精神面、身体面から人間の諸活動を考察できるようになることを目指します。
福祉、臨床の現場でチーム医療の一員として活躍し、そこで調整する能力及び問題を解決する能力を修得するための機会として、理学療法士の視点と考え方を共有します。
多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルを理解するための機会として、ノーマライゼーションの視点から実生活を観察する考え方を共有します。

到達目標

1.人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している
2.人間の運動機能である関節可動域や筋力が力学的にどのように作用しているかについて説明できる
3.日常生活における動作を運動学的視点からの分析方法を説明できる
4.障害者や高齢者の日常生活を援助する観点から福祉用具の活用や住環境整備の方法を説明できる

5.看護学の基礎となる、人体のしくみ、健康の諸側面、健康生活と社会との関係について、理解している。さらに、医療者として必要な倫理、守るべき法令を理解し、それに沿って行動できる

6.看護の基本精神・基礎技術を理解した上で、さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階における科学的知識を修得し、実践的な援助技術を修得している

7.看護学を系統的に理解し、看護の基礎や健康問題別発達段階別看護で学んだ知識と技術を統合することができる。また、臨床現場でチーム医療の一員として活躍し、そこで調整する能力及び問題を解決する能力を修得している。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	松村昌俊	（オリエンテーション） 重心と姿勢、バランスについて学ぶ	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第2回	松村昌俊	日常生活動作における転倒と転倒予防について学ぶ	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第3回	松村昌俊	関節可動域の評価と日常生活動作に必要な関節可動域について学ぶ	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第4回	松村昌俊	筋力の評価と日常生活動作に必要な筋力について学ぶ	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第5回	松村昌俊	立ち上がり動作をはじめとする動作分析について学ぶ	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第6回	松村昌俊	歩行分析について学ぶ	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第7回	松村昌俊	歩行補助具の種類と杖歩行のパターンについて学ぶ	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第8回	松村昌俊	福祉用具の活用や住環境整備の実際の事例について紹介する	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直

			す
第9回	松村昌俊	ノーマライゼーションとバリアフリーの概念を解説し事例を紹介する	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第10回	松村昌俊	ユニバーサルデザインとアクセシビリティの概念を解説し事例を紹介する	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第11回	亀井実	身体特性に応じた福祉機器について学ぶ	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第12回	亀井実	車椅子操作を体験し、車いす利用者の視点について学ぶ	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第13回	亀井実	ボディメカニクスを使った援助、食事の援助について学ぶ（講義）	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第14回	亀井実	ボディメカニクスを使った援助、食事の援助について学ぶ（実演）	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す
第15回	松村昌俊	これまでの講義のまとめを行う	講義内容について 予習90分、復習90分 配付資料を見直す

教科書

なし（授業時に資料を配布する）

参考書

なし（授業時に資料を配布する）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上（定期試験100％評価）（授業中の提出物を加味して最終的な点数を算出する）

課題等に対する

フィードバックの方法
授業中に出た課題等は、当日もしくは後日の授業中にフィードバックを行います。 実技については、授業中に都度、フィードバックを行います。
履修のポイント
授業中の課題に積極的に取り組むことで、専門職としての学びが深まります。 小テストや試験に真摯に取り組むことで、国家試験受験時の準備ができます。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C023

講義コード	20180001
講義名	行動科学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 徐 淑子	指定なし

授業の概要と教育目標

この授業では、人々が健康を守る行動を起こすときにどんな心理社会的仕組みが働いているのかについて、学びます。また、それらの知識を健康教育や患者教育にどのように応用できるかについて、考えます。まずは、じぶん自身の行動をモデルに当てはめて考えてみることから学習を始めましょう。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの以下に対応します。主として、健康の維持・増進プログラムの実践にかかわることがらを学習します。
1. 人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している。
2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。

到達目標

１．行動モデルを用いて，身近な健康現象を理解・説明することができるようになる。
２．国家試験の事例問題等を読み、保健行動のモデルで解釈できる記述を指摘することができる。
３．行動変容プログラムの骨組みを体験的に理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容
第1回	徐淑子	健康と病気にかかわるさまざまな行動を、いくつかの視点で分類しながら理解する。看護職者がとりあつかうケア範囲の広さを確認する。	個人ワーク／視聴覚資料
第2回	徐淑子	生活構造論、段階的変化理論について取り上げ、保健行動の習慣化、保健行動がどのようにして個人の生活の中に組み込まれていくのかについて考える。	個人ワーク／視聴覚資料

第3回	徐淑子	保健行動を説明する代表的な行動モデルについて学習する。 ①教育モデルとヘルス・リテラシー ②恐怖アピールモデルは人々の行動を変えるか ③保健信念モデルーグッド・ニュースとバッド・ニュースのバランス	個人ワーク／視聴覚資料
第4回	徐淑子	保健行動を説明する代表的な行動モデルについて学習する。 ④保健行動シーソーモデルー保健動機と生活動機の連合 ⑤計画的行動理論と人の判断	個人ワーク／視聴覚資料
第5回	徐淑子	社会的学習理論（自己効力感モデル）の考え方より、行動変容の過程について考える。	個人ワーク／視聴覚資料
第6回	徐淑子	生活ストレス論の立場から、「なぜ、かんたんな保健行動が起こせない／続かない人がいるのか」について、考える。	個人ワーク／視聴覚資料
第7回	徐淑子	行動科学的知見を、生活習慣指導における個別支援にどのように活用できるか、ワークをとおして体験的に学ぶ。 ①認知行動療法の基本的な考え方	個人ワーク／視聴覚資料
第8回	徐淑子	行動科学的知見を、生活習慣指導における個別支援にどのように活用できるか、ワークをとおして体験的に学ぶ。 ②認知行動療法的な発想を、生活習慣指導にとりいれる	個人ワーク／視聴覚資料

教科書

指定教科書はありません。教員が資料を配布します。

参考書

授業中に、その都度、情報の出典を示し、より深く学習したい方のために関連書籍や文献を紹介いたします。

成績評価の方法・基準

最終課題（レポート）100%で評価します。レポートは100点満点で、60点以上が合格となります。

課題等に対するフィードバックの方法

授業の冒頭に、前回授業の復習を兼ねて、提出課題のふりかえりをいたします。

履修のポイント

・視聴覚資料を毎回視聴します。
・授業中に個別ワークにとりくんでもらいます。
・最終課題は授業中に実施するワークを統合したかたちで出題されます。学習成果を最終課題にうまく生かせるよう、授業内ワークでその都度確認しながら学習に取り組んでください。
・私語厳禁でお願いいたします。

オフィス・アワー

非常勤講師による変則時間割（集中講義）となります。質問等は、授業の前後あるいは休憩時間に受け付けます。講義室で声をかけるか、非常勤講師室までおいでください。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C082

講義コード	20190001
講義名	コミュニケーション論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

人との関係性に見られるコミュニケーションは、対人援助職にとって極めて重要であるとよく言われる。では、現代においてコミュニケーション能力が求められるのはなぜなのか、そもそもコミュニケーションとは何なのか、コミュニケーションが上手とか下手とかは何をもって判断されるのか。この授業では、今日のコミュニケーション研究の成果を学修しながら、多面的にコミュニケーションについて理解を深める。演習形式を取り入れながら、体験を通した学修を進める予定である。日常的なコミュニケーション場面の特徴を広く学修し、その基本的な理論や原理を修得し、自他を理解する基本的態度の修得を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、対人関係上で交わされるコミュニケーションの理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、対人援助職として援助対象となる人の健康の諸側面、健康生活と社会との関係について、コミュニケーションの重要性を理解し、自己理解と他者理解に基づいた援助実践ができるようになることを目指す。

到達目標

1．コミュニケーションにかかわる基本的な理論や原理を理解できる。
2．自己と他者の違いを実感し、自分の対人関係場面でみられる特徴を自覚できる。
3．他者とのコミュニケーションを通して、人の話を「聞く」とはどういうことか、自分のことを相手に「伝える」とはどういうことかを理解できる。
4．コミュニケーションに関する知見を、栄養指導等の場面での人とのかかわりに適用して考えることができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	人付き合いの	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価等について）	予習90分：事前にシラバス等を確認す

第1回	スタートの心理学①	人付き合いのスタートでは、どのようなことが大切なのかについて、グループで意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	る。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第2回	人付き合いのスタートの心理学②	人間関係を深めていくためには何が大切なのかについて、グループで意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第3回	自己理解	コミュニケーションの基本となる自分自身についての理解を演習を通して深める。さらにグループで意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第4回	人とかかわること	対人場面での不安や緊張を軽減することについて、演習やグループでの意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第5回	グループメンバーと知り合う	仲間関係を深めることについて、演習やグループでの意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第6回	聞き上手になろう	相手の話の聞き方について演習やグループでの意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第7回	傾聴スキルを使って信頼関係を築こう①	第6回で学んだスキルを活かして、よりよい関係を築くためにロールプレイでスキルについての理解を深める。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第8回	傾聴スキルを使って信頼関係を築こう②	傾聴の基本的なスキルについて演習を通して習熟する。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
			予習90分：

第9回	話し上手になろう	自分のことを上手に伝えること、アサーションの考え方について演習やグループでの意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第10回	ノンバーバル・コミュニケーションを学ぼう	ノンバーバル・コミュニケーションの重要性について演習やグループでの意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第11回	自分と他者の「認知」の違いを知ろう	自分が認知していることと他者が認知していることにはズレが生じていることについて、演習やグループでの意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第12回	自己理解・他者理解	ジェノグラムを使って自己理解を深め、他者理解を深める。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第13回	恋愛の心理学	人に好意を持ったり持たれたりする仕組みについて、グループで意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第14回	職場の人間関係①	どのようなリーダーシップが生産性を上げるのかについて、グループで意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。
第15回	職場の人間関係②	どのようなコミュニケーションがあれば仕事で頑張れるのかについて、グループで意見交換を行い自分の考えを広めたり深めたりする。	予習90分： 事前にシラバス等を確認する。 復習90分： 配布資料の整理、まとめ。

教科書

特に指定せず。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）40％ レポート・課題30％ 授業への積極性・態度30％
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。演習を含めて授業を進めていきます。授業時間外の学習として、幅広い興味関心のもと日常的な出来事の中の人の行動を見つめることを予習として、本講義の配布資料・ノートの見直しやまとめを復習として勧めます。
オフィス・アワー
水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。 ※講義終了前後にも、適宜受け付けます。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-R008

講義コード	20200001
講義名	基礎英語I（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校で「英文法」、英会話学校で「英会話」の講師として、また実用英語検定面接委員 としての経験を活かし、実践的な英語教授法をもとに学生の英語能力の 向上を計っている。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の４技能は、Listening、Reading、Speaking、Writing と言われる。本科目では、基本的な英文法や英語表現を学習し、基礎的な Listening や Reading 能力の向上を図る。またインターネットを援用して英語で書かれた情報を理解する方法も習得する。これにより、後期に開講される基礎英語II(Speaking、Writing) の学習への円滑な移行を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、「現代の食を考える」の教科書の学習を通して、英語の Listening、Reading の技能の向上を図りつつ、「現代の食」の諸側面についての理解を深める。

到達目標

1. 高校までの基本的な英文法を復習し、Reading 能力の向上を図る。
2. CDやインターネットの音声データを利用してListening 能力を高める。
3. Exerciseの解答や課題の提出はワードでできるようにする。
4. インターネットの辞書・翻訳機能を利用できるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	野中博雄	Outline	評価方法、授業の進め方等の説明 課題：英語に対する自己の印象、自己紹介、ある語の連想語などの質問に対する答えを作成する。	

第2回	野中博雄	Counting Calories	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	野中博雄	A New Sports Tradition	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	野中博雄	As American as Apple Pie	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	野中博雄	Use as Directed	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	野中博雄	The End of Home Cooking	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	野中博雄	Just Follow the Recipe	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	野中博雄	Supplemental Health	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	野中博雄	Time for Tea	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	野中博雄	Fresh from the Garden	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	野中博雄	Local Delicacies	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	野中博雄	Trick or Treat!	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出す	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

			る。	
第13回	野中博雄	Giving Thanks	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	野中博雄	Turkey and All the Trimmings	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回		Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Food for Thought 「現代の食を考える」（南雲堂）

参考書

Internet Materials （毎回英語の歌などの聞き取りをする）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
筆記試験：50%、
課題、授業参加度等:50%

課題等に対する フィードバックの方法

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。

オフィス・アワー

授業の前後の時間が可能。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-R009

講義コード	20200002
講義名	基礎英語I（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校で「英文法」、英会話学校で「英会話」の講師として、また実用英語検定面接委員 としての経験を活かし、実践的な英語教授法をもとに学生の英語能力の 向上を計っている。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の４技能は、Listening、Reading、Speaking、Writing と言われる。本科目では、基本的な英文法や英語表現を学習し、基礎的な Listening や Reading 能力の向上を図る。またインターネットを援用して英語で書かれた情報を理解する方法も習得する。これにより、後期に開講される基礎英語II(Speaking、Writing) の学習への円滑な移行を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、「現代の食を考える」の教科書の学習を通して、英語の Listening、Reading の技能の向上を図りつつ、「現代の食」の諸側面についての理解を深める。

到達目標

1. 高校までの基本的な英文法を復習し、Reading 能力の向上を図る。
2. CDやインターネットの音声データを利用してListening 能力を高める。
3. Exerciseの解答や課題の提出はワードでできるようにする。
4. インターネットの辞書・翻訳機能を利用できるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	野中博雄	Outline	評価方法、授業の進め方等の説明 課題：英語に対する自己の印象、自己紹介、ある語の連想語などの質問に対する答えを作成する。	

第2回	野中博雄	Counting Calories	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	野中博雄	A New Sports Tradition	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	野中博雄	As American as Apple Pie	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	野中博雄	Use as Directed	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	野中博雄	The End of Home Cooking	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	野中博雄	Just Follow the Recipe	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	野中博雄	Supplemental Health	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	野中博雄	Time for Tea	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	野中博雄	Fresh from the Garden	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	野中博雄	Local Delicacies	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	野中博雄	Trick or Treat!	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出す	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

			る。	
第13回	野中博雄	Giving Thanks	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	野中博雄	Turkey and All the Trimmings	Listening, Reading, Exercises 会話文はペアで練習する。Exercisesもペアで回答する。課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回		Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Food for Thought 「現代の食を考える」（南雲堂）

参考書

Internet Materials （毎回英語の歌などの聞き取りをする）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
筆記試験：50%、
課題、授業参加度等:50%

課題等に対する フィードバックの方法

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。

オフィス・アワー

授業の前後の時間が可能。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-R009

講義コード	20210001
講義名	基礎英語II（Aクラス）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校で「英文法」、英会話学校で「英会話」の講師として、また実用英語検定面接委員 としての経験を活かし、実践的な英語教授法をもとに学生の英語能力の 向上を計っている。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の４技能は、Listening、Reading、Speaking、Writing と言われる。本科目では、基本的な英文法や英語表現を学習し、基礎的な Speaking や Writing 能力の向上を図る。またインターネットを援用して Speaking や Writing に必要な英語表現を作成する方法も習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、教科書やインターネット資料の学習を通して、英語の Speaking や Writing 技能の向上を図りつつ、英語におけるコミュニケーションの諸側面についての理解を深める。

到達目標

1. テキストのUnitで学習するトピックスに関する Speaking, Writing 能力を高める。
2. Exerciseの解答や課題の提出はワードでできるようにする。
3. インターネットの辞書・翻訳機能を利用してSpeaking Writing に利用できるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	野中博雄	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め方等の説明	
			Vocabulary,	

第2回	野中博雄	Self-Introduction	Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	野中博雄	Self-Introduction	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	野中博雄	My College	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	野中博雄	My College	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	野中博雄	Family and Home Town	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	野中博雄	Family and Home Town	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	野中博雄	Pastimes and Hobbies	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
			Speaking, Practice,	

第9回	野中博雄	Pastimes and Hobbies	Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	野中博雄	Weekends	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	野中博雄	Weekends	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	野中博雄	Friends	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	野中博雄	Friends	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	野中博雄	High School Days	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	野中博雄	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書
Can't Stop Writing 「英語で書いてみよう」 （三修社）
参考書

Internet Materials （毎回英語の歌などの聞き取りをする）
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上 筆記試験：50%、 課題、授業参加度等:50%
課題等に対する フィードバックの方法
課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。
履修のポイント
ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。
オフィス・アワー
授業の前後の時間が可能。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-R023

講義コード	20210002
講義名	基礎英語II（Bクラス）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校で「英文法」、英会話学校で「英会話」の講師として、また実用英語検定面接委員 としての経験を活かし、実践的な英語教授法をもとに学生の英語能力の 向上を計っている。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

英語の４技能は、Listening、Reading、Speaking、Writing と言われる。本科目では、基本的な英文法や英語表現を学習し、基礎的な Speaking や Writing 能力の向上を図る。またインターネットを援用して Speaking や Writing に必要な英語表現を作成する方法も習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、教科書やインターネット資料の学習を通して、英語の Speaking や Writing 技能の向上を図りつつ、英語におけるコミュニケーションの諸側面についての理解を深める。

到達目標

1. テキストのUnitで学習するトピックスに関する Speaking, Writing 能力を高める。
2. Exerciseの解答や課題の提出はワードでできるようにする。
3. インターネットの辞書・翻訳機能を利用してSpeaking Writing に利用できるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	野中博雄	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め方等の説明	
			Vocabulary,	

第2回	野中博雄	Self-Introduction	Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	野中博雄	Self-Introduction	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	野中博雄	My College	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	野中博雄	My College	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	野中博雄	Family and Home Town	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	野中博雄	Family and Home Town	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	野中博雄	Pastimes and Hobbies	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
			Speaking, Practice,	

第9回	野中博雄	Pastimes and Hobbies	Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	野中博雄	Weekends	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	野中博雄	Weekends	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	野中博雄	Friends	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	野中博雄	Friends	Speaking, Practice, Writing 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	野中博雄	High School Days	Vocabulary, Reading, Listening 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回	野中博雄	Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書
Can't Stop Writing 「英語で書いてみよう」 （三修社）
参考書

Internet Materials （毎回英語の歌などの聞き取りをする）
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上 筆記試験：50%、 課題、授業参加度等:50%
課題等に対する フィードバックの方法
課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。
履修のポイント
ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。
オフィス・アワー
授業の前後の時間が可能。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-R023

講義コード	20220001
講義名	実践英会話（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校で「英文法」、英会話学校で「英会話」の講師として、また実用英語検定面接委員 としての経験を活かし、実践的な英語教授法をもとに学生の英語能力の 向上を計っている。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

テキストのトピックに応じた英会話表現やインターネットネットで映画のセリフの英会話表現を活用して実生活に必要な英会話表現をペア・ワークで学習する。さらに、インターネットやプリント資料などで時事的なトピックスや栄養学科専攻学生に必要な英会語表現も学習する。本科目は様々な状況で実践的に応用できる英会話表現を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、テキストとインターネットネット教材の学習を通して、英語の Listening と Reading の技能の向上を図りつつ、多くの実践的な英会話表現を学習する。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、外国文化の理解を深めることを目指す。

到達目標

1. 各種の状況に応じた英会話表現ができるようになる。
2. 栄養学分野での専門用語の英語を理解できるようになる。
3. インターネットで専門分野に関するトピックスを検索し、その内容を英語で発表できるようなる。
4. 外国映画の会話表現と内容を理解できるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	野中	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め	

	博雄		方等の説明 課題：英語の質問に対する回答の作成（個人ごとで提出）	
第2回	野中博雄	Self-introduction	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	野中博雄	Family	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	野中博雄	Campus Life	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	野中博雄	Hobbies	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	野中博雄	Subjects at University	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	野中博雄	Club Activities	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
	野		Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習す	予習90分：教科書該当範囲の単語、表

第8回	中博雄	Pets	る。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	野中博雄	Traveling	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	野中博雄	Music	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	野中博雄	Sports	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	野中博雄	Part-time Job	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	野中博雄	Watching TV	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回		Cooking	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回		Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、ま

				とめておくこと。

教科書
Listen and Speak in English （三修社）
参考書
Internet Materials （毎回映画のセリフなどの聞き取りをする）
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上 筆記試験：50%、 課題、授業参加度等:50%
課題等に対する フィードバックの方法
課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。
履修のポイント
ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。
オフィス・アワー
授業の前後の時間が可能。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C031

講義コード	20220002
講義名	実践英会話（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校で「英文法」、英会話学校で「英会話」の講師として、また実用英語検定面接委員 としての経験を活かし、実践的な英語教授法をもとに学生の英語能力の 向上を計っている。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

テキストのトピックに応じた英会話表現やインターネットネットで映画のセリフの英会話表現を活用して実生活に必要な英会話表現をペア・ワークで学習する。さらに、インターネットやプリント資料などで時事的なトピックスや栄養学科専攻学生に必要な英会語表現も学習する。本科目は様々な状況で実践的に応用できる英会話表現を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、テキストとインターネットネット教材の学習を通して、英語の Listening と Reading の技能の向上を図りつつ、多くの実践的な英会話表現を学習する。さらに時事・文化的な表現も学習し、国際社会人として、外国文化の理解を深めることを目指す。

到達目標

1. 各種の状況に応じた英会話表現ができるようになる。
2. 栄養学分野での専門用語の英語を理解できるようになる。
3. インターネットで専門分野に関するトピックスを検索し、その内容を英語で発表できるようなる。
4. 外国映画の会話表現と内容を理解できるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	野中博	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め方等の説明	

	雄		課題：英語の質問に対する回答の作成（個人ごとで提出）	
第2回	野中博雄	Self-introduction	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	野中博雄	Family	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	野中博雄	Campus Life	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	野中博雄	Hobbies	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	野中博雄	Subjects at University	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第7回	野中博雄	Club Activities	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	野中	Pets	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の

	博雄		Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	確認。
第9回	野中博雄	Traveling	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	野中博雄	Music	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	野中博雄	Sports	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第12回	野中博雄	Part-time Job	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	野中博雄	Watching TV	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回		Cooking	Explanation, Listening, Conversation Practice 会話文はペアで練習する。 Exercisesもペアで回答する。 課題はペアで作成し、提出する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回		Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書
Listen and Speak in English （三修社）
参考書
Internet Materials （毎回映画のセリフなどの聞き取りをする）
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上 筆記試験：50%、 課題、授業参加度等:50%
課題等に対する フィードバックの方法
課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。
履修のポイント
ペアワークでの課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。
オフィス・アワー
授業の前後の時間が可能。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C031

講義コード	20230001
講義名	医療保健英語
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 女鹿 喜治	指定なし

授業の概要と教育目標

私たちを取り巻く環境や食生活がますます急激に変動しつつあります。このような時代における心身の健康や食生活に関わる英文を読みます。一応、講義計画表通り進めていきますが、場合によっては、みなさんの英語力と予習の出来を見ながら進度を調節します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養に関わる基本的な英文を読み慣れて、将来、英語で書かれた専門的な論文などを読むことのできる下地を作る。

到達目標

栄養に関わる英文を読み、基本的な語彙と表現を習得する。TOEIC 550点程度を目指します。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ある程度専門的な英語を読めるようにするためにはどんなことをしなければならないのかを考えてみます。	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第2回	Nutrition equals life	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第3回	Nutrition as energy source	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第4回	What essential Nutritions we need?	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直

		し)：20分程度
第5回	What's body made of?	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第6回	Introducing the digestive system and digestive organs	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第7回	Mechanical digestion and chemical digestion	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第8回	All aboard the nutrition express!	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第9回	Powerful protein	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第10回	A healthey body needs fat	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第11回	Carbohydrate and energy: how glucose becomes energy	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第12回	Vigorous vitamins	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第13回	Mighty Mineral	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第14回	You can't live without water	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度
第15回	Understand the difference between hunger and appetite	予習(単語と内容の大雑把な把握)：20分程度 復習(全体的な読み直し)：20分程度

教科書

清水雅子 (2007)『 はじめての栄養英語』 講談社

参考書

教室で適宜指示します。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上：試験の点数(80%)。教室での発言やその内容など(20%)。（履修人数が少なければ、平常点のみ。）
課題等に対する フィードバックの方法
大雑把でいいですから、事前に英文を読んで、内容を把握しておいてください。そして、講義の後には、その英語が英語のままで左か右にそのまま頭の中に入ってくるまで何度も読んでください。こういった積み重ねが英語力を高めます。
履修のポイント
ここで語られている内容そのものは栄養学科の学生なら既に知っているものです。英語は難しく感じても、そのような場合、意外に読みやすいものです。恐れずにチャレンジしてみてください。
オフィス・アワー
基本的には、私の空いた時間ならいつでも研究室に来てください。ただ、それなりの話をするつもりなら、予約を取ってください。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C041

講義コード	20240001
講義名	英書講読
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高校で「英文法」、英会話学校で「英会話」の講師として、また実用英語検定面接委員 としての経験を活かし、実践的な英語教授法をもとに学生の英語能力の 向上を計っている。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野中 博雄	指定なし

授業の概要と教育目標

Quality of Life (Making Smart, Healthy Choices) のテキストを使用し、食・健康や社会環境に関する英文に触れ、英文読解能力を高める。毎回、英文理解の方法、英文和訳の方法についても様々な視点から説明をする。本科目では英文理解の方法についての理解を深め、食・健康や社会環境に関する英文を読解して理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーの１つである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを目指し、テキストとインターネットネット教材の学習を通して、「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面」についてのトピックスに関する知識を深め、さらに英文理解、英文和訳の方法についての理解も深めることを目指す。

到達目標

1. 一般的な英文、専門分野の英文、表、グラフ等が読解できるようになる。
2. 多くの医療・保健分野の英文に触れ、英文理解を線的理解によって読解できるようになる。
3. パラグラフでのキーワード、キーセンテンスを理解し、英文内容を要約できるようになる。
4. 英文の線的理解と英文和訳の違いについて理解できるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	野中博雄	Outline	Textbook, Course Outline, Grading System, Classroom Procedures 評価方法、授業の進め方等の説明	

第2回	野中博雄	Slowing Down in a Fast-food World 何をどう食べるかー健康、地球環境	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ① 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第3回	野中博雄	Slowing Down in a Fast-food World 何をどう食べるかー健康、地球環境	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ② 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第4回	野中博雄	Laugh Your Troubles Away 笑って健康	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ① 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第5回	野中博雄	Laugh Your Troubles Away 笑って健康	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ② 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第6回	野中博雄	Is It Possible to Be Too Clean? 清潔すぎる環境がアレルギーの原因に？	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ① 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

			またはペアで問題解決しながら学修する。	
第7回	野中博雄	Is It Possible to Be Too Clean? 清潔すぎる環境がアレルギーの原因に？	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ② 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第8回	野中博雄	Sleep: How Much Is Too Much? 健康な生活のための睡眠時間	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ① 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第9回	野中博雄	Sleep: How Much Is Too Much? 健康な生活のための睡眠時間	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ② 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第10回	野中博雄	Save Your Life and Others' 乳がんとピンクリボン運動	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ① 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第11回	野中博雄	Save Your Life and Others' 乳がんとピンクリボン運動	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ② 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。

			認知学習を PCを使って、個人で、 またはペアで問題解決しながら学修する。	
第12回	野中博雄	Alcohol on the Brain アルコールと脳容積の関係	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ① 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、 またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第13回	野中博雄	Alcohol on the Brain アルコールと脳容積の関係	Reading ②, Reading Comprehension, Listening Practice, Further Practice 英文理解と英文和訳の方法 ② 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、 またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第14回	野中博雄	The Dangers of Cannabis 若者に拡がる大麻汚染	Vocabulary, Useful Expressions, Readin g ① 英文理解と英文和訳の方法 ① 英文の線的理解をするために、文の主語、動詞の認知学習を PCを使って、個人で、 またはペアで問題解決しながら学修する。	予習90分：教科書該当範囲の単語、表現等を調べる。復習90分：既習内容の確認。
第15回		Review	Course Reviewing	復習90分：コース全体の既習内容の復習をするので、配布資料を確認し、まとめておくこと。

教科書

Quality of Life (Making Smart, Healthy Choices) 南雲堂

参考書

Internet Materials （トピックスに関連したサイトを見る）

成績評価の方法・基準

単位認定: 60点以上（期末課題50%、課題20%、授業参加度30%）

**課題等に対する
フィードバックの方法**

課題は次回の週に返却し、共通する間違い等について説明するので、指摘内容を理解して以後間違いの無いようにすること。

履修のポイント

課題や授業での積極性（授業参加度）が最終評価に影響するので積極的に授業に臨むことが必要。
オフィス・アワー
授業の前後の時間が可能。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C042

講義コード	20250001
講義名	中国語
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 佐々木 百合	指定なし

授業の概要と教育目標

学生は教科書に沿って中国語の発音の基礎となる声調とピンインの発音練習から行い、中国語の基礎的な単語や慣用句、文法を学び、簡単な日常会話ができる。そして、中国の文化が古くから日本文化に大きな影響を与えてきたことの理解をいっそう深めることができる。学生は将来様々な職業に従事し、一般社会において中国人と接した時、中国語で交流ができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連で、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人間に対する理解を深めることを目標としている。外国人増加と国際化を背景に、コミュニケーションツールとして最低限の中国語会話能力を養成することを目指すものとする。

到達目標

中国語の正しい発音と簡単なあいさつから日常会話までの読む・聴く・話す・書くを総合的にバランスよく習得する。基礎的な単語を覚え、基礎的な文法を理解することで、簡単な中国語の表現ができることを目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	佐々木 百合	発音1・声調・単母音・発音練習	グループ別に相互に声調と発音練習	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：発音の復習を行う
第2回	佐々木 百合	発音2・子音・複合母音・発音練習	グループ別に相互に発音練習	予習(15分)：発音の予習を行う 復習(30分)：発音の復習を行う
	佐々	発音3・ピンインの組み合わせ・発音のま	グループ別に相	予習(15分)：発音の予習を行う

第3回	木 百合	とめ	互に発音練習	復習(30分)：発音の復習を行う
第4回	佐々木 百合	第1課 挨拶と自己紹介 人称代名詞・「是」の文・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	グループ別に相互に挨拶と自己紹介の練習	予習(15分)：発音と単語の予習を行う 復習(30分)：会話文の復習を行う
第5回	佐々木 百合	第2課 疑問文 指示代名詞1・疑問詞疑問文・「的」の用法・副詞「也」の用法・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	グループ別に疑問文の会話練習	予習(15分)：疑問文と単語の予習を行う 復習(30分)：会話文の復習を行う
第6回	佐々木 百合	第3課 動詞の文 所有を表す「有」・省略疑問の「呢」・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	グループ別に会話練習	予習(15分)：動詞の文と単語の予習を行う 復習(30分)：会話文の復習を行う
第7回	佐々木 百合	第4課 形容詞の文 量詞・指示代名詞2・形容詞の文・「几」と「多少」・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	グループ別に会話練習	予習(15分)：形容詞の文と単語の予習を行う 復習(30分)：会話文の復習を行う
第8回	佐々木 百合	第5課 数のいろいろ 数字・日付時刻を表す語・動作の時点を言う表現・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	グループ別に会話練習	予習(15分)：数と単語の予習を行う 復習(30分)：会話文の復習を行う
第9回	佐々木 百合	第6課 完了・所在のアスペクト 完了を表す「了」・所在を表す「在」・助動詞1「想」・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	グループ別に会話練習	予習(15分)：完了文と単語の予習を行う 復習(30分)：会話文の復習を行う
第10回	佐々木 百合	第7課 介詞の用法（1） 介詞1「在」「离」・存在を表す「有」・反復疑問文・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	グループ別に会話練習	予習(15分)：介詞と単語の予習を行う 復習(30分)：会話文の復習を行う
第11回	佐々木 百合	第8課 介詞の用法(2) 介詞2「从」・助動詞2「得」・「時間量」・単語の発音練習・会話文の解説・トレーニング	グループ別に会話練習	予習(15分)：介詞と単語の予習を行う 復習(30分)：会話文の復習を行う
第12回	佐々木	第9課 介詞の用法(3) 介詞３「跟，給」・過去の経験を表す「　」・「是～的」文・単語の発音練	グループ別に会話練習	予習(15分)：介詞と単語の予習を行う 復習(30分)：会

	百合	習・会話文の解説・トレーニング		話文の復習を行う
第13回	佐々木 百合	単語と文法のまとめ		復習(30分)：単語と文法の復習を行う
第14回	佐々木 百合	総復習と授業全体の解説		復習(30分)：文法全体の復習を行う
第15回	佐々木 百合	試験範囲の問題と総合練習		復習(30分)：授業全体の復習を行う

教科書
＜最新２訂版＞中国語はじめの一歩 尹景春・竹島毅 著 白水社
参考書
特になし
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上授業中の問答に１０％、期末試験を９０％として、合計６０点以上を合格とします。
課題等に対する フィードバックの方法
課題に対する質問や解答例を次回の授業で詳細に解説を行う。
履修のポイント
中国語を母国語とする学生の履修は認めません。授業中は中国の様々なことについてたくさん質問して下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C032

講義コード	20260001
講義名	スペイン語
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	群馬労働局 和西通訳・翻訳 ー 実践的なスペイン語を学習します。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 伊勢島 セリア 明美	指定なし

授業の概要と教育目標

基本文型を確認しながら、初級会話の養成を目標とします。
適宜、音楽を初めラテン文化も紹介します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの
諸側面から、多言語・多文化の修得を通じて、外国人との相互理解及び
コミュニケーション能力を有するグローバル人材の育成を図ります。

到達目標

スペイン語で挨拶と簡単な会話ができることを目標とします。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	アルファベット、挨拶		復習（４５分）：発音を確認する。 基本挨拶ができるようにする。
第2回	動詞ser、否定形 単語力UP: 国名、国籍	会話発表：自己紹介をする。	復習（４５分）：動詞serの活用形を覚える。
第3回	疑問文と答え方、定冠詞		復習（４５分）：疑問文の文型を確認する。 定冠詞の変化形を覚える。
第4回	所有形容詞 単語力UP: 家族	会話発表：家族を紹介する。	復習（４５分）：形容詞の変化形を覚える。 親族名称を覚える。
第5回	指示詞 単語力UP：形容詞①	会話発表：持ち物について 話し合う。	復習（４５分）：指示形容詞の変化形を確認する。 重要形容詞を覚える。

第6回	時間を表す表現 数詞①		復習（４５分）：時間を表現できるようにする。 数詞を覚える。
第7回	動詞estar、前置詞en 不定冠詞	会話発表：居場所を尋ねたり、 答えたりする。	復習（４５分）：動詞estarの活用形を覚える。 不定冠詞の変化形を確認する。
第8回	動詞tener、数詞②	会話発表：所有物について 尋ねる。	復習（４５分）：動詞tenerの活用形を覚える。 年齢が言えるようにする。
第9回	動詞poder、指示形容詞 形容詞②		復習（４５分）：動詞poderの活用形を覚える。 指示形容詞の変化形を確認する。
第10回	動詞gustar、前置詞de 単語力ＵＰ：職業	会話発表：好みについて 話し合う。	復習（４５分）：動詞gustarの活用形を覚える。 職業が言えるようにする。
第11回	現在形-ar、前置詞con		復習（４５分）：-ar動詞の活用形を覚える。 共同作業が言えるようにする。
第12回	現在形-er、動詞poder		復習（４５分）：-er動詞の活用形を覚える。 動詞poderの活用形を確認する。
第13回	現在形-ir、動詞venir・ir 曜日の名前	会話発表：行先を尋ねる。	復習（４５分）：-ir動詞の活用形を確認する。 曜日の名前を覚える。
第14回	未来形、不規則動詞hacer 月の名前	会話発表：予定を尋ねる。	復習（４５分）：動詞hacerの活用形を確認する。 月の名前を覚える。
第15回	過去形、「に」格人称代名詞		復習（４５分）：過去形の活用形を覚える。 時の副詞を覚える。

教科書

¡Hola!

参考書

桜庭雅子・貫井一美「しっかり学ぶスペイン語」
ベレ出版

成績評価の方法・基準

単位認定：６０点以上
定期試験 １００％

課題等に対する
フィードバックの方法

モデル会話を参考にした応用会話の提出により、補足説明を行います。

履修のポイント

練習問題の解答、応用会話の提出等、積極的に取り組むことと
学習した文型の応用を広めることです。

オフィス・アワー

授業終了後に質問を受け付けます。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C025

講義コード	20270001
講義名	ポルトガル語
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	群馬労働局 和葡通訳・翻訳 ー 実践的なポルトガル語の学習を行います。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 伊勢島 セリア 明美	指定なし

授業の概要と教育目標

基本文法を取り上げた後、練習問題を通して学習を確認し、
初級会話の養成を目標とします。
適宜、ポルトガル語圏の文化も紹介したいと思います。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ディプロマ・ポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの
諸側面から、多言語・多文化の修得を通じて、外国人との相互理解及び
コミュニケーション能力を有するグローバル人材の育成を図ります。

到達目標

ポルトガル語で挨拶と簡単な会話ができることを目標とします。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	アルファベット 基本構文、挨拶		復習（４５分）：発音を確認する。 基本挨拶ができるようにする。
第2回	動詞ser、否定文、疑問文 前置詞de	会話発表：自己紹介する。	復習（４５分）：動詞serの活用形を覚える。
第3回	所有形容詞とその変化 単語力ＵＰ：家族	会話発表：家族を紹介する。	復習（４５分）：所有形容詞の変化形を確認する。 親族名称を覚える。
第4回	形容詞とその変化 単語力ＵＰ：形容詞①		復習（４５分）：形容詞の変化を確認する。 重要形容詞を覚える。
第5回	定冠詞、比較の表現	会話発表：持ち物の特徴を	復習（４５分）：定冠詞の変化形を覚える。

	単語力ＵＰ：形容詞②	比較をする。	形容詞を確認する。
第6回	動詞ter、名詞の性・数 数詞①		復習（４５分）：名詞の変化を確認する。 数詞を覚える。
第7回	動詞gostar、動詞preferir	会話発表：好みについて 話し合う。	復習（４５分）：動詞gostarの活用形を覚える。 動詞preferirの活用形を確認する。
第8回	不定冠詞、動詞querer 色の名前	会話発表：願望について 話し合う。	復習（４５分）：動詞quererの活用形を覚える。 不定冠詞を確認する。
第9回	動詞estar、前置詞em①		復習（４５分）：動詞estarの活用形を覚える。 前置詞emの変化形を確認する。
第10回	動詞ir、前置詞aとde	会話発表：行き先を尋ねる。	復習（４５分）：動詞irの活用を覚える。 前置詞aとdeの変化形を確認る。
第11回	-ar動詞の現在形 時間の表現		復習（４５分）：-ar動詞の活用形を覚える。 時刻が言えるようにする。
第12回	-er動詞の現在形 前置詞com	会話発表：スケジュールに ついて尋ねる。	復習（４５分）：-er動詞の変化形を覚える。 共同作業が言えるようにする。
第13回	-ir動詞の現在形 月の名前		復習（４５分）：-ir動詞の活用形及び月の名前を覚える。
第14回	未来形、前置詞em② 曜日の名前	会話発表：予定を尋ねる。	復習（４５分）：未来形の活用形を確認する。 曜日の名前を覚える。
第15回	過去形、再帰動詞		復習（４５分）：過去形の活用形を覚える。

教科書

Vamos falar português! Edição Revisada.

成績評価の方法・基準

単位認定：６０点以上
定期試験 １００％

課題等に対する
フィードバックの方法

Exercícios: Vamos praticar!及びリスニング問題の解答提出により、
補足説明を行います。

履修のポイント

練習問題に積極的に取り組むことと
学習した文型の応用を広めることです。

オフィス・アワー

授業日の授業終了後、相談に応じます。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C024

講義コード	20280001
講義名	統計学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

統計学は、偶然に起きると思われる事象から得られるデータを、数表化、視覚化したり、数学的道具を用いてより科学的に分析したりして、その集団の特徴や傾向を把握し、その結果を人間の活動や社会生活に広く役立てていくことを目的としている。そのためにこの授業は、統計学の概念を理解し、科学的に考え、分析するための基礎的な見方を身につけることを目標にし、必要となる統計的手法について、記述統計から推測統計まで演習を通して学ぶ。
また、授業ではグループでの学び合いも取り入れたい。予習・復習ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この授業は、医療保健学部栄養学科DPの「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解」を目指し、社会において数値や図表として表現されているデータの持っている意味を様々な側面から分析できるような力を養う。その上で、専門的な科目での健康の諸側面、健康生活と社会との関係について、科学的な理解を行えるような学力を身に付ける。

到達目標

・統計学の概念を理解し、選択できる
・標本を抽出し、度数分布表が作成できる
・データを集計し、各種統計量を求められる
・正規分布などの確率分布の特性を理解し、活用できる
・母平均などの推定が行える
・統計的仮説検定の考え方を理解し、実際に母平均の検定などが行える

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	母集団や標本などの統計学の基本概念と数学知識の確認、電卓の使用方法	振返り課題	予習45分：高校の数学「データの分析」について、教科書等で確認 復習45分：教科書および配布

	【電卓を持参すること】		教材の見直し、振り返り課題の見直し
第2回	標本抽出	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書p17～32を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第3回	度数分布表の作り方	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書p33～48を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第4回	中心的傾向の特性値（平均、中央値、最頻値など）の求め方	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書p49～62を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第5回	変動の特性値（不偏分散、標準偏差など）の求め方	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書のp63～76を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第6回	確認テスト① 確率分布の性質について（離散型確率分布） （確率ｐ78～88については、授業中扱いませんので、各自で学習してください）		予習45分：配布教材・教科書p77～101を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、確認テストの見直し
第7回	確率分布の性質について（連続型確率分布） 正規分布とは	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書p77～114を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第8回	正規分布の性質や標準化、標準正規分布表の見方などについて	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書p107～130を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第9回	統計的有意性（有意水準、信頼係数など）	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書p131～138を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第10回	標本平均の分布、中心極限定理、推定方法の基本的な考え方 正規分布と母平均の推定	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書p139～150を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第11回	t分布と母平均の推定 母平均の推定のまとめ	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書第5章・第6章を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し

第12回	母平均の推定のまとめ 統計的仮説検定の考え方（有意水準、有意確率、棄却域、仮説）	振返り課題	予習　分：配布教材・教科書第8章を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第13回	母平均に関する仮説検定の方法	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書第8章を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第14回	母平均に関する仮説検定のまとめ	振返り課題	予習45分：配布教材・教科書第8章を読む 復習45分：教科書および配布教材の見直し、振り返り課題の見直し
第15回	講義のまとめ、確認テスト②		予習45分：教科書・配布教材の見直し 復習45分：授業全体の振り返り、確認テストの見直し

教科書

「はじめての統計学」鳥居泰彦（日本経済新聞社）

参考書

「完全独習統計学入門」小島寛之（ダイヤモンド社）、「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」武藤志真子編著（建帛社）、「わかる統計学 健康・栄養を学ぶために」松村康弘他（化学同人）など

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。課題への取り組み30%、確認テスト70%。

課題等に対する
フィードバックの方法

確認テスト①について、返却をしますので、参考にしてください。
課題については解答を明らかにしますので、各自で確認し、疑問点は質問してください。

履修のポイント

数学的な理論には深入りせず、なるべく具体例で統計学の考え方を身に付けられるように配慮していく予定であるが、理解のため演習課題は必ず自分で解くこと。
・講義には【電卓】『平方根の機能がついたもの！』を持参すること。
・課題については必ず自分の力で解き、疑問点などは質問すること（その際Moodleを積極的に利用すること）
・授業に欠席（公欠も含む）した場合は、授業の課題等を確認すること

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C010

講義コード	20290001
講義名	情報処理基礎演習（Aクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

我々の生活やビジネスが情報化によってどのように変化しているか、コンピュータやネットワークの利用を通して理解し、積極的に関わっていく態度を養成する。ここではPCの基本操作やアプリケーションソフトの入門を中心に、インターネットを利用しての情報検索・コミュニケーションなどについても学ぶ。
そのため、コンピュータやオフィスなどのアプリケーションソフト、インターネットなどの基本的な操作方法を理解することで、今後の学習や研究の基盤として活用できるようになることを目標とする。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のDP「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に関連し、「人間」に対して、社会・コミュニケーションを特に情報化を通して理解し、専門的な科目での人間の健康に対する科学的な理解を行うための知識や技術の基礎を身に付ける。

到達目標

・Windows及びオフィスソフトの基本的な使用法を理解し、説明できる
・オフィスソフトを活用し、自分のレポートや課題を進められる
・インターネットを利用して情報の検索・収集・整理がおこなえる
・情報倫理に配慮した資料を作成して、効果的なプレゼンテーションがおこなえる

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	基礎知識、Windowsの基本操作、諸注意 （ネットワークの利用、学習システム、電子メールの活用）		予習45分：配布資料を確認 復習45分：各種システムのアクセス方法について復習

第2回	ネットワークの利用について、Wordの基礎知識・文書の作成 練習問題 レポート課題：食に関するレポート作成		予習45分：教科書序章・1章・2章1-3確認 復習45分：教科書の実習問題
第3回	表の作成、文書の編集 練習問題		予習45分：教科書2章4-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第4回	Wordでグラフィックの利用 練習問題		予習45分：教科書2章6の確認 復習45分：教科書の実習問題
第5回	論文やレポートの作成、課題の作成 レポート課題の完成	レポート課題を作成し、また相互にレポート課題について評価する	予習45分：教科書2章7の確認 復習45分：教科書の実習問題
第6回	PowerPointの基礎知識 課題：各自で考えた企画のプレゼンテーション	プレゼンテーション資料の情報収集	予習45分：教科書4章1-2の確認 復習45分：教科書の実習問題
第7回	表・図などオブジェクトを利用してのスライドの作成 プレゼンテーション資料の作成		予習45分：教科書4章3-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第8回	その他の機能、プレゼンテーション資料の作成 発表シナリオ等準備		予習45分：教科書4章6-7の確認 復習45分：教科書の実習問題
第9回	プレゼンテーション（1）	各自が作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う 自己評価・相互評価を行う	予習45分：プレゼンテーション資料の確認 復習45分：プレゼンテーションの振り返り
第10回	プレゼンテーション（2）	各自が作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う 自己評価・相互評価を行う	予習45分：プレゼンテーション資料の確認 復習45分：プレゼンテーションの振り返り
第11回	Excelの基礎知識、書式設定 練習問題		予習45分：教科書3章1-3の確認 復習45分：教科書の実習問題
第12回	見やすい表の作成、関数の利用 練習問題		予習45分：教科書3章3-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第13回	グラフの作成 練習問題		予習45分：教科書3章6の確認 復習45分：教科書の実習問題
第14回	データベースの利用、ソフトウェアの統合的活用 練習問題		予習45分：教科書3章7-8の確認 復習45分：教科書の実

			習問題
第15回	Excelのまとめと確認テスト		予習45分：教科書3章全体の確認 復習45分：授業全体の振り返り

教科書
「30時間アカデミック Office2019」（実教出版）杉本くみ子・大澤栄子
参考書
その他市販のOffice関連書籍やWebを参考にしてください。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。Word課題30%、プレゼンテーション（資料・発表）30%、Excel確認テスト30%、その他課題10%。
課題等に対する フィードバックの方法
課題については、学習者の相互評価を実施します。その状況について、Moodleもしくは口頭でコメントを行いますので、参考にしてください。
履修のポイント
コンピュータを利用する機会を増やし、慣れることが重要です。また授業ではMoodleを活用し、オンラインでファイルの提出などを行いますが、可能ならば各自のデータを保存するためのUSBフラッシュメモリを用意しておくとよいでしょう。 Moodleには積極的にアクセスし、理解を深めてください。 欠席（公欠含む）した場合、課題等の確認をすること。
オフィス・アワー
火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-R011

講義コード	20290002
講義名	情報処理基礎演習（Bクラス）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

我々の生活やビジネスが情報化によってどのように変化しているか、コンピュータやネットワークの利用を通して理解し、積極的に関わっていく態度を養成する。ここではPCの基本操作やアプリケーションソフトの入門を中心に、インターネットを利用しての情報検索・コミュニケーションなどについても学ぶ。
そのため、コンピュータやオフィスなどのアプリケーションソフト、インターネットなどの基本的な操作方法を理解することで、今後の学習や研究の基盤として活用できるようになることを目標とする。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のDP「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に関連し、「人間」に対して、社会・コミュニケーションを特に情報化を通して理解し、専門的な科目での人間の健康に対する科学的な理解を行うための知識や技術の基礎を身に付ける。

到達目標

・Windows及びオフィスソフトの基本的な使用法を理解し、説明できる
・オフィスソフトを活用し、自分のレポートや課題を進められる
・インターネットを利用して情報の検索・収集・整理がおこなえる
・情報倫理に配慮した資料を作成して、効果的なプレゼンテーションがおこなえる

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	基礎知識、Windowsの基本操作、諸注意 （ネットワークの利用、学習システム、電子メールの活用）		予習45分：配布資料を確認 復習45分：各種システムのアクセス方法について復習

第2回	ネットワークの利用について、Wordの基礎知識・文書の作成 練習問題 レポート課題：食に関するレポート作成		予習45分：教科書序章・1章・2章1-3確認 復習45分：教科書の実習問題
第3回	表の作成、文書の編集 練習問題		予習45分：教科書2章4-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第4回	Wordでグラフィックの利用 練習問題		予習45分：教科書2章6の確認 復習45分：教科書の実習問題
第5回	論文やレポートの作成、課題の作成 レポート課題の完成	レポート課題を作成し、また相互にレポート課題について評価する	予習45分：教科書2章7の確認 復習45分：教科書の実習問題
第6回	PowerPointの基礎知識 課題：各自で考えた企画のプレゼンテーション	プレゼンテーション資料の情報収集	予習45分：教科書4章1-2の確認 復習45分：教科書の実習問題
第7回	表・図などオブジェクトを利用してのスライドの作成 プレゼンテーション資料の作成		予習45分：教科書4章3-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第8回	その他の機能、プレゼンテーション資料の作成 発表シナリオ等準備		予習45分：教科書4章6-7の確認 復習45分：教科書の実習問題
第9回	プレゼンテーション（1）	各自が作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う 自己評価・相互評価を行う	予習45分：プレゼンテーション資料の確認 復習45分：プレゼンテーションの振り返り
第10回	プレゼンテーション（2）	各自が作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う 自己評価・相互評価を行う	予習45分：プレゼンテーション資料の確認 復習45分：プレゼンテーションの振り返り
第11回	Excelの基礎知識、書式設定 練習問題		予習45分：教科書3章1-3の確認 復習45分：教科書の実習問題
第12回	見やすい表の作成、関数の利用 練習問題		予習45分：教科書3章3-5の確認 復習45分：教科書の実習問題
第13回	グラフの作成 練習問題		予習45分：教科書3章6の確認 復習45分：教科書の実習問題
第14回	データベースの利用、ソフトウェアの統合的活用 練習問題		予習45分：教科書3章7-8の確認 復習45分：教科書の実

			習問題
第15回	Excelのまとめと確認テスト		予習45分：教科書3章全体の確認 復習45分：授業全体の振り返り

教科書
「30時間アカデミック Office2019」（実教出版）杉本くみ子・大澤栄子
参考書
その他市販のOffice関連書籍やWebを参考にしてください。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。Word課題30%、プレゼンテーション（資料・発表）30%、Excel確認テスト30%、その他課題10%。
課題等に対する フィードバックの方法
課題については、学習者の相互評価を実施します。その状況について、Moodleもしくは口頭でコメントを行いますので、参考にしてください。
履修のポイント
コンピュータを利用する機会を増やし、慣れることが重要です。また授業ではMoodleを活用し、オンラインでファイルの提出などを行いますが、可能ならば各自のデータを保存するためのUSBフラッシュメモリを用意しておくとよいでしょう。 Moodleには積極的にアクセスし、理解を深めてください。 欠席（公欠含む）した場合、課題等の確認をすること。
オフィス・アワー
火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。
科目区分
学部共通科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-R011

講義コード	20300001
講義名	情報処理応用演習
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

コンピュータの基本的な操作方法はすでに習得したものとして、基礎的な内容から発展させ、学習や研究に役立てられるよう、より実践的な形での活用する方法を学ぶ。具体的には、PCとインターネットを活用して情報の収集・整理を行なう方法や、表計算ソフトを用いての統計的な処理の仕方、さらにメディアを利用した情報のまとめ方とのその提示や発信方法について演習を行なう。
これらの演習を通して、授業の課題や研究などで、コンピュータを利用し科学的に分析できるスキルを身につけ、情報の発信が行えるような情報活用力を身につけることを目標とする。
また、授業ではMoodleを活用し、後半はグループによる作業を行う予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のDP「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に関連し、「人間」に対して、社会・コミュニケーションを、特にPCを利用した分析力・表現力を通して理解し、専門的な科目での人間の健康に対する科学的な理解を行うための知識や技術の基礎を身に付ける。

到達目標

・Excelを利用した統計的処理の方法を理解し、説明できる
・Excelを利用して課題の統計処理を行える
・Webを利用した情報の検索・収集・整理ができる
・メディアそれぞれの特性を理解し、説明できる
・様々なメディアを利用した情報のまとめ方・発信の仕方がわかり、行える

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	度数分布表、平均値、標準偏差		予習60分：教科書第1章～3章を確認 復習60分：理解度チェックの問題

第2回	グラフによるデータのまとめ方		予習60分：教科書第4章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第3回	散布図と相関係数		予習60分：教科書第5章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第4回	回帰直線		予習60分：教科書第6章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第5回	確率分布とその数表		予習60分：教科書第8章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第6回	区間推定		予習60分：教科書第9章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第7回	仮説検定(1)		予習60分：教科書第10章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第8回	仮説検定(2)		予習60分：教科書第11章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第9回	クロス集計と独立性の検定		予習60分：教科書第7章・12章を確認 復習60分：理解度チェックの問題
第10回	まとめの確認テスト 分析課題：データをもとに各自で分析レポートを作成		予習60分：教科書第15章を確認 復習60分：課題
第11回	メディア編集の基礎(1) グループ課題：各グループでマルチメディアコンテンツを作成		予 習60分：Moodle資料を確認 復習60分：ソフトウェアの使用法確認
第12回	メディア編集の基礎(2)	グループ課題の構想を練る	予 習60分：Moodle資料を確認 復習60分：構想をもとにコンテンツの内容を検討
第13回	マルチメディアによるコンテンツのまとめ方	グループで協力してコンテンツの収集・作成を行う	予 習60分：Moodle資料を確認 復習60分：コンテンツの収集・作成に

			ついて検討
第14回	マルチメディアによるコンテンツ作成	グループでコンテンツをまとめ、完成させる	予習60分：Moodle資料を確認 復習60分：コンテンツの完成と発表準備
第15回	情報の発信、授業のまとめ 課題：授業を通して学んだことの振り返りレポート	グループ発表：各グループで作成したコンテンツを発表、互いにコメントをおこなう	予習60分：Moodle資料を確認 復習60分：授業の振り返り課題

教科書

Excelによる統計処理：「よくわかる統計学介護福祉・栄養管理データ編第2版」石村貞夫他（東京図書）

参考書

「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」武藤志真子編著（建帛社）、「栄養情報処理」水上茂樹（講談社）、「エクセル活用コメディカル統計テキスト」宮城重二（医歯薬出版）、「Excelで学ぶ統計解析」涌井良幸・涌井貞美（ナツメ社）、他適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。確認テスト60%、課題とその取り組み40%。

課題等に対するフィードバックの方法

課題については、学習者の相互評価を実施します。その状況について、Moodleもしくは口頭でコメントを行いますので、参考にしてください。

履修のポイント

1年次の「情報処理基礎演習」と「統計学」を基礎にして授業を進めるため、理解が不十分な場合は各自で復習してください。また、教員免許取得には必修となっていることに注意してください。
Moodleに積極的にアクセスし、理解を深めること教科書の理解度チェック問題は必ず自分でやってみてください。
欠席（公欠含む）した場合、課題等の確認をすること。

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C026

講義コード	20310001
講義名	文献検索とクリティーク
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

研究を進めていく際に、資料や文献を集めることが必要不可欠であることはいうまでもない。特に現在ではそれらの情報はインターネット上に電子的な情報として存在しているものも多くあるため、その情報を検索する方法を身に付けることが必要である。また、論文やレポートを作成するために必要な事柄について学び、さらに具体的な論文などの文章内容を批評的に読解することで、より深く理解することができる。
従ってこの授業では、科学論文などの資料の検索・収集する方法について理解し、実践し、また実際に論文の作成方法や構成・記述の仕方を身に付け、さらに論文に対する批評的な読解法についても身に付けることを目標としている。このような深い学びのために、グループディスカッションやプレゼンテーションなどの演習を取り入れて進めていく。
また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この授業は、医療保健学部栄養学科のDP「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解」するために必要な科学的根拠となる資料の収集と批評的読解について身に付けることで、専門科目での科学的理解が行えるようになる力を養う。

到達目標

・レポートや論文作成のため資料の検索・収集・整理の方法を理解し、行える
・レポートや論文作成について基礎的な事柄を身に付け、作成ができる
・レポートや論文で作成した内容をプレゼンテーションできる
・レポートや論文に対する批評的な読解方法を理解し、実際に読解を行える

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	授業の概要や進め方の説明 （情報、エビデンス）		予習60分：シラバスの確認と教科書の0章と1章を読む 復習60分：資料の

			確認と振り返り
第2回	レポート・論文の種類、基本構成、構造、課題の発見、ワークシートで全体の構成を考える 課題レポートの作成と相互評価		予習60分：教科書2章を読む 復習60分：資料の確認と振り返り、レポートのテーマを決める
第3回	参考文献の役割、表記の方法、文献の種類と特徴		予習60分：Moodle資料を読む 復習60分：資料の確認と振り返り
第4回	電子的な文献資料の集め方、本学図書館から医中誌、メディカルオンラインなどの活用方法（OPAC、リポジトリ、シソーラス） 課題：参考文献の検索		予習60分：教科書3章とMoodle資料を読む 復習60分：資料の確認と振り返り、レポートの資料を収集する
第5回	その他の電子的な文献資料の集め方、管理の仕方（NDL-OPAC、PubMed）		予習60分：教科書4章とMoodle資料を読む 復習60分：資料の確認と振り返り
第6回	クリティカルシンキングとは		予習60分：クリティカルシンキングを調べる 復習60分：資料の確認と振り返り
第7回	文章の読解とクリティカルシンキング		予習60分：教科書5章を読む 復習60分：資料の確認と振り返り
第8回	レポート・論文作成の流れと基本的な書き方のルール		予習60分：教科書6章とMoodle資料を読む 復習60分：資料の確認と振り返り、レポートの構想を考える
第9回	データ分析とクリティカルシンキング ワークシートをもとに課題レポートを文章にまとめる		予習60分：教科書7章を読む 復習60分：資料の確認と振り返り、レポート作成
第10回	課題レポートを文章にまとめ、提出	課題レポートの相互評価	予習60分：レポートの提出準備 復習60分：資料の確認と振り返り
第11回	プレゼンテーション資料の作成		予習60分：教科書8章を読む 復習60分：資料の確認と振り返り

第12回	学生による発表とグループディスカッション （受講者の人数により、回数や内容を変更する場合があります）	学生による発表とグループディスカッション （受講者の人数により、回数や内容を変更する場合があります）	予習60分：発表資料の確認 復習60分：発表の振り返り
第13回	学生による発表とグループディスカッション （受講者の人数により、回数や内容を変更する場合があります）	学生による発表とグループディスカッション （受講者の人数により、回数や内容を変更する場合があります）	予習60分：発表資料の確認 復習60分：発表の振り返り
第14回	学術論文の読解		予習60分：検討論文の準備 復習60分：資料の確認と振り返り
第15回	学術論文等の読解発表、まとめ	学術論文等の読解発表、まとめ	予習60分：読解発表の準備 復習60分：授業全体の振り返り

教科書

山田剛史、林創：大学生のためのリサーチリテラシー入門、ミネルヴァ書房（予定）

参考書

日本栄養改善学会：栄養学を志す研究者のための論文の書き方・まとめ方、第一出版
山崎茂明、六本木淑恵：看護研究のための文献検索ガイド、日本看護協会出版局
佐藤望ほか： アカデミック・スキルズ(第2版)――大学生のための知的技法入門 、慶應義塾大学出版会
小笠原善康：最新版 大学生のためのレポート・論文術、講談社現代新書 他、授業中に紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。課題レポート40%、プレゼンテーション20%、ディスカッションへの参加態度20%、その他の課題20%。

課題等に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、個別もしくは全体にコメントをしますので、参考にしてください。また、Moodleによるフィードバックを行うこともあります。

履修のポイント

講義では、各自で課題の文章を読み、発表や検討をおこないながら進めていく予定です。欠席（公欠含む）した場合は、事後に授業内容について確認してください。

オフィス・アワー

火曜日の昼休み。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。また、研究室は9号館3階第11研究室。

科目区分

学部共通科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-C043

講義コード	20320001
講義名	医療保健論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	５時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	行政保健師として勤務した経験を活かし、社会制度と健康、地域特性と健康について授業展開を行う。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 堀越 薫	指定なし
教員	髙橋 美砂子	指定なし

授業の概要と教育目標

地域社会は、保健医療の目的である「健康」に大きな影響力を有する。まず、地域社会のいかなる要因が健康に影響を及ぼすかについて、自分が生活する地域の自然環境、生活環境、政治、風土、特産物等の要因について検討し、それに対する現状の保健福祉施策について学習する。その上で今後の地域社会の住民の健康のために必要な保健医療サービスについて考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学のディプロマ・ポリシーである医療保健分野に関する幅広い知識と確かな技術を修得するための序章として科目であり、日本の国民健康づくり施策および身近な地域の健康づくり計画とその背景について理解する。社会環境の質としてのソーシャルキャピタル、社会とのつながり（ネットワーク）等をキーワードに地域を構成する人々の健康と保健医療福祉サービスの関連について理解・説明することができることを目指す。

到達目標

１．日本の健康つくりについて理解できる ２．地域社会での暮らしと健康の関連が理解できる ３．健康な生活を送りための社会資源とその活用が理解できる ４．地域力と健康の関係が理解できる ５．これからの日本や身近な地域の保健医療問題を考えることができる

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	堀越薫	医療と保健⑴ ・授業ガイダンス・日本の保健医療福祉の現状について	【アクティブ・ラーニングの内容】 日本の歳入出と社会保障費、医療費ことを自分の家計に置きかえて考えたときについてディスカッション ＊毎回書き込み用ワーク	予習:90分 日本の保健医療福祉に関する最近の話題を調べる 復習:90分 ノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからなことろは次回必ず

			ノートを配布し、本日の授業内容を整理する。	質問する。
第2回	堀越薫	医療と保健⑵ ・日本の健康づくり政策の変遷と健康日本21(2次)	【アクティブ・ラーニングの内容】 少子高齢社会の現状について、意見交換する ＊毎回書き込み用ワークノートを配布し、本日の授業内容を整理する。	予習:90分 日本の保健医療福祉に関する最近の話題を調べる 復習:90分 ノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからなことろは次回必ず質問する。
第3回	堀越薫	地域と健康⑴ ・健康寿命と健康格差とは ・日常の生活習慣と生活習慣病について	【アクティブ・ラーニングの内容】 自分たちの生活習慣を見直すためのディスカッション ＊毎回書き込み用ワークノートを配布し、本日の授業内容を整理する	予習：90分 生活習慣病について調べること 復習:90分 ノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからなことろは次回必ず質問する。
第4回	髙橋美砂子	地域と健康⑵ ・群馬県の特徴と健康づくり計画 ・大学周辺の市の特徴と健康づくり計画	【アクティブ・ラーニングの内容】 自分の住んでいる町で行われている保健事業や検診について調べる。 ＊毎回書き込み用ワークノートを配布し、本日の授業内容を整理する	予習：90分 群馬県、みどり市、桐生市の基本統計について調べる 復習:90分 ノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからなことろは次回必ず質問する。
第5回	髙橋美砂子	地域と健康⑶ ・生活習慣病予防の啓発方法について	【アクティブ・ラーニングの内容】 ・健康づくりワークショップ 生活習慣病予防のための啓発教材の作成	予習：：90分 ワークショップに活用する資料や教材を準備し、授業時に持参する。 復習：90分 健康への関心を高める、他の方法について調べる
第6回	堀越薫	保健医療と社会資源⑴ ・地域力としてのソーシャルキャピタルと保健、医療、福祉の関連	【アクティブ・ラーニングの内容】 ＊毎回書き込み用ワークノートを配布し、本日の授業内容を整理する	予習：90分 地域の持つ力についての文献を検索する 復習：90分 ノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからなことろは次回必ず質問する。
第7回	堀越薫	保健医療と社会資源⑵ ・保健医療の専門職について・地域ケアシステムとネットワーク（チーム連携）のあり方	【アクティブ・ラーニングの内容】 連携する専門職ついて調べて発表する。 ＊毎回書き込み用ワークノートを配布し、授業内容を整理する	予習：90分 保健医療の専門職についてどのような職種があるのか資料をみておく 復習：90分 ノートを仕上げ、授業内容を整理する。わからなことろは次回必ず質問する。
第8回	堀越薫	保健医療の今後展望 ・本講座のポイント、振り返りとまとめ ・健康づくりワークショップでの制作教材の発表	【アクティブ・ラーニングの内容】 医療保健論の中で興味関心のあることについて、自分の考えを述べる。 【授業評価】	予習：90分 論述課題の解決に関する文献を見つける 復習：90分 これまでの授業内容を振り返る。自分の興味のあるテーマを選定、記述できるようにする。

教科書

特定の教科書は使用しません。授業時に資料を配布します。それに各自書き込みを入れて、資料が完成します。

参考書

国民衛生の動向、医療福祉総合ガイドブック(医学書院）、社会福祉士シリーズ17保健医療サービス（弘文堂）
その他、必要時紹介します。

成績評価の方法・基準

単位認定は60点以上。記述問題60%、 ワークショップ30%、 ノート10%

課題等に対する
フィードバックの方法

自分で調べて、考える学習を取り入れます。体験型学習（ワークショップ）もしますので、準備をしてきてください。

履修のポイント

私たちが生活している地域のことをよく知り、自然環境や習慣、世間体など様々な社会資源と、健康・医療問題を関連付けて考えられる、そんな問題提起をしていきます。

オフィス・アワー

授業開講曜日および研究室在室（10号館2階）時は対応します。事前に在室確認にメールをしていただくとよいでしょう。takahashi-mi@kiryu-u.ac.jp

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-R120

講義コード	20330001
講義名	チーム連携論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院および施設における看護師としての勤務経験をふまえ、チーム医療の実際と連携について講義を展開する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 片野 吉子	指定なし
教員	柏瀬 淳	指定なし
教 員	川﨑 美智子	指定なし
教 員	尾崎 恵子	指定なし
教 員	大谷内 千恵	指定なし
教 員	佐々木 杏奈	指定なし

授業の概要と教育目標

今日の医療ニーズの多様化に対応したより良質なサービスを提供するためには、医療・保健・福祉などの多様な専門職による役割と機能の有機的な連携や協働が必要不可欠である。本授業では、チーム医療の意義を理解し、チームアプローチの実際についてグループ討議を通して学習する（オムニバス方式全15回）。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学のディプロマ・ポリシーである幅広い知識と確かな技術を修得するために医療・保健・福祉領域の各専門職種の役割、機能、責任についてさらに学習し、より専門性の高い良質なサービス提供を目指すチーム医療実現のための役割と機能について理解し、将来その一端を担う人材となることを目指す。

到達目標

１．チーム医療の背景、あり方、倫理といった基本的な知識を習得し、説明できる。
２．各専門職に対する理解を深めるとともに、チーム構成員の役割、機能、責任を説明できる。
３．情報の伝達やコミュニケーションの重要性について、異なる専攻学生とのグループワークの中で実践できる。
４．効果的で円滑なチーム医療を展開する方法についてグループ発表やレポート報告ができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		チーム連携の基本（1）		

第1回	片野吉子	チーム医療の意義・役割 ・チーム医療とは ・チーム医療に必要な機能 ・チーム医療の役割 ・多職種間との連携・協働について		〔予習90分〕これまでの実習を振り返り、連携した職種について整理する。 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。分からないことは次回必ず質問する。
第2回	片野吉子	チーム連携の基本（２） リーダーシップとマネジメント ・リーダーシップ・メンバーシップとは ・チームの一員としての役割		〔予習90分〕これまでの実習を振り返り、連携した職種について整理する。 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。分からないことは次回必ず質問する。
第3回	片野吉子	チーム連携の基本（３） 多職種間における倫理 ・さまざまな価値観の理解 ・倫理的課題の特徴 ・協働と自立性		予習90分〕医療倫理について調べておく。 〔復習90分〕多職種の働きと自ら目指す職種の違いについてワークブックにまとめる。
第4回	柏瀬淳	地域ケアにおける連携（１） ・地域における多職種連携について ・地域包括ケアシステムについて ・退院支援における多職種連携の役割	【アクティブラーニングの内容】 グループワーク ・ワークブックを活用して、グループ毎に学習を整理する	〔予習90分〕地域包括ケアシステムに関する文献から、療養者が在宅で生活するために必要な支援について調べておく。 〔復習90分〕学習した内容からワークブックを仕上げる。
第5回	柏瀬淳	地域ケアにおける連携（２） ・住み慣れた地域で暮らす療養者の生活を支える職種の役割について ・療養生活を支える社会資源について	【アクティブラーニングの内容】 グループワーク ・グループで話し合った内容をワークブックにまとめ、学習を整理する	予習90分〕地域での療養に関する文献を検索する。 〔復習90分〕学習した内容からワークブックにまとめる。
第6回	柏瀬淳	地域ケアにおける連携（３） ・療養者の生活を支えるための支援内容・方法の検討 ・多職種間の情報共有の検討	【アクティブラーニングの内容】 ・情報共有ワークシートを使用してのアセスメント	〔予習90分〕地域での療養に関する文献を検索する。 〔復習90分〕学習した内容からワークブックにまとめる。
第7回	川﨑美智	チーム医療の実際（１）【外部講師】		〔予習90分〕ＮＳＴについて予習する 〔復習90分〕授業時に配布した資料

	子	施設におけるチーム医療		を再度復習し、内容を理解する。
第8回	佐々木杏奈	チーム医療の実際（２）【外部講師】 施設におけるチーム医療		〔予習90分〕ＲＳＴについて予習する 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。
第9回	大谷内千恵	チーム医療の実際（３）【外部講師】 施設におけるチーム医療		〔予習90分〕糖尿病チームについて予習する 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。
第10回	尾崎恵子	チーム医療の実際（４）【外部講師】 施設におけるチーム医療		〔予習90分〕褥瘡チームについて予習する。 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。
第11回	片野吉子	チーム連携における事例検討(１) ・その人の生活を支えるために必要な職種の連携について検討 ・職種間の共通認識に必要な内容・方法の検討	【アクティブラーニングの内容】 ・事例検討グループワーク	予習90分〕事例の背景から、その人の生活を支えるために必要な職種の働きについて調べておく。 〔復習90分〕授業時に配布した資料を再度復習し、内容を理解する。
第12回	片野吉子 柏瀬淳	チーム連携における事例検討(２) ・ワークシートを用いて、情報の整理とアセスメント ・かかわる職種の役割と連携	【アクティブラーニングの内容】 ・事例検討グループワーク	〔予習90分〕事例の背景について、その人が地域での生活に必要な援助について考える。 〔復習90分〕 発表資料を作成し、提出する。
第13回	片野吉子 柏瀬淳	チーム連携における事例検討(３) ・その人がその人らしい生活を送るためのMapの作成 ・地域包括ケアシステムの姿を参考にMapを作成する ・発表用資料の作成、提出	【アクティブラーニングの内容】 ・事例検討グループワーク	〔予習90分〕・事例の背景からその人が生活する地域はどのような地域なのか、地域の特性を考慮しながらMapに反映させていく。 ・発表資料作成で必要なものを準備する 〔復習90分〕発表資料を作成し、指定日までに提出する。
第14回	片野吉子 柏瀬淳	事例検討のまとめ(発表) ・他のグループの発表を聞き、気づきをワークシートにまとめる	【アクティブラーニングの内容】 ・事例検討グループワーク 発表	〔予習90分〕他のグループの発表について内容を理解した上で質問を考える。 〔復習90分〕他のグループ発表を参考にわかりやすく発表する練習をする。
第15回	片野吉子 柏瀬淳	事例検討のまとめ(発表) ・チームで協働することの気づきをまとめる	【アクティブラーニングの内容】 ･事例検討グループワーク 発表（つづき）	〔予習90分〕他のグループの発表について内容を理解した上で質問を考える。 〔復習90分〕この授業で学修したことからまとめレポートを書くテーマ

		・レポート課題をまとめる		について考える。

教科書
指定の教科書はありません。必要時、資料を配布します。
参考書
授業中に紹介します。
成績評価の方法・基準
単位認定は60点以上とする。 ①グループワークの参加状況・・・・・・・・20% ②発表資料作成、発表への取り組み状況・・・20% ③ワークブックの書き込み・レポート・・・・60%
課題等に対する フィードバックの方法
授業で配布したワークブックは書き込みをし提出した後、まとめレポートと一緒にコメントして返却します。
履修のポイント
対象や地域住民を中心とした良質な保健医療サービスを提供するためには、チームによる協働は必要不可欠である。これまでの実習を振り返り、知識の補強をしましょう。認定看護師によるチームケアの実際を聞く機会を設けました。
オフィス・アワー
授業開講曜日ならびに研究室にいる場合、いつでも対応します。(10号館2階)
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-C160

講義コード	20340001
講義名	早期体験合同実習
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	５時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践栄養活動を行った経歴を有する教員が、管理栄養士の使命や役割を理解しモチベーションを高めることができる授業を行う。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	増野 弥生	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

管理栄養士を目指す学生にとって専門職に対する職業観を育むことは、将来像を描くことができ、大学での基礎的な学習に対するモチベーションの向上にもつながる。
本授業では、大学入学後の早期に、医療・福祉・地域保健・学校教育および食品関連企業の現場に触れる体験を行う。それにより、社会における管理栄養士の使命や役割及び活動分野を理解し、管理栄養士を目指すことへの動機付けを目的とした体験型実習を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った栄養教育の方法として、臨床栄養、公衆栄養および給食経営管理分野等に関する必要な知識や技術を修得することを最終目標とする。そのために管理栄養士の現場業務を体験学習をすることで大学での学習と自己の将来像を結びつけ、管理栄養士を目指す気持ちを養う。

到達目標

1.管理栄養士という専門職に対する職業観を身に付ける。
2.管理栄養士の使命や役割、関連職種との関わりについて理解する。
3.早期体験実習に必要な基本的事項について習得する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	宮			

第1回	原公子神戸美恵子島田美樹子橘陽子齋藤陽子	○ガイダンス：早期体験実習へのアプローチ ・授業の概要の説明 ・体験実習の学習内容（観察・見学・参加） ○早期体験実習の意義や目的 ・実習施設 ・今後のスケジュール	○早期体験合同実習に対しての期待や学習したい内容をグループ内で発表し合う。	予習60分：管理栄養士の活躍する職域について調べる。 復習60分：授業での学びを整理し、理解を深める。
第2回	宮原公子神戸美恵子島田美樹子橘陽子齋藤陽子	○体験実習における基本事項 ・体験実習におけるマナー ・実習ノートの書き方 ○体験実習施設ごとの管理栄養士の役割 ○看護学科との合同発表会：事前学習の成果報告会	○事前学習を行った成果として「管理栄養士の役割」に対して、プレゼンテーションを行う。 ○看護学科の成果発表に対して、積極的に質疑応答に参加し、デスカッションする。	予習60分：体験実習施設の概要について調べる。 復習60分：看護学科の発表の踏まえ、授業での学びを整理し理解を深める
第3回	宮原公子神戸美恵子島田美樹子橘	○企業（食品メーカー）で勤務する管理栄養士の体験実習 ・観察学習 ・見学学習 ・参加学習	○事前学習の内容を実習施設において、積極的に質問をするなどし、双方向の参加型学習を行う。	予習60分：企業で勤務する管理栄養士の役割について調べる。 復習60分：体験学習内容を整理し、理解を深める。

	陽子齋藤陽子			
第4回	宮原公子神戸美恵子島田美樹子橘陽子齋藤陽子	○企業での体験実習のまとめ（グループディスカッション） ○職域ごとの体験実習の事前学習（グループディスカッション） ・医療施設：医療施設における管理栄養士の役割 ・学校教育施設：学校教育における管理栄養士の役割 ・地域保健施設：地域保健における管理栄養士の役割 ・社会福祉施設：老人福祉施設における管理栄養士の役割 ・児童福祉施設：児童福祉施設における管理栄養士の役割	○グループ内でディスカッションを行い、事前学習の内容を深める。	予習60分：体験実習での学びに関するまとめを仕上げる 復習60分：演習内容を整理し、理解を深める。
第5回	宮原公子神戸美恵子島田美樹子橘陽子齋藤陽子	○各職域（医療、学校教育、地域保健、社会福祉施設、児童福祉 施設で勤務する管理栄養士の実習 ・医療施設：病院の概要、臨床における管理栄養士の役割、 多職種連携 ・学校教育施設：給食センターの概要、管理栄養士の役割、 学校の食育と給食管理の実際 ・地域保健施設：市町村保健センターの概要、管理栄養士の 役割、乳幼児健診における離乳食指導の実際 ・社会福祉施設：老人福祉施設の概要、管理栄養士の役割、 食事提供や介護食の実際 ・児童福祉施設：児童福祉施設の概要、管理栄養士の役割、 食事提供や食育の実際	○事前学習の内容を実習施設において、積極的に質問をするなどし、双方向の参加型学習を行う。	予習60分：実習施設で勤務する管理栄養士の役割について調べる 復習60分：体験実習内容を整理し、理解を深める。
	宮原公			

第6回	子神戸美恵子島田美樹子橘陽子齋藤陽子	○各職域ごとの体験実習 （観察・見学・参加）の学習のまとめ （グループディスカッション） ○実習ノートの整理・確認	○体験学習の成果をグループ内でディスカッションし、合同実習発表会に備える。	予習60分：体験実習での学びに関するまとめを仕上げる。 復習60分：実習ノートを仕上げる。
第7回	宮原公子神戸美恵子島田美樹子橘陽子齋藤陽子	○学内報告会準備 ・発表スライドや発表資料の作成 ・発表原稿・内容の共有 ○発表練習・確認	○プレゼンテーション計画書に基づき、発表練習を行い、効果的な方法を検討する。	予習60分：パワーポイントを使用した発表スライドの操作に慣れておく。 復習60分：報告会発表資料を仕上げる。 予想される質問を想定し準備をする。
第8回	宮原公子神戸美恵子島田美樹子橘陽子	○体験実習報告会 ・発表 ・質疑応答 ○実習ノートのまとめ	○プレゼンテーションに対して、積極的に質疑応答を行い、実習の成果をまとめる。	予習60分：発表練習をする 復習60分：他者からの評価及び他者の発表内容を整理し、本授業での学びを深める。

	齋藤陽子			

教科書

○早期体験合同実習 実習ノート
○授業内で提示する学習ワークプリント

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上とし、筆記試験はしない。
授業への参加度50%、レポート・課題50%

課題等に対する
フィードバックの方法

学習の学びを発表する報告会、看護学科との合同実習発表会においてコメントする。

履修のポイント

実習前の事前の準備も含めて、授業には連続性がある。
また、学外においての体験実習のため遅刻・欠席は厳禁である。

オフィス・アワー

宮原 火曜日～金曜日 昼休み 研究室19（宮原研究室）
神戸 月曜日～金曜日 昼休み 研究室15（神戸研究室）
島田 火曜日～木曜日 昼休み 研究室12
橘 月曜日 昼休み 栄養教育準備室
齋藤 月曜日～金曜日 昼休み 研究室6

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-R110

講義コード	20350001
講義名	管理栄養士活動論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践栄養活動を行った経歴を有する教員が、管理栄養士の使命や役割を理解しモチベーションを高めることができる授業を行う。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齋藤 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし
教員	吉村 英悟	指定なし
教員	野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食が起因する健康課題が指摘される現代、管理栄養士は、栄養教育の能力、マネジメント能力、コミュニケーション能力などの総合力を習得し、高度な専門知識や技術を生かしてその役割を果たすことが期待されている。本講義では、管理栄養士の導入教育として、社会が求める管理栄養士の使命や役割について学び、複雑で多岐にわたる職務内容に加え、人を対象とする職業であること対しての理解を深めるとともに基本的な知識と技術を涵養する。そのことにより、自己が目指す管理栄養士像を描き、目標を持って学習を進めることができること教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

社会が求める管理栄養士の使命や役割について学び、管理栄養士の職務内容について理解を深めることを目指し、基本的な知識と技術を養う。そして、社会・環境・コミュニケーションなど諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、実践的な職業人として活躍する管理栄養士像を明確にする。

到達目標

1.現代社会が求めている管理栄養士の使命、役割を理解できる。
2.管理栄養士に必要な基礎的な知識、技術、態度および考え方の総合的能力を身に付けることができる。
3.管理栄養士のスキルである栄養教育の能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を理解できる。
4.自己が目指す管理栄養士像を描くことができ、その目標に向かい学習を深めることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	宮			

第1回	原公子齋藤陽子吉村英悟野沢弘子	○オリエンテーション ・自己分析 ・基本的なマナー ○21世紀を担う高度な管理栄養士の使命、役割の理解 ・栄養教育の能力 ・マネジメント能力 ・コミュニケーション能力	自己が目指す管理栄養士像を発表し、ディスカッションする。	予習：90分 管理栄養士の活躍の場や仕事内容を確認する。 復習：90分 授業で理解したことをレポートにまとめる。
第2回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○21世紀を担う高度な管理栄養士のスキル：栄養教育能力 ・医療施設（病院・クリニック） ・地域保健（保健所・保健センター） ・給食経営管理施設（学校・福祉施設・事業所等） ○栄養教育の能力についての学習の共有	講義を受けて、管理栄養士になぜ栄養教育能力が必要なのか、グループ内で話し合い理解を深める。	予習：90分 栄養教育能力について調べる。 復習：90分 授業で理解したことをレポートにまとめる。
第3回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○21世紀を担う高度な管理栄養士のスキル：マネジメントの能力 ・医療施設（病院・クリニック） ・地域保健（保健所・保健センター） ・給食経営管理施設（学校・福祉施設・事業所等） ○マネジメント能力についての学習の共有	講義を受けて、管理栄養士になぜマネジメント能力が必要なのか、グループ内で話し合い理解を深める。	予習：90分 マネジメント能力について調べる。 復習：90分 授業で理解したことをレポートにまとめる。
第4回	齋藤陽子宮原公子	○21世紀を担う高度な管理栄養士のスキル：コミュニケーション能力 ・医療施設（病院・クリニック） ・地域保健（保健所・保健セン	講義を受けて、管理栄養士になぜコミュニケーション能力が必	予習：90分 コミュニケーション能力について調べる。

	吉村英悟野沢弘子	ター） ・給食経営管理施設（学校・福祉施設・事業所等） ○コミュニケーション能力についての学習の共有	要なのか、グループ内で話し合い理解を深める。	復習：90分 授業で理解したことをレポートにまとめる。
第5回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○管理栄養士に必要な知識と技術（１） 職域別で活躍する管理栄養士 ・医療分野（病院）で働く管理栄養士	予習した内容や講義を受けて、理解したことをグループディスカッションする。	予習：90分 医療分野（病院）で働く管理栄養士の役割を調べる。 復習：90分 聴講した内容やディカッションで習得できた知識をまとめる。
第6回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟齋藤陽子	○管理栄養士に必要な知識と技術（２） 職域別で活躍する管理栄養士 ・児童福祉分野（保育所）で働く管理栄養士	予習した内容や講義を受けて、理解したことをグループディスカッションする。	予習：90分 児童福祉分野（保育所）で働く管理栄養士の役割を調べる。 復習：90分 聴講した内容やディカッションで習得できた知識をまとめる。
第7回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○管理栄養士に必要な知識と技術（３） 職域別で活躍する管理栄養士 ・学校教育分野（学校給食）で働く管理栄養士	予習した内容や講義を受けて、理解したことをグループディスカッションする。	予習：90分 学校教育分野で働く管理栄養士の役割を調べる。 復習：90分 聴講した内容やディカッションで習得できた知識をまとめる。

第8回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○管理栄養士に必要な知識と技術（４） 職域別で活躍する管理栄養士 ・地域保健分野（保健所・保健センター）で働く管理栄養士	予習した内容や講義を受けて、理解したことをグループディスカッションする。	予習：90分 地域保健分野（保健所・保健センター）で働く管理栄養士の役割を調べる。 復習：90分 聴講した内容やディスカッションで習得できた知識をまとめる。
第9回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○管理栄養士に必要な知識と技術（５） 職域別で活躍する管理栄養士 ・社会福祉分野（高齢者福祉施設）で働く管理栄養士	予習した内容や講義を受けて、理解したことをグループディスカッションする。	予習：90分 社会福祉分野（高齢者施設）で働く管理栄養士の役割を調べる。 復習：90分 聴講した内容やディスカッションで習得できた知識をまとめる。
第10回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○管理栄養士に必要な知識と実践力（６） 職域別で活躍する管理栄養士 ・食品関連企業で働く管理栄養士	予習した内容や講義を受けて、理解したことをグループディスカッションする。	予習：90分 食品関連企業で働く管理栄養士の仕事内容を調べる。 復習：90分 聴講した内容やディスカッションで習得できた知識をまとめる。
第11回	齋藤陽子宮原公子	○管理栄養士に必要な知識と技術の実際（１） ・栄養アセスメン	アセスメント結果を踏まえ、グループ内で健康課題を抽出す	予習：90分 栄養アセスメントちは、何かを調べる。 復習：90分 食育SATの活

	吉村英悟野沢弘子	ト：食事診断（食育SAT）、身体計測	る。	用と管理栄養士としてのスキルなどの学習内容をまとめる。
第12回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○管理栄養士に必要な知識と技術の実際（２） ・栄養教育教材作成	グループに分かれ、栄養アセスメントを踏まえた効果的な教材作成を行い、グループ毎に発表する	予習：90分 栄養教育教材にはどのようなものがあるか調べる。 復習：90分 作成した栄養教育教材をレポートし、学習内容をまとめる。
第13回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○自己が目指す管理栄養士像（１） ・プレゼンテーション計画書作成の基本と必要性 ・プレゼンテーション計画書・原稿の作成	プレゼンテーション計画書と原稿の作成に取り組み、作成能力を相互に高め合う。	予習：90分 自己が目指す管理栄養士像をまとめておく。 復習：90分 プレゼンテーション計画書、原稿を仕上げる。
第14回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○自己が指す管理栄養士像（２） ・プレゼンテーション（前半） テーマ「目指す管理栄養士像」	「目指す管理栄養士像」をテーマにプレゼンテーションを行い、ディスカッションをすることで相互評価をする。	予習：90分 発表の準備・練習をする。 復習：90分 プレゼンテーションの成果をまとめ、今後の学習につなげる。

第15回	齋藤陽子宮原公子吉村英悟野沢弘子	○自己が目指す管理栄養士像（3） ・プレゼンテーション（後半） テーマ「目指す管理栄養士像」	「目指す管理栄養士像」をテーマにプレゼンテーションを行い、ディスカッションをすることで相互評価をする。	予習：90分 発表の準備・練習をする。 復習：90分 プレゼンテーションの成果をまとめ、今後の学習につなげる。

教科書

授業内で配布する学習ノート

参考書

日本食品標準成分表2015年版（七訂）（文部科学省 科学技術・審議会）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
成績評価：課題50%、発表40%、授業への参加度10%

課題等に対する
フィードバックの方法

課せられた課題に真摯に取り組み、提出期日は厳守のこと。授業内で配布する資料を随時まとめ、理解を深めること。課題等については、コメントをつけて返却するので、それを参考に学習を深める。

履修のポイント

管理栄養士の使命や活躍の場を学び、未来の管理栄養士像を描き大学での学びへと発展させる導入教育となるため、積極的に学習に取り組んで欲しい。また、私語、講義と関係ない作業をすること、無断退席など厳に慎むこと。

オフィス・アワー

宮原：火曜日～金曜日 12:30～13:15 11号館 3階 研究室19
齋藤：月曜日～金曜日 12:30～13:15 11号館 3階 研究室6
野沢：月曜日～金曜日 12:30～13:15 11号館 2階 調理準備室
吉村：月曜日～金曜日 12:30～13:15 11号館 3階 研究室6

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R111

講義コード	20360001
講義名	生物有機化学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養学を学ぶ上で有機化学の基礎を理解する必要がある。物質の成り立ち、書き方、物質の構造からみた性質の特徴などを理解する。
有機化学の知識を深め、栄養学・生化学の理解につなげることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、栄養学科専門基礎科目栄養学科基礎科目必須科目である。生体内や食品に含まれる化学物質の多くは、有機化合物である。生化学、食品学、基礎栄養学をはじめとする専門基礎科目を理解するための基礎的な知識を身に着けることを目標とする。

到達目標

化学の苦手意識を少なくし、自ら、読んで、書いて、解いて、学習し、知識を定着させる。

１）化学構造式から物質の名称、物質の性質、物質の構造及び特徴がわかる。
２）化学反応のルールが理解できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	小林葉子	化学っておもしろい？？？	高校有機化学の問題に取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第2回	小林葉子	第１章 元素・原子・分子 周期表の覚え方 有機化学に出てくる元素	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題

				を解く
第3回	小林葉子	第１章 原子価	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第4回	小林葉子	第１章 原子量・分子量・式量の求め方	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第5回	小林葉子	第１章 化合物・構造式の書き方 構造異性体	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第6回	小林葉子	第一章 分子の特性がわかるような構造式の書き方 官能基 第3章 有機化学を理解するために必要な13種	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第7回	小林葉子	第２章 飽和炭化水素 アルカンの性質 アルカンの命名	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第8回	小林葉子	第２章 飽和炭化水素 アルカンの命名 アルカンの構造異性体	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第9回	小林葉子	第４章 飽和炭化水素の誘導体 アルコールの性質 アルコールの命名	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第10回	小林葉子	第４章 飽和炭化水素の誘導体 アルコールの命名 アルコールの構造異性体 エーテル	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第11回	小林葉子	第４章 飽和炭化水素の誘導体 アミンの性質 アミンの分類 アミンの命名	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第12回	小林葉子	第５章 不飽和有機化合物 アルデヒド・カルボン酸の性質 アルデヒド・カルボン酸の命名・慣用名	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く

第13回	小林葉子	第６章 芳香族炭化水素とその化合物 芳香族化合物の構造とその性質 芳香族化合物の異性体 芳香族化合物の命名	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第14回	小林葉子	第７章 生体物質とのつながり 生化学・栄養学で学ぶ有機化合物	前回授業範囲の小テストに取り組み、解答を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く
第15回	小林葉子	全学習範囲のまとめ 学習範全範囲の総合的な問題に取り組み、解答を導き出す。	終了後、各自、受講者相互間で問題の正しい解の求め方を導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：学習範囲の教科書の問題を解く

教科書

有機化学 基礎の基礎 立屋敷哲 丸善
演習 有機化学 基礎の基礎 立屋敷哲 丸善
サイエンスビュー 化学資料 実教出版

成績評価の方法・基準

授業内の総合的な問題及び小テストで60点以上（時間内の課題問題80% 小試験20%）

課題等に対するフィードバックの方法

授業内で受講者全員に小テストの簡単な解説を行う。また、その後に質問時間を設け、質問がある場合には、その解説を行う。

履修のポイント

「演習 有機化学 基礎の基礎」の問題を解き、化学に慣れる。必要な事項は、覚える。苦手苦手、と逃げないで、とにかく、自分で取り組んでみる。
理解度に合わせ、授業の進行速度を変更する。進行の変更については授業内で説明する。授業には休まないで出席すること。
予習・復習で自分の理解度を確認し、理解不足の場合は、受講者間での学びあいをすることも大切である。

オフィス・アワー

月～金 お昼休み（3限が授業のときは不可） 11号館3階16研究室

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R112

講義コード	20370001
講義名	医療保健統計学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

保健統計学の考え方、用いる方法について講義する。医学･栄養学の領域における定量化や仮説検証の歴史を理解し，統計学がどのように利用されているかを学ぶ。また，それらを比較するための指標を紹介する。医学研究の企画・計画，データ収集・マネジメント，データ要約，データ解析といった各段階で用いられる統計学的手法を学び，さらに現在行われている各種統計調査の実情を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマポリシーの関連として①での人間の社会・環境の理解と②で人間の健康を規定する要因の社会や環境を理解することそして③での公衆栄養につながる知識の習得、④では疫学データから読み解き社会のニーズや変化を理解することができるようになる。つまり統計資料、統計を利用した研究結果を正しく理解、解釈できる。

到達目標

保健統計を見て正しく解釈できる。現実に行われている保健統計の種類をあげ、その仕組みを説明できる。記述統計の方法が使える。推測統計の方法が使える。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	吉村英悟	医学・栄養学領域におけるデータ解析と統計学	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 統計学を調べる 復習：45分 統計学の概要の復習を行う
第2回	吉村英悟	人口統計① ・人口静態統計 ・人口動態統計	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 人口統計を調べる 復習：45分 人口統計の復習を行う
	吉			予習：45分 人口統

第3回	村英悟	人口統計② ・生命表 ・健康指標	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	計を調べる 復習：45分 人口統計の復習を行う
第4回	吉村英悟	保健統計調査 ・基幹統計 ・その他統計調査	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 保健統計調査を調べる 復習：45分 保健統計調査の復習を行う
第5回	吉村英悟	統計分類 ・疾病･傷害の定義と分類 疫学 ・歴史 ・定義	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 統計分類と疫学を調べる 復習：45分 統計分類と疫学の復習を行う
第6回	吉村英悟	保健指標 ・有病率 ・相対危険 ・寄与危険 ・オッズ比など	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 主な保健指標を調べる 復習：45分 保健指標の復習を行う、課題の作成
第7回	吉村英悟	疫学研究 ・疫学研究のデザイン 生態学的研究 横断研究 症例対照研究 コホート研究	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 疫学研究のについてを調べる 復習：45分 疫学研究の復習を行う。
第8回	吉村英悟	疫学研究 ・疫学研究のデザイン 介入研究 系統的レビュー ・誤差、バイアス、交絡他	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 疫学研究、誤差等についてを調べる 復習：45分 疫学研究、誤差等の復習を行う。
第9回	吉村英悟	スクーリング ・有効性の指標 ・ROC曲線	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 スクーリングについてを調べる 復習：45分 スクーリングの復習を行う。
第10回	吉村英悟	保健統計と疫学のまとめ	左記まとめのテストの内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 1回から9回までについてを調べる 復習：45分 テストおよび今までの授業の復習を行う。
第11回	吉村英悟	統計学の基礎 ・データの表現 ・代表値 推計統計の基礎	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 統計学について調べる 復習：45分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第12回	吉村英悟	統計学の基礎 ・分布 推計統計の基礎１ ・確率	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 分布、推計統計について調べる 復習：45分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）

第13回	吉村英悟	推計統計の基礎２ ・点推定 ・区間推定 ・信頼区間	左記の内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 推計統計について調べる 復習：45分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第14回	吉村英悟	推計統計の基礎３ ・仮説検定 ・ｔ検定 ・F検定 ケーススタディ(食事調査、計測データ)によるデータ分析と解析①	データの解析および分析についてアクティブラーニングにてグループ毎にまとめる	予習：45分 推計統計について調べる 復習：45分 （授業の記録をノートと資料で再確認する）
第15回	吉村英悟	ケーススタディ(食事調査、計測データ)によるデータ分析と解析② 授業のまとめ	14回目のデータ解析および分析についてグループで発表 まとめのテストの内容について学生と質疑応答を行う。	予習：45分 前回の資料をまとめ発表のまとめる 復習：45分 （今までの授業およびテストをまとめる）

教科書

疫学・保健統計―看護師・保健師・管理栄養士を目指す―：建帛社

参考書

国民健康・栄養要調査成績,
国民衛生の動向
分かる統計学 健康・栄養を学ぶため松村安弘著他 化学同人
他各種統計資料
電卓
エクセル栄養君建帛社。
エクセル栄養君FFQｇ 建帛社

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 定期試験を実施します。

課題等に対する
フィードバックの方法

小テスト等の課題は採点後返却の後、解説をおこなう。
また発表についても評価を行う

履修のポイント

授業に連続性があります。また，修得度に合わせた内容の変更もあるので欠席はしないこと。
教科書を予め読むこと。

オフィス・アワー

曜 日：月曜日～金曜日
時 間：12：30～13：15
場 所：11号館3階 研究室6

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R140

講義コード	20380001
講義名	食文化論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 関谷 果林	指定なし

授業の概要と教育目標

伝承的な食文化における基礎を網羅し、その変遷・効用等について学修するすることで、日本の食文化を構成する食事の素材・調理・食事方法についての知識を獲得する。
また、国外における食事情や食文化の類型について日本料理や郷土料理と比較し、人類における食性と食文化のあゆみを理解する。
その上で日常生活における食の重要性について理解を深め、管理栄養士として必要な健康と栄養に結びつく食文化の知識を身に付けることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な食べ物と健康に結びつく知識の修得を目指して、日本の食を取り巻く環境や、食の文化的視点に関する知識を養う。将来的な展望としては、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識の獲得をを目指すものとする。

到達目標

1.食文化を理解することができる。
2.食の歴史、行事伝統を学ぶことで食文化の関心を深めることができる。
3.食文化の形成・発展に自然環境（気候・地形など）や社会環境（生活様式・風習・宗教 など）が影響していることを説明できる。
4.２１世紀の食糧問題について考え、食教育へつなげることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
	関谷	【オリエンテーション】 シラバスについて、授業の進め方 【食文化とは何か】	予習90分：「和食」について調べる。

第1回	果林	・文化と文明（世界と日本の食文化） ・食文化の形成要因 ・これからの食文化	復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第2回	関谷果林	【日本の食材】 ・米、小麦、雑穀の起源、伝播、近代の料理	予習90分：「米、小麦、雑穀」の歴史を調べる。 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第3回	関谷果林	【日本の食材】 ・豆、肉の歴史、伝播、近代の料理	予習90分：「豆、肉」の歴史を調べる。 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第4回	関谷果林	【日本の食材】 ・魚介、乳、卵の歴史、伝播、近代の料理	予習90分：「魚介、乳、卵」の歴史を調べる。 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第5回	関谷果林	【日本の食材】 ・野菜、果物、茸、海藻、木の実の歴史、伝播、近代の料理	予習90分：「野菜、果物、茸、海藻、木の実」の歴史を調べる。 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第6回	関谷果林	【日本の食材】 ・酒、茶、その他飲料の歴史 ・菓子の歴史と洋菓子の伝来 ・現代と古代の調味料 ・薬味、香辛料の伝来と種類 【課題説明】 ・課題に関するテーマ選択、まとめ方、提出方法等の説明	予習90分：「飲料、菓子、香辛料」の歴史を調べる。 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第7回	関谷果林	日常で食される身近な食材をテーマに、その食材の歴史、伝播、分類（種類）などを調査し、レポートにまとめる 課題：レポート	予習90分：第1～6回のノートを見直し、身近な食材を選択する。 復習90分：レポートの内容について見直す。
第8回	関谷果林	【日本料理の変遷】 ・料理の成立（原始・古代～近代・現代） ・日本料理、料理技術の変遷（原始・古代～近代・現代）	予習90分：日本料理、料理技術の変遷について調べる。 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第9回	関谷果林	【日本料理の変遷】 ・料理様式、食事様式の変遷（原始・古代～近代・現代） ・飲食店の変遷（古代～近代・現代） ・食具、食器の変遷（古代～近代・現代）	予習90分：日本料理の様式、飲食店の変遷について調べる 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第10回	関谷果林	【行事食と郷土食】 ・年中行事と食べ物 ・人の一生の儀礼と食べ物	予習90分：日本の年中行事と儀礼の種類について調べる。 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第11回	関谷果林	【行事食と郷土食】 ・各地の伝統食、郷土食	予習90分：出身地や群馬県の郷土食について調べる。 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第12回	関谷果	【食事の作法】 ・食事作法のはじまり	予習90分：食事作法、マナーについて調べる 復習90分：ノート、小テストを

	林	・食事のマナー	みなおす。
第13回	関谷果林	【世界の食文化】 ・世界の食の事情 ・食文化の類型 ・近世の食文化の精華 ・人類の食性と食文化 【課題説明】 ・課題に関するテーマ選択、まとめ方、提出方法等の説明	予習90分：世界の食文化について調べる。 復習90分：ノート、小テストをみなおす。
第14回	関谷果林	国、または地方の食文化をテーマに、料理様式、技術の変遷、代表的な献立例などを調査し、レポートにまとめる 課題：レポート	予習90分：第8～13回のノートを見直し、食文化をテーマに興味のある国、または地域を選択する。 復習90分：レポートの内容について見直す。
第15回	関谷果林	・第7回および第14回でまとめた、日常で食される身近な食材、国、または地方の食文化をテーマにしたレポートについて発表をおこなう ・食文化についてのまとめをおこなう	予習90分：第7回および大14回のレポートを見直し、発表練習をおこなう。 復習90分：食文化についてレポートにまとめる。

教科書

使用しない（オリジナルプリントの配布）

参考書

「食文化論」 吉川誠次 編著（建帛社）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
小テスト30%、レポート20%、発表20%、授業参加度30%（質疑応答など）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の中で小テストに関する答え合わせえを行うので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

旅行等に出かけた際に、その国の料理や郷土料理に目を向ける。
日頃から食に対する興味・関心を持ち、食文化についてのテーマに関わる新聞の記事や本などを読む。

オフィス・アワー

TeamsまたはMoodleでのメールやチャットで対応
登学時は11号館 給食経営管理準備室
＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-C150

講義コード	20390001
講義名	栄養生命科学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

この数十年で生命科学は飛躍的に発展し、生命の持つ高度で複雑なシステムの一部が理解されるようになった。生物は、食事から栄養素を取り込み、生存のためのエネルギーを獲得する。そのエネルギーを使い、生命活動を営んでいる。
食事からとった栄養素の代謝、情報の伝達、遺伝子発現調節、それぞれの相互調節、そして、食事に関する味や匂い、生体リズムとの関連を分子レベルで学習する。
栄養素による生体現象の調節を学び、栄養と生命のかかわりを理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目群として配置された栄養学科専門基礎科目栄養学科基礎科目に配当される必須科目である。
栄養士・管理栄養士として、生化学の理解を深め、生命活動と食との関連の理解を深める。さらに、専門基礎科目である生化学と専門科目である基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学との結びつきを定着させることを目標とする。

到達目標

ニュースで流れる生命科学の内容を理解し、現代の医療へのかかわりを理解する。1，2年次で学習した生化学を再確認し、生化学の理解を深めるとと共に、分子レベルで栄養学を理解する。
授業内の小テストを利用し、理解できていないところ、自分の弱点を見出し、自ら再度、学習することににより、栄養素による生理機能、そして、生命活動に関する生体内の化学反応を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		分子栄養学について 1. 生物の多様性と	生化学で学んだ学習範囲の小テストを授業	予習90分：学習範囲の教科書を読む

第1回	小林葉子	進化 2. 細胞の構造と細胞内小器官の役割の関連 3. 細胞間の情報伝達	開始時に行う。授業後、再度、学習範囲の小試験を行い、知識の定着を確認する。小テストの解答は、自らで答えを導き出す。試験前後の結果から、正しい知識を定着させる。	復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第2回	小林葉子	細胞内情報伝達 アドレナリン、グルカゴン、インスリン、レチノイン酸をはじめとするリガンドの細胞内情報伝達	生化学で学んだ学習範囲の小テストを授業開始時に行う。授業後、再度、学習範囲の小試験を行い、知識の定着を確認する。小テストの解答は、自らで答えを導き出す。試験前後の結果から、正しい知識を定着させる。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第3回	小林葉子	遺伝子発現調節 1. 転写調節 2. ゲノム情報 3. エビゲノム	生化学で学んだ学習範囲の小テストを授業開始時に行う。授業後、再度、学習範囲の小試験を行い、知識の定着を確認する。小テストの解答は、自らで答えを導き出す。試験前後の結果から、正しい知識を定着させる。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第4回	小林葉子	糖質の代謝と機能発現 糖の代謝 糖質による遺伝子発現	生化学で学んだ学習範囲の小テストを授業開始時に行う。授業後、再度、学習範囲の小試験を行い、知識の定着を確認する。小テストの解答は、自らで答えを導き出す。試験前後の結果から、正しい知識を定着させる。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第5回	小林葉子	脂質の代謝と機能発現 脂質の代謝 脂質による遺伝子発現	生化学で学んだ学習範囲の小テストを授業開始時に行う。授業後、再度、学習範囲の小試験を行い、知識の定着を確認する。小テストの解答は、自らで答えを導き出す。試験前後の結果から、正しい知識を定着させる。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第6回	小林葉子	アミノ酸の代謝と機能発現 アミノ酸の代謝 アミノ酸による遺伝子発現	生化学で学んだ学習範囲の小テストを授業開始時に行う。授業後、再度、学習範囲の小試験を行い、知識の定着を確認する。小テストの解答は、自らで答えを導き出す。試験前後の結果から、正しい知識を定着させる。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
	小	ビタミン・ミネラ	生化学で学んだ学習範囲の小テストを授業開始時に行う。授業後、再度、学習範囲の	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：ク

第7回	林葉子	ルの作用と遺伝子発現調節	小試験を行い、知識の定着を確認する。小テストの解答は、自らで答えを導き出す。試験前後の結果から、正しい知識を定着させる。	エスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。
第8回	小林葉子	感覚の分子栄養学、時間栄養学 味覚・嗅覚の分子栄養学 時間遺伝子の働き	生化学で学んだ学習範囲の小テストを授業開始時に行う。授業後、再度、学習範囲の小試験を行い、知識の定着を確認する。小テストの解答は、自らで答えを導き出す。試験前後の結果から、正しい知識を定着させる。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：クエスチョンバンクを使用して、学習範囲の知識を定着させる。

教科書

クエスチョンバンク2021 メディックメディア社
栄養科学シリーズ 分子栄養学 宮本賢一/井上裕康他 講談社
シンプル生化学 第6版 林典夫/廣野治子著 南江堂

参考書

サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修),長野 敬 実教出版

成績評価の方法・基準

補講日に行う総合試験及び授業後の授業内小テストで60点以上 （総合試験80% 小試験20%）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業開始時に、学習範囲の基本となる生化学I・IIの範囲の小試験を行う。小試験の内容に触れた授業を展開する。授業の後半に再度試験を行い、理解の定着を確認する。

履修のポイント

生化学I・IIの内容が理解できていることを前提に、分子生物学的な視点で栄養学を発展させた分子栄養学を学習する。

オフィス・アワー

月～金のお昼休み（3限に授業のある日は不可） 11号館16研究室

科目区分

専門基礎科目 栄養学科基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R161

講義コード	20400001
講義名	臨床医学概論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	大学病院で内科医として40年間診療に携わった経験を活かして、臨床医学について講義を行う。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山﨑 純一	指定なし

授業の概要と教育目標

我が国では高齢化に伴って生活習慣病がクローズアップされている。一方、疾病の発症には、遺伝要因と環境因子が関与しているが、生活習慣病の治療には環境因子の是正が重要である。管理栄養士は食事療法を介して患者の治療にも携わることから、疾病の病態や診断・治療に関する知識が不可欠である。講義では臨床検査や人体の解剖・生理も含め、代表的な疾病について理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーである「多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得していること。」を達成するための幅広い知識・技能とともに豊かな人間性が養われていること。

到達目標

１．人体の解剖・生理機能を理解し、自ら解説することができる。
２．代表的な疾病の原因・症状・診断・治療などを理解し、栄養学に展開できるよう知識・技能を習得し、それらについて説明できる。
３．診断のための臨床検査について理解し、診断に至る過程について知識を習得し、説明することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		＜オリエンテーション 診断のための検査(1)：講義の進め方、健康と病気、老化と加齢＞ 15回の講義についてのオリエンテーションを行う。同時に我が国の医療の現状について解説し、管理栄養士を目指す学生に対して、これか		（予習90分）講義の概要を教科書で確認

第1回	山﨑純一	らの栄養学の在り方について問う。 健康と病気の間に未病という状態がある。糖代謝の場合、健康状態では血糖値は正常であるが、未病ではインスリン抵抗性が出現、病気では糖尿病の診断基準を満たすことになる。病気を理解するために症状や検査から診断に至る過程を解説し、基本的な知識の習得に努める。 グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）について説明し、グループ分けを行い、具体的な学習テーマを与える。		する。 （復習90分） 配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第2回	山﨑純一	＜診断のための検査(2)：一般的診察（医療面接・身体所見）＞ 医療面接の目的は、患者と医療者の間で良好な信頼関係を構築することである。また、医師などが患者の身体所見を視診、聴診、打診、触診を介して調べるが、これら一般的診察の重要性を理解する。		（予習90分） 講義の概要を教科書で確認する。 （復習90分） 配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第3回	山﨑純一	＜診断のための検査(3)：検査の種類と採取法・臨床検査における基準値の設定の考え方（一般検査・血液検査・生化学検査・免疫学検査）＞ 一般・血液・生化学検査により、臓器などが障害されると特有の物質が尿中・血液中に出現することから、病状などを判定することができる。その基準値は、年齢で異なるが、健康人の95%が入る範囲ある。検査の目的と検査値の意味を理解する。		（予習90分） 講義の概要を教科書で確認する。 （復習90分） 配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第4回	山﨑純一	＜診断のための検査(4)：生理機能検査＞ 生理機能検査には、各種心電図、脳波、筋電図などの電気的情報を調べる検査や、肺機能検査（呼吸機能検査）、超音波検査、心音図、基礎代謝、サーモグラフィなどの検査がある。これらの検査の意義と検査結果について理解する。		（予習90分） 講義の概要を教科書で確認する。 （復習90分） 配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
				（予

				習90分）講義の概要を教科書で確認する。（復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第5回	山﨑純一	＜診断のための検査(5)：画像検査＞ 画像診断とはX線単純撮影、CT検査、超音波、核磁気共鳴、核医学検査、血管造影検査などを用いて、主として疾患による形態上の変化を画像化し、診断することである。これらの検査の意義と検査結果について理解する。		
第6回	山﨑純一	＜栄養・代謝系疾患(1)：糖尿病・肥満＞ 糖尿病と肥満の発症には過食と遺伝的要因が関与する。生活習慣病の代表的疾患である糖尿病と肥満の合併症には重篤な血管病変があり、発症機序や合併症、治療など基本的な知識の習得に努める。	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：糖尿病とは？ 糖尿病の3大合併症とは？ 肥満とは？	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。（復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第7回	山﨑純一	＜栄養・代謝系疾患(2)：脂質異常症・高尿酸血症・骨粗鬆症＞ 生活習慣病である脂質異常症、高尿酸血症は動脈硬化症の原因として重要な疾患である。また、骨粗鬆症は特に閉経後の女性で急速に増加する。これらの疾患の発生機序や合併症、治療など基本的な知識の習得に努める。	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：脂質異常症とは？ 高尿酸血症（痛風）とは？ 骨粗鬆症とは？	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。（復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第8回	山﨑純一	＜内分泌系疾患：先端肥大症・尿崩症・甲状腺機能障害・副腎の異常症＞ 内分泌腺の機能異常による疾患であり、一般に機能亢進症および機能低下症がある。例として脳下垂体の機能亢進では巨人症や末端肥大症など、低下では下垂体性侏儒、シモンズ病、尿崩症などがある。内分泌臓器とホルモンの関係を理解し、ホルモンの異常分泌により生じる疾患について、発症機序や合併症、治療など基本的な知識の習得に努める。	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：下垂体ホルモンの異常について。 甲状腺ホルモンの異常について。 副腎皮質・髄質ホルモンの異常について。	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。（復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の

				関係領域を通読する。
第9回	山崎純一	＜化器疾患(1)：食道炎・食道がん・胃炎・胃がん＞ 上部消化管に発症する炎症性病変や悪性腫瘍は発症頻度の高い消化器疾患であり、上部消化管の解剖とその特徴や症状について基本的な知識の習得に努める。	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：食道がんとは？ 胃がんとは？	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。 （復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第10回	山崎純一	＜消化器疾患(2)：アカラジア・ダンピング症候群・クローン病・潰瘍性大腸炎・イレウス＞ 下部消化管の解剖と働きを理解し、各種消化管疾病について症状や治療など基本的な知識の習得に努める。	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：クローン病とは？ 潰瘍性大腸炎とは？	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。 （復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第11回	山崎純一	＜肝・胆・膵疾患：肝疾患・膵・胆道疾患＞ 肝臓・胆嚢・膵臓の解剖と働きを理解し、これらに関与する疾患について症状や治療など基本的な知識の習得に努める。	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：胆石症とは？ 肝炎とは？ 肝硬変とは？ 膵炎とは？	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。 （復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第12回	山崎	＜循環器疾患：高血圧・動脈硬化・虚血性心疾患・心不全・不整脈＞ 高血圧の発症には、塩分摂取量と動脈硬化、つまり血液量（心拍出量）と末梢血管抵抗の２因子が関与する。冠動脈狭窄や閉塞により発症する虚血性心疾患として狭心症、心筋梗塞が挙げ	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：高血圧の原因井ついて。 心筋梗塞の病態生理と原因疾	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。 （復習90分）

	純一	られる。心不全とは心臓の機能が低下して、体に十分な血液を送り出せなくなった状態である。不整脈の発生機序として刺激生成異常と刺激伝導異常がある。これら疾患の病態生理や心電図や画像所見などを解説し、症状や治療など基本的な知識の習得に努める。	患、心電図所見について。 心室性期外収縮について。 左心不全・右心不全の原因疾患と血行動態について。	配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第13回	山崎純一	＜腎・尿路系疾患(1)：急性腎炎症候群・腎不全＞ 腎臓は血液から水分や老廃物を濾過して尿を作り出す働きをしている。急性腎不全は急激に腎臓の機能が低下するが、原因として「腎前性」、「腎性」「腎後性」に分類される。慢性腎不全は腎の排泄機能の低下が非可逆的で、腎機能が正常の50%以下の状態を指す。このため腎不全では原因を知ることが重要であり、発症機序や合併症、治療など基本的な知識の習得に努める。	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：急性腎炎症候群とは？ 急性腎不全とは？	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。（復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第14回	山崎純一	＜腎・尿路系疾患(2)：慢性腎臓病・末期腎不全の治療・尿路系疾患・透析療法＞ 末期腎不全が重篤化し、透析治療が導入される。末期腎不全に至る経過において原因を知ることが重要であり、発症機序や合併症、治療など基本的な知識の習得に努める。	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：慢性腎臓病とは？ 末期腎不全とは？ 透析治療とは？	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。（復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。
第15回	山崎純一	＜神経・精神系疾患：脳血管障害・摂食障害・認知症・変性疾患・精神疾患＞ 脳血管障害とは「脳血管の病理学的変化、灌流圧の変化あるいは血漿、血球成分の変化などにより、脳に一過性ないし持続性の虚血または出血が生じたもの」と定義されている。脳とは大脳、小脳、脳幹部、髄膜なども示す。認知症にはいくつかの種類があり、アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症などが挙げられる。認知症の種類によって、脳内で障害される部位が異なり、症状も変わってくる。意識障害は、意識混濁と意識変容に分けられ、さらに重症度分類されている。これらの疾患の原因や発症機序、治療など基本的な知識の習得に努める。	グループ課題（プレゼンテーション・アクティブラーニング）：脳血管障害とは？ 慢性腎臓病とは？ 認知症とは？ 変性疾患とは？	（予習90分）講義の概要を教科書で確認する。（復習90分）配布した講義資料を参考に教科書の関係領域を通読する。

教科書
「栄養科学イラストレイテッドー臨床医学ー（疾病の成り立ち）」田中明（編）羊土社

参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 試験80%、課題10%、授業への参加度10%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。授業での講義内容を配布するので、授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待する。予習：当日の講義の概要を教科書で確認する。復習：配布した講義資料を中心に教科書の関係領域を通読する（90分）。
オフィス・アワー
講義終了後に適宜受け付ける。その他、火・木・金曜日に適宜受け付けるので、教務課に依頼し予約すること。
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-C121

講義コード	20410001
講義名	公衆衛生学I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
なお、ほぼ毎回、公衆衛生学・社会医学に関する新聞報道等の題材を用いて、グループディスカッション・プレゼンテーションの時間を設定し、身近な健康問題に対する自身の判断・見解を持ち、それを他者に示すためのスキルも学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目として、社会・環境の諸要因と健康問題との関係や保健医療の公的システムを理解することを目指す。

到達目標

1. 健康の概念・ヘルスプロモーション政策の概要を説明できる。
2. 健康に影響する環境要因の概要を説明できる。
3. 主な健康指標を挙げて、その現在までの状況を説明できる。
4. 社会・環境と健康との関係性を調べる方法論を理解し、その概要を説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	岩田昇	オリエンテーション 公衆衛生学Iについて 国家試験出題基準	環境と健康の関連について、各自の意見を求め、グループ内で討議する。	予習90分：国家試験出題基準をダウンロードし、社会・環境の学習内容を把握しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと

第2回	岩田昇	第１章 社会と健康① 健康の概念/予防の概念 ヘルスプロモーション/プライマリーヘルスケア	各自が考える健康および予防について、グループ内で意見を出し合い、討議する。	予習90分：教科書P. 1～11に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第3回	岩田昇	第１章 社会と健康② 公衆衛生活動の実践/歴史	予習に基づき、公衆衛生活動の実践について意見交換する。	予習90分：教科書P. 12～26に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第4回	岩田昇	第２章 環境と健康① 環境問題の概念	予習に基づき、環境問題について意見交換する。	予習90分：教科書P. 27～36に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第5回	岩田昇	第２章 環境と健康② 世界の水問題、廃棄物問題	予習に基づき、世界の水問題、廃棄物問題について意見交換する。	予習90分：教科書P. 37～49に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第6回	岩田昇	確認テスト１	確認テスト１の実施 解答と解説	予習120分：1～5回の講義で扱った重要キーワードを理解しておくこと 復習90分：不正解個所を再度確認し、ノートに記しておくこと
第7回	岩田昇	第３章 健康、疾病、行動に関わる統計資料① 保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計	予習に基づき、人口静態統計、人口動態統計について意見交換する。	予習90分：教科書P. 51～64に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第8回	岩田昇	第３章 健康、疾病、行動に関わる統計資料② 生命表、傷病統計	予習に基づき、生命表、傷病統計について意見交換する。	予習90分：教科書P. 64～72に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第9回	岩田昇	第３章 健康、疾病、行動に関わる統計資料③ その他の保健統計、国際比較	予習に基づき、保健統計の国際比較について意見交換する。	予習90分：教科書P. 72～77に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第10回	岩田昇	確認テスト２	確認テスト２の実施 解答と解説	予習120分：7～9回の講義で扱った重要キーワードを理解しておくこと 復習90分：不正解個所を再

				度確認し、ノートに記しておくこと
第11回	岩田昇	第４章 疫学① 疫学の概念/健康指標/有病率と罹患率	予習に基づき、疫学の重要性ならびに有病率と罹患率の違いやそれぞれの必要性について意見交換する。	予習90分：教科書P.79～85に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第12回	岩田昇	第４章 疫学② 疫学の種類、バイアス	予習に基づき、様々なバイアスについて意見交換する。	予習90分：教科書P.85～99に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第13回	岩田昇	第４章 疫学③ スクリーニング、EBM	仮想データを用いて、スクリーニングに関する各指標の意味について理解する。	予習90分：教科書P.100～108に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第14回	岩田昇	第４章 疫学④ リスク評価、研究倫理	予習に基づき、研究倫理の意義について意見交換する。	予習90分：教科書P.108～115に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、疑問点を調べてくこと
第15回	岩田昇	まとめ	全体確認テストの実施 解答と解説	予習120分：1～14回の講義で扱った重要キーワードを理解しておくこと 復習90分：不正解個所を再度確認し、ノートに記しておくこと

教科書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂

参考書

・適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

・単位認定60点以上。
・３回の筆記試験90%、授業への参加度10%

課題等に対する
フィードバックの方法

・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。
・ほぼ毎回のグループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメントは適宜行う。

履修のポイント

・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って，積極的な取り組みを期待します。

オフィス・アワー

・水曜日・木曜日12:30～13:20（昼休み） 11号館第5研究室
（講義終了前後にも適宜受付可能）

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R151

講義コード	20420001
講義名	公衆衛生学II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
なお、授業ではほぼ毎回、現代社会における健康問題・報道などを題材として、グループディスカッションおよびプレゼンテーションの時間を設定し、自らの判断・見解を持ち、それを他者に伝えるスキルの習得も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目として、社会・環境の諸要因と健康問題との関係や保健医療の公的システムを理解することを目指す。

到達目標

1. 生活習慣と健康との関係について、その概要を説明できる。
2. ガンやその他の５大疾患の危険因子と予防活動について、概要を説明できる。
3. 感染症に対する法律、国・コミュニティの対策の概要について説明できる。
4. 予防活動における栄養士の役割について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	岩田昇	ガイダンス 授業の進め方・評価の仕方等 公衆衛生学Iの復習①	公衆衛生学Iの学習内容の確認テストを行い、理解度の不十分な領域を認識する。	予習90分：公衆衛生学Iの資料に目を通し、キーワードを確認しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと

第2回	岩田昇	公衆衛生学Iの復習② 環境保健の復習 疫学の復習	環境保健および疫学の確認テストを行い、理解度の不十分な領域を認識する。	予習90分：疫学の指標、計算方法などについて、確認しておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第3回	岩田昇	第５章 生活習慣の現状と対策① 健康日本21、食行動	予習に基づき，健康日本21に関する意見交換を行い、特に食行動について討議する。	予習90分：教科書P.117～137に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第4回	岩田昇	第５章 生活習慣の現状と対策② 喫煙行動、飲酒行動	予習に基づき，喫煙行動、飲酒行動の習慣化に関する意見交換を行い、予防策について議論する。	予習90分：教科書P.137～145に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第5回	岩田昇	第５章 生活習慣の現状と対策③ 睡眠・ストレス、歯科保健活動	ストレスおよびその対処の経験に関する意見交換を行う。また、健康関連の生活習慣獲得に向けた個人レベル～コミュニティレベルの取り組みについて討議する。	予習90分：教科書P.146～158に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第6回	岩田昇	確認テスト１	確認テスト１を実施し、その場で解答を行い、不正解の箇所を各自で確認復習し、レポートにまとめる。	予習90分：1～5回の授業資料を見直して、理解しておくこと 復習90分：不正解の箇所を中心に、資料を見直し、要点をノートに記すこと
第7回	岩田昇	第６章 主要疾患の疫学と予防① ガン、循環器疾患	予習に基づき，ガン、循環器疾患の年次推移や危険因子について、グループ内で相互学習を行う。	予習90分：教科書P.159～168に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第8回	岩田昇	第６章 主要疾患の疫学と予防② 代謝疾患、 骨・関節疾患	予習に基づき，代謝疾患、骨・関節疾患の疫学と危険因子について、グループ内で相互学習を行う。	予習90分：教科書P.168～179に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第9回	岩田昇	第６章 主要疾患の疫学と予防③ 感染症 感染症法・主要感染症	予習に基づき，感染症に関して、グループ内で相互学習する。特に感染症法・主要感染症を中心に学ぶ。	予習90分：教科書P.180～185に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第10回	岩田昇	第６章 主要疾患の疫学と予防④ 感染症 予防接種 検疫	予習に基づき，予防接種や検疫についてグループ内で相互学習を行う。	予習90分：教科書P.185～188に目を通し、重要キーワードを調べておくこと復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
	岩		確認テスト２を実施し、その場	予習90分：7～10回の授業資料を見直して、理解しておく

第11回	田昇	確認テスト２	で解答を行い、不正解の箇所を各自で確認復習し、レポートにまとめる。	こと 復習90分：不正解の箇所を中心に、資料を見直し、要点をノートに記すこと
第12回	岩田昇	第６章 主要疾患の疫学と予防⑤ 精神疾患	予習に基づき，現代社会における精神疾患の疫学や危険因子について、グループ内で相互学習を行う。	予習90分：教科書P.188～191に目を通し、重要キーワードを調べておくこと 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第13回	岩田昇	第６章 主要疾患の疫学と予防⑤ その他の疾患（腎臓・呼吸器・消化器・肝臓・アレルギー疾患、認知症）	予習に基づき，対象疾患をグループに割り振り、説明のプレゼンテーションを行う。クラス全体で意見交換を行う。	予習90分：教科書P.191～196に目を通し、重要キーワードを調べておくこと。疾患説明のプレゼンテーション資料をグループごとに作成すること。 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第14回	岩田昇	第６章 主要疾患の疫学と予防⑤ 外因（自殺・不慮の事故・虐待・暴力）	予習に基づき，自殺・不慮の事故・虐待・暴力の実態および年次推移・危険因子についてグループ内で相互学習する。	予習90分：教科書P.196～201に目を通し、重要キーワードを調べておくこと。疾患説明のプレゼンテーション資料を各グループで作成すること。 復習90分：配布資料を見直し、要点を確認しておくこと
第15回	岩田昇	まとめ	全体確認テストを実施し、その場で解答を行い、理解度を各自確認する。	予習90分：1～14回の授業資料を見直しで、理解しておくこと 復習90分：不正解の箇所を中心に、資料を見直し、要点をノートに記すこと

教科書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

・単位認定60点以上。
・３回の筆記試験 90%、授業への参加度 10%

課題等に対する
フィードバックの方法

・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。
・グループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメント等を適宜行う。

履修のポイント

・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って，積極的に取り組むことを期待します。

オフィス・アワー

・水曜日・木曜日12:30～13:20（昼休み）11号館第5研究室
（講義終了前後にも適宜受付可能）

科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R162

講義コード	20430001
講義名	公衆衛生学III
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。一次予防，二次予防および三次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等，保健予防・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
なお、授業ではほぼ毎回、現代社会における健康問題・報道などを題材として、グループディスカッションおよびプレゼンテーションの時間を設定し、自らの判断・見解を持ち、それを他者に伝えるスキルの習得も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目として、社会・環境の諸要因と健康問題との関係や保健医療の公的システムを理解することを目指す。

到達目標

1. 社会保障に関する公的システムについて，その概要を説明できる
2. 医療制度に関する公的システムについて、その概要を説明できる
3. 地域保健・高齢者保健に関する現状と公的活動について説明できる
4. 母子保健・学校保健・産業保健など、ライフサイクルに則した保健課題の概要を説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	岩田	オリエンテーション 授業の進め方、評価の仕方等	公衆衛生学I・IIの学習内容の確認テストを行い、理解不足の領域を	予習90分：公衆衛生学I・IIの資料に目を通し、重要キーワードについて、確認しておくこと

	昇	公衆衛生学I・IIの振り返り	見出す	復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておくこと
第2回	岩田昇	第７章 保健・医療・福祉の制度① 社会保障、行政	予習に基づき、社会保障のポイントについて意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.203～207に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第3回	岩田昇	第７章 保健・医療・福祉の制度② 医療制度、福祉制度	予習に基づき、医療制度、福祉制度のポイントについて意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.207～221に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第4回	岩田昇	第８章 地域保健 地域保健活動、資源、健康危機管理	予習に基づき、地域保健活動、資源、健康危機管理のポイントについて意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.223～231に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第5回	岩田昇	確認テスト１	確認テスト１の実施 解答および解説	予習90分：1～4回の授業資料に目を通し、理解しておくこと 復習90分：不正解箇所について、資料等で確認整理し、ノートに記しておくこと
第6回	岩田昇	第９章 母子保健 母子保健法、母子保健事業、母子保健施策	予習に基づき、母子保健法、母子保健事業、母子保健施策のポイントについて意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.233～244に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第7回	岩田昇	第10章 成人保健 生活習慣病の予防、特定健康診査、特定保健指導、法律	予習に基づき、生活習慣病の予防、特定健康診査、特定保健指導、法律のポイントについて意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.245～254に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第8回	岩田昇	第11章 高齢者保健・介護① 高齢者保健・介護、介護保険法、介護予防、要介護認定、ケアマネジメント	予習に基づき、高齢者保健・介護、介護保険法、介護予防、要介護認定、ケアマネジメントのポイントについて意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.255～259に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
		第11章 高齢者保健・介護②		予習90分：教科書P.259～264に目を通し、

第9回	岩田昇	地域包括支援センター、介護施設、老人保健施設、地域包括ケアシステム	予習に基づき、地域包括支援センター、介護施設、老人保健施設、地域包括ケアシステムのポイントについて意見を求め、討議する。	重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第10回	岩田昇	確認テスト２	確認テスト２の実施 解答および解説	予習90分：6～9回の授業資料に目を通し、理解しておくこと 復習90分：不正解箇所について、資料等で確認整理し、ノートに記しておくこと
第11回	岩田昇	第12章 産業保健① 産業保健の目的・制度、現状と対策、労働災害	予習に基づき、産業保健の目的・制度、現状と対策、労働災害のポイントについて意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.265～271に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第12回	岩田昇	第12章 産業保健② 職業と健康障害、うつ 第13章 学校保健① 学校保健の現状と対策	予習に基づき、職業と健康障害、うつ 学校保健の現状と対策のポイントについて意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.271～280に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第13回	岩田昇	第13章 学校保健② 児童生徒の健康、学校保健安全対策、学校感染症	予習に基づき、児童生徒の健康、学校保健安全対策、学校感染症のポイントについて意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.280～290に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第14回	岩田昇	第14章 国際保健 地球規模の健康問題、開発途上国の健康問題、国際的協力機関	予習に基づき、地球規模の健康問題、開発途上国の健康問題、国際的協力機関について意見を求め、討議する。	予習90分：教科書P.291～301に目を通し、重要キーワードについて、調べておく 復習90分：配布資料を見直し、要点を整理しておく
第15回	岩田昇	まとめ	全体確認テストの実施 解答および解説	予習120分：1～14回の講義の中の重要キーワードを確認しておく 復習90分：不正解の個所を再度確認し、ノートに記しておく

教科書

古野・辻・吉池編『社会・環境と健康』 南江堂

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

・単位認定60点以上。 ・３回の筆記試験90%、授業への参加度10%
課題等に対する フィードバックの方法
・確認テスト(45分程度)の後、解答および解説を行う。 ・グループディスカッション・プレゼンテーションに対するコメント等を適宜行う。
履修のポイント
・健康水準の高い社会に住んでいることを自覚し、俯瞰的視点を持って，積極的に取り組むことを期待します。
オフィス・アワー
・水曜日・木曜日12:30～13:20（昼休み） 11号館第5研究室 （講義終了前後にも適宜受付可能）
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R170

講義コード	20440002
講義名	解剖生理学I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	大学病院で内科医として40年間診療に携わった経験を活かして、ヒトの生理機能の基礎知識について講義を行う。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし
教員	山﨑 純一	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養面からの健康増進と維持、疾病の成り立ちや疾病のリスク低下とのかかわりを理解するためは、人体の構造や機能を解剖学的および生理学的な両側面から修得する必要がある。本講義では総論として4大組織の構造的特徴、各論として循環器および内分泌系に属する器官の構造と機能について講義を行う。本科目では、解剖生理学で得られた知識をもとに、ヒトの生理機能の基礎知識の修得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」並びに「3. 多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している。」に基づき、正常の人体の構造と機能・役割についての知識修得を目指す。さらには、専門科目、特に基礎栄養学、病理学、臨床栄養学を理解する上で基盤となる知識の獲得を目指すものとする。

到達目標

1. 人体の構成単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルまでを体系的に理解し、構造や機能を説明できる。
2. 基礎栄養学、病理学、臨床栄養学に関わる基礎的な知識を具体的に述べることができる。
3. 食・栄養・健康という幅広い分野で科学的根拠に基づく栄養の実践活動の場で、人体の仕組みを応用できる。
4. 器官を組織レベルで分類できる。
5. 循環器および内分泌の機能と構造について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間

第1回	影山晴秋	オリエンテーション（授業の進め方など） 解剖生理学Iの内容について 細胞から個体	予習90分：シラバスを事前に確認すること 復習90分：第1章をよく読み、解剖学の言葉遣いに慣れるようにする。
第2回	影山晴秋	細胞の基本構造（生体膜、細胞小器官）	予習90分：教科書２章10-14ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第3回	影山晴秋	４大組織：上皮組織の構造とはたらき、外分泌腺の構造とはたらき	予習90分：教科書3章16-19ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第4回	影山晴秋	４大組織：細胞間結合装置、支持組織と筋組織の種類と構造	予習90分：教科書3章20-25ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第5回	影山晴秋	神経組織 骨の構造	予習90分：教科書3章24-33ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第6回	影山晴秋	骨の構成細胞、骨の成長とリモデリング	予習90分：教科書3章32-37ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第7回	影山晴秋	筋の構造と機能と運動のしくみ 血液の概要と血球の種類	予習90分：教科書4章16-59ページと5章73-75ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第8回	影山晴秋	血球の分化・成熟、血漿成分、赤血球の処理 凝固・線溶系	予習90分：教科書5章76-83ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第9回	影山晴秋	免疫細胞、免疫機構（自然免疫と獲得免疫）	予習90分：教科書5章84-102ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第10回	山﨑純一	心臓の構造、血液循環路、心周期、心臓の刺激伝導系	予習90分：教科書6章103-113ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第11回	山﨑純	血管の構造、リンパ管の構造と機能	予習90分：教科書6章112-119ページ、126−129ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用い

	一		て必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第12回	山崎純一	循環系の調節	予習90分：教科書第6章128-132ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第13回	影山晴秋	内分泌腺の構造 ホルモンの種類とホルモン分泌調節機構 視床下部ホルモンと下垂体ホルモンと分泌機能	予習90分：教科書7章133-143ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第14回	影山晴秋	甲状腺と上皮小体の構造と機能、ホルモンの作用	予習90分：教科書7章142-147ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第15回	影山晴秋	副腎と膵臓の構造と機能、ホルモンの作用	予習90分：教科書7章146-156ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。

教科書

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂
解剖生理学まとめドリル―人体の基本を総チェック― SENKOSHA

参考書

栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 志村二三夫，岡 純，山田和彦／編・羊土社
得意になる解剖生理 美田誠二（著）・照林社
上記２つの参考書を挙げますが、図書館に解剖学や生理学に関する教科書がたくさんあります。自分に合った読みやすいものを参考書として使ってください。または高校の時に使用した「生物」「基礎生物」の教科書も参考書となります。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
期末試験85％、リアクションペーパー15％

課題等に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーで質問した内容については、Teamsのチャットで返信します。また多い質問に対しては、授業の時に解説します。講義終了時に課題を出しますので、復習が終わったら課題に取り組み、コメントを各自に返信します。

履修のポイント

膨大な情報量を教科書の図を使って講義しますので、しっかりと授業についてきて下さい。講義はスライド中心となりますが、講義スライドをプリントアウトしたものは配布しませんので、ノートを取るあるいは教科書に書き込んで下さい。解剖生理学IとIIが理解できると、専門科目の基礎知識になるだけでなく、「健康やダイエットに関するメディア」に対して、深く理解できるようになる。

オフィス・アワー

月曜日から木曜日までの9:00-17:00（講義が無い時間）
11号館3階第10研究室にて対応。
またTeamsでも質問を受け付けます。

科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R113

講義コード	20450001
講義名	解剖生理学II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養面からの健康増進と維持、疾病の成り立ちや疾病のリスク低下とのかかわりを理解するためは、人体の構造や機能を解剖学的および生理学的な面から習得する必要がある。解剖生理学で得られた知識をもとに、ヒトの構造や体しくみについて学ぶ。解剖生理学IIでは消化器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、生殖器系、神経系および感覚器に属する器官の構造と機能について講義する。特に栄養学全般で重要になる「食べ物の消化・吸収、代謝、排泄」という一連の流れを、どこの器官系で行っているかを学習していく。本科目では、解剖生理学で得られた知識をもとに、ヒトの生理機能について知識修得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」並びに「3. 多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している。」に基づき、正常の人体の構造と機能・役割についての知識修得を目指す。さらには、専門科目、特に基礎栄養学、病理学、臨床栄養学を理解する上で基盤となる知識の獲得を目指すものとする。

到達目標

1. 食べ物の摂取、消化・吸収、排泄といった消化器系や腎・泌尿器系、ガス交換をおこなう呼吸系、生殖器及び神経系の構造と機能について、説明できる。
2. 食べ物の摂取、消化・吸収、排泄の一連の流れ機能と調節法を含めて具体的に述べることができる。
4. 器官について、組織レベルで分類できる。
3. 食・栄養・健康という幅広い分野で科学的根拠に基づく栄養の実践活動ができるようにするために、人体の仕組みを具体的に述べることができる。

授業計画

	担当	授業内容と方法、課題	予習・復習と

	者		そのために必要な時間
第1回	影山晴秋	消化器の総論、口腔（歯、舌、味覚器）、咽頭、食道の構造	予習90分：教科書８章157-165ページと13章322−324ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第2回	影山晴秋	食道、胃、小腸の構造	予習90分：教科書8章164-173ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第3回	影山晴秋	大腸の構造、肝臓の構造と生理機能	予習90分：教科書8章172-177ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第4回	影山晴秋	胆嚢、膵臓の構造と生理機能 消化管の生理機能（唾液腺、嚥下のしくみ）	予習90分：教科書8章160-163、177-182ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第5回	影山晴秋	消化管の生理機能（胃液分泌の調節、消化ホルモン、栄養素の消化） 呼吸器系の概要	予習90分：教科書8章169，182-188ページ、9章169，189-191を読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第6回	影山晴秋	鼻腔、咽頭、気管、肺の構造と機能 呼吸のしくみ	予習90分：教科書9章192-204ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第7回	影山晴秋	ガス交換と運搬、呼吸の調節	予習90分：教科書9章204-216ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第8回	影山晴秋	腎臓の構造とはたらき（老廃物の排泄）	予習90分：教科書10章217-223、236−239ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第9回	影山晴秋	腎臓のはたらき（水分量、酸塩基平衡、血圧、体内カルシウム量、造血機能の調節）	予習90分：教科書10章224-234ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第10回	影山晴	男性・女性生殖器の機能と構造	予習90分：教科書11章241-253ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用

	秋		いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第11回	影山晴秋	性周期、受精から着床まで	予習90分：教科書11章256-261ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第12回	影山晴秋	胎盤の形成、構造と機能、乳腺の構造と機能 中枢神経系の総論、脊髄と脳の構造と機能	予習90分：教科書11章260−256ページ、12章269−278ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第13回	影山晴秋	脳の構造と機能 末梢神経系の構造と機能 視覚器の構造	予習90分：教科書12章278-300ページ、13章310-313ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第14回	影山晴秋	視覚器の構造と機能 聴覚器１の聴覚器の構造と機能	予習90分：教科書13章312-318ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。
第15回	影山晴秋	聴覚器２・平衡覚器・皮膚感覚の構造と機能	予習90分：教科書13章318-323、302−309ページを読んで分からなかったところを把握する。 復習90分「解剖生理学まとめドリル」を用いて必ず復習を行い、講義の内容をきちんと理解する。

教科書

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂
解剖生理学まとめドリル―人体の基本を総チェック― SENKOSHA

参考書

栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 志村二三夫，岡 純，山田和彦／編・羊土社
得意になる解剖生理 美田誠二（著）・照林社
上記２つの参考書を挙げますが、図書館に解剖学や生理学に関する教科書がたくさんあります。自分に合った読みやすいものを参考書として使ってください。または高校の時に使用した「生物」「基礎生物」の教科書も参考書となります。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
期末試験80%、単元終了時の講義内確認小テスト15%、リアクションペーパー5%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内確認小テストを採点し、答案で気になる点に関してはコメントを付けて返却するので、授業内容の理解に役立てること。確認小テストで点数が30%未満の場合は、正答に直して再提出すること。リアクションペーパーで質問が多かった内容については、次回講義の時に解説する。

履修のポイント

膨大な情報量を教科書の図を使って講義しますので、しっかりと授業についてきて下さい。
講義はスライド中心となりますが、講義スライドをプリントアウトしたものは配布しませんの

で、ノートを取るあるいは教科書に書き込んで下さい。解剖生理学IとIIが理解できると、「健康やダイエットに関するメディア」に対して、深く理解できるようになる。
オフィス・アワー
月曜日から木曜日までの9:00-17:00（講義が無いとき） 11号館3階第10研究室にて対応。 また講義終了時も対応。
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R123

講義コード	20460001
講義名	解剖生理学実験I（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	専門基礎科目
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

解剖生理学の講義内容を形態学的観点から確認する。解剖生理学の講義で使っている教科書では組織像はイラストで示されているが、実際に顕微鏡を用いて、組織標本の観察・スケッチを行い、組織像を確認する。第5回、第10回、第15回目に個人発表を行い、組織構造の理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、各器官の構造ついての知識の修得を目指すものとする。さらには、顕微鏡を使って細胞同定ができる技能の修得を目指す。

到達目標

1. 顕微鏡を使って、組織標本を観察することができる。
2. 解剖生理学の講義内容を形態学的視点から説明できる。
3. 人体の組織的構造を実習を通じて理解し、臨床栄養学、基礎栄養学、病理学を理解する上で必要となる基礎知識を説明することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	影山晴秋	実習全体の注意・説明、顕微鏡の使い方 細胞と4大組織の組織構造（上皮組織、結合組		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れ

		織）の観察・スケッチ		ないようにすること。
第2回	影山晴秋	4大組織の組織構造（骨組織、筋組織）の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また骨芽細胞、破骨細胞、骨格筋について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第3回	影山晴秋	造血器官と一次・二次リンパ性器官の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また骨髄、胸腺、脾臓について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第4回	影山晴秋	心臓、血管、肺の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また心筋、大動脈、気管、肺胞について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第5回	影山晴秋	1回から4回までのまとめ（プレゼンテーション）と確認小テスト	1回から4回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：1回から4回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。
第6回	影山晴秋	唾液腺、胃、小腸の組織構造の観察・スケッチ（唾液腺、胃腺、小腸の管壁）		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また唾液腺、胃腺、小腸の管壁について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第7回	影山晴秋	小腸、大腸の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また腸管免疫、腸内神経叢、食道-胃接合部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。

第8回	影山晴秋	肝臓、膵臓、胆嚢の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また肝小葉・肝三つ組み、膵臓の内分泌部と外分泌部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第9回	影山晴秋	下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第10回	影山晴秋	6回から9回までのまとめ（プレゼンテーション）と確認小テスト	6回から9回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：6回から9回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。
第11回	影山晴秋	腎臓、尿管、膀胱の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また腎小体と糸球体近接装置について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第12回	影山晴秋	男性生殖器と女性生殖器・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また精巣、卵巣について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第13回	影山晴秋	4大組織の神経系の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また神経細胞、有髄線維、神経筋接合部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
	影	白色脂肪組織、褐色脂		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また白色脂肪細胞、褐色脂肪細胞、表皮

第14回	山晴秋	肪組織および皮膚の表皮の観察・スケッチ		の構造ついて調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第15回	影山晴秋	11回から14回までのまとめ（プレゼンテーション）と確認小テスト	11回から14回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：11回から14回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。

教科書

配布プリント
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（解剖生理学IとIIで使用した教科書）

参考書

使用しない

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
まとめの時間に行うプレゼンテーション5%、確認小試験15%、レポート課題60%および定期試験20%
ただし、レポート(スケッチ)は毎回期日までに提出し、1 回でも未提出の場合、レポート点は無いものとする。レポート提出が遅れた場合、減点とする。

課題等に対するフィードバックの方法

レポートは、臓器の形態や体内における位置関係、組織の微細構造の正確性について 3段階評価を行う。レポート返却後、誤っているところおよび指摘された箇所は必ずもう一度調べ、訂正しておくこと。

履修のポイント

実際の標本の組織像と教科書に載っているイラストの組織像を比較しながら観察し、詳細な組織構造を観察・スケッチします。2次元の観察できる組織像を、3次元の構造をイメージできることが重要です。解剖生理学の講義の復習になりますので、この実習を通して、知識を定着する。他人に依存せず、積極的に実習に取り組むこと。

オフィス・アワー

実習開始前もしくは終了時、実習室で質問に応じます。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R122

講義コード	20460002
講義名	解剖生理学実験I（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

解剖生理学の講義内容を形態学的観点から確認する。解剖生理学の講義で使っている教科書では組織像はイラストで示されているが、実際に顕微鏡を用いて、組織標本の観察・スケッチを行い、組織像を確認する。第5回、第10回、第15回目に個人発表を行い、組織構造の理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、各器官の構造ついての知識の修得を目指すものとする。さらには、顕微鏡を使って細胞同定ができる技能の修得を目指す。

到達目標

1. 顕微鏡を使って、組織標本を観察することができる。
2. 解剖生理学の講義内容を形態学的視点から説明できる。
3. 人体の組織的構造を実習を通じて理解し、臨床栄養学、基礎栄養学、病理学を理解する上で必要となる基礎知識を説明することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	影山晴秋	実習全体の注意・説明、顕微鏡の使い方 細胞と4大組織の組織構造（上皮組織、結合組		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れ

		織）の観察・スケッチ		ないようにすること。
第2回	影山晴秋	4大組織の組織構造（骨組織、筋組織）の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また骨芽細胞、破骨細胞、骨格筋について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第3回	影山晴秋	造血器官と一次・二次リンパ性器官の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また骨髄、胸腺、脾臓について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第4回	影山晴秋	心臓、血管、肺の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また心筋、大動脈、気管、肺胞について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第5回	影山晴秋	1回から4回までのまとめ（プレゼンテーション）と確認小テスト	1回から4回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：1回から4回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。
第6回	影山晴秋	唾液腺、胃、小腸の組織構造の観察・スケッチ（唾液腺、胃腺、小腸の管壁）		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また唾液腺、胃腺、小腸の管壁について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第7回	影山晴秋	小腸、大腸の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また腸管免疫、腸内神経叢、食道-胃接合部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れ

				ないようにすること。
第8回	影山晴秋	肝臓、膵臓、胆嚢の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また肝小葉・肝三つ組み、膵臓の内分泌部と外分泌部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第9回	影山晴秋	下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第10回	影山晴秋	6回から9回までのまとめ（プレゼンテーション）と確認小テスト	6回から9回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：6回から9回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。
第11回	影山晴秋	腎臓、尿管、膀胱の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また腎小体と糸球体近接装置について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第12回	影山晴秋	男性生殖器と女性生殖器・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また精巣、卵巣について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第13回	影山晴秋	4大組織の神経系の組織構造の観察・スケッチ		予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また神経細胞、有髄線維、神経筋接合部について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
				予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読ん

第14回	影山晴秋	白色脂肪組織、褐色脂肪組織および皮膚の表皮の観察・スケッチ		でおくこと。また白色脂肪細胞、褐色脂肪細胞、表皮の構造について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、組織構造の理解を深め、忘れないようにすること。
第15回	影山晴秋	11回から14回までのまとめ（プレゼンテーション）と確認小テスト	11回から14回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、形態学的視点から説明できるようにする。	予習45分：11回から14回までの配布プリントを使って、組織構造を説明できるようにしておくこと。

教科書

配布プリント
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（解剖生理学IとIIで使用した教科書）

参考書

使用しない

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
まとめの時間に行うプレゼンテーション5%、確認小試験15%、レポート課題60%および定期試験20%
ただし、レポート(スケッチ)は毎回期日までに提出し、1 回でも未提出の場合、レポート点は無いものとする。レポート提出が遅れた場合、減点とする。

課題等に対するフィードバックの方法

レポートは、臓器の形態や体内における位置関係、組織の微細構造の正確性について 3段階評価を行う。レポート返却後、誤っているところおよび指摘された箇所は必ずもう一度調べ、訂正しておくこと。

履修のポイント

実際の標本の組織像と教科書に載っているイラストの組織像を比較しながら観察し、詳細な組織構造を観察・スケッチします。2次元の観察できる組織像を、3次元の構造をイメージできることが重要です。解剖生理学の講義の復習になりますので、この実習を通して、知識を定着する。他人に依存せず、積極的に実習に取り組むこと。

オフィス・アワー

実習開始前もしくは終了時、実習室で質問に応じます。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R122

講義コード	20470001
講義名	解剖生理学実験II（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

解剖生理学の講義内容を自身の体や試験管内の生理学実験を通じで理解する。また栄養の消化・吸収・代謝・排泄などの理解に役立てるような実験を行う。また計測した数値から自分の体の状態を読み取り、体で起きていることを生理学的に考える内容となる。解剖生理学の講義で学んだことが、日常生活の中で感じたり、イメージすることがほとんどない。そこで講義で修得した知識と自分の体の中で起きていることを結びつけ、実感してもらうのが本実習の目標である。
また第5回、第10回、第15回目に個人発表を行い、体のしくみについて理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、管理栄養士として、栄養アセスメント、栄養指導や栄養療法を行う上で必要となる人体の生理機能について理解を深める。

到達目標

1. 実験に積極的に取り組み、得られた結果に対して客観的な評価と生理学的な考察ができる。
2. 人体の生理機能や仕組みについて正しく説明できる。
3. 生理機能検査の意義・原理・方法を説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	影山晴秋	実験のガイダンス（実験の注意事項、成績の評価法） 透析膜による腹膜透析	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また拡散、半透性、尿試験紙による測定項目について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその

		類似効果と尿の観察		日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第2回	影山晴秋	血液クレアチニンの測定、推算糸球体濾過（eGFR）の評価	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またクレアチニンクリアランス、糸球体濾過量、推算糸球体濾過について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第3回	影山晴秋	肺活量、ピークフローメーター、パルスオキシメーターによる肺機能評価	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また呼吸中枢、肺活量、1秒率、慢性閉塞性肺疾患について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第4回	影山晴秋	自己血圧測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また収縮期血圧が示すこと、拡張期血圧が示すこと、血圧の神経性調節、血圧の液性調節について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第5回	影山晴秋	唾液による消化と唾液の性質	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またアミラーゼ、単糖類、アミロース、アミノペクチン、α1,4結合、膜消化、管腔内消化について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第6回	影山晴秋	胃液、膵液、小腸の膜消化酵素による消化	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またペプシン、トリプシン、リパーゼ、膜消化について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第7回	影山晴	空腹時と自由摂食時の肝グリコー	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また血糖上昇作用ホルモン、GLUT4、ヘキソキナーゼ、グルコキナーゼ、グルコース６−ホスファターゼについて調べておく

	秋	ゲン測定		こと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第8回	影山晴秋	血中遊離脂肪酸の測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またホルモン感受性リパーゼ、リポタンパク質リパーゼ、オートファジー、ユビキチンープロテアソーム系について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第9回	影山晴秋	末梢血球の観察と血球数測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またエリスロポエチン、血液浸透圧、血液の緩衝性について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第10回	影山晴秋	ヘモグロビン濃度とヘマトクリット値の測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また平均赤血球容積、平均赤血球ヘモグロビン濃度、平均赤血球ヘモグロビン量について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第11回	影山晴秋	血糖値の測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またインスリン、インスリン追加分泌、インクレチン、深部体温、皮膚温について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第12回	影山晴秋	1回から4回までのまとめのプレゼンテーションと確認小テスト	1回から4回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、生理学的視点から説明できるようにする。	予習45分：1回から4回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。
第13回	影山晴	5回から8回までのまとめのプレゼンテーショ	5回から8回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼン	予習45分：5回から8回までの配布プリントを使って、生理機能を説

	秋	ンと確認小テスト	テーションを行い、生理学視点から説明できるようにする。	明できるようにしておくこと。
第14回	影山晴秋	身長・体重、BMI、体脂肪の測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またBMI、インピーダンス法について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第15回	影山晴秋	9回から12回までのまとめのプレゼンテーションと確認小テスト	9回から12回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、生理学的視点から説明できるようにする。	予習45分：９回から12回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。

教科書

配布プリント
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（解剖生理学の講義で使用した教科書）

参考書

使用しない

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
まとめの時間に行うプレゼンテーション10%、確認小試験30%、レポート課題60%で評価する。
ただし、レポート課題は毎回グループワークとし、グループの中で課題を解決すること。欠席した回のレポート課題点は無しとする。

課題等に対するフィードバックの方法

レポートは、1）実験の結果に基づいて考察を行う、2）課題問題について生理学の理屈に合うようにまとめる。以上 2点について3段階評価を行う。レポート返却後、指摘された箇所は必ずもう一度調べ、訂正する。

履修のポイント

解剖生理学の講義の復習になりますので、この実習を通して、知識を定着する。他人に依存せず、実習に積極的に取り組むこと。実験結果についてグループディスカッションとまとめを行いますので、予習欄に示したキーワードを必ず調べておくこと。

オフィス・アワー

実習開始前もしくは終了時、実習室で質問に応じます。Teamsのチャットでも質問に応じます。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R130

講義コード	20470002
講義名	解剖生理学実験II（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

解剖生理学の講義内容を自身の体や試験管内の生理学実験を通じで理解する。また栄養の消化・吸収・代謝・排泄などの理解に役立てるような実験を行う。また計測した数値から自分の体の状態を読み取り、体で起きていることを生理学的に考える内容となる。解剖生理学の講義で学んだことが、日常生活の中で感じたり、イメージすることがほとんどない。そこで講義で修得した知識と自分の体の中で起きていることを結びつけ、実感してもらうのが本実習の目標である。
また今年度は第12回、第13回、第15回目に個人発表を行い、体のしくみについて理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、管理栄養士として、栄養アセスメント、栄養指導や栄養療法を行う上で必要となる人体の生理機能について理解を深める。

到達目標

1. 実験に積極的に取り組み、得られた結果に対して客観的な評価と生理学的な考察ができる。
2. 人体の生理機能や仕組みについて正しく説明できる。
3. 生理機能検査の意義・原理・方法を説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	影山晴	実験のガイダンス（実験の注意事項、成績の評価法） 透析膜による腹	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また拡散、半透性、尿試験紙による測定項目について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリント

	秋	膜透析類似効果と尿の観察		と教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第2回	影山晴秋	血液クレアチニンの測定、推算糸球体濾過（eGFR）の評価	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またクレアチニンクリアランス、糸球体濾過量、推算糸球体濾過について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第3回	影山晴秋	肺活量、ピークフローメーター、パルスオキシメーターによる肺機能評価	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また呼吸中枢、肺活量、1秒率、慢性閉塞性肺疾患について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第4回	影山晴秋	自己血圧測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また収縮期血圧が示すこと、拡張期血圧が示すこと、血圧の神経性調節、血圧の液性調節について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第5回	影山晴秋	空腹時と自由摂食時の肝グリコーゲン測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また血糖上昇作用ホルモン、GLUT4、ヘキソキナーゼ、グルコキナーゼ、グルコース６−ホスファターゼについて調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第6回	影山晴秋	血中遊離脂肪酸の測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またホルモン感受性リパーゼ、リポタンパク質リパーゼ、オートファジー、ユビキチンープロテアソーム系について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
				予習20分：実習に該当する範囲

第7回	影山晴秋	末梢血球の観察と血球数測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	の教科書を事前に読んでおくこと。またエリスロポエチン、血液浸透圧、血液の緩衝性について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第8回	影山晴秋	ヘモグロビン濃度とヘマトクリット値の測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。また平均赤血球容積、平均赤血球ヘモグロビン濃度、平均赤血球ヘモグロビン量について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第9回	影山晴秋	唾液による消化と唾液の性質	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またアミラーゼ、単糖類、アミロース、アミノペクチン、α1,4結合、膜消化、管腔内消化について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第10回	影山晴秋	胃液、膵液、小腸の膜消化酵素による消化	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またペプシン、トリプシン、リパーゼ、膜消化について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第11回	影山晴秋	血糖値の測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またインスリン、インスリン追加分泌、インクレチン、深部体温、皮膚温について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第12回	影山晴秋	1回から4回までのまとめのプレゼンテーションと確認小テスト	1回から4回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、生理学的視点から説明できるようにする。	予習45分：1回から4回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。
		5、6、9、10回	5、6、9、10回までの実習内	

第13回	影山晴秋	までのまとめのプレゼンテーションと確認小テスト	容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、生理学視点から説明できるようにする。	予習45分：5、6、9、10回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。
第14回	影山晴秋	身長・体重、BMI、体脂肪の測定	実験結果と課題のグループディスカッションとまとめ	予習20分：実習に該当する範囲の教科書を事前に読んでおくこと。またBMI、インピーダンス法について調べておくこと。 復習25分：配布されたプリントと教科書を使って、実習内容をその日のうちにノートをまとめ、疑問点を調べて解決する。
第15回	影山晴秋	7、8、11、12回までのまとめのプレゼンテーションと確認小テスト	7、8、11、12回までの実習内容の範囲から、1つテーマを与えて、そのテーマに沿ってホワイトボードを使ってプレゼンテーションを行い、生理学的視点から説明できるようにする。	予習45分：7、8、11、12回までの配布プリントを使って、生理機能を説明できるようにしておくこと。

教科書

配布プリント
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（解剖生理学の講義で使用した教科書）

参考書

使用しない

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
まとめの時間に行うプレゼンテーション10%、確認小試験30%、レポート課題60%で評価する。
ただし、レポート課題は毎回グループワークとし、グループの中で課題を解決すること。欠席した回のレポート課題点は無しとする。

課題等に対するフィードバックの方法

レポートは、1）実験の結果に基づいて考察を行う、2）課題問題について生理学の理屈に合うようにまとめる。以上 2点について3段階評価を行う。レポート返却後、指摘された箇所は必ずもう一度調べ、訂正する。

履修のポイント

解剖生理学の講義の復習になりますので、この実習を通して、知識を定着する。他人に依存せず、実習に積極的に取り組むこと。実験結果についてグループディスカッションとまとめを行いますので、予習欄に示したキーワードを必ず調べておくこと。

オフィス・アワー

実習開始前もしくは終了時、実習室で質問に応じます。Teamsのチャットでも質問に応じます。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R130

講義コード	20480001
講義名	生化学I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

ヒトの生命現象について、細胞及び分子のレベルで学習する。生体構成成分であるタンパク質、糖、脂質、ビタミン、核酸など分子構造・機能・性質について学ぶ。また、遺伝情報の伝達系、遺伝情報に基づく生体構成成分の合成及び生体応答の変化についても学ぶ。
本科目では、生体を構成する物質の特性を学び、複雑な生命現象を理解するために必要な基礎知識の定着を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目群として医療保健学部栄養学科の専門基礎科目必須科目の1つである。栄養学を理解する上で、生化学は必須である。生化学の知識を身に着け、専門科目（基礎栄養学、臨床栄養学、応用栄養学など）の理解に密接につなげることを目標とする。

到達目標

生体構成成分の基本構造、機能、性質、および、遺伝情報の伝達について学び、生命現象と生体分子のつながりを理解する。
１、生体基本構成成分である糖、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸、ビタミンの構造、機能、生体内での役割を理解する。
２、遺伝情報の伝達系、遺伝情報に基づく生体構成成分の合成、及び、生体反応の変化を理解する。
３、日進月歩で進む生化学領域の技術の原理を理解できるようにする。
４、自分で教科書を読み、大切なところを理解・記憶する力をつける。予習、復習の習慣をつけ、授業の内容を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		今までの知識の確認 生化学第一章		

第1回	小林葉子	ヒトの体の基本単位である細胞概説し、ヒトを構成する基本物質の種類について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	高校までの基礎知識を確認するため、生物・化学の問題を解く。 自ら及び学生相互に答えを導き出す。	予習90分 復習90分： テキストを読み、細胞の基本構造と基本物質の特徴をノートにまとめる。
第2回	小林葉子	大学生物の教科書 第6章 DNAとRNAの構造 細胞分裂 細胞周期 DNAの複製について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら及び学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：DNAとRNAの構造 細胞分裂 細胞周期 DNAの複製の部分のテキストを読み、ノートにまとめる。
第3回	小林葉子	大学生物の教科書 第8章 DNAと遺伝における役割について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら及び学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：DNAと遺伝における役割の部分のテキストを読み、ノートにまとめる。
第4回	小林葉子	大学生物の教科書 第9章 DNAからタンパク質、遺伝子型から表現型について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら及び学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：DNAからタンパク質、遺伝子型から表現型までの部分のテキストを読み、ノートにまとめる。
第5回	小林葉子	大学生物の教科書 第11章 真核生物のゲノムと遺伝子発現（微生物との違い）について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	真核生物のゲノムと遺伝子発現の部分のテキストを読み、ノートにまとめる。微生物については、各自で本を読み理解する。 前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら及び学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：DNAからタンパク質、遺伝子型から表現型までの部分のテキストを読み、ノートにまとめる。
第6回	小林葉子	生化学 21章 遺伝子解析で分かること 遺伝子解析について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：遺伝子解析で分かることの部分のテキストを読み、ノートにまとめる。生化学実験で理解を深める
第7回	小林葉子	生化学 第2章 糖質 糖質の分子構造と機能、分類、生体内での役割について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：章末問題を解き、理解できたところとできていないところを明確する。理解できていない範囲を教科書を読み理解する。
				予習90分：学習範囲の教

第8回	小林葉子	生化学 第 章 脂質 脂質の分子構造、機能、分類、特性について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	科書を読む 復習90分：章末問題を解き、理解できたところとできていないところを明確する。理解できていない範囲を教科書を読み理解する。
第9回	小林葉子	生化学 第4章 アミノ酸・タンパク質 アミノ酸、タンパク質の分子構造、機能、分類、特性について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：章末問題を解き、理解できたところとできていないところを明確する。理解できていない範囲を教科書を読み理解する。
第10回	小林葉子	生化学 第5章 核酸 核酸の基本構造、ヌクレオチドとヌクレオシド、DNAとRNAの構造について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：章末問題を解き、理解できたところとできていないところを明確する。理解できていない範囲を教科書を読み理解する。
第11回	小林葉子	生化学 第6章 酵素1 酵素・酵素反応・分類、酵素反応速度論について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：章末問題を解き、理解できたところとできていないところを明確する。理解できていない範囲を教科書を読み理解する。
第12回	小林葉子	生化学 第6章 酵素2 酵素の阻害について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：章末問題を解き、理解できたところとできていないところを明確する。理解できていない範囲を教科書を読み理解する。
第13回	小林葉子	生化学 第7章 ビタミン ビタミンの機能と細胞内分布ついて、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：章末問題を解き、理解できたところとできていないところを明確する。理解できていない範囲を教科書を読み理解する。
第14回	小林葉子	生化学 第8章 ミネラル ミネラルの機能と細胞内分布について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、自ら、及び、学生相互に答えを導き出す。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：章末問題を解き、理解できたところとできていないところを明確する。理解できていない範囲を教科書を読み理解する。

第15回	小林葉子	生化学Iの全学習範囲のまとめ 学習範囲全範囲の総合問題を提示し、知識の定着を確認する。	総合問題終了後、各自、及び、学生相互で問題の解答を見出し、誤っていた場合には、正しい知識の定着をはかる。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：章末問題を解き、理解できたところとできていないところを明確する。理解できていない範囲を教科書を読み理解する。

教科書

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学 D.Sadava ら ブルーバックス
生化学 人体と構造と機能 その疾病の成り立ち 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 石堂一巳/福渡勉 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

時間内の総合問題及び小テストで60点以上 （総合問題 80% 小テスト20%）

課題等に対する
フィードバックの方法

毎時間の小テスト終了後に簡単な説明を行う。解説をきいても理解できなかった場合には、解説終了後に質問時間を設けるのでその時間に質問をする。
授業中に質問を促すので、わからないことは積極的に時間内に聞くようにする。

履修のポイント

生命現象を分子レベルで理解するために必要な生体物質の構造と機能を中心に学ぶ。理解度によりシラバスを変更する場合もある。
授業のスライド配布しない。ポストイットの利用など工夫をすること。
15回で範囲の講義を行うため、授業の進行速度が速い。予習、復習を自ら行う必要がある。小テスト問題や教科書内の問題を使って、授業後に理解の確認を各自で行うこと。

オフィス・アワー

月から金曜日の昼休み(ただし、3限に授業のある日は除く) 11号館3階16研究室

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R124

講義コード	20490001
講義名	生化学II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	２時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

生化学Iで学習した内容を基礎として、エネルギー代謝、生体構成成分の代謝、代謝経路、代謝調節について学ぶ。糖代謝、アミノ酸の代謝、脂質の代謝、さらには核酸からタンパク質の生合成、細胞内情報伝達を理解する。体の中で自然と生じている生体応答を理解する。
本科目では、栄養素の体内での代謝、生体内での栄養素の相互作用を中心に学び、栄養素の生理作用の基礎知識の定着を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間と環境の理解」を主軸に、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目群として「医療保健学部栄養学科の専門基礎科目必須科目に配当された科目の1つである。生化学の内容のみならず、専門科目である基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学の理解に結び付けることを目標とする。

到達目標

ヒトの体の中で生じてる様々な生命現象のもととなる栄養素の代謝を１）～４）を中心に理解する。
１）代謝経路の名称、役割、特性、反応、調節
２）代謝にかかわる酵素と調節制御および臓器による違い
３）遺伝要因と代謝のかかわり
４）代謝を制御する仕組み

生化学の上記の4項目を中心に理解し、専門基礎科目 人体と構造と機能その疾病の成り立ちの全体の理解につなげる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		生化学Iの復習 栄養素の構造と機能の概論		

第1回	小林葉子	タンパク質、糖質、脂質の吸収、代謝の意味、代謝にかかわる細胞内小器官、物質の輸送 生体エネルギー、ATPと高エネルギー化合物、電子伝達系、酸化的リン酸化 復習をかね、スライドを用いて解説する。	授業前に生化学Iの学習内容を確認する。	予習90分：学習範囲の教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを用いて、学習範囲の知識の定着を図る
第2回	小林葉子	酵素・補酵素の役割、酵素の反応の調節について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第3回	小林葉子	糖質の代謝 解糖について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第4回	小林葉子	糖質の代謝 クエン酸回路について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第5回	小林葉子	糖質の代謝 糖新生、ペントースリン酸回路、その他の回路について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
		脂質の代謝	前回の授業範囲の小テスト	予習90分：学習範囲の

第6回	小林葉子	脂肪酸の分解 （β酸化）について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	を行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	教科書を読む 復習90分：生化学ドリルを用いて、学習範囲の知識の定着を図る
第7回	小林葉子	脂質の代謝 脂肪酸の生合成、コレステロールの生合成について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第8回	小林葉子	アミノ酸の代謝 アミノ酸の分解、アミノ酸の窒素の代謝、代謝によるアミノ酸の分類について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第9回	小林葉子	アミノ酸・ヌクレオチドの代謝 アミノ酸からのグルコース、ケトン体への代謝、アミノ酸の生合成 ヌクレオチドの合成、分解、再生スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第10回	小林葉子	代謝の相互関係 糖質、脂質、アミノ酸代謝の相互作用、ホルモンの作用について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第11回	小林葉	情報伝達１ 情報伝達物質、細胞内情報伝達（概要）について、スライド、教科書、	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学

	子	参考書を用いて解説する。	な解説を行うので、各自で解答を作成する。	ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第12回	小林葉子	情報伝達２ 細胞内情報伝達 （受容体と情報伝達経路）について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第13回	小林葉子	情報伝達３ 細胞内情報伝達（インスリン、アドレナリン、グルカゴンの作用機序）について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第14回	小林葉子	遺伝子発現 栄養素による遺伝子発現調節、その他の遺伝子発現調節について、スライド、教科書、参考書を用いて解説する。	前回の授業範囲の小テストを行い、知識の定着を確認する。小テスト後、前回の復習を兼ね小テストの簡単な解説を行うので、各自で解答を作成する。	予習90分：授業の範囲をシンプル生化学を使って学習する。わからない言葉は、調べてノートにまとめる。 復習90分：：「生化学ドリル」を使用して、授業の学習範囲を復習する。わからない点があれば、シンプル生化学を使用して調べる。
第15回	小林葉子	生化学IIの学習範囲の総合的なまとめ 生化学II全範囲の総合問題を解き、理解の確認、弱点の発見を行う。結果から、自ら学習し、理解力の促進につなげる。	生化学IIの授業範囲の総合問題に取り組む。指定された課題に対して回答を求め、終了後、各自、及び学生間で解答を求める。	予習120分：学習範囲の教科書、小テストの再確認を行う。 復習60分：政党のできなかった部分を教科書を再度読み、正しい知識の定着を勧める。

教科書

シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版
生化学ドリル 田村 隆明 南山堂

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

時間内の総合問題及び小テストで60点以上 (総合問題 80% 小テスト20%）

課題等に対する フィードバックの方法
小テストは、試験終了後に簡単な説明を行う。解説をきいても理解できなかった場合には、解説終了後に質問時間を設けるのでその時間に質問をする。 授業中に質問を促すので、わからないことはその時間に聞くようにする。
履修のポイント
2回目以降は、前回の授業範囲内の小試験を行う。生体構成成分の代謝経路の名称、特性を理解する。授業で行った範囲を配布プリント・生化学ドリルを使って必ず復習すこと。理解度によりシラバスの変更をする場合がある。 授業で使用したスライドは配布しない。 15回で範囲の講義を行うため、授業の進行速度が速い。授業前に学習ノートを作成し、授業中に学習したことを書き込むようにする。授業後は、教科書と合わせ授業内容の理解を深める。時間内の質問など、積極的に授業に参加し、受講者間の知識の共有をはかる。
オフィス・アワー
月から金曜日の昼休み(ただし、3限に授業のある日は除く) 11号館3階16研究室
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R131

講義コード	20500001
講義名	生化学実験I（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

生化学・栄養学で使用する器具・機器分析の基本操作・技術を学ぶ。生化学で学んだ糖・タンパク質・核酸などの構造、物性、化学的性質、生体機能に関する知識をさらに深めるための基本的な実験を行う。また、自分の体から得た生体試料を用いることにより、自分の体の特徴を知る。実験から得られた結果を読みとり、それをまとめ、文章、口頭で発表ができるようにすることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目群として栄養学科専門基礎科目に配置された人体と構造機能・その疾病の成り立ちの分野の必須科目である。生化学実験を通し、生化学の理解を深めることを目標とする。

到達目標

実験を通して生化学Iで学んだタンパク質や核酸の特性を理解する。
１、実験ノートを記録し、実験結果に対する考察ができる。
２、形式にそったレポートが書ける。
３、実験で得られた知見をパワーポイントを使って発表できる。
４、実験器具の基本操作、化学計算、単位換算を理解する。
５、生体成分であるタンパク質、核酸の機能、性質を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	小林葉子	実験の心得 実験上の注意、器具の取り扱い、試薬の取り扱い、身支度、事故、けがの対応について	自ら手を動かし、実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験の

		器具を使った基礎実習		レポートを書く
第2回	小林葉子	実験準備 UV法によるタンパク質の定量-1 溶液をつくるための計算、試薬の調整、UV法によるタンパク質の定量	実験で使用する溶液量を計算し、各班ごとに確認をする。受講者の計算したものをもとにして必要な試薬を作成する。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第3回	小林葉子	タンパク質の定量 -2 検量線の作成、タンパク質の定量 (ローリー法、UV法)。濃度の算定	実験で使用する溶液量を計算し、各班ごとに確認をする。受講者の計算したものをもとにして必要な試薬を作成する。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第4回	小林葉子	タンパク質の定量 -3 タンパク濃度未知試料のタンパク質の定量 (ローリー法。濃度の算定	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 各自の試料があるので、各自が実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第5回	小林葉子	DNA の抽出 試薬の調整 機器の取り扱い トリ肝臓からの DNA の抽出、DNA の定量（UV法)	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 各自の試料があるので、各自が実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第6回	小林葉子	DNA の抽出 トリ肝臓からの DNA の抽出、DNA の定量（UV法)及び濃度計算 DNAの性質についての概説	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 各自の試料があるので、各自が実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第7回	小林葉子	生体から抽出したDNA実験の基礎 PCR の概説、試薬の調整、実験器具・機器の整備	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	ゲノム使用の承諾書を次週の実験前までに提出 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第8回	小林葉子	DNAの扱いについての説明、各自の DNA の抽出	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
	小	抽出したDNAの定	各班ごとに議論を進めながら	1単位を1時間（60分）として

第9回	林葉子	量、PCR 反応溶液の作成、PCR による遺伝子の増幅	実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第10回	小林葉子	アガロースゲル電気泳動法による遺伝子型の解析	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第11回	小林葉子	PCR 産物の解析 制限酵素のよる切断、アガロース電気泳動による解析	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第12回	小林葉子	生体反応とゲノム情報との関連 アルコールパッチテストによる生体応答の検出/実験に使用した器具の片付け プレゼンテーションの方法の説明	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第13回	小林葉子	プレゼンテーション 授業で行った実験について、各自の結果及び考察を含めた発表を行う。	実験結果について各自、考察し、実験についてのプレゼンテーションを行う。他の発表者の発表を聴き、質問、評価する。	プレゼンテーション：講義室 プレゼンテーションタイトル提出 プレゼンテーションのためのスライドの提出 1単位を1時間（60分）として 予習30分：発表のスライドを作成する復習15分：質問に対して答えられなかったことを確認して提出する
第14回	小林葉子	プレゼンテーション 授業で行った実験について、各自の結果及び考察を含めた発表を行う。	実験結果について各自、考察し、実験についてのプレゼンテーションを行う。他の発表者の発表を聴き、質問、評価する。	1単位を1時間（60分）として 予習30分：発表のスライドを作成する復習15分：質問に対して答えられなかったことを確認して提出する
第15回	小林葉子	タンパク質の定量、DNAの定量、遺伝子操作の範囲のまとめの問題を解き、理解度を測る。	授業で行った実験についてのまとめの問題を解く。	授業前準備：授業中に自分の考えのまとめを作成するため、必要なものを各自で準備する。

教科書
実験書配布

参考書
カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学 D.Sadava ら ブルーバックス 生化学 人体と構造と機能 その疾病の成り立ち 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 石堂一巳/福渡勉 南江堂 増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版
成績評価の方法・基準
レポート(3回のレポート）、プレゼンテーション、及び時間内のまとめの問題の得点の平均点が60点以上 （レポート 3回分 60% プレゼンテーション 20%、まとめの問題の得点 20%)
課題等に対する フィードバックの方法
提出されたレポートに対して授業内でコメントする。レポート課題についての質問は積極的に授業内ですることが望ましい。
履修のポイント
実験前には実験テキストを読み、手順等を理解する。実験後は実験内容を整理し、内容を理解する。実験レポート(レポート課題含む）は各項目ごとに提出する。最終段階で、各自、プレゼンテーションのためのスライドや原稿を作成し、発表を行う。 自分の体から得た生体試料を用い、自分の体の特徴を知る。実験に必要な計算も時間内で行なう。実験結果の読み方、計算方法が理解できな場合は、実験の待ち時間等を利用し、積極的に質問、受講者間での学び合いをする。 レポートは、Moodle (教育オンラインシステム）を利用して提出する。
オフィス・アワー
月、火、水、木 お昼休み （3限に授業のある日は不可）11号館3階16研究室
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R125

講義コード	20500002
講義名	生化学実験I（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期（重複②）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

生化学・栄養学で使用する器具・機器分析の基本操作・技術を学ぶ。生化学で学んだ糖・タンパク質・核酸などの構造、物性、化学的性質、生体機能に関する知識をさらに深めるための基本的な実験を行う。また、自分の体から得た生体試料を用いることにより、自分の体の特徴を知る。実験から得られた結果を読みとり、それをまとめ、文章、口頭で発表ができるようにすることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、栄養学科専門基礎科目人体と構造機能・その疾病の成り立ちの分野の必須科目である。生化学実験を通し、生化学の理解を深めることを目標とする。

到達目標

実験を通して生化学Iで学んだタンパク質や核酸の特性を理解する。
１、実験ノートを記録し、実験結果に対する考察ができる。
２、形式にそったレポートが書けるようにする。
３、実験で得られた知見をパワーポイントを使って発表できる。
４、実験器具の基本操作、化学計算、単位換算を理解する。
５、生体成分であるタンパク質、核酸の機能、性質を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	小林葉子	実験の心得 実験上の注意、器具の取り扱い、試薬の取り扱い、身支度、事故、けがの対応について 器具を使った基礎実	自ら手を動かし、実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く

		習		
第2回	小林葉子	実験準備 UV法によるタンパク質の定量-1 溶液をつくるための計算、試薬の調整、UV法によるタンパク質の定量	実験で使用する溶液量を計算し、各班ごとに確認をする。受講者の計算したものをもとにして必要な試薬を作成する。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第3回	小林葉子	タンパク質の定量 -2 検量線の作成、タンパク質の定量 (ローリー法、UV法)。濃度の算定	実験で使用する溶液量を計算し、各班ごとに確認をする。受講者の計算したものをもとにして必要な試薬を作成する。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第4回	小林葉子	タンパク質の定量 -3 タンパク濃度未知試料のタンパク質の定量 (ローリー法。濃度の算定	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 各自の試料があるので、各自が実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第5回	小林葉子	DNA の抽出 試薬の調整 機器の取り扱い トリ肝臓からの DNA の抽出、DNA の定量（UV法)	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 各自の試料があるので、各自が実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第6回	小林葉子	DNA の抽出 トリ肝臓からの DNA の抽出、DNA の定量（UV法)及び濃度計算 DNAの性質についての概説	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 各自の試料があるので、各自が実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第7回	小林葉子	生体から抽出したDNA実験の基礎 PCR の概説、試薬の調整、実験器具・機器の整備	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	ゲノム使用の承諾書を次週の実験前までに提出 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第8回	小林葉子	DNAの扱いについての説明、各自の DNA の抽出	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
	小林	抽出したDNAの定量、PCR 反応溶液の	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキス

第9回	葉子	作成、PCR による遺伝子の増幅	自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	トを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第10回	小林葉子	アガロースゲル電気泳動法による遺伝子型の解析	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第11回	小林葉子	PCR 産物の解析 制限酵素のよる切断、アガロース電気泳動による解析	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第12回	小林葉子	生体反応とゲノム情報との関連 アルコールパッチテストによる生体応答の検出/実験に使用した器具の片付け プレゼンテーションの方法の説明	各班ごとに議論を進めながら実験を行う。 自らの生体試料を用いた実験のため、自分の試料は自分で実験を行う。	レポート提出 レポート締切 2週間後の前曜日 1単位を1時間（60分）として 予習15分：実験のテキストを読む 復習30分：行った実験のレポートを書く
第13回	小林葉子	プレゼンテーション 授業で行った実験について、各自の結果及び考察を含めた発表を行う。	実験結果について各自、考察し、実験についてのプレゼンテーションを行う。他の発表者の発表を聴き、質問、評価する。	プレゼンテーション：講義室 プレゼンテーションタイトル提出 プレゼンテーションのためのスライドの提出 1単位を1時間（60分）として 予習30分：発表のスライドを作成する復習15分：質問に対して答えられなかったことを確認して提出する
第14回	小林葉子	プレゼンテーション 授業で行った実験について、各自の結果及び考察を含めた発表を行う。	実験結果について各自、考察し、実験についてのプレゼンテーションを行う。他の発表者の発表を聴き、質問、評価する。	1単位を1時間（60分）として 予習30分：発表のスライドを作成する復習15分：質問に対して答えられなかったことを確認して提出する
第15回	小林葉子	タンパク質の定量、DNAの定量、遺伝子操作の範囲のまとめの問題を解き、理解度を測る。	授業で行った実験についての問題を解く。	授業前準備：授業中に自分の考えのまとめを作成するため、必要なものを各自で準備する。

教科書

実験書配布

参考書

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第2巻 分子遺伝学 D.Sadava ら ブルーバックス
生化学 人体と構造と機能 その疾病の成り立ち 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 石堂一巳/福渡勉 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版

成績評価の方法・基準

レポート(3回のレポート）、プレゼンテーション、及び時間内のまとめの問題の得点の平均点が60点以上 （レポート 3回分 60% プレゼンテーション 20%、まとめの問題の得点 20%)

課題等に対する フィードバックの方法

提出されたレポートに対して授業内でコメントする。レポート課題についての質問は積極的に授業内ですることが望ましい。

履修のポイント

実験前には実験テキストを読み、手順等を理解する。実験後は実験内容を整理し、内容を理解する。実験レポート、及び、課題は各項目ごとに提出する。最終段階で、各自、プレゼンテーションのためのスライドや原稿を作成し、発表を行う。

自分の体から得た生体試料を用い、自分の体の特徴を知る。実験に必要な計算も時間内で行なう。実験結果の読み方、計算方法が理解できな場合は、実験の待ち時間等を利用し、積極的に質問、受講者間での学び合いをする。

レポートは、Moodle (教育オンラインシステム）を利用して提出する。

オフィス・アワー

月、火、水、木 お昼休み （3限に授業のある日は不可）11号館3階16研究室

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R125

講義コード	20510001
講義名	生化学実験II（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

近年、生化学・栄養学領域では、遺伝子組換え技術を応用した開発が進んでいる。遺伝子組換え技術の法的規制、法的規制に従い遺伝子組換え実験の基礎を学習する。そして、遺伝子組換え技術の有効性、問題点を考察する。遺伝子組換え実験の過程で使用するざまざまな酵素を用いて、酵素の特性、酵素活性検出法を学ぶ。
遺伝子組換え実験を通し、これらの技術の有効性を理解し、問題点を提案する力をつける事を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目群として栄養学科専門基礎科目人体の構造と機能・その疾病の成り立ちの必須科目である。生化学実験を通し、生化学の理解を深め、法的規制を理解する。法的規制を遵守し、実験を行い、論文としてまとめる力をつけることを目標とする。

到達目標

１）酵素実験法、酵素の特性、機能、活性検出法の基礎知識を身に付ける。
２）遺伝子組換え技術の基本操作ができる。
３）自らで実験計画を立て、遂行できる。
４）行った実験を論文形式でまとめることができる。
５）法的規制の理解と遵守ができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	小林葉	遺伝子組換え技術の法的規制 遺伝子組換え安全講習を行い、組換え体の封じ込み、法的規制、名		1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む

	子	称学ぶ。 実験ノートの記述の必要性についての説明		復習45分：レポートとして、まとめる
第2回	小林葉子	遺伝子組換え技術概論1 遺伝子組換え実験の手順、操作法を学ぶ。	ペーパークラフトを使って、模擬遺伝子組換え実験を行う。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる レポート提出：遺伝子組換え実験実験計画書の作成
第3回	小林葉子	クイズ：制限酵素の特性を使った未知試料の同定 計画の立案 未知試料に対する情報を提示する。情報をもとに、各班で実験計画を組み、結果から未知試料が何か明らかにする。 各班ごとに実験計画を組み、必要試薬を提示する。	各班で実験計画を組み、必要試薬を提示する。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第4回	小林葉子	クイズ：制限酵素の特性を使った未知試料の同定 遺伝子組換え実験に使用する試薬の調整の濃度計算 遺伝子組換え実験で使用する英単語の意味調べ	各班で必要な材料を考え、作成する。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第5回	小林葉子	クイズ：制限酵素の特性を使った未知試料の同定 未知試料を明らかにするための実験	各班ごとに考えた実験方法で実験を行う。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第6回	小林葉子	クイズ：制限酵素の特性を使った未知試料の同定 未知試料を明らかにするための実験 遺伝子組換え実験の準備：アガロースゲル、寒天培地などの作成	各班ごとに考えた実験方法で実験を行う。	レポート提出・試験 1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第7回	小林	遺伝子組換え実験 プラスミドの調整 GFP遺伝子を含むプラ	提示された材料を使用し、各自で実	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む

	葉子	スミドの抽出、電気泳動によるプラスミドの確認 （P1実験）	験を進める。	復習45分：結果等をノートにまとめる
第8回	小林葉子	遺伝子組換え実験 制限酵素についての理解と制限酵素を使用した基本的な実験 GFP遺伝子を含むDNA領域の制限酵素による切断 （P1実験） 実験講義（DNA断片長の求め方、電気泳動によるDNA長の求め方)	提示された材料を使用し、各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第9回	小林葉子	遺伝子組換え実験 DNA断片の生成 制限酵素で切断したプラスミドを電気泳動し、目的のDNA断片を切り出し、精製する。（P1実験）	提示された材料を使用し、各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第10回	小林葉子	遺伝子組換え実験 DNA断片の接合 目的の DNA 断片をベクターに挿入(ライゲーション)、大腸菌への形質転換 （P1実験）	各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第11回	小林葉子	遺伝子組み換え実験 形質転換腸菌の確認、コロニーPCR、講義（P1実験）	各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第12回	小林葉子	遺伝子組換え実験 アガロースゲルによる検出、形質転換大腸菌の培養 （P1実験）	各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第13回	小林葉子	遺伝子組換え実験 大腸菌に発現したタンパク質を確認する。タンパク質の特性の確認（P1実験）	各班で得られた結果をまとめる。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる 時間内でまとめた実験ノート提出
第14回	小林葉子	遺伝子組換え実験 大腸菌に発現したタンパク質を確認する。タンパク質の特性の確認（P1実験）	カルテヘナ法に従い、遺伝子組換え生物の廃棄する。 遺伝子組換え実験のレポートを作成する。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめるまとめた実験ノート提出 （授業時間内）
第15回	小林葉	遺伝子組換え実験について、法律、手技、結果の読み方等について	遺伝子組換え実験について、手法、実験データの読み方等についてまと	レポート提出：実験計画書、各自でみどりに光る大腸菌を作成するための実験手順書を作成し提出する。各自で作成したものが今後の実験書になる。1時間を60分として

	子	まとめのレポートを作成する。	め、実験を考察する。	予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる

教科書

実験書配布

参考書

シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上：レポート(実験計画書、および、制限酵素を用いた実験）、実験ノート、及び時間内に作成したレポート（遺伝子組え実験）の平均点として求める。

課題等に対する
フィードバックの方法

提出されたレポートに対して、授業内で全体にコメントをする。

履修のポイント

実験前に実験書を読み、実験内容を理解する。実験中に実験記録（ノート）を必ず作成し、実験毎に実験内容を整理する。連続実験が多いため、実験内容の理解を怠らないようにする。レポートはMoodle（オンライン教育システム）を使って提出する。遺伝子組換え実験の実験ノートは最終実験日の時間内に提出する。遺伝子組換え実験の内容の理解度は、時間内で作成したレポートではかる。
各班、及び、各自で考え、行動するアクティブラーニングを中心とする授業であり、積極的に参加する。

オフィス・アワー

月～金 お昼休み （3限に授業のある日は不可） 11号館3階16研究室

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R132

講義コード	20510002
講義名	生化学実験II（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

近年、生化学・栄養学領域では、遺伝子組換え技術を応用した開発が進んでいる。遺伝子組換え技術の法的規制、法的規制に従い遺伝子組換え実験の基礎を学習する。そして、遺伝子組換え技術の有効性、問題点を考察する。遺伝子組換え実験の過程で使用するざまざまな酵素を用いて、酵素の特性、酵素活性検出法を学ぶ。
遺伝子組換え実験を通し、これらの技術の有効性を理解し、問題点を提案する力をつける事を目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・環境・栄養・食品・生活」に関する理解に基づく観察力や判断能力を養うとともに、保健・医療分野を支えるための総合的な科目群として栄養学科専門基礎科目人体の構造と機能・その疾病の成り立ちの必須科目である。生化学実験を通し、生化学の理解を深め、法的規制を理解する。法的規制を遵守し、実験を行い、論文としてまとめる力をつけることを目標とする。

到達目標

１）酵素実験法、酵素の特性、機能、活性検出法の基礎知識を身に付ける。
２）遺伝子組換え技術の基本操作ができる。
３）自らで実験計画を立て、遂行できる。
４）行った実験を論文形式でまとめることができる。
５）法的規制の理解と遵守ができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	小林葉	遺伝子組換え技術の法的規制 遺伝子組換え安全講習を行い、組換え体の封じ込み、法的規制、名		1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む

	子	称学ぶ。 実験ノートの記述の必要性についての説明		復習45分：レポートとして、まとめる
第2回	小林葉子	遺伝子組換え技術概論1 遺伝子組換え実験の手順、操作法を学ぶ。	ペーパークラフトを使って、模擬遺伝子組換え実験を行う。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる レポート提出：遺伝子組換え実験実験計画書の作成
第3回	小林葉子	クイズ：制限酵素の特性を使った未知試料の同定 計画の立案 未知試料に対する情報を提示する。情報をもとに、各班で実験計画を組み、結果から未知試料が何か明らかにする。 各班ごとに実験計画を組み、必要試薬を提示する。	各班で実験計画を組み、必要試薬を提示する。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第4回	小林葉子	クイズ：制限酵素の特性を使った未知試料の同定 遺伝子組換え実験に使用する試薬の調整の濃度計算 遺伝子組換え実験で使用する英単語の意味調べ	各班で必要な材料を考え、作成する。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第5回	小林葉子	クイズ：制限酵素の特性を使った未知試料の同定 未知試料を明らかにするための実験	各班ごとに考えた実験方法で実験を行う。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第6回	小林葉子	クイズ：制限酵素の特性を使った未知試料の同定 未知試料を明らかにするための実験 遺伝子組換え実験の準備：アガロースゲル、寒天培地などの作成	各班ごとに考えた実験方法で実験を行う。	レポート提出・試験 1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第7回	小林	遺伝子組換え実験 プラスミドの調整 GFP遺伝子を含むプラ	提示された材料を使用し、各自で実	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む

	葉子	スミドの抽出、電気泳動によるプラスミドの確認 （P1実験）	験を進める。	復習45分：結果等をノートにまとめる
第8回	小林葉子	遺伝子組換え実験 制限酵素についての理解と制限酵素を使用した基本的な実験 GFP遺伝子を含むDNA領域の制限酵素による切断 （P1実験） 実験講義（DNA断片長の求め方、電気泳動によるDNA長の求め方)	提示された材料を使用し、各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第9回	小林葉子	遺伝子組換え実験 DNA断片の生成 制限酵素で切断したプラスミドを電気泳動し、目的のDNA断片を切り出し、精製する。（P1実験）	提示された材料を使用し、各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第10回	小林葉子	遺伝子組換え実験 DNA断片の接合 目的の DNA 断片をベクターに挿入(ライゲーション)、大腸菌への形質転換 （P1実験）	各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第11回	小林葉子	遺伝子組み換え実験 形質転換腸菌の確認、コロニーPCR、講義（P1実験）	各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる
第12回	小林葉子	遺伝子組換え実験 アガロースゲルによる検出、形質転換大腸菌の培養 （P1実験）	各自で実験を進める。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる
第13回	小林葉子	遺伝子組換え実験 大腸菌に発現したタンパク質を確認する。タンパク質の特性の確認（P1実験）	各班で得られた結果をまとめる。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめる 時間内でまとめた実験ノート提出
第14回	小林葉子	遺伝子組換え実験 大腸菌に発現したタンパク質を確認する。タンパク質の特性の確認（P1実験）	カルテヘナ法に従い、遺伝子組換え生物の廃棄する。 遺伝子組換え実験のレポートを作成する。	1時間を60分として 予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：結果等をノートにまとめるまとめた実験ノート提出 （授業時間内）
第15回	小林葉	遺伝子組換え実験について、法律、手技、結果の読み方等について	遺伝子組換え実験について、手法、実験データの読み方等についてまと	レポート提出：実験計画書、各自でみどりに光る大腸菌を作成するための実験手順書を作成し提出する。各自で作成したものが今後の実験書になる。1時間を60分として

	子	まとめのレポートを作成する。	め、実験を考察する。	予習15分：学習範囲のテキストを読む 復習45分：レポートとして、まとめる

教科書

実験書配布

参考書

シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂
増補新訂版サイエンスビュー生物総合資料 牛木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上：レポート(実験計画書、および、制限酵素を用いた実験）、実験ノート、及び時間内に作成したレポート（遺伝子組え実験）の平均点として求める。

課題等に対する
フィードバックの方法

提出されたレポートに対して、授業内で全体にコメントをする。

履修のポイント

実験前に実験書を読み、実験内容を理解する。実験中に実験記録（ノート）を必ず作成し、実験毎に実験内容を整理する。連続実験が多いため、実験内容の理解を怠らないようにする。レポートはMoodle（オンライン教育システム）を使って提出する。遺伝子組換え実験の実験ノートは最終実験日の時間内に提出する。遺伝子組換え実験の内容の理解度は、時間内で作成したレポートではかる。
各班、及び、各自で考え、行動するアクティブラーニングを中心とする授業であり、積極的に参加する。

オフィス・アワー

月～金 お昼休み （3限に授業のある日は不可） 11号館3階16研究室

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R132

講義コード	20520001
講義名	免疫学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

免疫機構は、人体の防御機構として発達してきた。免疫機構がどのようにして、自己と非自己を区別し、非自己を排除しているのかというメカニズムを学習するのが、主な内容である。また花粉症や食物アレルギーといった免疫機能の変調によって引き起こされる疾患が身近に存在していることから、免疫機構の障害による疾病の成り立ちについてもふれる。
この講義では免疫に関係する細胞や免疫機構についての幅広い知識を習得します。特に解剖生理学で深く学べなかった内容について学習します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」並びに「3. 多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している。」に基づき、各種感染因子による食中毒や感染症、食物アレルギー、自己免疫疾患など人体の防御機構についての知識修得を目指すものとする。

到達目標

1. 炎症機構について説明できる。
2. 自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。
3. 免疫に関わる物質や細胞のはたらきについて説明できる。
4. 免疫機構の障害による病気（アレルギー）発症のメカニズムを説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	影山晴	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価） 解剖生理学で講義した免疫	予習90分：解剖生理学で使用した教科書の免疫の章（84～100ページ）を読む。 復習90分：配布資料を見直し、授業内容を確認

	秋	機構の振り返り	する。
第2回	影山晴秋	炎症の総論とその発症機序から自然免疫まで	予習90分：教科書のチャプター1を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第3回	影山晴秋	リンパ系とBリンパ球	予習90分：教科書のチャプター2 Stage 8からStage 11を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第4回	影山晴秋	抗原提示から抗原産生まで	予習90分：教科書のチャプター2 Stage 12からStage 16を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第5回	影山晴秋	ウィルス感染による自然免疫と獲得免疫の防御反応	予習90分：教科書のチャプター3 Stage 17からStage 22を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第6回	影山晴秋	ウィルスに対する体液性免疫と細胞性免疫機構について	予習90分：教科書のチャプター3 Stage 23からStage 28を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第7回	影山晴秋	補体・免疫細胞について	予習90分：教科書のチャプター4を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第8回	影山晴秋	抗体・抗原について	予習90分：教科書のチャプター5を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第9回	影山晴秋	Bリンパ球（B細胞）とTリンパ球（T細胞）のはたらきについて	予習90分：教科書のチャプター6 Stage 40からStage 45を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第10回	影山晴秋	リンパ球の多様性とTリンパ球の成熟	予習90分：教科書のチャプター6 Stage 46からStage 52およびチャプター９ Stage 82を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第11回	影山晴秋	炎症、能動免疫と受動免疫とアレルギーについて1（1型アレルギー疾患）	予習90分：教科書のチャプター7とチャプター8 Stage 61からStage 62を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第12回	影山晴秋	アレルギーについて2（1型アレルギー疾患）	予習90分：教科書のチャプター8 Stage 63からStage 69を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。

第13回	影山晴秋	アレルギーについて3（2型と3型アレルギー疾患）	予習90分：教科書のチャプター9 Stage 70からStage 72を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第14回	影山晴秋	アレルギーについて4（4型アレルギー疾患）	予習90分：教科書のチャプター9 Stage 73からStage 75を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。
第15回	影山晴秋	先天的免疫不全、後天的免疫不全	予習90分：教科書のチャプター9 Stage 76からStage 81を読む。理解できない部分を把握しておく。 復習90分：教科書と授業ノートを使ってまとめながら、授業内容を理解できるようにする。

教科書

休み時間の免疫学 齋藤先紀（著）・講談社
管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト 岩堀修明（著）・文光堂（1年生の時に解剖生理学の講義で使った教科書）

参考書

大学図書館に免疫学、感染症、アレルギー、自己免疫疾患に関する本が多数有ります。なるべくわかりやすいと思ったものを探して読んで下さい。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上 定期試験（100%）で評価。

課題等に対する
フィードバックの方法

講義中盤で学修課題について全体に対するフィードバックを行う。

履修のポイント

本シラバスの予習・復習にそって勉強して下さい。講義が終わったら復習として必ずノート整理を行うこと。1チャプター終了時には、必ずチャプターの終わりにある「練習問題」を解いて、理解度を確認してください。到達していない場合は、もう一度教科書・ノートを使って復習を行い、知識を蓄積させること。
解剖生理学で使った教科書の免疫・リンパの章を復習しながら、免疫学の教科書で理解を深める。

オフィス・アワー

月曜日から木曜日：9:00-16:00、11号館研究室10にて対応します。講義前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R133

講義コード	20530001
講義名	病理学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	大学病院病理部の病理医として長期間病理診断業務に携わってきた経験を生かして、疾病の原因・成り立ちを実例をあげながら平易に解説する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岡安 勲	指定なし

授業の概要と教育目標

健康維持の基本に適切な食・栄養があります。その栄養管理を行う上で、健康と病気との違い、病気の原因・成り立ち、病態を理解していることが重要です。本科目は病気の原因・成り立ちを理解し、基礎知識として習得して栄養学の学習につなげることを目標とします。
病理学は基礎医学と臨床医学にまたがる分野であり、マクロ・ミクロを含む形態的変化に機能変化も加味して、病気の原因や病態を理解しようとする学問領域です。本講義では教科書に沿った順序で進めます。
医療、栄養指導、給食管理などの現場で高頻度に使用されるキーワードも含めて解説・討論します。可能な限り質疑応答を行い、理解を深めます（アクティブラーニング）。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科の目標である「自立した専門職としての知識・技能・態度を身につけた人材」「保健・医療・福祉分野に対応できる食のスペシャリスト」「地域の保健・医療・福祉分野における食と健康に関する実践的職業人」をめざして、そのディプローマポリシー「人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能」を修得する。
具体的には疾患の原因・成因、病態を理解し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようにする。
管理栄養士として、患者さん、未病者、健康な方それぞれに適切な栄養指導を行えるように、疾患の基礎および臨床的事項を基礎知識として修得する。

到達目標

１．疾患の原因・成因、病態の概念を理解して、説明できるようにする。
２．疾患に関する専門用語の意味を理解して、修得し、みずからその専門用語を発して使えるようにする。
３．各臓器の主たる疾患の成り立ちについて興味を持ち、その予防・治療について、食・栄養の面から自ら考えて、計画することができる。

授業計画

	担当	授業内容と方法、課題	アクティブラーニ	予習・復習とそのために必

	者		ングの内容	要な時間
第1回	岡安勲	16章 疾病の原因、発症機序などの理解のための導入 炎症と創傷治癒、変性、壊死・アポトーシス、萎縮・肥大、化生 初回のクラス全体の課題： 炎症とは生体にとって悪いこと？ 細胞の壊死とアポトーシスの違いは？ アポトーシスは避けられないのか？ 肥大と過形成の違いは？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p263-268を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第2回	岡安勲	16章 異形成、腫瘍（良性腫瘍、悪性腫瘍＝がん）、発 がんのメカニズム、がん遺伝子・抑制遺伝子、がんの増殖・浸潤・転移・播種 加齢に伴う分子レベル・臓器レベルの変化： 課題： 腫瘍とはどういう定義か？ がんはどうやって出現して増殖して広がるのか？ 悪性腫瘍の悪性である原因は？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p263, 268-273を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第3回	岡安勲	1章 診断のための身体診察と検査 問診、診察、主な症候、臨床検査 課題： クリニックや病院では、病気の診断がどのような流れでなされているか？ 感染症の診断のためにどのような検査があるか？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p14-39を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第4回	岡安勲	2章 疾患の治療 治療法の種類と特徴、治療計画、治療方法の選択 課題： 治療にはどのような治療があるか？ それぞれの特徴は？ 医療施設では、どのような流れで治療が選択されてなされているか？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p40-49を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第5回	岡安勲	3章 栄養・代謝系疾患 栄養・代謝にかかわるホルモン・サイトカイン、栄養障害、糖尿病、脂質異常症、肥満、高尿酸血症、先天性代謝異常症、ビタミン異常症、ミネラル異常症、アシドーシス、アルカローシス 課題： メタボリックシンドロームとは？ その予防とは？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応	予習90分：教科書p50-84を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれ

		肥満はなぜ良くないのか？ 生活習慣病とは？	答を行う	ば、参考書を読んで理解を深める。
第6回	岡安勲	4章 内分泌系疾患 下垂体異常、甲状腺機能異常、副甲状腺異常、副腎異常 課題： 甲状腺機能亢進、低下を起こす疾患は？その治療は？ 副腎皮質ホルモンの機能障害を起こす疾患は？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p85-95を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第7回	岡安勲	5章 消化管疾患 口腔、上部・下部消化管の炎症、腫瘍 課題： 胃潰瘍の原因は？ ピロリ菌感染の影響は？ 下痢・下血をおこす疾患は？ 消化管腫瘍の診断の手順は？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p96-113を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第8回	岡安勲	6章 肝・胆・膵疾患 肝臓の炎症性疾患、肝硬変－肝がん、胆道、膵臓の炎症、腫瘍、結石 課題： 黄疸はどのような機序で生じる？ 肝、胆道系、膵臓の腫瘍の症候の特徴は？ 慢性肝炎ー肝硬変ー肝細胞がん系とは？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p114-132を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第9回	岡安勲	7章 循環器系疾患 虚血、血栓・塞栓、動脈硬化、高血圧、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、不整脈、心不全、脳血管障害（梗塞・出血） 課題： 心不全とはどういう状態？ 虚血性心疾患の発生機序は？ 不整脈ー脳梗塞の発症系とはどのようなメカニズムでおきるのか？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p133-154を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第10回	岡安勲	8章 腎・尿路系疾患 糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、尿路系結石、尿路系腫瘍 課題： 糸球体腎炎の種類・成因・治療は？ 尿路系結石はどこに生じ、どのような症状があり、どのような治療方法がとられているか？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応	予習90分：教科書p155-180を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれ

		尿路系腫瘍の診断は？	答を行う	ば、参考書を読んで理解を深める。
第11回	岡安勲	9章 神経・精神系疾患 摂食障害、認知症、アルコール・薬物依存症、神経変性疾患、精神疾患、脳腫瘍 課題： 認知症とはどういう定義？ その原因と病態は？ 精神疾患の2大疾患とはどのような病態か？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p181-191を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第12回	岡安勲	10章 呼吸器系疾患 上気道感染症、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、肺がん 課題： 喫煙が関係する肺疾患は？ 肺がんは近年予後がよくなっているが、その治療方法は？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p192-206を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第13回	岡安勲	11章 血液・造血器系疾患 貧血の分類と種類、出血性疾患、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫 課題： 貧血の原因による分類は？ 血友病とは？ なぜ男性に多いのか？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p207-222を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第14回	岡安勲	12章 運動器（骨格系）疾患、13章 皮膚系疾患 骨粗鬆症、変形性関節症、虚弱、サルコペニア、ロコモティブシンドローム 皮膚系疾患の概要、創傷治癒過程、熱傷、褥瘡 課題： 骨粗鬆症の機序は？ なぜ閉経後の女性に多いのか？ 熱傷の程度、重症度による評価は？	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応答を行う	予習90分：教科書p223-242を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれば、参考書を読んで理解を深める。
第15回	岡安勲	14章 免疫・アレルギー系疾患、15章 婦人科疾患 食物アレルギー、膠原病・自己免疫疾患、免疫不全 婦人科系腫瘍性疾患、子宮内膜症など、妊婦特有の疾患 課題： 成人の食物アレルギーは？ エイズとは？ 子宮体部がんと頸部がんとは発生の原因、メカニズムが違うがどのように違うのか？ 不妊症の原因と治療	課題を中心に考察する 可能な限り、質疑応	予習90分：教科書p243-262を読む。 復習90分：教科書・メモ・ノートを見直す 必要があれ

		は？	答を行う	ば、参考書を読んで理解を深める。

教科書

栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 「疾病の成り立ち」 改訂第２版
編集/田中 明、宮坂京子、藤岡由夫、 羊土社

参考書

・臨床栄養学、臨床医学概論の教科書、病理学関連参考書
・ロビンス＆コットラン 「病理学アトラス」 （高橋浩幸、羽野寛、白石泰三、福田邦彦監訳、エルゼビア・ジャパン）
・「臨床病理・病態学 疾病の成り立ち」MCメディカ出版（ナーシング・グラフィカ 3）
・サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 第５版、加藤昌彦、近藤和雄、箱田雅之、大荷満生著、 第一出版
・系統看護学講座病理学「疾病の回復促進I」医学書院

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
筆記試験 100%

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回の講義のはじめに前回の講義の重点課題を再度説明して、理解を深めるようにする。
定期試験の結果は採点して答案を返却する。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが理解力・知識を身につける力になり、総合的な学力増進につながります。
範囲が広く、また理解が難しい点もありますので、興味のある箇所を読み込んでおいて、授業に参加してください。また、授業の後に疑問を持った個所を自分で調べるのも効果的です。
一度の読み、聞きでは理解できなくても、繰り返すことで理解できることが多々ありますので、疾病の原因・成り立ちにこだわって、修得するようにしましょう。

オフィス・アワー

講義のある火曜日 14:00-17:00。9号館3階9号室。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R152

講義コード	20540001
講義名	栄養生理学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養生理学では人の栄養に関する生理学的意義を中心に講義し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解することを目的とする。具体的には、糖・脂肪・蛋白質の３大栄養素、これにビタミン、ミネラルを加えた５大栄養素を中心に摂取した場合の消化吸収や特にミネラル摂取の生理作用・欠乏症や過剰症等およびエネルギー代謝について理解すること。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学位授与の方針と関連して、栄養生理学は、対象の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得する実践的栄養学の基となる知識を理解する科目と考えられる。それ故、栄養生理学では、栄養素等の生体内でのはたらき，それらの相互作用について理解し，健康維持・増進，疾病予防の活用に発展させる知識を習得することを卒業認定の要件の一つとする。

到達目標

管理栄養士として栄養実践活動に対応できるように、その基礎知識を習得する。具体的には５大栄養素の消化吸収、ミネラルの代謝排泄、水と電解質の代謝、栄養と遺伝、特殊な機能をもつ栄養素、エネルギー代謝について理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	榮昭博	栄養素の機能 ミネラルⅠ :多量無機化合物の生理作用、特にカルシウムの生理作用と欠乏症について述学習する。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書p117～122を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
		栄養素の機能 ミネ		

第2回	榮昭博	ラル II ：多量無機化合物のナトリウム、カリウムおよび微量無機化合物鉄の生理作用と欠乏症について学習する。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書p122～127を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第3回	榮昭博	栄養素の機能 ミネラル Ⅰ ：微量無機化合物の生理作用、特に鉄の生理作用と欠乏症について学習する。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書p127～132を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第4回	榮昭博	摂食行動 ：空腹感と食欲、食欲の調節について学ぶ食事のリズムとタイミングについて学ぶ。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。また、小テストで理解度を確認する。	予習：教科書p13～18を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第5回	榮昭博	栄養素の消化吸収と栄養素の体内動態I:消化器の構造と機能について学ぶ（食道・胃・小腸・大腸・肝臓）。また、消化酵素（各消化腺ごとの）につて理解する。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書p21～31を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第6回	榮昭博	栄養素の消化吸収と栄養素の体内動態II：糖・脂質・たんぱく質等の栄養素別の消化吸収について学ぶ。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書p42～43、57～59、78～80を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第7回	榮昭博	栄養素の消化吸収と栄養素の体内動態III：引き続き、栄養素別の消化吸収および栄養素の体内動態について学ぶ（門脈系・リンパ系・細胞外液）。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書教科書p42～43、57～59、78～80およびp32～35を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第8回	榮昭博	栄養素の消化吸収と栄養素の体内動態IV：生物学的利用特に消化吸収率や栄養価について学ぶ。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。また、栄養素の消化吸収について、小テストで理解度を確認する。	予習：教科書p36～38を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第9回	榮昭博	特殊な生理機能を持つ栄養素 ：食物繊維（難消化性糖質）の機能、特に腸内における発酵、吸収、短鎖脂肪	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書p163～168を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間

		酸、腸内細菌について学ぶ。		以上作業すること。
第10回	榮昭博	水・電解質の代謝I：水の機能（分布、機能、体内量、出納、バランス）、酸塩基平衡調節について理解する。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書p133～135を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第11回	榮昭博	水・電解質の代謝II：電解質の機能（分布、機能、体内量、出納、バランス）、酸塩基平衡調節について理解する。	水および電解質について小テストで理解度を確認する。	予習：教科書p135～138を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第12回	榮昭博	エネルギー代謝（1）：エネルギーとは、食品のエネルギー、エネルギー代謝の測定報、基礎代謝について学ぶ。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書p139～144を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第13回	榮昭博	エネルギー代謝（2）:エネルギーの必要量・消費量について理解し、エネルギー代謝の測定に関する事項（メッツ等）について学ぶ。	エネルギー代謝について小テストで理解度を確認する。	予習：教科書p144～146を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第14回	榮昭博	栄養と遺伝：生活習慣病の発症と遺伝との関係について理解する。	左記の内容について、教員が発問し、学生からの解答についてコメントをくわえる。	予習：教科書p147～161を読み理解すること。復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。これらについて4時間以上作業すること。
第15回	榮昭博	まとめ：今まで学習したことについて確認する。また、不足分を補う。	まとめについての質疑応答をおこなう。	予習：作成した講義ノートを確認すること。これについて4時間以上作業すること。

教科書

『Nブックス 改訂基礎栄養学』 林 淳三ら 建帛社

参考書

管理栄養士講座 基礎栄養学 第一出版 エッセンシャル基礎栄養学 医師薬出版

成績評価の方法・基準

学期末試験 95%、講義ノート5%、 60点以上にて合格とする。

課題等に対する
フィードバックの方法

事前の学習として、また、授業終了後に、講義ノートとは別の国家試験の基礎栄養学出題基準に対応した講義ノートを作成すること。ノートは最終日に提出し、これを確認して点数を記して返却する。

履修のポイント
前期基礎栄養学の内容とも関連するので、基礎栄養学をしっかり理解すること。また、生理生化学的視点の講義内容を含むので生化学の教科書も参考となる。
オフィス・アワー
授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R141

講義コード	20550001
講義名	食品学I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食品会社における生産現場および研究所で勤務した経験を活かし、食品の機能や栄養について最新の情報を交えて解説する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

食品に含まれる個々の成分の特徴を把握しておくことは、食品自体を理解するためだけではなく、栄養学的あるいは生理学的な視点から食生活を考えていくためにもたいへん重要である。本講義では食品に含まれている栄養素がどのような元素から成り立ち、化学的性質をもつのかを解説し、栄養素とはどのようなものであるかを解説する。また、食品は栄養素だけでは成り立たず、その他の成分（呈味成分や香気成分など）の構造・性質・役割や調理・加工による成分変化、食品の物性などについても講義する。また、近年の食の国際化に伴う最新の食情報に加え、現在注目されている保健機能食品や特別用途食品や食品に関する法規についても取り上げる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、管理栄養士として知っておかなければならない食品の基礎知識を理解することを目指す。

到達目標

講義の最後に復習問題を配付する。講義の内容をふまえて、すべての問題について正答だけでなく、その理由も解説できるようになることを目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食文化と食生活、食生活と健康、食料と環境問題など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解で

			きなかった内容について調べる。
第2回	炭水化物とは、食品中の炭水化物、単糖類の構造・種類・特徴、二糖類、オリゴ糖類、多糖類など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第3回	脂質とは、単純・複合・誘導脂質、油脂（脂質）の性質など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第4回	たんぱく質とは、アミノ酸、ペプチド、たんぱく質の構造・分類・変性など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第5回	ビタミンとは、脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第6回	ミネラルの定義と分類、多量・微量ミネラル、核酸、プリンおよびピリミジンヌクレオチドの合成と分解、食品中のプリン体など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第7回	水の特性、食品中の水、自由水と結合水、水分活性と水分含量など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容につ

			いて調べる。
第8回	食品中に含まれる色素成分の分類、味とは、食品中の呈味成分、香気・においとは、香気成分の種類、官能評価とは、官能評価の種類と方法など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第9回	炭水化物・脂質・たんぱく質の変化、褐変、光・加熱・加圧・減圧・酵素による変化	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第10回	食品の物性とは、コロイド、レオロジー、テクスチャーなど	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第11回	三次機能とは、機能性食品とは、口腔内や消化管内で作用する機能、消化管吸収後の標的組織での生理機能調節	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第12回	食品表示制度（食品表示に関する法律、期限表示、成分表示、品質表示基準など）	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第13回	健康や栄養に関する表示の制度（特定保健用食品、特別用途食品、栄養機能食品、機能性表示食品など）	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

第14回	基準（製造・加工・調理基準、保存基準、器具・容器包装の安全性の規格基準など）	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第15回	今まで学んだ内容について補足、質問に対する解説など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

教科書

『栄養科学イラストレイテッド 食品学I 食品の成分と機能を学ぶ』水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎 編（羊土社）

参考書

単元ごとにプリント教材を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 筆記試験100％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内に問題を提示したり、課題を課すことがある。学期末の筆記試験にも関与する事柄なので、必ず復習しておくこと。また、単元ごとに復習問題を配付するので、必ず問題を解いて授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力となり、試験対策にもつながっていく。教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R114

講義コード	20560001
講義名	食品学II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食品会社における生産現場および研究所で勤務した経験を活かし、食品の機能や栄養について最新の情報を交えて解説する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

ほとんどの食品は、植物あるいは動物体そのものか、それらによって生産されたもの、あるいはそれらを調理・加工したものである。本講義では、まず食品成分表について理解し、次いで植物性食品、動物性食品、その他の食品（油脂食品や微生物利用食品など）について、成分組織、栄養特性、機能特性、化学的性質などを解説する。後半では、食品の加工原理や加工工程を中心に、保存・貯蔵法とその原理、食品の包装、加工食品の表示や規格などについて解説する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、管理栄養士として知っておかなければならない食品学・食品加工学の基礎知識を理解することを目指す。

到達目標

講義の最後に復習問題を配付する。講義の内容をふまえて、すべての問題について正答だけでなく、その理由も解説できるようになることを目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	生産様式・原料・主要栄養素等による分類、食品成分表法の理解	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

第2回	穀類およびいも類の種類・性質・成分など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第3回	豆類および種実類の種類・性質・成分など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第4回	野菜類および果実類の種類・性質・成分など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第5回	きのこ類および藻類の種類・性質・成分など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第6回	肉類の種類・性質・成分・変化、食肉加工品など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第7回	魚介類の食品学的特徴・構造・成分、魚の死後変化と鮮度、魚介類の特徴と利用・加工など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
			予習90分：教科書を

第8回	乳類の種類・性質・成分・変化、飲用乳、主な乳製品など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第9回	卵類の種類・特徴・構造・成分、卵の調理加工特性など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第10回	食用油脂の特徴と分類、植物油脂、動物油脂、加工油脂など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第11回	調味料、香辛料の特徴・性質、嗜好飲料（茶、コーヒー、ココア、清涼飲料）など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第12回	食品加工とは、加工食品の意義・目的、加工食品の分類、食品添加物とは（メリットとデメリット）、食品添加物の種類と用途など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第13回	微生物利用食品（発酵食品）の分類と性質、アルコール飲料、発酵調味料、その他の微生物利用食品	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
			予習90分：教科書を読み、わからない単

第14回	バイオテクノロジー応用食品、最近の食品加工技術による食品	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第15回	今まで学んだ内容（食品学Iを含む）について補足、質問に対する解説など	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

教科書

『栄養科学イラストレイテッド 食品学II 食品の分類と特性、加工を学ぶ』栢野新市、水品善之、小西洋太郎 編（羊土社）

参考書

単元ごとにプリント教材を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 筆記試験100％

**課題等に対する
フィードバックの方法**

授業内に問題を提示したり、課題を課すことがある。学期末の筆記試験にも関与する事柄なので、必ず復習しておくこと。また、単元ごとに復習問題を配付するので、必ず問題を解いて授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力となり、試験対策にもつながっていく。教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R127

講義コード	20570001
講義名	食品学実験I（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食品会社における生産現場および研究所で勤務した経験を活かし、食品の機能や栄養について最新の情報を交えて解説する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

食品の性質を科学的・栄養学的に理解する場合、その食品に含まれる成分含量を知ることが重要となる。私たちが日ごろ食べている食品の成分値は日本食品成分表により知ることができるが、本実験では食品成分表に記載されている栄養成分（水分、たんぱく質、脂質、糖質、灰分など）を中心に定量分析を行い、食品成分表に関する基礎知識と実験技術を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、“食品学”の講義で学んだ内容について、実験を通じて検証することで、さらに深く内容を理解し、管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の構築を目指す。

到達目標

各実験を通じて得た体験から、食品学で学んだ食品に関する知識をさらに深めるとともに“食品とは何か”を知ることを目標とする。また、実験結果を実験報告書に的確にまとめ、表現できる力を身につける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習 と そのために 必要な時間
	実験を行うための諸注意、実験器具説明、レポートの書き方など		予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：

第1回	実験を行うにあたって必要な内容を問う小テストを実施し、その内容に基づいて実験の重要性や危険性などについて説明する。		実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第2回	常圧加熱乾燥法により、食品中の水分含量を求める。直接灰化法により、食品中の粗灰分含量を求める。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第3回	数種の糖類未知試料を用い、いかなる糖であるかを分析（同定）するとともに糖の化学的性質を理解する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第4回	数種のたんぱく質、アミノ酸を含む未知試料に呈色試験を行い、いかなる化合物であるかを分析（同定）するとともにアミノ酸の化学的性質を理解する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
			予習60分：実験書を読

第5回	粗たんぱく質の定量等で使用する0.1N NaOH溶液を調整する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第6回	ケルダール窒素定量法により、食品中の窒素量を測定し、得られた値から粗たんぱく質含量を算出する（蒸留過程）。調整した0.1N NaOHを用いて0.1N 硫酸溶液を調整する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第7回	ケルダール窒素定量法により、食品中の窒素量を測定し、得られた値から粗たんぱく質含量を算出する（分解過程→滴定）。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第8回	エーテル抽出法により、食品中の粗脂肪含量を求める。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容

			について調べる。
第9回	粗繊維の希酸・希アルカリ・アルコール・エーテルに不溶である性質を利用して、食品中の粗繊維含量を求める（ヘンネベルグ・ストーマン改良法）。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第10回	アルカリ性でヨウ素は還元糖により還元されヨウ素イオンとなる。残存するヨウ素量を濃度既知のチオ硫酸ナトリウムで滴定することによって還元糖により消費されたﾖｳ素量、すなわち還元糖の量を求める（ウィルシュテッター・シューデル法）。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第11回	アスコルビン酸（ビタミンC）にジクロロフェノールインドフェノール色素溶液を作用させると、アスコルビン酸の還元力で色素が還元される。色素溶液にｱｽｺﾙﾋﾞﾝ酸を滴下し、その紅点の消失する点を求めて定量する（インドフェノール法）。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第12回	Caはシュウ酸と反応し、難水溶性のシュウ酸Caの沈殿を生じる。過剰なシュウ酸を除いた後、硫酸でシュウ酸とCaに分解し、このシュウ酸を過マンガン酸カリウムで滴	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告

	定することによりCa含量を求める。（過マンガン酸カリウム滴定法）	別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第13回	数種の未知油脂を用いて、ケン化価およびヨウ素価を測定し、どのような油脂であるかを調べる。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第14回	保存状態の異なる数種の油脂を用いて、酸価および過酸化物価を測定することにより、油脂の劣化状態を調べる。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第15回	数種のカルボン酸およびアルコールを用いて果実の香りを合成し、どの果物のものかを判別する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

教科書

「桐生大学 食品学実験書（第13版）」

参考書
実験毎に補足プリントを配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 授業内確認テスト（2回）50%、実験報告書（レポート） 50%を総合して評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
実験毎に実験報告書を作成・提出を義務付けている。報告書の内容（特に考察・まとめ）により成績が左右するため、よく調べて自分なりの考えなどをまとめること。
履修のポイント
原則としてグループ実験を行う。初めに実験の内容や原理等について説明するのでよく理解してから積極的な態度で実験に取り組んでほしい。また、実験報告書は期限を守って必ず提出すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R126

講義コード	20570002
講義名	食品学実験I（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食品会社における生産現場および研究所で勤務した経験を活かし、食品の機能や栄養について最新の情報を交えて解説する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

食品の性質を科学的・栄養学的に理解する場合、その食品に含まれる成分含量を知ることが重要となる。私たちが日ごろ食べている食品の成分値は日本食品成分表により知ることができるが、本実験では食品成分表に記載されている栄養成分（水分、たんぱく質、脂質、糖質、灰分など）を中心に定量分析を行い、食品成分表に関する基礎知識と実験技術を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、“食品学”の講義で学んだ内容について、実験を通じて検証することで、さらに深く内容を理解し、管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の構築を目指す。

到達目標

各実験を通じて得た体験から、食品学で学んだ食品に関する知識をさらに深めるとともに“食品とは何か”を知ることを目標とする。また、実験結果を実験報告書に的確にまとめ、表現できる力を身につける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習 と そのために 必要な時間
	実験を行うための諸注意、実験器具説明、レポートの書き方など		予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：

第1回	実験を行うにあたって必要な内容を問う小テストを実施し、その内容に基づいて実験の重要性や危険性などについて説明する。		実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第2回	常圧加熱乾燥法により、食品中の水分含量を求める。直接灰化法により、食品中の粗灰分含量を求める。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第3回	数種の糖類未知試料を用い、いかなる糖であるかを分析（同定）するとともに糖の化学的性質を理解する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第4回	数種のたんぱく質、アミノ酸を含む未知試料に呈色試験を行い、いかなる化合物であるかを分析（同定）するとともにアミノ酸の化学的性質を理解する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
			予習60分：実験書を読

第5回	粗たんぱく質の定量等で使用する0.1N NaOH溶液を調整する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第6回	ケルダール窒素定量法により、食品中の窒素量を測定し、得られた値から粗たんぱく質含量を算出する（蒸留過程）。調整した0.1N NaOHを用いて0.1N 硫酸溶液を調整する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第7回	ケルダール窒素定量法により、食品中の窒素量を測定し、得られた値から粗たんぱく質含量を算出する（分解過程→滴定）。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第8回	エーテル抽出法により、食品中の粗脂肪含量を求める。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容

			について調べる。
第9回	粗繊維の希酸・希アルカリ・アルコール・エーテルに不溶である性質を利用して、食品中の粗繊維含量を求める（ヘンネベルグ・ストーマン改良法）。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第10回	アルカリ性でヨウ素は還元糖により還元されヨウ素イオンとなる。残存するヨウ素量を濃度既知のチオ硫酸ナトリウムで滴定することによって還元糖により消費されたﾖｳ素量、すなわち還元糖の量を求める（ウィルシュテッター・シューデル法）。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第11回	アスコルビン酸（ビタミンC）にジクロロフェノールインドフェノール色素溶液を作用させると、アスコルビン酸の還元力で色素が還元される。色素溶液にｱｽｺﾙﾋﾞﾝ酸を滴下し、その紅点の消失する点を求めて定量する（インドフェノール法）。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第12回	Caはシュウ酸と反応し、難水溶性のシュウ酸Caの沈殿を生じる。過剰なシュウ酸を除いた後、硫酸でシュウ酸とCaに分解し、このシュウ酸を過マンガン酸カリウムで滴	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告

	定することによりCa含量を求める。（過マンガン酸カリウム滴定法）	別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第13回	数種の未知油脂を用いて、ケン化価およびヨウ素価を測定し、どのような油脂であるかを調べる。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第14回	保存状態の異なる数種の油脂を用いて、酸価および過酸化物価を測定することにより、油脂の劣化状態を調べる。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第15回	数種のカルボン酸およびアルコールを用いて果実の香りを合成し、どの果物のものかを判別する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

教科書

「桐生大学 食品学実験書（第13版）」

参考書
実験毎に補足プリントを配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 授業内確認テスト（2回）50%、実験報告書（レポート） 50%を総合して評価する。
課題等に対する フィードバックの方法
実験毎に実験報告書を作成・提出を義務付けている。報告書の内容（特に考察・まとめ）により成績が左右するため、よく調べて自分なりの考えなどをまとめること。
履修のポイント
原則としてグループ実験を行う。初めに実験の内容や原理等について説明するのでよく理解してから積極的な態度で実験に取り組んでほしい。また、実験報告書は期限を守って必ず提出すること。
オフィス・アワー
授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R126

講義コード	20580001
講義名	食品学実験II（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食品会社における生産現場および研究所で勤務した経験を活かし、食品の機能や栄養について最新の情報を交えて解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

植物性食品や動物性食品、微生物利用食品などの性状に関する知識を修得するために、食品原料及び加工食品の品質判別に関する実験を行う。また食品学の講義で得た知識について、さらに理解を深めるために、食品の加工・製造に関する実験を行い、食品の保存の原理や加工食品の製造原理を学習するとともに、製造技術を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、“食品学”の講義で学んだ内容について、実験を通じて検証することで、さらに深く内容を理解し、管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の構築を目指す。

到達目標

実験を通じて得た体験から、食品学で学んだ食品に関する知識をさらに深めるとともに“食品とは何か”を知ることを目標とする。また、実験結果を実験報告書に的確にまとめ、表現できる力を身につける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実験を行うための諸注意、0.1N NaOH標準溶液の調整など 実験を行うにあたって必要な内容を問う小テストを実施し、その内容に基づいて実験の重要性や危険性などについて説明す		予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また

	る。		理解できなかった内容について調べる。
第2回	米の種別、鮮度、搗精度合いの違いを、試薬による呈色を用いて判定する。 【アクティブラーニング】実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする（第2回～第15回すべてで実施）	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第3回	小麦粉のたんぱく質含量による品質比較及び、グルテンの形成と添加物の影響を観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第4回	各要因によっておきる卵たんぱく質の凝固・沈殿反応を試薬による呈色反応で確認する。また、全卵の熱凝固性について温度の影響と変化を観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第5回	豆乳が凝固剤（塩化マグネシウム及び他の塩類）によりどのような凝固の状態を示すか、また、塩の濃度や温度条件の変化でどのような状態を示すかを観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

第6回	パイナップル（ブロメリン）とキウイフルーツ（アクチニジン）に含まれるたんぱく質分解酵素の働きを、寒天とゼラチンを基質とした凝固試験で観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第7回	ヨーグルトの酸度を中和滴定を用いて測定する。その結果をふまえて、糖分含量による酸度への影響をみる。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第8回	食酢の主成分は酢酸、リンゴジュース中の主成分はリンゴ酸である。中和滴定により、これらの酸を有機酸として定量し、重量%濃度に換算する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第9回	各種しょうゆ・みそを試料とし、沈殿滴定法（モール法）を用いて試料中の塩分含量を定量する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
		実験の前講義で、実験内容につい	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容につ

第10回	乳等省令における公定法であるゲルベル乳脂計を用いて乳脂肪を求める。	ての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	いて調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第11回	褐変反応のﾒｶﾆｽﾞﾑを、酵素的なもの（ポリフェノールオキシダーゼによる着色物質の生成）と、非酵素的なものアミノ・カルボニル反応、糖のカラメル化など）に大別し、それぞれの反応を観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第12回	市販の緑茶飲料に含まれるポリフェノール量を酒石酸鉄吸光光度法により定量する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第13回	材料や製造工程を変えることで、マヨネーズの乳化の状態がどのようになるかを調べる。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第14回	基本味（五味）の識別試験、2点識別試験、2点嗜好試験	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をま

		班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	とめる。また理解できなかった内容について調べる。
第15回	3点識別試験、3点嗜好試験、順位法	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

教科書

「桐生大学 食品学実験書（第12版）」

参考書

実験毎に補足プリントを配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 授業内確認テスト（2回）50%、実験報告書（レポート） 50%を総合して評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

実験毎に実験報告書を作成・提出を義務付けている。報告書の内容（特に考察・まとめ）により成績が左右するため、よく調べて自分なりの考えなどをまとめること。

履修のポイント

原則としてグループ実験を行う。初めに実験の内容や原理等について説明するのでよく理解してから積極的な態度で実験に取り組んでほしい。また、実験報告書は期限を守って必ず提出すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R134

講義コード	20580002
講義名	食品学実験II（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食品会社における生産現場および研究所で勤務した経験を活かし、食品の機能や栄養について最新の情報を交えて解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

植物性食品や動物性食品、微生物利用食品などの性状に関する知識を修得するために、食品原料及び加工食品の品質判別に関する実験を行う。また食品学の講義で得た知識について、さらに理解を深めるために、食品の加工・製造に関する実験を行い、食品の保存の原理や加工食品の製造原理を学習するとともに、製造技術を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、“食品学”の講義で学んだ内容について、実験を通じて検証することで、さらに深く内容を理解し、管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の構築を目指す。

到達目標

実験を通じて得た体験から、食品学で学んだ食品に関する知識をさらに深めるとともに“食品とは何か”を知ることを目標とする。また、実験結果を実験報告書に的確にまとめ、表現できる力を身につける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実験を行うための諸注意、0.1N NaOH標準溶液の調整など 実験を行うにあたって必要な内容を問う小テストを実施し、その内容に基づいて実験の重要性や危険性などについて説明す		予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また

	る。		理解できなかった内容について調べる。
第2回	米の種別、鮮度、搗精度合いの違いを、試薬による呈色を用いて判定する。 【アクティブラーニング】実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする（第2回～第15回すべてで実施）	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第3回	小麦粉のたんぱく質含量による品質比較及び、グルテンの形成と添加物の影響を観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第4回	各要因によっておきる卵たんぱく質の凝固・沈殿反応を試薬による呈色反応で確認する。また、全卵の熱凝固性について温度の影響と変化を観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第5回	豆乳が凝固剤（塩化マグネシウム及び他の塩類）によりどのような凝固の状態を示すか、また、塩の濃度や温度条件の変化でどのような状態を示すかを観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

第6回	パイナップル（ブロメリン）とキウイフルーツ（アクチニジン）に含まれるたんぱく質分解酵素の働きを、寒天とゼラチンを基質とした凝固試験で観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第7回	ヨーグルトの酸度を中和滴定を用いて測定する。その結果をふまえて、糖分含量による酸度への影響をみる。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第8回	食酢の主成分は酢酸、リンゴジュース中の主成分はリンゴ酸である。中和滴定により、これらの酸を有機酸として定量し、重量%濃度に換算する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第9回	各種しょうゆ・みそを試料とし、沈殿滴定法（モール法）を用いて試料中の塩分含量を定量する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
		実験の前講義で、実験内容につい	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容につ

第10回	乳等省令における公定法であるゲルベル乳脂計を用いて乳脂肪を求める。	ての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	いて調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第11回	褐変反応のﾒｶﾆｽﾞﾑを、酵素的なもの（ポリフェノールオキシダーゼによる着色物質の生成）と、非酵素的なものアミノ・カルボニル反応、糖のカラメル化など）に大別し、それぞれの反応を観察する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第12回	市販の緑茶飲料に含まれるポリフェノール量を酒石酸鉄吸光光度法により定量する。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第13回	材料や製造工程を変えることで、マヨネーズの乳化の状態がどのようになるかを調べる。	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。
第14回	基本味（五味）の識別試験、2点識別試験、2点嗜好試験	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をま

		班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	とめる。また理解できなかった内容について調べる。
第15回	3点識別試験、3点嗜好試験、順位法	実験の前講義で、実験内容についての質問を行い、予習の成果を確認する。実験終了後、得られた結果から、どのようなことが推測あるいは判別・判定できるか、実験班毎に発表してもらい、ディスカッションする。	予習60分：実験書を読み、わからない単語や内容について調べる。復習60分：実験結果より実験報告書をまとめる。また理解できなかった内容について調べる。

教科書

「桐生大学 食品学実験書（第12版）」

参考書

実験毎に補足プリントを配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上 授業内確認テスト（2回）50%、実験報告書（レポート） 50%を総合して評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

実験毎に実験報告書を作成・提出を義務付けている。報告書の内容（特に考察・まとめ）により成績が左右するため、よく調べて自分なりの考えなどをまとめること。

履修のポイント

原則としてグループ実験を行う。初めに実験の内容や原理等について説明するのでよく理解してから積極的な態度で実験に取り組んでほしい。また、実験報告書は期限を守って必ず提出すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R134

講義コード	20590001
講義名	食品衛生学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生命維持のため、食物の摂取を欠かすことができない。また、食事に対して、健康維持・増進等の期待が高まっている昨今であるが、食品とは常に安心・安全なものでなければならない。食品衛生学では、食品の生産から消費に至るまでの過程において、安全な食品を選択し、提供することができるよう関連法規や危害要因、衛生管理の方法について学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

広く「食」を扱う職種において、食品の安全性を確保するために必要な知識を習得することが基礎となる。

到達目標

食品衛生学では、関連法規・食品の変質・食中毒・食品中の汚染物質及び食品添加物・衛生管理手法・食品表示等の学修をとおし、食品による健康被害を未然に防ぐための基礎知識を習得することを到達目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	食品衛生の概念と関連法規	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第2回	食品衛生関連組織	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第3回	食品の変質I	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第4回	食品の変質II	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第5回	食中毒I	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
		予習40分：教科書

第6回	食中毒II	復習40分：教科書、ノート
第7回	食中毒III	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第8回	食中毒IV	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第9回	食品中の汚染物質I	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第10回	食品中の汚染物質II	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第11回	食品添加物I	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第12回	食品添加物II	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第13回	食品衛生管理	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第14回	食品表示制度	予習40分：教科書 復習40分：教科書、ノート
第15回	講義のまとめ	予習120分：教科書 復習40分：教科書、ノート

教科書
食品衛生学 田﨑達明ほか 羊土社
参考書
食品の安全 有薗幸司ほか 南江堂、食品衛生学 一戸正勝ほか 講談社
成績評価の方法・基準
小テスト(全3回)：20%、学期末試験：80%で評価する。単位認定は60%以上とする。
課題等に対する フィードバックの方法
課題実施後その都度。また、講義のまとめで講評する。
履修のポイント
教科書の予習・復習及び配布プリントの復習をとおし、理解を深めること。不明な点は、早期に解決するよう心がけること。
オフィス・アワー
火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R135

講義コード	20600001
講義名	食品衛生学実験（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生命維持のため、食物の摂取を欠かすことができない。また、食品とは常に安心・安全なものでなければならなず、食品衛生学ではその基礎知識について学修した。そこで食品衛生学実験では、科学的な手法を用いて、講義で学んだ知識(食品の規格・基準、危害因子等)と各検査法の原理をより一層深く理解し、習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

広く「食」を扱う職種において、食品の安全性を確保するために必要な知識を習得することが基礎となる。実験においては、その科学的検査法等を習得することとなる。

到達目標

実験をとおして、食品の安全性を確保するために必要となる食品衛生検査の基礎を学修するとともに、食品の規格基準等を科学的視点をもって評価できることを目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品衛生の分析化学実験の基礎	食品衛生学の分析化学の基礎を学ぶ：使用する薬品・器具・測定機器、試薬の調整、試料のサンプリング	予習40分：教科書 復習40分：配布資料
第2回	飲料水の硬度測定、残留塩素濃度測定	清涼飲料水中の硬度を滴定法により測定する。 DPD法により水道水中の遊離型・結合型残留塩素を測定する。	予習40分：教科書 課題：レ

			ポートにまとめる
第3回	分光光度計の応用の基礎	分光光度計の原理（Lambert-Beerの法則）を理解する。メチレンブルーの未知濃度試料を測定をする。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第4回	未知試料の同定	アミノ酸、タンパク質、糖質について7種類の化学反応を利用し、6種類の未知試料を同定する。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第5回	食品添加物【着色料の測定】	食品中に添加された着色料を抽出し、TLC（薄層クロマトグラフィー）法により定性試験を行う。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第6回	食品添加物【発色剤の測定】	食肉製品中に添加された発色剤（亜硝酸根）を、ジアゾ化法により定量試験を行う。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第7回	油脂の変敗の測定	各種の油脂を用い、滴定法により遊離脂肪酸濃度（酸価）の定量試験を行う。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第8回	食品添加物【漂白剤の測定】	食品中に添加された漂白剤（亜硫酸）をヨウ素酸カリウム・でんぷん紙を用いて定性試験を行う。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第9回	食品衛生の微生物実験の基礎 培地の作成	食品衛生学の微生物等の基礎を学ぶ：使用する培地・薬品・器具・機器、試料のサンプリング、微生物の形態と性質、培地の作成	予習40分：教科書 復習40分：配布資料
第10回	細菌数測定：ふき取り検査	・施設、器具等のふき取り検査による細菌数測定の前処理を行う。 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第11回	落下細菌・真菌の分離 手指からの細菌	・前回実験の細菌数の測定 ・落下細菌の測定、手指洗浄消毒の効果判定の前処理を行う。	予習40分：教科書 課題：レ

	分離	・次回実験の準備（培地作成）	ポートにまとめる
第12回	グラム染色による細菌・真菌の形態観察	・前回実験の細菌数の測定 ・グラム染色による細菌の染色、及び真菌の顕微鏡による形態観察 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第13回	食品からの細菌数、大腸菌群の測定	市販食品からの一般細菌数、及び大腸菌群の測定	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第14回	鮮魚介類からの寄生虫の分離、形態観察	市販の鮮魚介類からの寄生虫の分離、及び形態観察	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第15回	食器の残留物検査	食器の残留物を測定することにより各種洗浄効果を確認する。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる

教科書
食品・環境の衛生検査 桑原祥浩ほか 朝倉書店
参考書
食品安全・衛生学実験 岡崎眞ほか 講談社ｻｲｴﾝﾃｨﾌｨｯｸ
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。実験レポート80%、実験への積極的参加20%を総合して評価
課題等に対するフィードバックの方法
提出されたレポートについて、その都度、講評をおこなう。
履修のポイント
実験は主体的に取り組むことで、より深く理解することに繋がります。積極的に参加すること。
オフィス・アワー
火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R142

講義コード	20600002
講義名	食品衛生学実験（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生命維持のため、食物の摂取を欠かすことができない。また、食品とは常に安心・安全なものでなければならなず、食品衛生学ではその基礎知識について学修した。そこで食品衛生学実験では、科学的な手法を用いて、講義で学んだ知識(食品の規格・基準、危害因子等)と各検査法の原理をより一層深く理解し、習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

広く「食」を扱う職種において、食品の安全性を確保するために必要な知識を習得することが基礎となる。実験においては、その科学的検査法等を習得することとなる。

到達目標

実験をとおして、食品の安全性を確保するために必要となる食品衛生検査の基礎を学修するとともに、食品の規格基準等を科学的視点をもって評価できることを目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	食品衛生の分析化学実験の基礎	食品衛生学の分析化学の基礎を学ぶ：使用する薬品・器具・測定機器、試薬の調整、試料のサンプリング	予習40分：教科書 復習40分：配布資料
第2回	飲料水の硬度測定、残留塩素濃度測定	清涼飲料水中の硬度を滴定法により測定する。 DPD法により水道水中の遊離型・結合型残留塩素を測定する。	予習40分：教科書 課題：レ

			ポートにまとめる
第3回	分光光度計の応用の基礎	分光光度計の原理（Lambert-Beerの法則）を理解する。メチレンブルーの未知濃度試料を測定をする。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第4回	未知試料の同定	アミノ酸、タンパク質、糖質について7種類の化学反応を利用し、6種類の未知試料を同定する。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第5回	食品添加物【着色料の測定】	食品中に添加された着色料を抽出し、TLC（薄層クロマトグラフィー）法により定性試験を行う。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第6回	食品添加物【発色剤の測定】	食肉製品中に添加された発色剤（亜硝酸根）を、ジアゾ化法により定量試験を行う。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第7回	油脂の変敗の測定	各種の油脂を用い、滴定法により遊離脂肪酸濃度（酸価）の定量試験を行う。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第8回	食品添加物【漂白剤の測定】	食品中に添加された漂白剤（亜硫酸）をヨウ素酸カリウム・でんぷん紙を用いて定性試験を行う。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第9回	食品衛生の微生物実験の基礎 培地の作成	食品衛生学の微生物等の基礎を学ぶ：使用する培地・薬品・器具・機器、試料のサンプリング、微生物の形態と性質、培地の作成	予習40分：教科書 復習40分：配布資料
第10回	細菌数測定：ふき取り検査	・施設、器具等のふき取り検査による細菌数測定の前処理を行う。 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第11回	落下細菌・真菌の分離 手指からの細菌	・前回実験の細菌数の測定 ・落下細菌の測定、手指洗浄消毒の効果判定の前処理を行う。	予習40分：教科書 課題：レ

	分離	・次回実験の準備（培地作成）	ポートにまとめる
第12回	グラム染色による細菌・真菌の形態観察	・前回実験の細菌数の測定 ・グラム染色による細菌の染色、及び真菌の顕微鏡による形態観察 ・次回実験の準備（培地作成）	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第13回	食品からの細菌数、大腸菌群の測定	市販食品からの一般細菌数、及び大腸菌群の測定	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第14回	鮮魚介類からの寄生虫の分離、形態観察	市販の鮮魚介類からの寄生虫の分離、及び形態観察	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる
第15回	食器の残留物検査	食器の残留物を測定することにより各種洗浄効果を確認する。	予習40分：教科書 課題：レポートにまとめる

教科書
食品・環境の衛生検査 桑原祥浩ほか 朝倉書店
参考書
食品安全・衛生学実験 岡崎眞ほか 講談社ｻｲｴﾝﾃｨﾌｨｯｸ
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。実験レポート80%、実験への積極的参加20%を総合して評価
課題等に対するフィードバックの方法
提出されたレポートについて、その都度、講評をおこなう。
履修のポイント
実験は主体的に取り組むことで、より深く理解することに繋がります。積極的に参加すること。
オフィス・アワー
火曜日：12:30〜13:20 、講義終了後。または、個別に相談のこと。
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R142

講義コード	20610001
講義名	食事設計計画実習（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	保健所、学校、行政の勤務経験を有する管理栄養士が、それぞれ専門性をいかして指導する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

「食事設計計画実習」は、専門基礎科目にあたる「食べ物と健康」分野における食品学及び調理学等と専門応用科目分野において、個人及び集団に対する食事設計に関する理論と技能を統合させ、実践する能力を養うための必修科目として開講する。なお、食事設計に関する基本的知識(食品に含まれる栄養素の体内での役割)及び食品成分表の注意点、献立作成の手順等を理解し、健康人を対象にした食事計画における献立マネジメントができる能力を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象に沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育に関して必要な基礎的知識や技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.食事設計に必要な指標として、日本人の食事摂取基準、食品成分表、食生活指針、食事バランスガイド等の概要及び活用方法を理解する。
2.食事計画に必要な基本的知識（食品の栄養と調理性、食事形態、調理形態、食文化、嗜好性）を踏まえた献立マネジメントができる。
3.食事設計におけるアセスメントを踏まえた、献立マネジメント（計画、実施、評価、修正）の仕方を説明することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	神戸美	オリエンテーション		

第1回	恵子橘陽子齋藤陽子	日本食品標準成分表の概要 課題：授業のまとめワークシート、日本食品標準成分表ワークシート	日本食品標準成分表2015年版（七訂）の10群を例に、食品番号と索引番号の違い、食品の収載順を確認する。	予習30分：日本食品標準成分表2015年版（七訂）の第1章を読んでおく。 復習45分：授業のまとめワークシート、日本食品標準成分表ワークシートを仕上げる。
第2回	橘陽子	日本食品標準成分表の活用 課題：授業のまとめワークシート、食品の調理による重量変化の確認シート	日本食品標準成分表2015年版（七訂）のうち、食品選択に注意を要する食品について第3章と照らし合わせながら確認する。	予習45分：教科書第2章1,2を読んでおく。 復習180分：授業のまとめワークシートに記録する。02,06,10群の食品の調理前後の重量変化を確認しシートを仕上げる。
第3回	齋藤陽子	栄養価計算の留意点と方法 課題：授業のまとめワークシート、栄養価計算シート	栄養価計算の留意点をふまえ、日本食品標準成分表2015年版（七訂)を用いて基本的な栄養価計算の仕方を理解する。	予習30分：教科書第2章3を読んでおく。 復習90分：課題：授業のまとめワークシート、栄養価計算シートを仕上げる。
第4回	齋藤陽子	食品の廃棄率、重量変化率、発注量の計算方法と留意点 課題：授業のまとめワークシート、計算例題シート	食品の廃棄率や重量変化率の重要性を理解し、発注量を正しく求める仕方を確認する。	予習30分：教科書第2章1,2，6を復習しておく。 復習60分：授業のまとめワークシートに記録する。計算例題シートを仕上げる。添削された栄養価計算シートの修正を行う。
第5回	齋藤陽子神戸美恵子	自分の体位・生活を知る（身体計測、身体活動） 課題：授業のまとめワークシート、身体活動記録	身体計測を行い、身体活動量から1日に必要な摂取エネルギー量を求める。さらに、エネルギー摂取の過不足の評価を行う。	復習60分：授業のまとめワークシート、各自の身体活動の記録を行う。
第6回	橘陽子	食事評価、食事記録の概要 課題：授業のまとめワークシート、食事記録	調理後に重量変化のある食品について、調理後重量を求める計算をし、食品選択が栄養価計算結果に及ぼす影響を理解する。	予習30分：食事調査の種類と特徴について食事摂取基準（2020年版）で確認する。 復習270分：授業のまとめワークシート、各自の3日間の食事内容を記録する。
第7回	橘陽子	食事記録の整理、栄養価計算 課題：授業のまとめワークシート、食事記録の栄養価計算	食事記録を基に栄養価計算し、栄養素摂取量を求める。	予習30分：食事記録の確認と第3回の内容を復習しておく。 復習120分：授業のまとめワークシート、食事記録の栄養価計算を行う。

第8回	齋藤陽子	栄養・食におけるバランスの評価 調味パーセント 課題：授業のまとめワークシート、栄養バランス計算シート	1食分または1日分の献立の栄養量の評価の仕方を理解する。 調理の味付けの基本となる調味パーセントを理解する。	予習30分：栄養比率について教科書等で調べる。 復習90分：授業のまとめワークシート、栄養バランス計算シートを仕上げる。 添削された食事記録の栄養価計算を修正する。
第9回	橘陽子	日本人の食事摂取基準（2020年版）の概要 課題：授業のまとめワークシート、食事摂取基準活用ワークシート	食事摂取基準を個人に適用する場合の事例問題を解き、理解を深める。	予習45分：日本人の食事摂取基準（2020年版）の総論部分を読んでおく。 復習45分：授業のまとめワークシート、食事摂取基準活用ワークシートを仕上げる。日本人の食事摂取基準（2020年版）の総論部分を再度読み込み、栄養素に関する各種指標について理解する。
第10回	橘陽子	日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用と評価方法（個人） 課題：授業のまとめワークシート、３日間の食事摂取状況の評価シート	3日間の食事記録を基に、食事摂取基準を活用して自らの栄養素等摂取状況を評価する。	予習45分：日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用に関する基本的事項の部分を読んでおく。 復習90分：授業のまとめワークシート、３日間の食事摂取状況の評価シートを仕上げる。
第11回	神戸美恵子	日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用と評価方法（集団） 課題：授業のまとめワークシート	第5回の身体測定結果をもとに、本学年のアセスメント評価を行い、集団（本学年）に適した給与エネルギーや栄養目標量の計算を行い、目標量の設定方法を理解する。	予習30分：第9.10回の内容について復習する。 復習45分：授業のまとめワークシート、添削された３日間の食事摂取状況の評価シートを修正する。
第12回	神戸美恵子橘陽子齋藤陽子	献立作成の方法、評価を踏まえた献立計画作成(1) 課題：授業のまとめワークシート、集団を対象とした献立計画作成シート	評価を踏まえ、集団を対象とした献立を作成する。	予習30分：教科書 第3章.第4章1を読んでおく。 復習120分：授業のまとめワークシート、献立集団を対象とした献立作成シートを仕上げる。
	神戸			

第13回	美恵子橘陽子齋藤陽子	評価を踏まえた献立計画作成(2)集団を対象とした献立計画作成 課題：授業のまとめワークシート	グループワーク ・各自で作成した献立を発表し、評価しあう ・グループで献立を作成する。 ・作成した献立を基に発注書を作成する。	予習30分：教科書 第3章.第4章2を読んでおく。 復習90分：授業のまとめワークシート、添削された献立集団を対象とした献立作成シートを修正する。
第14回	神戸美恵子橘陽子齋藤陽子	評価を踏まえた献立計画作成(3)集団を対象とした献立計画プレゼンテーション準備 課題：授業のまとめワークシート	グループワーク ・グループで作成した献立を修正する。 ・グループで作成した献立のプレゼンテーションに向け献立計画書を作成する。	予習30分：プレゼンテーションに必要な資料を収集、準備する。 復習30分：授業のまとめワークシート、プレゼンテーションの準備をする。
第15回	神戸美恵子橘陽子齋藤陽子	評価を踏まえた献立計画作成(4)プレゼンテーション（集団を対象とした献立）とその評価 課題：授業のまとめワークシート	グループワーク ・グループごとに献立のプレゼンテーションを行う。 ・他のグループのプレゼンテーションについて評価する。 ・評価結果を基に献立計画書を修正する。	予習30分：プレゼンテーションの準備を行う。 復習30分：授業のまとめワークシートを作成する。

教科書

栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編 化学同人
日本人の食事摂取基準（2020年版）
授業内で配布する学習ノート

参考書

日本食品標準成分表2015年版（七訂）
調理のためのベーシックデータ（第5版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
定期試験70％、課題20％、授業への参加度10％で総合的に判断

課題等に対する
フィードバックの方法

提出された課題は、添削し返却します。再提出を求める場合もあります。
課題を共有し、授業内でディスカッションする場合もあります。

履修のポイント

授業内容に連続性があります。また、習得度に合わせた内容の変更もあるので欠席はしないこ

と。
予習復習の時間数：不足分については試験前の学習で補完すること。

オフィス・アワー

神戸：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 15研究室
橘 ：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館2F 栄養教育準備室
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 6研究室

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R128

講義コード	20610002
講義名	食事設計計画実習（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	保健所、学校、行政の勤務経験を有する管理栄養士が、それぞれ専門性をいかして指導する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

「食事設計計画実習」は、専門基礎科目にあたる「食べ物と健康」分野における食品学及び調理学等と専門応用科目分野において、個人及び集団に対する食事設計に関する理論と技能を統合させ、実践する能力を養うための必修科目として開講する。なお、食事設計に関する基本的知識(食品に含まれる栄養素の体内での役割)及び食品成分表の注意点、献立作成の手順等を理解し、健康人を対象にした食事計画における献立マネジメントができる能力を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象に沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育に関して必要な基礎的知識や技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.食事設計に必要な指標として、日本人の食事摂取基準、食品成分表、食生活指針、食事バランスガイド等の概要及び活用方法を理解する。
2.食事計画に必要な基本的知識（食品の栄養と調理性、食事形態、調理形態、食文化、嗜好性）を踏まえた献立マネジメントができる。
3.食事設計におけるアセスメントを踏まえた、献立マネジメント（計画、実施、評価、修正）の仕方を説明することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	神戸美	オリエンテーション		

第1回	恵子橘陽子齋藤陽子	日本食品標準成分表の概要 課題：授業のまとめワークシート、日本食品標準成分表ワークシート	日本食品標準成分表2015年版（七訂）の10群を例に、食品番号と索引番号の違い、食品の収載順を確認する。	予習30分：日本食品標準成分表2015年版（七訂）の第1章を読んでおく。 復習45分：授業のまとめワークシート、日本食品標準成分表ワークシートを仕上げる。
第2回	橘陽子	日本食品標準成分表の活用 課題：授業のまとめワークシート、食品の調理による重量変化の確認シート	日本食品標準成分表2015年版（七訂）のうち、食品選択に注意を要する食品について第3章と照らし合わせながら確認する。	予習45分：教科書第2章1,2を読んでおく。 復習180分：授業のまとめワークシートに記録する。02,06,10群の食品の調理前後の重量変化を確認しシートを仕上げる。
第3回	齋藤陽子	栄養価計算の留意点と方法 課題：授業のまとめワークシート、栄養価計算シート	栄養価計算の留意点をふまえ、日本食品標準成分表2015年版（七訂)を用いて基本的な栄養価計算の仕方を理解する。	予習30分：教科書第2章3を読んでおく。 復習90分：課題：授業のまとめワークシート、栄養価計算シートを仕上げる。
第4回	齋藤陽子	食品の廃棄率、重量変化率、発注量の計算方法と留意点 課題：授業のまとめワークシート、計算例題シート	食品の廃棄率や重量変化率の重要性を理解し、発注量を正しく求める仕方を確認する。	予習30分：教科書第2章1,2，6を復習しておく。 復習60分：授業のまとめワークシートに記録する。計算例題シートを仕上げる。添削された栄養価計算シートの修正を行う。
第5回	齋藤陽子神戸美恵子	自分の体位・生活を知る（身体計測、身体活動） 課題：授業のまとめワークシート、身体活動記録	身体計測を行い、身体活動量から1日に必要な摂取エネルギー量を求める。さらに、エネルギー摂取の過不足の評価を行う。	復習60分：授業のまとめワークシート、各自の身体活動の記録を行う。
第6回	橘陽子	食事評価、食事記録の概要 課題：授業のまとめワークシート、食事記録	調理後に重量変化のある食品について、調理後重量を求める計算をし、食品選択が栄養価計算結果に及ぼす影響を理解する。	予習30分：食事調査の種類と特徴について食事摂取基準（2020年版）で確認する。 復習270分：授業のまとめワークシート、各自の3日間の食事内容を記録する。
第7回	橘陽子	食事記録の整理、栄養価計算 課題：授業のまとめワークシート、食事記録の栄養価計算	食事記録を基に栄養価計算し、栄養素摂取量を求める。	予習30分：食事記録の確認と第3回の内容を復習しておく。 復習120分：授業のまとめワークシート、食事記録の栄養価計算を行う。

第8回	齋藤陽子	栄養・食におけるバランスの評価 調味パーセント 課題：授業のまとめワークシート、栄養バランス計算シート	1食分または1日分の献立の栄養量の評価の仕方を理解する。 調理の味付けの基本となる調味パーセントを理解する。	予習30分：栄養比率について教科書等で調べる。 復習90分：授業のまとめワークシート、栄養バランス計算シートを仕上げる。 添削された食事記録の栄養価計算を修正する。
第9回	橘陽子	日本人の食事摂取基準（2020年版）の概要 課題：授業のまとめワークシート、食事摂取基準活用ワークシート	食事摂取基準を個人に適用する場合の事例問題を解き、理解を深める。	予習45分：日本人の食事摂取基準（2020年版）の総論部分を読んでおく。 復習45分：授業のまとめワークシート、食事摂取基準活用ワークシートを仕上げる。日本人の食事摂取基準（2020年版）の総論部分を再度読み込み、栄養素に関する各種指標について理解する。
第10回	橘陽子	日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用と評価方法（個人） 課題：授業のまとめワークシート、３日間の食事摂取状況の評価シート	3日間の食事記録を基に、食事摂取基準を活用して自らの栄養素等摂取状況を評価する。	予習45分：日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用に関する基本的事項の部分を読んでおく。 復習90分：授業のまとめワークシート、３日間の食事摂取状況の評価シートを仕上げる。
第11回	神戸美恵子	日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用と評価方法（集団） 課題：授業のまとめワークシート	第5回の身体測定結果をもとに、本学年のアセスメント評価を行い、集団（本学年）に適した給与エネルギーや栄養目標量の計算を行い、目標量の設定方法を理解する。	予習30分：第9.10回の内容について復習する。 復習45分：授業のまとめワークシート、添削された３日間の食事摂取状況の評価シートを修正する。
第12回	神戸美恵子橘陽子齋藤陽子	献立作成の方法、評価を踏まえた献立計画作成(1) 課題：授業のまとめワークシート、集団を対象とした献立計画作成シート	評価を踏まえ、集団を対象とした献立を作成する。	予習30分：教科書 第3章.第4章1を読んでおく。 復習120分：授業のまとめワークシート、献立集団を対象とした献立作成シートを仕上げる。
	神戸			

第13回	美恵子橘陽子齋藤陽子	評価を踏まえた献立計画作成(2)集団を対象とした献立計画作成 課題：授業のまとめワークシート	グループワーク ・各自で作成した献立を発表し、評価しあう ・グループで献立を作成する。 ・作成した献立を基に発注書を作成する。	予習30分：教科書 第3章.第4章2を読んでおく。 復習90分：授業のまとめワークシート、添削された献立集団を対象とした献立作成シートを修正する。
第14回	神戸美恵子橘陽子齋藤陽子	評価を踏まえた献立計画作成(3)集団を対象とした献立計画プレゼンテーション準備 課題：授業のまとめワークシート	グループワーク ・グループで作成した献立を修正する。 ・グループで作成した献立のプレゼンテーションに向け献立計画書を作成する。	予習30分：プレゼンテーションに必要な資料を収集、準備する。 復習30分：授業のまとめワークシート、プレゼンテーションの準備をする。
第15回	神戸美恵子橘陽子齋藤陽子	評価を踏まえた献立計画作成(4)プレゼンテーション（集団を対象とした献立）とその評価 課題：授業のまとめワークシート	グループワーク ・グループごとに献立のプレゼンテーションを行う。 ・他のグループのプレゼンテーションについて評価する。 ・評価結果を基に献立計画書を修正する。	予習30分：プレゼンテーションの準備を行う。 復習30分：授業のまとめワークシートを作成する。

教科書

栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編 化学同人
日本人の食事摂取基準（2020年版）
授業内で配布する学習ノート

参考書

日本食品標準成分表2015年版（七訂）
調理のためのベーシックデータ（第5版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
定期試験70％、課題20％、授業への参加度10％で総合的に判断

課題等に対する
フィードバックの方法

提出された課題は、添削し返却します。再提出を求める場合もあります。
課題を共有し、授業内でディスカッションする場合もあります。

履修のポイント

授業内容に連続性があります。また、習得度に合わせた内容の変更もあるので欠席はしないこ

と。
予習復習の時間数：不足分については試験前の学習で補完すること。

オフィス・アワー

神戸：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 15研究室
橘 ：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館2F 栄養教育準備室
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3F 6研究室

科目区分

専門基礎科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R128

講義コード	20620001
講義名	調理科学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	２時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての実務経験を活かし、調理を科学的に捉え確かな知識を習得できる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解し、人々の健康をサポートする管理栄養士として必要な、調理の基礎について確かな知識を習得する。また、衛生・安全に留意して日常の基礎的な調理を習得し、「食べ物と健康」において、食べ物の嗜好性と機能、おいしさを演出する食品素材の科学、調理操作の科学、食事計画、食品食材の調理による変化と科学等について学習する。食べることの意義を基点として調理科学の法則について学ぶ。なお本教科は、食事計画の基礎となる調理科学や調理操作の科学に関する基礎知識を習得し、調理科学に対する理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法や修得を目指すものとする。

到達目標

１、食品食材の調理特性を理解することができる。
２、調理操作の理論を理解できる。
３、食事設計を行う上で食事摂取基準、食品成分表、食事バランスガイドの活用のための知識を習得できる。
４、食べ物のおいしさと評価、食料と環境問題について理解し、他教科との関連付けできる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	野沢弘	オリエンテーション 〇調理の意義	グループディスカッション 調理科学で学ぶ内容	予習90分：教科書（調理の意義)を読む 復習90分：学習内

	子			容をノートにまとめる
第2回	野沢弘子	炭水化物を多く含む食品（1） 〇炭水化物の調理性 ・米 ・小麦粉		予習90分：教科書P6～20を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第3回	野沢弘子	炭水化物を多く含む食品（2） 〇炭水化物の調理性 ・いも類 ・でんぷん ・豆・豆製品	グループワーク（復習問題）炭水化物を多く含む食品(リモート）	予習90分：教科書P20～29を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第4回	野沢弘子	たんぱく質を多く含む食品（1） 〇たんぱく質の調理性 ・食肉類		予習90分：教科書P31～39を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第5回	野沢弘子	たんぱく質を多く含む食品（2） 〇たんぱく質の調理性 ・魚介類		予習90分：教科書P39～45を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第6回	野沢弘子	たんぱく質を多く含む食品（3） 〇たんぱく質の調理性 ・卵類		予習90分：教科書P45～51を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第7回	野沢弘子	たんぱく質を多く含む食品（4） 〇たんぱく質の調理性 ・乳類 ・豆類	グループワーク（復習問題）たんぱく質を多く含む食品（リモート）	予習90分：教科書P51～58を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第8回	野沢弘子	ビタミン・無機質を多く含む食品（1） 〇ビタミンの調理性 ・無機質 小テスト		予習90分：教科書P59～64を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第9回	野沢弘子	ビタミン・無機質を多く含む食品（2） 〇ビタミンの調理性 ・野菜類 ・果物類		予習90分：教科書P64～77を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第10回	野沢弘子	ビタミン・無機質を多く含む食品（3） 〇ビタミンの調理性 ・きのこ類 ・海藻類	グループワーク（復習問題）ビタミン・無機質を多く含む食品(リモート）	予習90分：教科書P78～81を読む 復習90分：授業で課されたレポート作成
第11回	野沢弘子	〇その他の食品 ・油脂類 ・ゲル化食材 ・調味料 ・香辛料、し好飲料	グループワーク（復習問題）その他の食品	予習90分：教科書P81～98を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる

第12回	野沢弘子	○調理操作と調理器具 ・非加熱調理 ・加熱調理 ・調味操作		予習90分：教科書P100～120を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第13回	野沢弘子	○食事設計論 ・食事設計に必要な指標 ・献立作成の実際 ・共食における料理様式と食事環境について		予習90分：教科書P122～137を読む 復習90分：授業で課されたレポート作成
第14回	野沢弘子	○食べ物のおいしさと評価 ・味 ・官能評価 ○食料と環境問題		予習90分：教科書P140～159を読む 復習90分：授業内容をノートにまとめる
第15回	野沢弘子	○まとめ テスト（小テスト 配布資料より出題 ）		予習90分：小テストの見直し 復習90分:テスト直し

教科書
調理学 食品の調理特性を正しく理解するために 河内 公恵 化学同人
参考書
日本食品標準成分表2015年版（七訂）（文部科学省 科学技術・審議会）
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上 定期試験80% 小テスト15% 授業態度5%
課題等に対する フィードバックの方法
各章ごとに学ぶポイントを押さえ学習することが重要。また、学習後課せられた復習問題を解くことで、学習内容の理解度を確認する。
履修のポイント
調理科学の習得と授業への積極的な取り組み
オフィス・アワー
木曜日:12：30～13：15(昼休み) ＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R115

講義コード	20630001
講義名	調理学実習I（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての実務経験を活かし、調理の技術や確かな知識と技術を習得できる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解し、人々の健康をサポートする管理栄養士として必要な、調理の基礎について実習をとおして学び、確かな知識と技術を習得する。また、衛生・安全に留意して日常の基礎的な調理を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。

到達目標

1．栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の基礎的調理方法について調理理論と結びつけて調理ができる。
2．食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について理解し、調理を行うことができる。
3．効率よく、適切な調理・非加熱調理操作ができる。
4．料理様式別に（日本料理、西洋料理）日常の献立を作成でき、実習の内容を実際の食生活で活かすことできる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 調理の知識と技術の基本（１） 〇調理実習を学ぶ意義 〇調理実習上の留意点 〇基本の切り方（非加熱調	調理実習を学ぶ意義を小グループ内でディスカッションする。	予習30分 教科書Ｐ22～26を読む 復習60分 実習結果の考察

	理操作） 〇計量（非加熱調理操作） 課題：レポートの作成		計量についてのプリント作成
第2回	調理の知識と技術の基本（２） 〇調味パーセントの計算の仕方 〇廃棄率 計算の仕方を知る 〇栄養計算の仕方を知る 〇だしの取り方の習得 課題：レポートの作成	調理の知識と技術の基本について、学んだことをグループディスカッションする。	予習30分 食品成分表の調味料、廃棄率を読む 復習60分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第3回	日本料理（１） 〇白飯、みそ汁、厚焼き卵、菜の花のお浸しの調理を通し ○切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書Ｐ28～31を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第4回	日本料理（２） 〇魚料理 豆ごはん、かきたま汁、かれいの煮つけ、きゅうりとわかめの酢の物 ○切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 前回までの授業の要点を確認し実習に活かす 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第5回	日本料理（３） 〇炒め物 三色ごはん、けんちん汁、きんぴらごぼう、野菜の即席漬け ○切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習90分 教科書Ｐ36～39を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第6回	日本料理（４） 〇あえ物 白飯、沢煮椀、なす肉みそ田楽、青柳とわけぎのぬたまんじゅう ○切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書Ｐ40～43を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上
第7回	日本料理（５） ○魚の取り扱い方 白飯、吉野鳥の澄まし汁、あじの塩焼きき、白和え ○切り方、魚の手開き、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書Ｐ44～47を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上

第8回	日本料理（6） 〇小麦粉の調理 うどん、天ぷら、あえ物 うどんのゆで方、てんぷらの揚げ温度を学び、実習する 調理の知識と技術の基本（3） 〇廃棄率 計算の仕方の復習 〇食品成分表の使い方の復習 〇栄養計算の仕方を学習する 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。 日本食品標準成分表を使用して、料理の栄養価計算の方法を学び、グループワークを行う。	予習30分 教科書 P41、P148を読む 復習60分 実習結果の考察 実習した計算や食品成分表の使い方を確認する 家庭での技術の向上
第9回	西洋料理（1）○肉調理（2）〇サラダの種類と特徴 ピラフ、コンソメスープ、ハンバーグ、トマトサラダ、ババロア 〇西洋のスープの基本を学ぶ ○サラダの種類と特徴、ドレッシングを学ぶ 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習90分 教科書 P92～95を読む教科書 P96～99を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第10回	西洋料理（3）〇西洋料理のソース①（4）〇西洋料理のソース② ハッシュドビーフ、ポーチドエッグ、ポテトサラダ（マヨネーズソース）、マドレーヌ ○ソースの種類とソースを使用した料理を覚える○カレーソースの作り方を学ぶ 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書 P100～103を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上復習
第11回	西洋料理（5） 〇小麦粉の料理法 スパゲティーミートソース、クラムチャウダー、コールスロー、クッキー ○小麦粉の特性を生かした料理方法を学ぶ 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書 P108～111を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第12回	まとめ 調理技術と知識の到達度の確認 〇前期で習得した内容の確認 切り方、計量、廃棄率、献立作成等 実技テスト 切り方の基礎	1回～14回までの実習で学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習30分 教科書今まで学習した内容切り方、計量、調味、栄養計算 復習60分 教科書や今まで学習した内容のそれぞれのポイントをまとめる

教科書

流れと要点が分かる・調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館
日本食品標準成分表2015年版（七訂）（文部科学省 科学技術・審議会）

参考書
栄養士・管理栄養士を目指す人の 調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編 他 適宜紹介
成績評価の方法・基準
単位認定 ６０点以上 成績評価：実技試験５０％ レポート３０％ 実習への参加度２０％
課題等に対する フィードバックの方法
実習後のレポート（調理の要点や実習内容）と関連した事項を調べてまとめ、それを活用し フィードバックする。また、実習した料理の栄養価計算をする。
履修のポイント
基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み
オフィス・アワー
月曜日・火曜日・水曜日 12：45 ～13：15（昼休み） 11号館 調理準備室 ＊講義終了前後にも、適宜受け付けます
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R116

講義コード	20630002
講義名	調理学実習I（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての実務経験を活かし、調理の技術や確かな知識と技術を習得できる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解し、人々の健康をサポートする管理栄養士として必要な、調理の基礎について実習をとおして学び、確かな知識と技術を習得する。また、衛生・安全に留意して日常の基礎的な調理を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。

到達目標

1．栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の基礎的調理方法について調理理論と結びつけて調理ができる。
2．食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について理解し、調理を行うことができる。
3．効率よく、適切な調理・非加熱調理操作ができる。
4．料理様式別に（日本料理、西洋料理）日常の献立を作成でき、実習の内容を実際の食生活で活かすことできる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 調理の知識と技術の基本（１） 〇調理実習を学ぶ意義 〇調理実習上の留意点 〇基本の切り方（非加熱調	調理実習を学ぶ意義を小グループ内でディスカッションする。	予習30分 教科書Ｐ22～26を読む 復習60分 実習結果の考察

	理操作） 〇計量（非加熱調理操作） 課題：レポートの作成		計量についてのプリント作成
第2回	調理の知識と技術の基本（２） 〇調味パーセントの計算の仕方 〇廃棄率 計算の仕方を知る 〇栄養計算の仕方を知る 〇だしの取り方の習得 課題：レポートの作成	調理の知識と技術の基本について、学んだことをグループディスカッションする。	予習30分 食品成分表の調味料、廃棄率を読む 復習60分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第3回	日本料理（１） 〇白飯、みそ汁、厚焼き卵、菜の花のお浸しの調理を通し ○切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書Ｐ28～31を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第4回	日本料理（２） 〇魚料理 豆ごはん、かきたま汁、かれいの煮つけ、きゅうりとわかめの酢の物 ○切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 前回までの授業の要点を確認し実習に活かす 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第5回	日本料理（３） 〇炒め物 三色ごはん、けんちん汁、きんぴらごぼう、野菜の即席漬け ○切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習90分 教科書Ｐ36～39を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第6回	日本料理（４） 〇あえ物 白飯、沢煮椀、なす肉みそ田楽、青柳とわけぎのぬたまんじゅう ○切り方、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書Ｐ40～43を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上
第7回	日本料理（５） ○魚の取り扱い方 白飯、吉野鳥の澄まし汁、あじの塩焼きき、白和え ○切り方、魚の手開き、計量の仕方、廃棄率の算出を学び、献立の栄養計算をする 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書Ｐ44～47を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をし関連事項を調べる 家庭での技術の向上

第8回	日本料理（6） 〇小麦粉の調理 うどん、天ぷら、あえ物 うどんのゆで方、てんぷらの揚げ温度を学び、実習する 調理の知識と技術の基本（3） 〇廃棄率 計算の仕方の復習 〇食品成分表の使い方の復習 〇栄養計算の仕方を学習する 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。 日本食品標準成分表を使用して、料理の栄養価計算の方法を学び、グループワークを行う。	予習30分 教科書 P41、P148を読む 復習60分 実習結果の考察 実習した計算や食品成分表の使い方を確認する 家庭での技術の向上
第9回	西洋料理（1）○肉調理（2）〇サラダの種類と特徴 ピラフ、コンソメスープ、ハンバーグ、トマトサラダ、ババロア 〇西洋のスープの基本を学ぶ ○サラダの種類と特徴、ドレッシングを学ぶ 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習90分 教科書 P92～95を読む教科書 P96～99を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第10回	西洋料理（3）〇西洋料理のソース①（4）〇西洋料理のソース② ハッシュドビーフ、ポーチドエッグ、ポテトサラダ（マヨネーズソース）、マドレーヌ ○ソースの種類とソースを使用した料理を覚える○カレーソースの作り方を学ぶ 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書 P100～103を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上復習
第11回	西洋料理（5） 〇小麦粉の料理法 スパゲティーミートソース、クラムチャウダー、コールスロー、クッキー ○小麦粉の特性を生かした料理方法を学ぶ 課題：レポートの作成	実習した内容について、学んだことや理解したことを家庭で実習する。	予習30分 教科書 P108～111を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算 家庭での技術の向上
第12回	まとめ 調理技術と知識の到達度の確認 〇前期で習得した内容の確認 切り方、計量、廃棄率、献立作成等 実技テスト 切り方の基礎	1回～14回までの実習で学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習30分 教科書今まで学習した内容切り方、計量、調味、栄養計算 復習60分 教科書や今まで学習した内容のそれぞれのポイントをまとめる

教科書

流れと要点が分かる・調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館
日本食品標準成分表2015年版（七訂）（文部科学省 科学技術・審議会）

参考書
栄養士・管理栄養士を目指す人の 調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編 他 適宜紹介
成績評価の方法・基準
単位認定 ６０点以上 成績評価：実技試験５０％ レポート３０％ 実習への参加度２０％
課題等に対する フィードバックの方法
実習後のレポート（調理の要点や実習内容）と関連した事項を調べてまとめ、それを活用し フィードバックする。また、実習した料理の栄養価計算をする。
履修のポイント
基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み
オフィス・アワー
月曜日・火曜日・水曜日 12：45 ～13：15（昼休み） 11号館 調理準備室 ＊講義終了前後にも、適宜受け付けます
科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R116

講義コード	20640001
講義名	調理学実習II（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士の実務経験を活かし、調理の技術や確かな知識と技術を習得できる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解するとともに、人々の健康をサポートする管理栄養士として応用的な知識と技術を習得する。調理実習Iの基本的な調理操作をふまえ、日本料理、中国料理、西洋料理の調理手法や季節や行事を取り入れた献立構成や食事時の約束事や食文化について理解する。また、食事摂取基準や食品構成にそった、１食分の献立作成や調理を行うことで、食事設計について理解し習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。

到達目標

1．調理実習Iの基本的な調理操作をふまえて、素材別、手法別（煮る、焼く、蒸す、揚げる等）に発展させて理解することができる。
2.料理様式別に（中国料理、日本料理、西洋料理）日常の献立を作成でき、実習をとおして実際の食生活で活かすことできる。
3.１食分の食事設計について学ぶとともに、季節や行事を取り入れた献立構成について理解できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	調理の知識と技術の応用（１） 〇ガイダンス 調理学実習Iを振り返って 計量、調味、廃棄、だしの取	中国料理の基本を調べ、ポイントを話合う（グループ	予習60分 Ｐ2～20を読む 復習60分 レポート作

	り方、切り方 中国料理について知る 課題：レポート作成	ワーク）	成
第2回	中華料理（1） 〇片栗粉の特性 ラ白菜、古老肉、玉米湯、蝦仁焼売、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことグループディスカッションをする。	予習60分 教科書P64～67を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第3回	中華料理（2） 〇高温短時間加熱調理 チャン黄瓜、青椒牛肉絲、西湖魚羹、杏仁豆腐、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P68～71を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第4回	中国料理（3） 〇中国の調味料、乾物の種類と特徴 涼拌茄子、干焼明蝦、搾菜肉絲湯、杏仁酥餅、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P72～75を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第5回	中国料理（4） 〇蒸菜の特徴とポイント 拌墨魚、珍珠丸子、豆腐蛤仔湯、抜絲地瓜、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P76～79を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第6回	日本料理（1） 〇旬の食材を使った料理 玄米ごはん、三州味噌汁、ぶりの照り焼きと菊花かぶ、ひじきの煮物 ・切り方、計量、調味、廃棄率の確認 ・旬の食材について知る 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P56～59を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第7回	日本料理（2） 〇行楽弁当、会食に活かせる料理 太巻き、はまぐりの潮汁、茶碗蒸し、炊き合わせ ・切り方、計量、調味、廃棄率の確認 ・す飯の作り方について学ぶ 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P52～55を読む 復習60分 郷土料理について調べる 家庭での技術の向上
第8回	調理の知識と技術の応用（2） 〇教科書の応用・発展・単品料理を参考に1食分の食事計	グループで実習献立を決定する。材料や作り方を献立作成シートに明記し、食材	予習60分 調理学実習Ⅰ、Ⅱで作った料理の確認 復習60分 実習の献立

	画を立てる（食事摂取基準に基づいた作成） 課題：レポート作成	の発注書を作成する。 （グループワーク）	計画の確認と作り方のシミュレーション 家庭での技術の向上
第9回	西洋料理（１） 〇シュー生地作りのポイント さけのムニエル、オニオングラタンスープ、にんじんサラダ、シュークリーム ・小麦粉の膨化調理について学ぶ 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書Ｐ112～115を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第10回	西洋料理（２） 〇パン生地の作り方 手作りパン、ミネストローネ、シーザーサラダ 一次発酵、ガス抜き、二次発酵について学ぶ 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書Ｐ120～123を読む 復習60分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第11回	行事食（２） 〇正月料理 田作り、松風焼き、伊達巻、栗きんとん、紅白なます、野菜の煮しめ、かまぼこ、えびのうま煮、黒豆、雑煮 ・行事食について学ぶ 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書Ｐ124～129を読む 復習60分 実習結果の考察 家庭での技術の向上 切り方、煮方、詰め方の練習
第12回	まとめ 調理技術と知識の到達度の確認 実技テスト		予習60分 プリント 復習60分 プリント

教科書

流れと要点が分かる・調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館

参考書

栄養士・管理栄養士を目指す人の 調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編
他
これからの調理学実習（基本手法から各国料理・行事食まで）新調理研究会編 オーム社

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上
実技試験３０％（レポートの提出がない場合、実技試験不可）レポート５０％ 実習への参加度２０％

課題等に対する
フィードバックの方法

実習後のレポートに、調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べてまとめる。家庭での技術向上に努める。実習した献立の栄養計算をする。

履修のポイント

基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み
食事設計の基本と栄養計算ができる

オフィス・アワー

月曜日・火曜日・水曜日 12：45～13：15（昼休み）
11号館 調理準備室
＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R129

講義コード	20640002
講義名	調理学実習II（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士の実務経験を活かし、調理の技術や確かな知識と技術を習得できる授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解するとともに、人々の健康をサポートする管理栄養士として応用的な知識と技術を習得する。調理実習Iの基本的な調理操作をふまえ、日本料理、中国料理、西洋料理の調理手法や季節や行事を取り入れた献立構成や食事時の約束事や食文化について理解する。また、食事摂取基準や食品構成にそった、１食分の献立作成や調理を行うことで、食事設計について理解し習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。

到達目標

1．調理実習Iの基本的な調理操作をふまえて、素材別、手法別（煮る、焼く、蒸す、揚げる等）に発展させて理解することができる。
2.料理様式別に（中国料理、日本料理、西洋料理）日常の献立を作成でき、実習をとおして実際の食生活で活かすことできる。
3.１食分の食事設計について学ぶとともに、季節や行事を取り入れた献立構成について理解できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	調理の知識と技術の応用（１） 〇ガイダンス 調理学実習Iを振り返って 計量、調味、廃棄、だしの取	中国料理の基本を調べ、ポイントを話合う（グループ	予習60分 Ｐ2～20を読む 復習60分 レポート作

	り方、切り方 中国料理について知る 課題：レポート作成	ワーク）	成
第2回	中華料理（1） 〇片栗粉の特性 ラ白菜、古老肉、玉米湯、蝦仁焼売、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことグループディスカッションをする。	予習60分 教科書P64～67を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第3回	中華料理（2） 〇高温短時間加熱調理 チャン黄瓜、青椒牛肉絲、西湖魚羹、杏仁豆腐、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P68～71を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第4回	中国料理（3） 〇中国の調味料、乾物の種類と特徴 涼拌茄子、干焼明蝦、搾菜肉絲湯、杏仁酥餅、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P72～75を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第5回	中国料理（4） 〇蒸菜の特徴とポイント 拌墨魚、珍珠丸子、豆腐蛤仔湯、抜絲地瓜、白飯 ・切り方、計量、調味、とろみづけ、廃棄率の確認 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P76～79を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第6回	日本料理（1） 〇旬の食材を使った料理 玄米ごはん、三州味噌汁、ぶりの照り焼きと菊花かぶ、ひじきの煮物 ・切り方、計量、調味、廃棄率の確認 ・旬の食材について知る 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P56～59を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第7回	日本料理（2） 〇行楽弁当、会食に活かせる料理 太巻き、はまぐりの潮汁、茶碗蒸し、炊き合わせ ・切り方、計量、調味、廃棄率の確認 ・す飯の作り方について学ぶ 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書P52～55を読む 復習60分 郷土料理について調べる 家庭での技術の向上
第8回	調理の知識と技術の応用（2） 〇教科書の応用・発展・単品料理を参考に1食分の食事計	グループで実習献立を決定する。材料や作り方を献立作成シートに明記し、食材	予習60分 調理学実習Ⅰ、Ⅱで作った料理の確認 復習60分 実習の献立

	画を立てる（食事摂取基準に基づいた作成） 課題：レポート作成	の発注書を作成する。 （グループワーク）	計画の確認と作り方のシミュレーション 家庭での技術の向上
第9回	西洋料理（１） 〇シュー生地作りのポイント さけのムニエル、オニオングラタンスープ、にんじんサラダ、シュークリーム ・小麦粉の膨化調理について学ぶ 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書Ｐ112～115を読む 復習60分 実習結果の考察 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第10回	西洋料理（２） 〇パン生地の作り方 手作りパン、ミネストローネ、シーザーサラダ 一次発酵、ガス抜き、二次発酵について学ぶ 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書Ｐ120～123を読む 復習60分 実習結果の考察 家庭での技術の向上
第11回	行事食（２） 〇正月料理 田作り、松風焼き、伊達巻、栗きんとん、紅白なます、野菜の煮しめ、かまぼこ、えびのうま煮、黒豆、雑煮 ・行事食について学ぶ 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 教科書Ｐ124～129を読む 復習60分 実習結果の考察 家庭での技術の向上 切り方、煮方、詰め方の練習
第12回	まとめ 調理技術と知識の到達度の確認 実技テスト		予習60分 プリント 復習60分 プリント

教科書

流れと要点が分かる・調理学実習 香西みどり・綾部園子編著 光生館

参考書

栄養士・管理栄養士を目指す人の 調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子編
他
これからの調理学実習（基本手法から各国料理・行事食まで）新調理研究会編 オーム社

成績評価の方法・基準

単位認定６０点以上
実技試験３０％（レポートの提出がない場合、実技試験不可）レポート５０％ 実習への参加度２０％

課題等に対する
フィードバックの方法

実習後のレポートに、調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べてまとめる。家庭での技術向上に努める。実習した献立の栄養計算をする。

履修のポイント

基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み
食事設計の基本と栄養計算ができる

オフィス・アワー

月曜日・火曜日・水曜日 12：45～13：15（昼休み）
11号館 調理準備室
＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分
専門基礎科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R129

講義コード	20650001
講義名	基礎栄養学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	5時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎栄養学では栄養素の機能と生理学的意義を中心に講義し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解することを目標とする。具体的には、糖・脂肪・たんぱく質の３大栄養素、これにビタミンを加えた栄養素を中心にその化学・摂取した場合の消化吸収・生理作用・欠乏症や過剰症等について理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学位授与と関連して、基礎栄養学は、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得する実践的栄養学の基となる知識を理解する科目と考えられる。それ故、基礎栄養学では、栄養素等の生体内でのはたらき，それらの相互作用について理解し，健康維持・増進，疾病予防の活用に発展させる知識を習得することを卒業認定の要件の一つとする。

到達目標

管理栄養士として栄養実践活動に対応できるように、その基礎知識を習得する。具体的には三大栄養素および水溶性・脂溶性ビタミンの代謝及び排泄を学習しその栄養学的意義を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	榮昭博	栄養の概念と歴史および栄養素の基礎 :栄養と栄養素の定義、栄養素の分類、食品の機能について学び、また栄養学に関する歴史について学ぶ。 課題（第２回）を配布する。	事前課題の「課題１」について学生が発表し、これについてディスカッションしてその内容の理解を深める。	予習：事前課題として課題１：官能基（高校化学等の教科書やインターネットを参考にする）および栄養の概念（教科書p1～5）を参考にまとめる。復習：栄養の概念等のノートを作成する。合計で4時間以上。

第2回	榮昭博	栄養素の機能 糖質I :糖（炭水化物）の分類、機能等、糖の栄養学的意義ついて学ぶ。 課題（第3回）を配布する。	課題（第2回）について学生が発表し、これについてディスカッションしてその内容の理解を深める。	予習：教科書p39～41を読み理解する。課題（第2回）をまとめる。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第3回	榮昭博	栄養素の機能 糖質II: でんぷん等の糖を摂取した場合の、消化 、吸収、代謝について学ぶ（血糖の調節）。	課題（第3回）について学生が発表し、これについてディスカッションしてその内容の理解を深める。 左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p42～47を読み理解する。課題（第3回）をまとめる。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第4回	榮昭博	栄養素の機能 糖質III ：糖代謝の臓器差について学ぶ（コリ回路等を含む）。また、他の栄養素との関係についても学ぶ。課題（第4回）を配布する。	左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p48～52を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第5回	榮昭博	栄養素の機能 脂質I ：脂質の分類と定義，脂肪、リン脂質、ステロイド等に分類し、特に脂質の消化吸収について学ぶ。（プリント配布）	左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p53～59を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第6回	榮昭博	栄養素の機能 脂質II ：脂質の臓器間輸送と脂肪酸の代謝について学ぶ。また、脂肪細胞の役割について学ぶ。	左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p59～64を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第7回	榮昭博	栄養素の機能 脂質III ：必須脂肪酸・エイコサイドの代謝および脂肪酸・脂質の栄養機能について学ぶ。 また、他の栄養素との関係（B1節約効果）についても学ぶ。	左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p64～68を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第8回	榮昭博	栄養素の機能 脂質IV ：コレステロールの作用と生体に及ぼす影響と脂質の食事摂取基準を学ぶ。	糖・脂質のまとめとして模擬試験（糖・脂質）を実施し、その解答について学生同士および教員で確認する。	予習：教科書p68～70読み理解する。糖と脂質の確認模擬試験に対応できるように対策する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第9回	榮昭博	栄養素の機能 蛋白質I ：アミノ酸の分子構造と種類、ペプチド、必須アミノ酸，さらに、不可欠（必須）アミノ酸について学ぶ。また、蛋白質の構造と種類，理化学的性質にもとずき蛋白質を分類し、それぞれの特性について説明し、また立体構造についても理解する。（プリント配布）	左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p71～78を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。

第10回	榮昭博	栄養素の機能 蛋白質II ：蛋白質・アミノ酸の代謝（食後、食間期と臓器間輸送等）について学ぶ。	左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p78～83を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第11回	榮昭博	栄養素の機能 蛋白質III ：蛋白質の代謝と栄養価について学ぶ。	左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p83～91を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第12回	榮昭博	栄養素の機能 蛋白質IV ：蛋白質の代謝と栄養価について学ぶ。	まとめとして模擬試験（蛋白質）を実施し、その解答について学生同士および教員で確認する。	予習：教科書p91～92を読み理解する。アミノ酸と蛋白質の確認模擬試験に対応できるように対策する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第13回	榮昭博	栄養素の機能 ビタミンI ：脂溶性ビタミン（ビタミンA.D.E.K等 の生理作用と欠乏症について学ぶ。（プリント配布）	左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p93～102を読み理解する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第14回	榮昭博	栄養素の機能 ビタミンII ：水溶性ビタミン（ビタミンＢ１、Ｂ２、Ｂ６、ナイアシン等の生理作用と欠乏症について学ぶ。	左記の内容について、質問し、学生からの解答にコメントをする。	予習：教科書p102～108を読み理解する。アミノ酸と蛋白質の確認模擬試験に対応できるように対策する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。
第15回	榮昭博	栄養素の機能 ビタミンIII ：水溶性ビタミン（ビタミンB12、葉酸、ビオチン、パントテン酸、ビタミンC等 の生理作用と欠乏症について学ぶ。	ビタミンの確認模擬試験を実施し、その解答について学生同士および教員で確認する。	予習：教科書p108～116を読み理解する。ビタミンの確認模擬試験に対応できるように対策する。 復習：本日の授業内容のノートを作成する。合計で4時間以上。

教科書

『Ｎブックス 三訂基礎栄養学』 林 淳三ら 建帛社

参考書

管理栄養士講座 基礎栄養学 第一出版

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 期末試験 91%、課題 9%

課題等に対する
フィードバックの方法

事前の学習課題を行い提出するまたは発表すること。課題レポートは授業担当が確認し、評価点またはコメントを記して後日返却する。また、講義ノートとして基礎栄養学出題基準に対応したノートを作成すること。ノートは最終日に提出し後日、その評価点を記して返却する。

履修のポイント

解剖生理・生化学的視点の講義内容を含むので生化学の教科書が参考となる。

オフィス・アワー
授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R210

講義コード	20660001
講義名	基礎栄養学実験（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養素の基本的性質を理解し、生体成分のいくつかを実験により定性あるいは定量し、その生理栄養学的意味を理解することを目標とする。尿中成分では通常に含まれるものとを測定し生体内で行われている代謝の状況を推察し、異常成分の試験では、臨床的判断材料になることを知る。血液成分の実験では、各栄養素の生理的役割や病気の診断に用いられることも理解する。酵素活性に関する実験では消化の過程等を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学位授与の方針と関連して、基礎栄養学の分野は、栄養管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得する実践的栄養学の基となる知識を理解する科目と考えられる。それ故、基礎栄養学実験では、基礎栄養学・栄養生理学で学んだ内容について、実験を行うことで栄養素等の生体内でのはたらき，それらの相互作用について理解し，健康維持・増進，疾病予防の活用に発展させる知識を習得することを卒業認定の要件の一つとする。

到達目標

実験を通じて尿・血液検査等に関する生理的意義を理解し、栄養評価ができる能力の取得を目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	尿中成分 異常成分 :尿中の蛋白質、糖、アセトン体等異常成分の検出をおこう。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりそれらの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：尿たんぱく、尿糖、アセトン体（ケトン体）ビリルビンについて調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。

第2回	ビタミンの定性試験I :脂溶性ビタミンAの定性試験を行い、肝臓中の存在を確認する。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりビタミンAの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：ビタミンAについて調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする
第3回	ビタミンの定性試験II :水溶性ビタミンB2の定性試験を行い、肝臓中の存在を確認する。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりビタミンB2の生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：ビタミンB2のみでなくその他の水溶性ビタミンについても調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする
第4回	血漿総蛋白質およびアルブミンの定量 :血漿蛋白質およびアルブミンを測定し、その生理学的意義と栄養状態の判定を行う。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により血漿アルブミンやグロブリンの生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：血漿蛋白質と低栄養について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第5回	血漿コレステロールの定量:血漿コレステロールを測定して、その生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりコレステロールの生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：血漿コレステロール（LDL、HDL）と疾病との関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第6回	血糖の定量 :血糖を測定し、疾病特に糖尿病との関係を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により血糖と糖尿病との関係を理解する。	予習：血糖と糖尿病の関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第7回	血漿尿酸の定量 :血漿尿酸を測定し、高尿酸血症と痛風との関係を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により尿酸の生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：血漿尿酸と痛風の関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第8回	血漿カルシウムの定量 :血漿カルシウムを測定し、カルシウムの生理学的意義を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりカルシウムの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：生体内におけるカルシウムの作用について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第9回	肝臓の鉄定量 :貯蔵鉄としての肝臓鉄を測定し、鉄の生理学的意義を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により生体内の鉄の生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：生体内の機能鉄と貯蔵鉄について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。

第10回	唾液アミラーゼ活性 :唾液アミラーゼ活性を測定し、デンプンの口腔における消化を理解する。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により糖の消化について理解する。	予習：でんぷんの消化過程を調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第11回	膵臓プロテアーゼ活性 :膵臓トリプシン活性を測定し、蛋白質の消化を調べる。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により蛋白質の消化について理解する。	予習：胃、小腸内における蛋白質の消化酵素について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第12回	膵臓リパーゼ活性 :膵臓リパーゼ活性を測定し、脂肪の消化を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により脂質の消化について理解する。	予習：脂肪の消化、脂質の乳化について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第13回	腸管マルターゼ活性 :ラット腸粘膜のマルターゼ活性を測定し、糖の膜消化を学ぶと同時に活性阻害物質についても学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により糖の膜消化について理解する。	予習：糖の膜消化について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第14回	エネルギー代謝 :メッツの概念や基礎代謝、活動時消費エネルギー等について理解したうえ、個人の消費エネルギーを計算によって求める。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により生体内のエネルギー代謝について理解する。	予習：エネルギー代謝（参考書三訂基礎栄養学p139～146）について調べておく。復習：結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第15回	栄養アセスメント :メッツの概念や基礎代謝、活動時消費エネルギー等について理解したうえ、個人の消費エネルギーを計算によって求める。	仮想患者の身体計測や各血液検査データを読み、栄養評価の実践を行う。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。これらの作業により栄養アセスメントの基礎について理解する。	予習：栄養アセスメント（参考書p171～177）について調べておく。復習：結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。

教科書

使用しない（レジメを配布する）。

参考書

栄養学領域からみた生理生化学実験 五島孜郎編 建帛社、Nブックス改訂基礎栄養学 林淳三監修 建帛社

成績評価の方法・基準

学期末試験は中止。レポート(ノート）点等を合計した総合点で60点以上で合格とする。 実験ノート点 90%、実験への参加度（サンプル提供他）10%。

課題等に対する フィードバックの方法
実験終了後レポートを各単元ごとに作成し、これを綴り実験ノートを作成すること。 ノートは８週目と１５週目の実験終了時に提出する。このノート内容について評価（点数化）しノート最終ページ等に評価点を記載し返却する。
履修のポイント
実験操作のみでなく各測定成分の栄養・生理学的意義をよく理解すること。白衣着用のこと。電卓等持参のこと。
オフィス・アワー
授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R240

講義コード	20660002
講義名	基礎栄養学実験（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養素の基本的性質を理解し、生体成分のいくつかを実験により定性あるいは定量して、その生理栄養学的意味を理解することを目標とする。尿中成分では通常に含まれるものとを測定し生体内で行われている代謝の状況を推察し、異常成分の試験では、臨床的判断材料になることを知る。血液成分の実験では、各栄養素の生理的役割や病気の診断に用いられることも理解する。酵素活性に関する実験では消化の過程等を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学位授与の方針と関連して、基礎栄養学の分野は、栄養管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得する実践的栄養学の基となる知識を理解する科目と考えられる。それ故、基礎栄養学実験では、基礎栄養学・栄養生理学で学んだ内容について、実験を行うことで栄養素等の生体内でのはたらき，それらの相互作用について理解し，健康維持・増進，疾病予防の活用に発展させる知識を習得することを卒業認定の要件の一つとする。

到達目標

実験を通じて尿・血液検査等に関する生理的意義を理解し、栄養評価ができる能力の取得を目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	尿中成分 異常成分 :尿中の蛋白質、糖、アセトン体等異常成分の検出をおこう。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりそれらの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：尿たんぱく、尿糖、アセトン体（ケトン体）ビリルビンについて調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。

第2回	ビタミンの定性試験I :脂溶性ビタミンAの定性試験を行い、肝臓中の存在を確認する。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりビタミンAの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：ビタミンAについて調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする
第3回	ビタミンの定性試験II :水溶性ビタミンB2の定性試験を行い、肝臓中の存在を確認する。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりビタミンB2の生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：ビタミンB2のみでなくその他の水溶性ビタミンについても調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする
第4回	血漿総蛋白質およびアルブミンの定量 :血漿蛋白質およびアルブミンを測定し、その生理学的意義と栄養状態の判定を行う。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により血漿アルブミンやグロブリンの生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：血漿蛋白質と低栄養について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第5回	血漿コレステロールの定量:血漿コレステロールを測定して、その生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりコレステロールの生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：血漿コレステロール（LDL、HDL）と疾病との関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第6回	血糖の定量 :血糖を測定し、疾病特に糖尿病との関係を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により血糖と糖尿病との関係を理解する。	予習：血糖と糖尿病の関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第7回	血漿尿酸の定量 :血漿尿酸を測定し、高尿酸血症と痛風との関係を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により尿酸の生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：血漿尿酸と痛風の関係について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第8回	血漿カルシウムの定量 :血漿カルシウムを測定し、カルシウムの生理学的意義を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業によりカルシウムの生理学的意義と疾病との関係を理解する。	予習：生体内におけるカルシウムの作用について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第9回	肝臓の鉄定量 :貯蔵鉄としての肝臓鉄を測定し、鉄の生理学的意義を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により生体内の鉄の生理学的意義と疾病および栄養状態との関係を理解する。	予習：生体内の機能鉄と貯蔵鉄について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。

第10回	唾液アミラーゼ活性 :唾液アミラーゼ活性を測定し、デンプンの口腔における消化を理解する。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により糖の消化について理解する。	予習：でんぷんの消化過程を調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第11回	膵臓プロテアーゼ活性 :膵臓トリプシン活性を測定し、蛋白質の消化を調べる。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により蛋白質の消化について理解する。	予習：胃、小腸内における蛋白質の消化酵素について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第12回	膵臓リパーゼ活性 :膵臓リパーゼ活性を測定し、脂肪の消化を学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により脂質の消化について理解する。	予習：脂肪の消化、脂質の乳化について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第13回	腸管マルターゼ活性 :ラット腸粘膜のマルターゼ活性を測定し、糖の膜消化を学ぶと同時に活性阻害物質についても学ぶ。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により糖の膜消化について理解する。	予習：糖の膜消化について調べておく。復習：実験結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第14回	エネルギー代謝 :メッツの概念や基礎代謝、活動時消費エネルギー等について理解したうえ、個人の消費エネルギーを計算によって求める。	各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。教員から質疑があるのでこれについて応答する。これらの作業により生体内のエネルギー代謝について理解する。	予習：エネルギー代謝（参考書三訂基礎栄養学p139～146）について調べておく。復習：結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。
第15回	栄養アセスメント :メッツの概念や基礎代謝、活動時消費エネルギー等について理解したうえ、個人の消費エネルギーを計算によって求める。	仮想患者の身体計測や各血液検査データを読み、栄養評価の実践を行う。各グループごとに実験結果について考察し、実験終了時に担当教員に報告する。これらの作業により栄養アセスメントの基礎について理解する。	予習：栄養アセスメント（参考書p171～177）について調べておく。復習：結果・考察等をレポートにまとまる。これらに要する時間は1時間以上とする。

教科書

使用しない（レジメを配布する）。

参考書

栄養学領域からみた生理生化学実験 五島孜郎 編 建帛社、 Nブックス改訂基礎栄養学 林淳三監修 建帛社

成績評価の方法・基準

レポート(ノート）点等を合計した総合点で60点以上で合格とする。1学期末試験（ペーパー試験）は中止とします。 実験ノート 90%、実験への参加度（サンプル提供等）10% について加

点することがある。
課題等に対する フィードバックの方法
実験終了後レポートを各単元ごとに作成し、これを綴り実験ノートを作成すること。ノートは８週目と１５週目の実験終了時に提出する。このノート内容について評価（点数化）しノート最終ページ等に評価点を記載し返却する。
履修のポイント
実験操作のみでなく各測定成分の栄養・生理学的意義をよく理解すること。白衣着用のこと。電卓等持参のこと。
オフィス・アワー
授業開講日の１２：３０～１３：２０に１１号館３階第14研究室で行う。ただし、この時間帯以外でも講義・会議・出張等の校務がない場合行うことができることがある。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R240

講義コード	20670001
講義名	応用栄養学I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

少子・高齢化社会を迎え、子供たちの健康の保持・増進を図ることはもとより、次世代を担う思春期、青年期への正しい食生活の知識の普及、成人期の生活習慣病の予防、高齢期の自立した健康な暮らし、これらのどのライフステージでも日常の食生活が健康に深く関わっている。各ライフステージの正しい食生活について修得することを目的とする。妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、閉経期（更年期）、高齢期の各ライフステージについて生理的・精神的特徴を踏まえ、栄養状態の変化、栄養アセスメントの方法、栄養ケアのあり方について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係わる栄養・食事管理に関して必要な知識や技術の習得を目指し、各ライフステージの正しい食生活について修得する。

到達目標

各ライフステージに応じた生理的特徴や栄養アセスメント指標、病態・疾患、栄養ケアプランまでの栄養管理に必要な知識を修得することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	増野弥生	栄養管理発育・発達・加齢 栄養管理、栄養アセスメント	プリントを使ってグループワークを行う。（栄養アセスメント：身体計測など）	予習：テキスト第1章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直す。 90分

第2回	増野弥生	妊娠期、分娩期、産褥期の栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、栄養ケアのあり方	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト妊娠期の章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直す 90分
第3回	増野弥生	妊娠期の栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、栄養ケアのあり方	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト妊娠期の章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直し要点をまとめる。 90分
第4回	増野弥生	分娩期、産褥期の栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、栄養ケアのあり方	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト分娩期、産褥期の章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直し要点をまとめる。 90分
第5回	増野弥生	授乳期の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養ケアのあり方	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト授乳婦の章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直し要点をまとめる。 90分
第6回	増野弥生	新生児期の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養ケアのあり方	プリントを使ってグループワークを行う。	予習：テキスト新生児期・乳児期の章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直す。 90分
第7回	増野弥生	乳児期の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養ケアのあり方	新生児の模型、歯の模型など視覚的教材を使ったフィジカルアセスメント、身体計測からアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト新生児期・乳児期の章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直す。 90分
第8回	増野弥生	幼児期の成長・発達、栄養状態の変化、栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、生活習慣、栄養ケアのあり方	プリントを使ってグループワークを行う。	予習：テキスト幼児期の章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直す。 90分
第9回	増野弥生	学童期の成長・発達、栄養状態の変化、栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、生活習慣、栄養ケアのあり方	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト学童期の章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直す。 90分
		思春期の成長・発		

第10回	増野弥生	達、栄養状態の変化、栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、生活習慣、栄養ケアのあり方	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト思春期の章を読んでくる。 90分 復習：配布プリントを見直す。 90分
第11回	増野弥生	成人期（青年期）の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養ケアのあり方と栄養状態	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト成人期の章を読んでくる。90分 復習：配布プリントを見直す。 90分
第12回	増野弥生	成人期（壮年期・実年期）の生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト成人期の章を読んでくる。90分 復習：配布プリントを見直す。 90分
第13回	増野弥生	更年期の身体の変化、栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、栄養ケアのあり方	プリントを使ってグループワークを行う。	予習：テキスト更年期の章を読んでくる。90分 復習：配布プリントを見直す。 90分
第14回	増野弥生	高齢期の生理的特徴、栄養アセスメント	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト高齢期の章を読んでくる。90分 復習：配布プリントを見直す。 90分
第15回	増野弥生	高齢期の栄養と病態･疾患、栄養補給法、栄養ケアのあり方と栄養状態	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト高齢期の章を読んでくる。90分 復習：配布プリントを見直す。 90分

教科書

五明紀春・渡邉早苗・小原郁夫・山田哲雄 編著、「応用栄養学」、朝倉書店

参考書

日本人の食事摂取基準（2020年版）第一出版

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
前期定期試験（定期試験80％、小テスト20％を総合的に評価する）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内で行う確認テストは添削した後、講義期間中にフィードバックする。

履修のポイント

学習内容は、他の基礎科目と結びつけて理解をすること。

シラバスを参考に予習を行なうこと。テキストを読んでくること。 授業の内容を復習し、各自のノートにポイントをまとめておくこと。
オフィス・アワー
月・科・水・木・金曜日の昼休み、11号館研究室18にて対応
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R230

講義コード	20680001
講義名	応用栄養学II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	５時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

前半では、栄養管理に必要な栄養アセスメントについて、その方法・項目・意味などについて学ぶ。後半は、日本人の食事摂取基準（２０１５年版）の食事摂取基準策定の基礎理論についてエネルギー、各栄養素の策定方法やその数値の意味について学ぶ。各ライフステージに適した栄養管理は、管理栄養士にとって大変重要である。健康維持・増進するための栄養管理について、その方法や指標、特に食事摂取基準の策定の知識、数値の意味を理解できることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態に関して必要な知識や技術の修得している」に基づき、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、栄養管理に必要な知識を身につけることを目指すものとする。

到達目標

各ライフステージに応じた栄養アセスメントの知識、ケアプログラムを作成する知識を身につけることができる。食事摂取基準値の策定根拠や数値の意味を理解することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	増野弥生	栄養ケア・マネジメントの概念、栄養スクリーニング、栄養アセスメント （栄養アセスメントの意義と目的） 栄養アセスメントの方法 （身体計測指標）	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：応用栄養学Iのテキスト第1章、第2章、第3章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第2回	増野弥	栄養アセスメントの方法 （臨床検査指標） 栄養アセスメントの方法 （食	プリントを用いてグループワークを行	予習：応用栄養学Iのテキスト第1章、第2章、第3章を読んでくること 90分

	生	事調査方法他）	う。	復習：配布資料を見直すこと 90分
第3回	増野弥生	栄養ケア計画の実施、モニタリング、評価、フィードバック （目標設定・実施・評価）	ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：応用栄養学Iのテキスト第1章、第2章、第3章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第4回	増野弥生	食事摂取基準の概要と各指標	プリントを用いてグループワークを行う。	予習：「日本人の食事摂取基準（2020年版）」の食事摂取基準の概要について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第5回	増野弥生	エネルギー・エネルギー摂取量の過不足の評価方法	プリントを用いてグループワークを行う。	予習：「日本人の食事摂取基準」のエネルギー摂取量について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第6回	増野弥生	たんぱく質の指標と策定根拠	プリントを用いてグループワークを行う。	予習：「日本人の食事摂取基準」のたんぱく質の章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第7回	増野弥生	炭水化物の指標と策定	プリントを用いてグループワークを行う。	予習：「日本人の食事摂取基準」の炭水化物の章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第8回	増野弥生	脂質の指標と策定根拠	プリントを用いてグループワークを行う。	予習：「日本人の食事摂取基準」の脂質の章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第9回	増野弥生	エネルギー産生栄養素バランスの指標と策定根拠	プリントを用いてグループワークを行う。	予習：「日本人の食事摂取基準」のエネルギー産生栄養素バランスの章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第10回	増野弥生	ビタミン①（脂溶性ビタミン）の指標と策定根拠	プリントを用いてグループワークを行う	予習：「日本人の食事摂取基準」の脂溶性ビタミンの章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第11回	増野弥生	ビタミン②（水溶性ビタミン）の指標と策定根拠	プリントを用いてグループワークを行う	予習：「日本人の食事摂取基準」の水溶性ビタミンの章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第12回	増野弥生	ミネラル①（多量ミネラル）の指標と策定根拠	プリントを用いてグループワークを行う	予習：「日本人の食事摂取基準」の食事摂取基準の多量ミネラルの章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと

				90分
第13回	増野弥生	ミネラル②（微量ミネラル）の指標と策定根拠	プリントを用いてグループワークを行う	予習：「日本人の食事摂取基準」の微量ミネラルの章を読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第14回	増野弥生	乳幼児・高齢者の食事摂取基準の概要と各指標	ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：「日本人の食事摂取基準」のライフステージ別の策定（乳幼児・高齢者）について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分
第15回	増野弥生	妊産婦の食事摂取基準の概要と各指標	ケーススタディからアセスメントシートに記入する	予習：「日本人の食事摂取基準」のライフステージ別の策定（妊産婦）について読んでくること 90分 復習：配布資料を見直すこと 90分

教科書

「応用栄養学」五明紀春・渡邉早苗・小原郁夫・山田哲雄 編著 （朝倉書店）
「日本人の食事摂取基準（2020年版）」 第一出版

参考書

特になし

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
定期試験（定期試験80%、小テスト・提出物20% を総合して評価する）

**課題等に対する
フィードバックの方法**

課題プリント・小テストは添削後、返却する。

履修のポイント

配布プリント・小テストで重要な事柄を確認し、必ず復習を行なうこと。

オフィス・アワー

月・火・水・金曜日の昼休み、１１号館１８研究室にて対応する。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R241

講義コード	20690001
講義名	応用栄養学III
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、前半は食事摂取基準策定の基礎理論をふまえ、ライフステージ別にエネルギーや栄養素等の策定根拠やその数値の意味について学ぶ。後半では、運動・スポーツと栄養管理、特殊環境と栄養について、生理的特徴と栄養補給法について学ぶ。各ライフステージに適した栄養管理、健康・スポーツ及び特殊環境の栄養管理を行う上で必要な基礎知識を習得することができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理に関して必要な知識や技術を修得している」に基づき、各ライフステージに適した栄養管理、健康・スポーツ及び特殊環境の栄養管理を行う上で必要な基礎知識を身につける。将来的な展望としては、これまでの学習を統合・発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術の習得を目指すものとする。

到達目標

各ライフステージの食摂取基準策定根拠及び運動時や特殊環境の特徴をを理解し、高齢期や運動時や特殊環境に適した栄養管理を立てることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	増野弥生	成人期の食事摂取基準の基礎的理解のまとめ	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第1章、第9章を読んでくること。 「日本人の食事摂取基準 2020年版」の食事摂取基準の基礎的理解について読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直し、まとめること 90分

第2回	増野弥生	食事摂取基準で対象となる乳児・小児の特性		予習：テキスト第5章、第6章を読んでくること。 「日本人の食事摂取基準 2020年版」の乳幼児の食事摂取基準について読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直しまとめること。 90分
第3回	増野弥生	乳児・小児の食事摂取基準策定根拠	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第5章、第6章を読んでくること。 「日本人の食事摂取基準 2020年版」の乳幼児の食事摂取基準について読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直しまとめること。 90分
第4回	増野弥生	食事摂取基準で対象となる妊婦・授乳婦の特性		予習：テキスト第4章、第5章を読んでくること。 「日本人の食事摂取基準 2020年版」の妊婦・授乳婦の食事摂取基準について読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直しまとめること。 90分
第5回	増野弥生	妊婦・授乳婦の食事摂取基準策定根拠	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第4章、第5章を読んでくること。 「日本人の食事摂取基準 2020年版」の妊婦・授乳婦の食事摂取基準について読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直しまとめること。 90分
第6回	増野弥生	食事摂取基準で対象となる高齢者の特性	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第10章を読んでくること。 「日本人の食事摂取基準 2020年版」の高齢者の食事摂取基準について読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直しまとめること。 90分
第7回	増野弥生	高齢者の食事摂取基準策定根拠	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第10章を読んでくること。 「日本人の食事摂取基準 2020年版」の高齢者の食事摂取基準について読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直しまとめること。 90分
第8回	増野弥生	運動とエネルギー代謝 健康増進と運動		予習：テキスト第11章を読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直し、まとめること。 90分
第9回	増野弥生	スポーツと体力トレーニングと栄養補給	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第11章を読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直し、まとめること。90分
第10回	増野弥生	ストレス時の栄養管理、生体リズムと栄養	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第12章を読んでくること。 90分 復習：配布資料を見直し、まとめること。 90分
第11回	増野	高温環境・低温環境時の栄養管	ケーススタディからアセスメン	予習：テキスト第13章を読んでくること。 90分

	弥生	理、災害時の栄養管理	トシートに記入する。	復習：配布資料を見直し、まとめること。90分
第12回	増野弥生	高圧環境・低圧環境と栄養管管、無重力と栄養管理	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第13章を読んでくること。90分 復習：配布資料を見直し、まとめること。90分
第13回	増野弥生	成長と発達に伴う身体的・精神的変化と栄養管理	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第2章を読んでくること。90分 復習：配布資料を見直し、まとめること。90分
第14回	増野弥生	加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養管理	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第2章を読んでくること。90分 復習：配布資料を見直し、まとめること。90分
第15回	増野弥生	各ライフステージの食事摂取基準策定根拠のまとめ 各ライフステージの栄養管理プロセス	ケーススタディからアセスメントシートに記入する。	予習：テキスト第1章～第3章を読んでくること。90分 復習：配布資料を見直し、まとめること。90分

教科書

「応用栄養学」五明紀春・渡邉早苗・小原郁夫・山田哲雄 編著 （朝倉書店）
「日本人の食事摂取基準（2020年版）」第一出版

参考書

特になし
必要に応じてプリントを配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上
前期定期試験（定期試験80%、小テスト・提出物20%を総合して評価する）

課題等に対する
フィードバックの方法

課題レポート・小テストは添削後、返却する。

履修のポイント

応用栄養学Iで学んだ各ライフステージの特徴と、応用栄養学IIで学んだ成人期の食事摂取基準の各栄養素の策定根拠について復習し、各ライフステージの食事摂取基準の策定根拠について十分に予習を行なうこと。配布プリント、小テストで重要な事柄を修得すること。

オフィス・アワー

月・火・水・木・金曜日の昼休み、１１号館研究室18にて対応する。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R250

講義コード	20700001
講義名	応用栄養学実習（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

①～⑥の各ライフステージの対象者について栄養ケア・マネジメントを学ぶ。PDCAサイクルに基づき栄養アセスメント・食事ケア計画の作成と食事の調整・供食実習を行い、各ライフステージの食事摂取基準を理解し、対象者に適した栄養ケア・マネジメントのスキルを身に付けることができる。
①妊娠期・授乳期 ②乳児期・離乳期 ③思春期 ④成人期 ⑤高齢期 ⑥スポーツ時

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係わる栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養並びに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している」に基づき、各対象者に適した栄養ケア・マネジメントのスキルを身に付けることを目指すものとする。

到達目標

・各ライフステージの特性を理解できる。
・各ライフステージにおいて対象者に応じた栄養アセスメントを実施し、ケアプログラムを作成するスキルを身につけることができる。
・各対象者の栄養管理を、食事計画やその実習を通して習得できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	増野弥生	（演習）実習･演習の内容説明。班分け、実習・ 演習の注意事項、栄養ケア・マネジメント（栄養 アセスメント及び栄養ケア・計画の作成）につい て女子	アセスメントシートの作成、評価表を用い、理解 を深める。：グループワーク	予習：テキスト第1章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整

		大生を対象者として学ぶ。		理を行う。 60分
第2回	増野弥生	（演習）栄養ケア・マネジメント（栄養アセスメ ント及び栄養ケア・計画の作成）について女子大生を対象者として学ぶ。	発表(プレゼンテーション）：アセスメントシー トを作成・パワーポイントを用いて発表を行い、 理解を深める。	予習：テキスト第1章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリント を見直す。ノート整理を行う。60分
第3回	増野弥生	（演習）妊娠期・授乳期の生理的特徴を理解し、栄養アセスメント・食事計画を行う。	アセスメントシートの作成を行い理解を深める： グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第4回	増野弥生	（演習）妊娠期・授乳期の生理的特徴を理解し、栄養アセスメント・食事計画を行う。	自主献立作成・発注：グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第5回	増野弥生	（実習）妊娠期・授乳婦の食事の調整・供食実習を通して妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	自主献立の実習：グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第6回	増野弥生	（演習）妊娠期・授乳期の食事の調整・供食実習を通して妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメントについて、班ごとにPPにて資料を作成し発表する。	作成したアセスメントシート・献立を使用し、妊娠時の栄養ケア・マネジメントをパワーポイントを用いて発表する。：プレゼンテーション、グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリント を見直す。ノート整理を行う。
第7回	増野弥生	（実習）調乳と調乳器具の滅菌。離乳食の調整・ 供食実習を通して、乳児期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	調乳・提供献立(離乳食）：グループワーク	予習：テキスト第6章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第8回	増野弥生	（演習）思春期の食事の調整・供食を通して思春期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	アセスメントシートの作成、献立作成、発注： ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第8章、第9章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分 復習：配布プリント

				を見直す。ノート整理を行う。 60分
第9回	増野弥生	(実習）思春期の食事の調整・供食を通して思春期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	アセスメントシートの作成を行い理解を深める： ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第8章、第9章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第10回	増野弥生	（演習）高齢期の生理的特徴を学び栄養アセスメント・食事計画を行う。	アセスメントシートの作成を行いパワーポイント を用いて発表し、理解を深める：ディスカッショ ン、グループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第11回	増野弥生	（実習）後期高齢者の食事の調整・供食を通して、高齢者の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	提供献立によるグループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第12回	増野弥生	（演習）後期高齢者の食事の調整・供食を通して、高齢者の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	アセスメントシートの作成を行いパワーポイントを用いて発表し、理解を深める：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第13回	増野弥生	（演習）スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメントを行い、さらに食事計画を学ぶ。	献立作成・発注表作成：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第13章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第14回	増野弥生	（実習）スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメントを行い、さらに食事計画を行う。	自主献立の実習：グループワーク	予習：テキスト第13章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第15回	増野弥	（発表）スポーツ選手の食事の調整・供食実習を通して、スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセ	作成したアセスメントシート・献立を使用し、スポーツ選手の栄養ケア・マネジメントをパワーポイントを	予習：テキスト第13章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分

	生	スメント、食事計画を検討する。	用いて発表する。： プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク	復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分

教科書

「応用栄養学実習－ケーススタディ-で学ぶ栄養マネジメント-」五関正江・小林三智子編著 建帛社

参考書

「応用栄養学」朝倉書店（応用栄養学I・IIで使用した教科書）
「日本人の食事摂取基準（2020年版）」
食品成分表（7訂）

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。
本試験（50%）、レポートなど提出物（50%)を総合して評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

献立、アセスメントシートは添削後、返却する。

履修のポイント

応用栄養学I・II・IIIで学んだ各ライフステージの特徴と食事摂取基準（2020年版）を復習しておく。
課題は、出来るだけ授業時間内にレポートにまとめ、提出期限を厳守する。
個人レポートは各自完成させ、グループワークには積極的に参加すること。
調理実習時は管理栄養士を目指す学生としての自覚をもち、体調管理と清潔な身だしなみを心がけること。

オフィス・アワー

月・火・水・金曜日の昼休み、１１号館研究室１８にて対応する。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R260

講義コード	20700002
講義名	応用栄養学実習（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

①～⑥の各ライフステージ及び特殊環境の対象者について栄養ケア・マネジメントを学ぶ。PDCAサイクルに基づき栄養アセスメント・食事ケア計画の作成と食事の調整・供食実習を行い、各ライフステージの食事摂取基準を理解し、対象者に適した栄養ケア・マネジメントのスキルを身に付けることができる。
①妊娠期・授乳期 ②乳児期・離乳期 ③思春期 ④成人期 ⑤高齢期 ⑥スポーツ時

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係わる栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養並びに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している」に基づき、各対象者に適した栄養ケア・マネジメントのスキルを身に付けることを目指すものとする。

到達目標

・各ライフステージの特性を理解できる。
・各ライフステージにおいて対象者に応じた栄養アセスメントを実施し、ケアプログラムを作成するスキルを身につけることができる。
・各対象者の栄養管理を、食事計画やその実習を通して習得できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	増野弥生	（演習）実習･演習の内容説明、班分け、実習・ 演習の注意事項、栄養ケア・マネジメント（栄養 アセスメント及び栄養ケア・計画の作成）について女子大	アセスメントシートの作成、評価表を用い、理解 を深める。：グループワーク	予習：テキスト第1章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整

		生を対象者として学ぶ。		理を行う。 60分
第2回	増野弥生	（演習）栄養ケア・マネジメント（栄養アセスメ ント及び栄養ケア・計画の作成）について女子大生を対象者として学ぶ。	発表(プレゼンテーション）：アセスメントシー トを作成・パワーポイントを用いて発表を行い、 理解を深める。	予習：テキスト第1章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリント を見直す。ノート整理を行う。60分
第3回	増野弥生	（演習）妊娠期・授乳期の生理的特徴を理解し、栄養アセスメント・食事計画を行う。	アセスメントシートの作成を行い理解を深める： グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第4回	増野弥生	（演習）妊娠期・授乳期の生理的特徴を理解し、栄養アセスメント・食事計画を行う。	自主献立作成・発注：グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第5回	増野弥生	（実習）妊娠期・授乳期の食事の調整・供食実習を通して妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	自主献立の実習：グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第6回	増野弥生	（演習）妊娠期・授乳期の食事の調整・供食実習を通して妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメントについて、班ごとにPPにて資料を作成し発表する。	作成したアセスメントシート・献立を使用し、妊娠時の栄養ケア・マネジメントをパワーポイントを用いて発表する。：プレゼンテーション、グループワーク	予習：テキスト第5章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリント を見直す。ノート整理を行う。
第7回	増野弥生	（実習）調乳と調乳器具の滅菌操作、離乳食の調整・供食実習を通して、乳児期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	調乳・提供献立(離乳食）：グループワーク	予習：テキスト第6章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第8回	増野弥生	（演習）思春期の食事の調整・供食を通して思春期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	アセスメントシートの作成、献立作成、発注： ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第8章、第9章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分 復習：配布プリント

				を見直す。ノート整理を行う。 60分
第9回	増野弥生	(実習）思春期の食事の調整・供食を通して思春期の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	アセスメントシートの作成を行い理解を深める： ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第8章、第9章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第10回	増野弥生	（演習）高齢期の生理的特徴を学び栄養アセスメント・食事計画を行う。	アセスメントシートの作成を行いパワーポイント を用いて発表し、理解を深める：ディスカッショ ン、グループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第11回	増野弥生	（実習）後期高齢者の食事の調整・供食を通して、高齢者の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	提供献立によるグループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第12回	増野弥生	（演習）後期高齢者の食事の調整・供食を通して、高齢者の栄養ケア・マネジメントについて学習する。	アセスメントシートの作成を行いパワーポイントを用いて発表し、理解を深める：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第12章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。60分
第13回	増野弥生	（演習）スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメントを行い、さらに食事計画を学ぶ。	献立作成・発注表作成：ディスカッション、グループワーク	予習：テキスト第13章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第14回	増野弥生	（実習）スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセスメントを行い、さらに食事計画を行う。	自主献立の実習：グループワーク	予習：テキスト第13章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分 復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分
第15回	増野弥	（発表）スポーツ選手の食事の調整・供食実習を通して、スポーツ時のエネルギー代謝を学び、栄養アセ	作成したアセスメントシート・献立を使用し、スポーツ選手の栄養ケア・マネジメントをパワーポイントを	予習：テキスト第13章及び応用栄養学Iで使用したテキストをよく読んでくる。 60分

	生	スメント、食事計画を検討する。	用いて発表する。： プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク	復習：配布プリントを見直す。ノート整理を行う。 60分

教科書
「応用栄養学実習 -ケーススタディーで学ぶ栄養マネジメント」建白社
参考書
「応用栄養学」朝倉書店（応用栄養学I・IIで使用した教科書） 「日本人の食事摂取基準（2020年版）」 食品成分表（7訂）
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上。 本試験（50%）、レポートなど提出物（50%)を総合して評価する
課題等に対する フィードバックの方法
献立、アセスメントシートは添削後、返却する。
履修のポイント
応用栄養学I・II・IIIで学んだ各ライフステージの特徴と食事摂取基準（2020年版）を復習しておく。課題は、出来るだけ授業時間内にレポートにまとめ、提出期限を厳守する。 個人レポートは各自完成させ、グループワークに積極的に参加すること。 調理実習時は管理栄養士を目指す学生としての自覚をもち、体調管理と清潔な身だしなみを心がけること。
オフィス・アワー
月・火・水・金曜日の昼休み、１１号館研究室１８にて対応する
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R260

講義コード	20710001
講義名	栄養教育論I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践現場での栄養教育経験を有し、理論と実践を統合した授業を展開する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育は、対象者の健康や生活の質（QOL）の向上に向けて実践するもので、同時に管理栄養士の役割や使命ともなるものである。そのためには、基本的事項である栄養教育の概念や栄養教育・指導の歴史、栄養教育計画の立案・実施・評価・検討という一連のPDCAサイクルを回した栄養教育マネジメントを学習する。特に栄養教育計画の立案には、学習者の現状を把握することが重要であるため、アセスメントおよび行動科学の理論について修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養教育の対象であるライフステージ・ライフスタイルに応じ、専門性を発揮した栄養教育を実践し、社会が求める管理栄養士の役割を果たすことができる必要な知識や技術を修得している。

到達目標

(1)栄養教育の定義や目標を理解し、管理栄養士の役割や使命を説明できる。
(2)栄養教育における行動変容の理論や行動療法の必要性を理解し、栄養教育実践の場で活用する知識や技術を修得している。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮原公子 齋藤陽子	○授業内容の説明（進め方・評価方法） ○栄養教育の目的・目標 ○栄養教育の必要性、栄養教育の対象と機会 ○目指す管理栄養士	これまで学習を踏まえ、自分が目指す管理栄養士の小論文を論理だって記述する。	予習90分：栄養士法第1条を調べておく。 復習90分：目指す管理栄養士の小論文を仕上げる。
	宮			

第2回	原公子齋藤陽子	○栄養教育・指導の歴史 ○国際的栄養の動向 ○栄養教育と行動科学		予習90分：栄養教育の目的を調べておく。 復習90分：栄養教育の目的・目標をまとめる。予習で調べた内容との相違点を確認する。
第3回	宮原公子齋藤陽子	○行動科学理論と栄養教育 ○生活習慣病・健康増進と栄養教育	生活習慣病予防と食生活の関連を調べ、小グループ内でディスカッションする。	予習90分：生活習慣病とはを説明できるよう調べておく。 復習90分：生活習慣病と食生活の関連をレポートする。
第4回	宮原公子齋藤陽子	○行動療法における問題解決 ○行動療法からみた食行動の特性		予習90分：栄養教育における行動療法とは何かを調べる。 復習90分：栄養教育に行動療法が必要な理由をまとめる。
第5回	宮原公子齋藤陽子	○健康増進や生活習慣病に共通したコントロール ○心理的要因、変容に必要条件		予習90分：栄養教育に影響する要因を調べておく。 復習90分：心理的要因、変容に必要な条件をまとめる。
第6回	宮原公子齋藤陽子	○カウンセリングの基本 ○カウンセリングとは ○栄養カウンセリング	DVDを視聴することでカウンセリングの基本を、小グループで話し合い共有する。	予習90分：栄養カウンセリングとはを調べておく。 復習90分：カウンセリングの基本をまとめる。予習で調べた内容との相違点を確認する。
第7回	宮原公子齋藤陽子	○組織・地域づくりへの展望と食環境づくり ○食環境と栄養教育		予習90分：栄養教育における食環境づくりの方法を調べる。 復習90分：食環境づくりの重要性を事例をあげてまとめる。
第8回	宮原公子齋藤陽子	○栄養教育の特性 ○栄養教育の対象 ○栄養教育のマネジメント		予習90分：栄養教育の対象者を調べておく。 復習90分：栄養教育マネジメントの内容をまとめる。

第9回	宮原公子齋藤陽子	○栄養教育のマネジメントの実際 ○対象と機会別の事例の演習	栄養教育の事例を基に、小グループでディスカッションをして実際をまとめる。	予習90分：栄養教育マネジメントサイクルを調べておく。 復習90分：栄養教育マネジメントサイクルをまとめ、事例をとおして確実に習得する。
第10回	宮原公子齋藤陽子	○アセスメントの目的 ○アセスメントの種類･方法 ○情報収集の方法	二次データの情報収集方法の演習を取り入れ、小グループでディスカッションする。	予習90分：アセスメントの意味と種類を調べておく。 復習90分：二次データの入手方法と種類をまとめる。
第11回	宮原公子齋藤陽子	○系統的・食行動とアセスメント ○栄養・食生活調査等の実際	栄養・食生活の方法として、食物摂取頻度法による把握法を体験する。	予習90分：栄養・食生活のアセスメントの方法を調べておく。 復習90分：栄養・食生活調査の種類や方法をまとめる。
第12回	宮原公子齋藤陽子	○栄養教育プログラムの基本 ○栄養教育の目標設定 ○教育方法の選択		予習90分：栄養教育プログラムの方法を調べておく。 復習90分：栄養教育の目標設定の事例をあげまとめる。
第13回	宮原公子齋藤陽子	○教材の種類と特性 ・食生活指針 ・食事バランスガイド ・食品群等の活用		予習90分：わが国におけるメジャーな教材は何か調べておく。 復習90分：食生活指針、食事バランスガイドの活用の実際をまとめる。
第14回	宮原公子齋藤陽子	○栄養教育プログラムの作成 ○栄養・食生活デザインの提示による教育	栄養・食生活提示案の立案を演習し、助言を踏まえて作成の実際を体験する。	予習90分：献立計画の持つ役割を調べておく。 復習90分：栄養・食生活デザイン提示案を完成させる。
第15回	宮原公子齋藤陽	○プレゼンテーション：二次データを活用した栄養アセスメントの活用 ○行動科学理論の活用 ○授業のまとめ	小グループでプレゼンテーションを行い、相互に評価をする。 そのことで、授業のまとめとなるようにする。	予習90分：プレゼンテーションの内容を練習しておく。 復習90分：プレゼンテーションので相互評価の内容を整理しておく。授業のまとめをする。

	子			

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著（南江堂）
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験解説 （2018版）
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 宮原公子編著（東山書房）

成績評価の方法・基準

単位認定基準60点以上
評価方法：定期試験（80%） 課題・授業の取り組み態度（20%）で評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。授業終了時に授業内容の確認・課題・予習として授業の要点をまとめフィードバックする。そのまとめをとおして、管理栄養士の根幹となる栄養教育の学びをとおしてモチベーションを高めていただきたい。

履修のポイント

栄養教育論Iでは、管理栄養士の栄養教育・指導業務に関わる内容を総論的に学習し、栄養教育論II･III、栄養教育論実習および臨地実習に繋げていく。確認テストや課題レポートを課すことがあるので、積極的に取り組んで欲しい。また、私語、本講義と関係ない作業をすること、無断退席など厳に慎むこと。

オフィス・アワー

＜宮原・齋藤＞
曜日：火曜日から金曜日までの4日間
時間：12:45～13:15（昼休み）
場所：11号館3階 19研究室（宮原）6研究室（齋藤）

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R231

講義コード	20720001
講義名	栄養教育論II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	５時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践現場での栄養教育経験を有し、理論と実践を統合した授業を展開する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

近年の栄養教育の分野では、科学的根拠および理論に基づいて栄養教育の対象者の行動変容を促す企画・実施、その実践活動を評価を組織や社会に発信していく能力を有する人材が期待されている。
本講義では栄養教育を企画する際に社会のニーズを踏まえ、科学的根拠に基づくプログラムの立案、さらに栄養教育の目的・目標、実践・評価時の教育内容や手法について、管理栄養士として必要な基礎知識を習得する。したがって、講義だけでなく演習を取り入れ能動的な学習ができるように授業をすすめる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ライフステージ・ライフサイクル別の利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣などを把握し、栄養教育に関して必要な知識や技術を修得している。
また、栄養教育マネジメント（計画・実施・評価・改善）に必要な知識と技能に関する基本的事項を修得している。

到達目標

１．社会のニーズや対象者であるライフステージ・スタイルに応じた健康課題、栄養教育の特徴を理解している。
２．PDCAサイクルにしたがって行う栄養教育マネジメントを理解している。
３．管理栄養士が行う栄養教育に必要な知識と技術を統合できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮原	○ガイダンス：栄養教育IIの授業概要（授業内容、進め方・評価 方法）の説明 ○栄養教育の機会・	○これまで学習した内容を踏まえ、自己が目指す管理栄養士像をグループ	予習90分：栄養教育の機会と場を復習しておく。 復習90分：管理栄養士に必要な

	公子	対象施設別管理栄養士 ○管理栄養士に必要なプレゼンテーション能力	でディスカッションする。	スキルを学習ノートにまとめる。
第2回	宮原公子	○栄養教育と目的・目標と管理栄養士 ○諸外国の管理栄養士と国際的な動向 ○管理栄養士の方向性と課題		予習90分：管理栄養士に社会が求めているものはないかを調べておく。 復習90分：栄養教育の目的と管理栄養士の役割をまとめる。
第3回	宮原公子	○ライフステージ・スタイル別栄養教育① ・妊娠期の栄養教育の課題と要点 ・乳幼児期の栄養教育の課題と要点		予習90分：妊娠期・乳幼児期の栄養教育の課題を調べておく。 復習90分：妊娠期・乳幼児期の栄養教育の要点をまとめる。予習で調べたこととの違いを確認する。
第4回	宮原公子	○ライフステージ・スタイル別栄養教育②：学童期・思春期① ・学童期・思春期の栄養教育の課題と要点 ・プレゼンテーション計画書の作成	○二次データを活用した学童期・思春期の健康課題をプレゼン計画書に起こす。	予習90分：学童期・思春期期の栄養教育の課題を調べておく。 復習90分：学童期・思春期の栄養教育の要点をまとめる。プレゼン計画書を作成準備する。
第5回	宮原公子	○ライフステージ・スタイル別栄養教育③：学童期・思春期② ・学童期・思春期の栄養教育の実際 ・健康課題のプレゼンテーション	○小グループで、作成した栄養教育計画の構想をプレゼンし、相互に評価する。	予習90分：プレゼンテーションでの内容を練習する。 復習90分：学童期・思春期期の栄養教育の要点をまとめる。評価内容を整理し、次回プレゼンの場に生かせるようにする。
第6回	宮原公子	○ライフステージ・スタイル別栄養教育④：成人期・高齢期 ・成人期の栄養教育の課題と要点 ・高齢期の栄養教育の課題と要点		予習90分：成人期・高齢期の栄養教育の課題を調べておく。 復習90分：成人期・高齢期の栄養教育の要点をまとめる。予習で調べたこととの違いを確認する。
第7回	宮原公子	○ライフステージ・スタイル別栄養教育⑤ ・障害者の栄養教育の課題と要点 ・傷病者の栄養教育の課題と要点 ・実践事例をとおした理解	○栄養教育実践事例の紹介を基に、対象者に応じた栄養教育とは何かを発表し合う。	予習90分：障害者期・傷病者の栄養教育の課題を調べておく。 復習90分：障害者・傷病者の栄養教育の要点をまとめる。予習で調べたこととの違いを確認する。

第8回	宮原公子	○栄養教育のためのアセスメントの目的と実施・分析・活用 ・栄養アセスメントの重要性 ・栄養アセスメントの分析 ・栄養アセスメントの活用		予習90分：栄養アセスメントとは何かを確認しておく。 復習90分：栄養アセスメントの種類と方法を整理する。
第9回	宮原公子	○栄養教育プログラムの作成(1) ・栄養教育全体計画 ・栄養教育目標の設定	○ワークシート「栄養教育全体計画」作成を練習する。	予習90分：栄養教育のプログラムかを調べておく。 復習90分：栄養教育の目的と管理栄養士の役割をまとめる。
第10回	宮原公子	○栄養教育プログラムの作成(2) ・プログラムの作成 ・学習指導案の作成	○プログラム・学習指導計画案の作成ポイントを演習し、小グループで検討し合う。	予習90分：学習指導計画案の様式を調べておく。 復習90分：演習したプログラムと学習指導計画案を指定された部分を完成させる。
第11回	宮原公子	○栄養教育プログラムの作成(3) ・教材作成 ・教材の提示方法・活用 ・教材作成の要点と実際 ・食育SATを利用した栄養教育	○体験型栄養教育媒体である「食育SAT]の体験をすることで、栄養教育能力の必要性を実感する。	予習90分：栄養教育教材の種類を調べておく。 復習90分：栄養教育教材作成の要点を整理しておく。
第12回	宮原公子	○栄養教育の実施者の技術 ・栄養教育実施に必要な準備内容 ・栄養教育の評価		予習90分：栄養教育者に必要な技術は何か調べておく。 復習90分：栄養教育者に必要な技術を整理する。予習で調べたこととの違いを確認する。
第13回	宮原公子	○PDCAサイクルに回した栄養教育の評価 ・評価の意義 ・評価の方法 ・評価の手順	○栄養教育目標の設定から評価に取り組み、グループでディスカッションする。	予習90分：栄養教育におけるPDCAサイクルについて調べておく。 復習90分：栄養教育の目標に対する評価の方法をまとめる。
第14回	宮原公子	○栄養教育マネジメントで用いる理論とモデル ・栄養教育における行動科学とは ・行動科学の理論の必要性		予習90分：行動科学とはの意味を調べておく。 復習90分：栄養教育に行動科学の理論の必要性をまとめる。
		○授業の要点とまと		予習90分：管理栄養士が行う栄養教育をまとめる。

第15回	宮原公子	め ・栄養教育実施と今後の方向性 ・栄養教育の実践へ繋げる	○栄養教育論で学習した内容をディスカッションし、3年生の実習に向けて意欲を高める。	復習90分：行動科学の理論とモデルと栄養教育における活用のまとめをする。 3年生開講の栄養教育論実習I・IIにつなげるように学習をまとめる。

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂４版 丸山千鶴子ほか 編著（南江堂）
配布資料：授業概要としてプリントを配布する。

参考書

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験解説（2020版）
献立の教材化の理論と実践 宮原公 編著 （東山書房）

成績評価の方法・基準

単位認定基準60点以上
評価方法：定期試験（80%） 課題・レポート（10%） 授業への参加度（10%）

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回配布する授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。授業終了時に授業の要点（確認 課題 予習）をまとめるので、まとめた内容を確実に学習し、管理栄養士業務の根幹となる栄養教育論の学びをとおして、モチベーションを高めていただきたい。毎回の授業概要を活用してフィードバックする。さらに、授業確認票を毎回双方向で評価するので、有効活用を奨める。

履修のポイント

栄養教育論IIでは、管理栄養士が行う栄養教育の内容を各論的に学習し、栄養教育論III、栄養教育論実習I・IIに繋げていく。確認テストや課題レポートを課すので、積極的に取り組んで欲しい。また、私語、本講義と関係のない作業をすること、無断退席など厳に慎むこと。

オフィス・アワー

曜日：火曜日から金曜日までの4日間
時間：12:45～13:15
場所：11号館3階 19研究室（宮原研究室）

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R232

講義コード	20730001
講義名	栄養教育論III
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践活動の場で栄養教育を行った経歴を有している教員が、理論と実践させた栄養教育が実践できるよう能動的学習を展開する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齋藤 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育においては、個人・個人間、集団や社会の行動変容及び栄養カウセリングの実施に向けて、コミュニケーション技術は必須である。本授業においては、栄養教育のための理論的基礎知識と技法を理解し、既学習を整理し、管理栄養士に必要な「栄養教育力」「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」であるスキルをまとめる。教育目標は、栄養教育と行動科学、行動科学の理論とモデル、栄養カウンセリング、行動変容技法の概念、組織・地域づくりへの展開及び食環境づくりとの関連をとおして、理論と実践を結びつけて学修することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これまでの学習した専門基礎科目と専門科目（基礎栄養学・応用栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論）を統合･発展させる。そのことにより、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践栄養教育の場において職業人として活躍できる知識・技術を修得している。

到達目標

１．栄養教育の意義及び目的に応じた理論と技法について理解する。
２．栄養教育で活用する行動科学理論の基礎および行動変容技法を理解する。
３．栄養教育の実践場面で何を求められているか理解し、21世紀を担う高度な管理栄養士としての自覚を持つことができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	宮原公	○ガイダンス：栄養教育論III授業概要（教育目標・到達目標、評価方	栄養教育におけるPDCAサ	予習90分：管理栄養士が行う栄養教育の役割を復

第1回	子 齋藤陽子	法、授業の進め方）の説明 ○栄養教育確認テスト：栄養教育論Ⅰ・Ⅱの既習学習	イクルを回したマネジメントの重要性を、小グループでディスカッションする。	習しておく。 復習90分：栄養教育と行動科学の理論を学習ノートにまとめる。
第2回	宮原公子 齋藤陽子	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(1) ○食行動変容と栄養教育① ○個人・個人間、集団や社会の行動変容の理論① ・健康信念モデル ・KAP/KABモデル	小グループ分けによる小集団においてのデスカッション	予習90分：行動科学の理論・モデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第3回	宮原公子 齋藤陽子	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(2) ○食行動変容と栄養教育② ○個人・個人間、集団や社会の行動変容② ・行動変容段階モデル、 ・計画的行動理論	Aグループ：プレゼンテーション準備① Bグループ：〔課題解決学習〕行動科学理論とモデル収集	予習90分：行動科学の理論とモデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第4回	宮原公子 齋藤陽子	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(3) ○食行動変容と栄養教育③ ○個人・個人間、集団や社会の行動変容③ ・社会的学習理論、 ・社会的認知理論	Aグループ：プレゼンテーション実施① Bグループ：〔課題解決学習〕行動科学理論とモデル実施	予習90分：行動科学の理論とモデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第5回	宮原公子 齋藤陽子	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(4) ○食行動変容と栄養教育④ ○個人・個人間、集団や社会の行動変容④ ・レスポンデンス学習理論 ・オペラント学習理論	Aグループ：〔課題〕行動科学理論とモデル収集 Bグループ：プレゼンテーション準備②	予習90分：行動科学の理論とモデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第6回	宮原公子 齋藤陽子	行動科学の理論とモデルに関する理論の解説(5) ○食行動変容と栄養教育⑤ ○個人・個人間、集団や社会の行動変容⑤ ・ソーシャルネットワーク ・ソーシャルサポート	Aグループ：〔課題〕行動科学理論とモデル実施 Bグループ：プレゼンテーション実施②	予習90分：行動科学の理論とモデルの種類を調べておく。 復習90分：食行動変容に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第7回	宮原公子 齋藤陽	栄養カウンセリングに関する理論の解説(1) ○栄養カウンセリングの本質① ○栄養カウンセリング① ・カウンセリングマインド	Aグループ：〔課題〕行動科学理論とモデル実施 Bグループ：プレゼンテーション実施②	予習90分：栄養カウンセリングの基本的事項を調べておく。 復習90分：栄養カウンセリングに関するプレゼンと事例演習の準備をする。

	子	・ラポールの形成		
第8回	宮原公子齋藤陽子	栄養カウンセリングに関する理論の解説(2) ○栄養カウンセリングの本質② ○栄養カウンセリング② ・対人コミュニケーション ・コーチング①	Aグループ：プレゼンテーション準備② Bグループ：〔課題〕栄養相談・カウンセリング収集	予習90分：栄養カウンセリングの基本的事項を調べておく。 復習90分：栄養カウンセリングに関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第9回	宮原公子齋藤陽子	栄養カウンセリングに関する理論の解説(3) ○栄養カウンセリングの本質③ ○栄養カウンセリング③ ・コーチング② ・行動カウンセリング	Aグループ：プレゼンテーション実施② Bグループ：〔課題〕栄養相談・カウンセリング実施	予習90分：栄養カウンセリングの基本的事項を調べておく。 復習90分：栄養カウンセリングに関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第10回	宮原公子齋藤陽子	行動変容に関する理論の解説(1) ○個人の行動を促す技法① ○行動変容技法① ・社会変革モデル ・プリシード・プロシードモデル①	Aグループ：プレゼンテーション実施② Bグループ：〔課題〕栄養相談・カウンセリング実施	予習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法を調べておく。 復習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第11回	宮原公子齋藤陽子	行動変容に関する理論の解説(2) ○個人の行動を促す技法② ○行動変容技法② ・プリシード・プロシードモデル② ・コミュニケーションモデル	Aグループ：〔課題〕行動科学理論とモデル準備 Bグループ：プレゼンテーション準備②	予習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法を調べておく。 復習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第12回	宮原公子齋藤陽子	行動変容に関する理論の解説(2) ○個人の行動を促す技法③ ○行動変容技法③ ・コミュニティーオーガニゼーション ・イノベーション普及理論	Aグループ：〔課題〕行動科学理論とモデル実施 Bグループ：プレゼンテーション実施②	予習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法を調べておく。 復習90分：栄養教育における個人の行動を促す技法に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第13回	宮原公子齋藤陽子	組織・地域・食環境づくりの解説(1) ○集団や社会の行動変容① ○組織・地域・食環境づくり① ・ネットワークづくり ・自助集団	Aグループ：プレゼンテーション実施① Bグループ：〔課題〕組織・地域・食環境づくり収集①	予習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育を調べておく。 復習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
	宮原公	組織・地域・食環境づくりの解説(2) ○集団や社会の行動変容②	Aグループ：プレゼンテーション実施②	予習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育を調べておく。

第14回	子齋藤陽子	○組織・地域・食環境づくり② ・集団力学（グループダイナミックス） ・エンパワメント	Bグループ：〔課題〕組織・地域・食環境づくり収集②	復習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第15回	宮原公子齋藤陽子	組織・地域・食環境づくりの解説(3) ○集団や社会の行動変容③ ○組織・地域・食環境づくり③ ・ポピュレーションアプローチ） ・ハイリスクアプローチ	Aグループ：プレゼンテーション実施③ Bグループ：〔課題〕組織・地域・食環境づくり実施③	予習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育を調べておく。 復習90分：組織・地域・食環境づくりと栄養教育に関するまとめをする。

教科書

健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著 （南江堂）
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

参考文献：クエスチョンバンク管理栄養士国家試験解説（2020版）
日本人の食事摂取基準（2020年版）

成績評価の方法・基準

単位認定基準60点以上
評価方法：定期試験（80%） 課題・事例演習（10%）授業の取り組み（10%）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業は能動的学習を取り入れるので、積極的に参加してもらいたい。また、毎回配布する授業概要を活用し、確実に基礎から応用を繋ぐ学習になるよう取り組んで欲しい。授業終了時に授業の要点をまとめるので、確認・課題・予習を行い、栄養教育論の学びのまとめとなるようにしていただきたい。授業出席カードによりフィードバックする。

履修のポイント

栄養教育論IIIでは、管理栄養士の栄養教育・指導業務に関わる内容を行動変容に焦点をあて学習し、栄養教育栄養教育論I･II、栄養教育論実習I・II及び臨地実習のまとめとする。学習主題にそったプレゼンテーションや事例課題を課すので、積極的に取り組み管理栄養士の専門性を高めるようにする。

オフィス・アワー

＜宮原＞
曜日：火曜日から金曜日までの4日間
時間：12:45～13:15
場所：11号館3階 19研究室（宮原研究室）
＜齋藤＞
曜日：火曜日から金曜日までの4日間
時間：12:45～13:15
場所：11号館3階 6研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R270

講義コード	20740001
講義名	栄養教育論実習I（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践現場での栄養教育経験を有し、理論と実践を統合した栄養教育能力を高める授業を展開する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齋藤 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の目的は、「人々の健康維持・増進および生活の質（QOL）の向上を目指し、ライフステージ別に望ましい栄養状態の実現を図ること」である。栄養教育論I・IIおよび専門基礎科目で学んだ知識を基に、対象者の把握に必要なアセスメント手法や栄養教育の計画から評価までの基本的手法を習得する。具体的には、栄養教育の対象と機会に応じた栄養教育の実際を学び、管理栄養士として現場で活用できる実践力を身につけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ライフステージ・ライフサイクル別利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣など、エビデンスを基にした栄養教育（小集団・ポピュレーションアプローチ）が現場で推進できるよう必要な知識や技術を修得している。そのためには、PDCAサイクルにそった一連の流れ（Plan Do Check Action）の実践力と考察力を身につけている。

到達目標

１．栄養アセスメントの目的・種類・方法の基本的事項を理解し、対象者と機会に応じたマネジメントの流れを習得する。
２．栄養教育全体計画を基に諸計画を作成し、必要な知識と技術を統合し具体的な栄養教育計画の作成ができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮原公子齋藤	オリエンテーション ・栄養教育論実習の目的・目標 ・栄養教育の理論と実践を繋ぐ実習	栄養教育の必要性を二次データを基にディスカッションする。	予習：15分 栄養教育の必要性を確認する。 復習：30分 栄養教育実習の目的・目標を復習する。

	陽子	の方向性		
第2回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（1）：臨床診査 ・栄養アセスメントの目的・種類・方法 ・問診による臨床診査	問診による臨床診査をペアで行い、グループ内で評価し合う。	予習：30分 栄養アセスメントの目的・種類・方法を確認する。 復習：45分 栄養アセスメントの目的・種類・方法を理解する。
第3回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（2）：身体計測 ・身体状況の把握と評価 ・身体活動レベルの推定（行動記録） ・推定エネルギー必要量の算出	身体計測の結果を基にグループ内で評価し合う。	予習：15分 身体状況の把握の仕方を調べる。 復習：30分 行動記録の書き方、身体活動レベルおよび推定エネルギー必要量の算出方法を理解する。
第4回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（3）：食事調査① ・栄養・食事調査の種類と方法 ・栄養状態の把握と評価①（食物摂取頻度調査法）	グループ内で入力したデータを評価し合う。	予習：30分 栄養・食事調査の種類と方法を調べる。 復習：30分 食物摂取頻度調査法の仕方を理解する。
第5回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（4）：食事調査② ・栄養・食事調査の種類と方法 ・栄養状態の把握と評価②（食事記録） ・栄養計算ソフトの使い方	食事記録をグループ内で評価し合う。	予習：30分 食事記録の種類と方法を調べる。 復習：30分 栄養計算ソフトの使い方を理解し、その操作方法を習得する。
第6回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（5）：食事調査③ ・栄養・食事調査の種類と方法 ・栄養状態の把握と評価③（食事バランスガイド）	栄養状態の評価をグループ内で行う。	予習：30分 食事バランスガイドの概要を確認する。 復習：30分 食事バランスガイドを用いた食品レベルおよび料理レベルの評価を理解する。
第7回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（6）：分析方法 ・対象者のアセスメント結果の分析方法 ・Excel関数を活用した基本統計量の求め方	栄養アセスメントの分析方法を学習グループで共有し、相互にスキルを高め合う。	予習：15分 Excelの基本統計量の仕方を確認する。 復習：30分 基本統計量の求め方を復習する。

第8回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（1） ・対象者のアセスメント実施 ・アセスメント結果の分析、課題抽出 ・二次データの活用	栄養アセスメントを基に二次データを活用し健康課題をグループディスカッションする。	予習：15分 アセスメントの分析方法を調べる。 復習：30分 二次データを利用した課題抽出方法を復習する。
第9回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（2） 栄養教育全体計画の立案① 対象者の決定、目標の設定、計画書の作成	栄養アセスメントを基に栄養教育全体計画を立案する。	予習：15分 既学習した栄養教育計画立案の仕方を確認する。 復習：30分 栄養教育における目標設定の仕方を復習する。
第10回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（3） 栄養教育学習指導案の作成 栄養教育指導案の意義、目的	栄養教育全体計画を基に学習指導案を作成する。	予習：15分 既学習した学習指導案の作成の仕方を確認する。 復習：30分 栄養教育学習指導案を仕上げる。
第11回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（4） 栄養・食生活デザイン提示案の作成 献立の教材化の理論と実践	栄養教育学習指導案を基に栄養・食生活デザイン提示案を作成する。	予習：15分 管理栄養士が食品レベル、料理レベルで提示する能力が求められる理由を考える。 復習：90分 作成した提示案を基に実物教材となる献立を試作・評価する。
第12回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（5） 栄養教育における教材 教材の種類 教材の効果的な活用法 教材作成の実際	栄養教育全体計画を基に教材を作成する。	予習：15分 栄養教育教材の役割を確認する。 復習：30分 教材の種類、効果的な活用方法の理解を深め、教材を仕上げる。
第13回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（6） 栄養教育実施者の技術 プレゼンテーション技術 プレゼンテーション計画書、原稿の作成	「栄養教育マネジメント」のプレゼンテーション計画書および原稿を作成する。	予習：15分 プレゼンテーションの技術について調べる。 復習：30分 プレゼンテーション計画書、原稿を仕上げる。
第14回	宮原公子齋	栄養教育のマネジメント（7） 栄養教育計画に基づいた対象者・機	グループ内で「栄養教育マネジメント」のプレゼンテーション行い、相互に評	予習：15分 プレゼンテーションの練習をする。 復習：30分 他者からの評価を

	藤陽子	会別グループ内プレゼン	価し合う。	受け、修正・改善をする。
第15回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育 のPDCAサイクル ・栄養教育の計画・展開・評価・改善の実際 ・実習のまとめ、実習ノートの整理	グループ内で「栄養教育マネジメント」の改善点などをディスカッションする。	予習：15分 栄養教育全体計画の修正・改善をする。 復習：30分 栄養教育論実習I内容を復習し、栄養教育論実習IIにつなげる。

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著 南江堂
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 東山書房
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

栄養教育論実習 講談社
日本人の食事摂取基準（2020年版）第一出版

成績評価の方法・基準

単位認定：最終評価点 60点以上
評価方法：課題・レポート（60%）、確認テスト（25%）、授業参加度（15%）で評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。課題については、コメントを入れて返却する。授業準備は必須で確認・課題・予習を確実に行い、管理栄養士の業務の根幹をなす栄養教育の技術を学びモチベーションを高めていただきたい。

履修のポイント

栄養教育論実習Iでは、栄養教育の実践を総論的に学習してきたので、栄養教育論実習IIに繋げていく。課題や情報収集としてレポートを課すことがあるので、滞ることなく取り組むようにする。

オフィス・アワー

宮原：火曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 19研究室（宮原研究室）
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 6研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R251

講義コード	20740002
講義名	栄養教育論実習I（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践現場での栄養教育経験を有し、理論と実践を統合した栄養教育能力を高める授業を展開する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齋藤 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の目的は、「人々の健康維持・増進および生活の質（QOL）の向上を目指し、ライフステージ別に望ましい栄養状態の実現を図ること」である。栄養教育論I・IIおよび専門基礎科目で学んだ知識を基に、対象者の把握に必要なアセスメント手法や栄養教育の計画から評価までの基本的手法を習得する。具体的には、栄養教育の対象と機会に応じた栄養教育の実際を学び、管理栄養士として現場で活用できる実践力を身につけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ライフステージ・ライフサイクル別利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣など、エビデンスを基にした栄養教育（小集団・ポピュレーションアプローチ）が現場で推進できるよう必要な知識や技術を修得している。そのためには、PDCAサイクルにそった一連の流れ（Plan Do Check Action）の実践力と考察力を身につけている。

到達目標

１．栄養アセスメントの目的・種類・方法の基本的事項を理解し、対象者と機会に応じたマネジメントの流れを習得する。
２．栄養教育全体計画を基に諸計画を作成し、必要な知識と技術を統合し具体的な栄養教育計画の作成ができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮原公子齋藤	オリエンテーション ・栄養教育論実習の目的・目標 ・栄養教育の理論と実践を繋ぐ実習	栄養教育の必要性を二次データを基にディスカッションする。	予習：15分 栄養教育の必要性を確認する。 復習：30分 栄養教育実習の目的・目標を復習する。

	陽子	の方向性		
第2回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（1）：臨床診査 ・栄養アセスメントの目的・種類・方法 ・問診による臨床診査	問診による臨床診査をペアで行い、グループ内で評価し合う。	予習：30分 栄養アセスメントの目的・種類・方法を確認する。 復習：45分 栄養アセスメントの目的・種類・方法を理解する。
第3回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（2）：身体計測 ・身体状況の把握と評価 ・身体活動レベルの推定（行動記録） ・推定エネルギー必要量の算出	身体計測の結果を基にグループ内で評価し合う。	予習：15分 身体状況の把握の仕方を調べる。 復習：30分 行動記録の書き方、身体活動レベルおよび推定エネルギー必要量の算出方法を理解する。
第4回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（3）：食事調査① ・栄養・食事調査の種類と方法 ・栄養状態の把握と評価①（食物摂取頻度調査法）	グループ内で入力したデータを評価し合う。	予習：30分 栄養・食事調査の種類と方法を調べる。 復習：30分 食物摂取頻度調査法の仕方を理解する。
第5回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（4）：食事調査② ・栄養・食事調査の種類と方法 ・栄養状態の把握と評価②（食事記録） ・栄養計算ソフトの使い方	食事記録をグループ内で評価し合う。	予習：30分 食事記録の種類と方法を調べる。 復習：30分 栄養計算ソフトの使い方を理解し、その操作方法を習得する。
第6回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（5）：食事調査③ ・栄養・食事調査の種類と方法 ・栄養状態の把握と評価③（食事バランスガイド）	栄養状態の評価をグループ内で行う。	予習：30分 食事バランスガイドの概要を確認する。 復習：30分 食事バランスガイドを用いた食品レベルおよび料理レベルの評価を理解する。
第7回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のアセスメント（6）：分析方法 ・対象者のアセスメント結果の分析方法 ・Excel関数を活用した基本統計量の求め方	栄養アセスメントの分析方法を学習グループで共有し、相互にスキルを高め合う。	予習：15分 Excelの基本統計量の仕方を確認する。 復習：30分 基本統計量の求め方を復習する。

第8回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（1） ・対象者のアセスメント実施 ・アセスメント結果の分析、課題抽出 ・二次データの活用	栄養アセスメントを基に二次データを活用し健康課題をグループディスカッションする。	予習：15分 アセスメントの分析方法を調べる。 復習：30分 二次データを利用した課題抽出方法を復習する。
第9回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（2） 栄養教育全体計画の立案① 対象者の決定、目標の設定、計画書の作成	栄養アセスメントを基に栄養教育全体計画を立案する。	予習：15分 既学習した栄養教育計画立案の仕方を確認する。 復習：30分 栄養教育における目標設定の仕方を復習する。
第10回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（3） 栄養教育学習指導案の作成 栄養教育指導案の意義、目的	栄養教育全体計画を基に学習指導案を作成する。	予習：15分 既学習した学習指導案の作成の仕方を確認する。 復習：30分 栄養教育学習指導案を仕上げる。
第11回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（4） 栄養・食生活デザイン提示案の作成 献立の教材化の理論と実践	栄養教育学習指導案を基に栄養・食生活デザイン提示案を作成する。	予習：15分 管理栄養士が食品レベル、料理レベルで提示する能力が求められる理由を考える。 復習：90分 作成した提示案を基に実物教材となる献立を試作・評価する。
第12回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（5） 栄養教育における教材 教材の種類 教材の効果的な活用法 教材作成の実際	栄養教育全体計画を基に教材を作成する。	予習：15分 栄養教育教材の役割を確認する。 復習：30分 教材の種類、効果的な活用方法の理解を深め、教材を仕上げる。
第13回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント（6） 栄養教育実施者の技術 プレゼンテーション技術 プレゼンテーション計画書、原稿の作成	「栄養教育マネジメント」のプレゼンテーション計画書および原稿を作成する。	予習：15分 プレゼンテーションの技術について調べる。 復習：30分 プレゼンテーション計画書、原稿を仕上げる。
第14回	宮原公子齋	栄養教育のマネジメント（7） 栄養教育計画に基づいた対象者・機	グループ内で「栄養教育マネジメント」のプレゼンテーション行い、相互に評	予習：15分 プレゼンテーションの練習をする。 復習：30分 他者からの評価を

	藤陽子	会別グループ内プレゼン	価し合う。	受け、修正・改善をする。
第15回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育 のPDCAサイクル ・栄養教育の計画・展開・評価・改善の実際 ・実習のまとめ、実習ノートの整理	グループ内で「栄養教育マネジメント」の改善点などをディスカッションする。	予習：15分 栄養教育全体計画の修正・改善をする。 復習：30分 栄養教育論実習I内容を復習し、栄養教育論実習IIにつなげる。

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著 南江堂
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 東山書房
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

栄養教育論実習 講談社
日本人の食事摂取基準（2020年版）第一出版

成績評価の方法・基準

単位認定：最終評価点 60点以上
評価方法：課題・レポート（60%）、確認テスト（25%）、授業参加度（15%）で評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。課題については、コメントを入れて返却する。授業準備は必須で確認・課題・予習を確実に行い、管理栄養士の業務の根幹をなす栄養教育の技術を学びモチベーションを高めていただきたい。

履修のポイント

栄養教育論実習Iでは、栄養教育の実践を総論的に学習してきたので、栄養教育論実習IIに繋げていく。課題や情報収集としてレポートを課すことがあるので、滞ることなく取り組むようにする。

オフィス・アワー

宮原：火曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 19研究室（宮原研究室）
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 6研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R251

講義コード	20750001
講義名	栄養教育論実習II（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践現場での栄養教育経験を有し、理論と実践を統合した栄養教育能力を高める授業を展開する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齋藤 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の実践は、ハイリスク者である個人を対象にするだけでなく、ポピュレーションアプローチの視点を持つことが重要である。本授業では地域集団（地域・職場・学校等）を対象に、食環境アプローチを視野に入れた栄養教育の実践力を養う。
栄養教育論実習Iの基礎実習で習得した基本的知識と技能を生かし、行動科学理論やエビデンスに基づき、企画推進・実践展開の仕方を応用実習として取り組んでいく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけている。具体的には、エビデンスを基づいたポピュレーションアプローチ（ 教育的・環境的 ）が管理栄養士の活躍の場で推進できるようになり、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。

到達目標

１．小集団・ポピュレーションを対象にした栄養教育において、行動科学理論が活用できるようになる。
２．小集団・ポピュレーションアプローチを実施する上での栄養教育の流れ（レビュー、アセスメント、教育計画、目標設定、実施、評価）の体験をとおして、その知識と技能を習得する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮原公子齋藤	オリエンテーション・栄養教育論実習II授業概要（目標・進め方）・ポピュレーションアプローチの視点を	○栄養教育論実習Iの振り返りを行い、グループ内でディスカッションを行い学習に生かす。	予習：15分 ポピュレーションアプローチを調べる。 復習：30分 ポピュレーションアプローチの特徴を

	陽子	持つ栄養教育		実習ノートにまとめる。
第2回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育実施の方法：応用 ・学習形態と方法 ・一斉学習・グループ学習・個別学習	○グループ内ディスカッション後、全体において発表する。	予習：30分 学習形態と方法を調べる。 復習：30分 学習形態の種類と方法をを実習ノートにまとめる。
第3回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(1) ・学習者の栄養アセスメント：二次データの利用、情報収集準備 ・栄養教育全体計画の立案	○グループワーク（情報収集、栄養教育全体計画の作成）に取り組む。	予習：30分 栄養アセスメントの情報収集を確認する。 復習：30分 二次データを利用して情報収集を行い、栄養教育全体計画に反映できる準備をする。
第4回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(2) ・栄養教育計画書の作成① （学習指導計画案、栄養・食生活提示案）	○グループワーク（諸計画書の作成）に取り組む。	予習：15分 栄養教育計画書の種類と方法を再確認する。 復習：30分 諸計画書の作成を進める。
第5回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(3) ・栄養教育計画書の作成② （学習指導計画案、栄養・食生活提示案）	○グループワーク（諸計画書の作成）に取り組む。	予習：15分 栄養教育計画書作成の構想をしておく。 復習：30分 諸計画書の作成を進める。
第6回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(4) ・栄養教育計画書の作成③ （学習指導計画案、栄養・食生活提示案）	○グループワーク（諸計画書の作成）に取り組み、完成後、ディスカッション・検討する。	予習：15分 諸計画書を進める 復習：30分 諸計画書の仕上げをする。
第7回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(5) ・栄養教育のための食事計画と栄養教育教材の作成 ・栄養教育教材としての「栄養・食生活提示案」	○グループワーク（教材作成）に取り組む。	予習：15分 栄養教育教材の特徴や種類を確認する 復習：30分 栄養教育のための食事計画の重要性を理解し、具体的な栄養・食生活提示案を進める。
第8回	宮原公子齋	栄養教育のマネジメント 計画(6) ・栄養教育のための食事計画と栄養教育教材の作成	○グループワーク（教材作成） 完成後、ディスカッショ	予習：15分 取り組んでいる栄養教育教材について再確認する。 復習：30分 栄養教育のた

	藤陽子	・栄養教育教材としての「栄養・食生活提示案」	ン・検討	めの食事計画の重要性を理解し、具体的な栄養・食生活提示案を仕上げる。
第9回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 実施(1) ・栄養・食生活提示案に基づく試作 ・試作に基づく検討・評価・修正	○グループワーク（試作・検討・評価・修正）に取り組む。 ○質問に対して適切な対応をする。	予習：60分 試作の準備をする。 復習：30分 計画段階と実施段階を評価し、教材となる栄養・食生活提示案であるかどうか評価・修正する。
第10回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 実施(2) ・栄養教育の機会と場別模擬栄養教育の実施 ・実施後のディスカッション	○グループでのプレ模擬栄養教育実施及びディスカッションを行う。 ○質問に対して適切な対応をする。	予習：30分 プレ模擬栄養教育の練習をする。 復習：30分 グループ内で行ったディスカッションをまとめる。
第11回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 評価(1) ・栄養教育の機会と場別模擬栄養教育の評価 ・模擬栄養教育後の評価から改善	○グループワーク（栄養教育全体計画の評価・改善）に取り組む。 ○質問に対して適切な対応をする。	予習：30分 栄養教育全体計画の見直しをする 復習：30分 他者からの評価を受け、修正・改善をする。
第12回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 評価(2) ・学習指導案の修正 ・栄養教育全体計画の見直し ・プレゼンテーションの準備	○グループワーク（模擬教育の準備）に取り組む。 ○質問に対して適切な対応をする。	予習：30分 諸計画書、教材を完成させる 復習：60分 栄養教育マネジメントのプレゼンテーションの準備をする。
第13回	宮原公子齋藤陽子	プレゼンテーション（前半グループ）：栄養教育計画マネジメントの実践・評価(1) ・栄養教育全体計画を基にしたマネジメント説明 ・模擬教育の実践	○グループワークで行った栄養教育マネジメントを、プレゼンテーションを行い相互に評価する。–前半グループ–	予習：60分 模擬教育の練習をする。 復習：30分 他者からの評価を受け、修正・改善をする。（前半グループ）
第14回	宮原公子齋藤陽子	プレゼンテーション（後半グループ）：栄養教育計画マネジメントの実践・評価(2) ・栄養教育全体計画を基にしたマネジメント説明 ・模擬教育の実践	○グループワークで行った栄養教育マネジメントを、プレゼンテーションを行い相互に評価する。–後半グループ–	予習：60分 模擬教育の練習をする。 復習：30分 他者からの評価を受け、修正・改善をする。（後半グループ）
	宮			

第15回	原公子 齋藤陽子	栄養教育論実習IIのまとめ ・実習ノート整理 ・栄養教育の知識と技能の統合と課題まとめ	○実践現場においての栄養教育スキルの必要性を実習ノートにまとめて提出する。	予習：15分 実習ノートを整理する 復習：30分 栄養教育の知識と技能を統合し、4年生管理栄養士総合演習IIの実践力・応用力につなげる。

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著 南江堂
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 東山書房
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

栄養教育論実習 講談社
日本人の食事摂取基準（2020年版）第一出版

成績評価の方法・基準

評価方法：課題・レポート（60%）、授業の取り組み（25%）、授業参加度（15%）で評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。本実習授業は、グループ単位で取り組む内容が多くメンバーと協力して、積極的に取り組みをして欲しい。授業に際しては、授業の流れや目的を授業概要として示し、双方向で活用できる書き込み方式で、フィードバックできるようにする。

履修のポイント

栄養教育論実習Iでは、栄養教育の実践を総論的に学習してきたので、栄養教育論実習IIに繋げていく。課題や情報収集としてレポートを課すことがあるので、滞ることなく取り組むようにする。

オフィス・アワー

宮原：火曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 19研究室（宮原研究室）
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 6研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R261

講義コード	20750002
講義名	栄養教育論実習II（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践現場での栄養教育経験を有し、理論と実践を統合した栄養教育能力を高める授業を展開する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齋藤 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の実践は、ハイリスク者である個人を対象にするだけでなく、ポピュレーションアプローチの視点を持つことが重要である。本授業では地域集団（地域・職場・学校等）を対象に、食環境アプローチを視野に入れた栄養教育の実践力を養う。
栄養教育論実習Iの基礎実習で習得した基本的知識と技能を生かし、行動科学理論やエビデンスに基づき、企画推進・実践展開の仕方を応用実習として取り組んでいく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけている。具体的には、エビデンスを基づいたポピュレーションアプローチ（ 教育的・環境的 ）が管理栄養士の活躍の場で推進できるようになり、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。

到達目標

１．小集団・ポピュレーションを対象にした栄養教育において、行動科学理論が活用できるようになる。
２．小集団・ポピュレーションアプローチを実施する上での栄養教育の流れ（レビュー、アセスメント、教育計画、目標設定、実施、評価）の体験をとおして、その知識と技能を習得する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮原公子齋藤	オリエンテーション・栄養教育論実習II授業概要（目標・進め方）・ポピュレーションアプローチの視点を	○栄養教育論実習Iの振り返りを行い、グループ内でディスカッションを行い学習に生かす。	予習：15分 ポピュレーションアプローチを調べる。 復習：30分 ポピュレーションアプローチの特徴を

	陽子	持つ栄養教育		実習ノートにまとめる。
第2回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育実施の方法：応用 ・学習形態と方法 ・一斉学習・グループ学習・個別学習	○グループ内ディスカッション後、全体において発表する。	予習：30分 学習形態と方法を調べる。 復習：30分 学習形態の種類と方法をを実習ノートにまとめる。
第3回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(1) ・学習者の栄養アセスメント：二次データの利用、情報収集準備 ・栄養教育全体計画の立案	○グループワーク（情報収集、栄養教育全体計画の作成）に取り組む。	予習：30分 栄養アセスメントの情報収集を確認する。 復習：30分 二次データを利用して情報収集を行い、栄養教育全体計画に反映できる準備をする。
第4回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(2) ・栄養教育計画書の作成① （学習指導計画案、栄養・食生活提示案）	○グループワーク（諸計画書の作成）に取り組む。	予習：15分 栄養教育計画書の種類と方法を再確認する。 復習：30分 諸計画書の作成を進める。
第5回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(3) ・栄養教育計画書の作成② （学習指導計画案、栄養・食生活提示案）	○グループワーク（諸計画書の作成）に取り組む。	予習：15分 栄養教育計画書作成の構想をしておく。 復習：30分 諸計画書の作成を進める。
第6回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(4) ・栄養教育計画書の作成③ （学習指導計画案、栄養・食生活提示案）	○グループワーク（諸計画書の作成）に取り組み、完成後、ディスカッション・検討する。	予習：15分 諸計画書を進める 復習：30分 諸計画書の仕上げをする。
第7回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 計画(5) ・栄養教育のための食事計画と栄養教育教材の作成 ・栄養教育教材としての「栄養・食生活提示案」	○グループワーク（教材作成）に取り組む。	予習：15分 栄養教育教材の特徴や種類を確認する 復習：30分 栄養教育のための食事計画の重要性を理解し、具体的な栄養・食生活提示案を進める。
第8回	宮原公子齋	栄養教育のマネジメント 計画(6) ・栄養教育のための食事計画と栄養教育教材の作成	○グループワーク（教材作成） 完成後、ディスカッショ	予習：15分 取り組んでいる栄養教育教材について再確認する。 復習：30分 栄養教育のた

	藤陽子	・栄養教育教材としての「栄養・食生活提示案」	ン・検討	めの食事計画の重要性を理解し、具体的な栄養・食生活提示案を仕上げる。
第9回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 実施(1) ・栄養・食生活提示案に基づく試作 ・試作に基づく検討・評価・修正	○グループワーク（試作・検討・評価・修正）に取り組む。 ○質問に対して適切な対応をする。	予習：60分 試作の準備をする。 復習：30分 計画段階と実施段階を評価し、教材となる栄養・食生活提示案であるかどうか評価・修正する。
第10回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 実施(2) ・栄養教育の機会と場別模擬栄養教育の実施 ・実施後のディスカッション	○グループでのプレ模擬栄養教育実施及びディスカッションを行う。 ○質問に対して適切な対応をする。	予習：30分 プレ模擬栄養教育の練習をする。 復習：30分 グループ内で行ったディスカッションをまとめる。
第11回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 評価(1) ・栄養教育の機会と場別模擬栄養教育の評価 ・模擬栄養教育後の評価から改善	○グループワーク（栄養教育全体計画の評価・改善）に取り組む。 ○質問に対して適切な対応をする。	予習：30分 栄養教育全体計画の見直しをする 復習：30分 他者からの評価を受け、修正・改善をする。
第12回	宮原公子齋藤陽子	栄養教育のマネジメント 評価(2) ・学習指導案の修正 ・栄養教育全体計画の見直し ・プレゼンテーションの準備	○グループワーク（模擬教育の準備）に取り組む。 ○質問に対して適切な対応をする。	予習：30分 諸計画書、教材を完成させる 復習：60分 栄養教育マネジメントのプレゼンテーションの準備をする。
第13回	宮原公子齋藤陽子	プレゼンテーション（前半グループ）：栄養教育計画マネジメントの実践・評価(1) ・栄養教育全体計画を基にしたマネジメント説明 ・模擬教育の実践	○グループワークで行った栄養教育マネジメントを、プレゼンテーションを行い相互に評価する。–前半グループ–	予習：60分 模擬教育の練習をする。 復習：30分 他者からの評価を受け、修正・改善をする。（前半グループ）
第14回	宮原公子齋藤陽子	プレゼンテーション（後半グループ）：栄養教育計画マネジメントの実践・評価(2) ・栄養教育全体計画を基にしたマネジメント説明 ・模擬教育の実践	○グループワークで行った栄養教育マネジメントを、プレゼンテーションを行い相互に評価する。–後半グループ–	予習：60分 模擬教育の練習をする。 復習：30分 他者からの評価を受け、修正・改善をする。（後半グループ）
	宮			

第15回	原公子 齋藤陽子	栄養教育論実習IIのまとめ ・実習ノート整理 ・栄養教育の知識と技能の統合と課題まとめ	○実践現場においての栄養教育スキルの必要性を実習ノートにまとめて提出する。	予習：15分 実習ノートを整理する 復習：30分 栄養教育の知識と技能を統合し、4年生管理栄養士総合演習IIの実践力・応用力につなげる。

教科書

教 科 書：健康科学シリーズ「栄養教育論」改訂4版 丸山千鶴子ほか編著 南江堂
楽しく学ぶ献立の教材化の理論と実践 東山書房
配布資料：授業概要としてプリント配布

参考書

栄養教育論実習 講談社
日本人の食事摂取基準（2020年版）第一出版

成績評価の方法・基準

評価方法：課題・レポート（60%）、授業の取り組み（25%）、授業参加度（15%）で評価する。

課題等に対するフィードバックの方法

授業概要を活用し、各自、意欲的に学習に取り組んで欲しい。本実習授業は、グループ単位で取り組む内容が多くメンバーと協力して、積極的に取り組みをして欲しい。授業に際しては、授業の流れや目的を授業概要として示し、双方向で活用できる書き込み方式で、フィードバックできるようにする。

履修のポイント

栄養教育論実習Iでは、栄養教育の実践を総論的に学習してきたので、栄養教育論実習IIに繋げていく。課題や情報収集としてレポートを課すことがあるので、滞ることなく取り組むようにする。

オフィス・アワー

宮原：火曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 19研究室（宮原研究室）
齋藤：月曜日～金曜日 12:45～13:15 11号館3階 6研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R261

講義コード	20760001
講義名	臨床栄養学I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	5時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院での臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた栄養の評価、診断、介入のための基礎知識や調査項目の特徴、病態別の臨床栄養管理について実践的な教育を実施する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし
教 員	町田 大輔	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養領域におけるコメディカルとしてチーム医療に参画するために必要な基礎知識を学ぶ。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために、臨床症候や検査および栄養状態の評価、それに対する臨床栄養管理や補給法の基礎知識を学習する。また、医療や介護の制度の基本から、食品と薬剤の相互作用、栄養ケアマネジメントを修得し、医療人としての資質を養い、チーム医療の中で多職種連携がとれる管理栄養士としての自覚を養うことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得することを目指す。

到達目標

1．栄養アセスメント、栄養管理を理解し疾病の予防や治療につなげて考えることができる。
2．臨床栄養管理を行うための役割を理解する。
3．栄養ケア・マネジメントから栄養状態や疾病コントロール状況を把握できる。
4．食品と薬剤の作用や臨床検査についても理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	町田大輔	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価）	臨床栄養学の意義と目的につい	予習：教科書第1章を読む。 90分

第1回	島田美樹子	・臨床栄養学の意義と目的 ・疾患と栄養	てディスカッションする。	復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第2回	町田大輔島田美樹子	医療と臨床栄養 ・チーム医療 ・クリニカルパス ・医療倫理	事例を用いて医療施設における栄養管理に関するリスクマネジメントについてディスカッションする。	予習：教科書第２章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第3回	町田大輔島田美樹子	医療制度の基本 ・医療保健制度 ・診療報酬の基本 ・特定健診・特定保健指導	管理栄養士・栄養士に関連する診療報酬をペアワークで学ぶ。	予習：教科書第２章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第4回	町田大輔島田美樹子	福祉・介護と臨床栄養 ・福祉・介護保険制度 ・栄養管理の意義	福祉・介護における管理栄養士の役割についてディスカッションする。	予習：教科書第２章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第5回	町田大輔島田美樹子	栄養ケア・マネジメントの概要 ・栄養管理の目的 ・プロセス		予習：教科書第３章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第6回	町田大輔島田美樹子	栄養アセスメント(1) ・栄養スクリーニング ・栄養アセスメント項目	簡単な症例を通して栄養スクリーニングを実施し、理解を深める。	予習：教科書第４章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第7回	町田大輔島	栄養アセスメント(2) ・栄養アセスメントの項目（症状、臨床検査、尿検	簡単な症例を通して栄養アセスメントを実施し、理解を深め	予習：教科書第４章を読む。 90分 復習：授業で

	田美樹子	査、身体計測） ・栄養アセスメントの実際	る。	学んだ内容をまとめる。 90分
第8回	町田大輔島田美樹子	栄養状態の判定、栄養介入(1) ・栄養診断の判定 ・用語 ・手順	栄養診断の用語をペアワークで学ぶ。	予習：教科書第８章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第9回	町田大輔島田美樹子	栄養介入（2） ・栄養介入 ・栄養管理計画 【課題】 グループワークの結果をレポート提出する。次回に返却するため今後の学修の参考とすること。	推定エネルギー必要量をハリス・ベネディクトの式とストレス係数、アクティブ係数を用いて算出する。記録例にならいSOAPの記載をグループワークする。	予習：教科書第５章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第10回	町田大輔島田美樹子	栄養状態のモニタリングと評価 ・栄養状態のモニタリングの必要性と評価 ・栄養補給法の種類		予習：教科書第10章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第11回	町田大輔島田美樹子	栄養補給法 ・静脈栄養法 ・経腸栄養法 ・経口栄養法 【課題】 ワークシート	症例から栄養補給法の種類と特徴を選択する。	予習：教科書第６章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第12回	町田大輔島田美樹子	栄養教育 ・臨床栄養における栄養教育の理論と展開 ・傷病者・要介護者への栄養教育	カウンセリングの手法をペアワークで学ぶ。	予習：教科書第９章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容をまとめる。 90分
第13回	町田大輔島田	食物と薬剤の相互作用 ・薬物の吸収による効果と副作用 ・食物と薬剤の相互作用		予習：教科書第７章を読む。 90分 復習：授業で学んだ内容を

	美樹子			まとめる。 90分
第14回	町田大輔 島田美樹子	臨床検査 ・臨床検査の基礎知識 ・臨床検査と診断、治療との関連 【課題】 臨床検査の項目と正常値をリストアップし、疾病との関連をまとめレポート提出する。次回に返却するため今後の学修の参考にすること。	臨床検査の項目と正常値をリストアップし、疾病との関連をまとめペアワークする。	予習：栄養アセスメントやモニタリングに必要な臨床検査を調べる。 90分 復習：臨床検査の項目・正常値・疾病との関連をまとめる。 90分
第15回	町田大輔 島田美樹子	まとめ・試験 ・前半にこれまでの授業の総まとめを行い、後半に試験（45分）を行う。		予習：今までの授業の復習をする。 90分 復習：試験でわからなかった部分を復習する。90分

教科書

本田佳子，土江節子，曽根博仁／編 「栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 基礎編 改訂第２版」(羊土社)

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上。
筆記試験、80%、レポート・課題10%、授業への参加度10%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

臨床栄養学IIおよびIIIに繋がる重要な科目である。教科書で予習復習をしっかりと行い、不明な単語はあらかじめ調べ、授業に積極的に取り組むように期待する。

オフィス・アワー

町田：授業の前後 臨床栄養学実習室にて対応
島田：火曜日～金曜日 昼休み 研究室12にて対応

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R243

講義コード	20770001
講義名	臨床栄養学II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学Iと専門基礎科目にて学習した知識を基に、栄養管理を必要とする各領域別疾患の発症機序および病態生理を概説し、臨床施設における栄養管理の専門職として活躍するために、有効な栄養療法の意義とその内容を解説する。各疾病における栄養療法を理解し、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチを実践するために必要な基礎知識を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ち、臨床栄養学Iを理解し、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得することを目指す。

到達目標

１．各疾病の病態や栄養状態の特徴を理解する。
２．各疾病の発症機序と栄養食事療法の関係を理解する。
３．各疾病の診断基準やガイドラインを理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	島田美樹子	オリエンテーション(目的や講義の進め方) 消化器疾患の病態生理と栄養食事療法① 胃食道逆流症、胃十二指腸疾患、胃癌	症例に対して、食事指導や生活指導のポイントをまとめペアワークする。	予習90分：教科書1章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第2回	島田美	消化器疾患の病態生理と栄養食事療法② 下痢・便秘、過敏性腸症候群、炎症	クローン病と潰瘍性大腸炎を比較し食事療法や病態のポイントをまとめグ	予習90分：教科書1章を読む。

	樹子	性腸疾患、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸癌	ループディスカッションする。	復習90分：資料とノートをまとめる。
第3回	島田美樹子	肝疾患の病態生理と栄養食事療法 肝炎、肝硬変、肝癌、脂肪肝、NAFLD・NASH	肝疾患の食事療法、エネルギー産生栄養素バランスを整理しペアワークで確認する。	予習90分：教科書2章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第4回	島田美樹子	胆嚢・膵臓疾患の病態生理と栄養食事療法 胆石症、胆嚢炎、胆管炎、膵炎、膵癌		予習90分：教科書2章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第5回	島田美樹子	代謝・内分泌疾患の病態生理と栄養食事療法① 肥満・るいそう、脂質異常症	肥満や脂質異常症をテキストとガイドラインから食事療法についてまとめ、発表する。	予習90分：教科書3章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第6回	島田美樹子	代謝・内分泌疾患の病態生理と栄養食事療法② 糖尿病	糖尿病をテキストとガイドラインから食事療法についてまとめ、発表する。	予習90分：教科書3章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第7回	島田美樹子	代謝・内分泌疾患の病態生理と栄養食事療法③ 高尿酸血症・痛風、甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群	痛風の食事療法についてペアワークする。	予習90分：教科書3章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第8回	島田美樹子	第１～7回までの総復習 消化器疾患、肝疾患、胆・膵疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理と食事療法について、web小テストを実施する。解説はレポートで対応する。 【課題】 小テストをレポートにまとめ次回提出する。		予習90分：教科書１～3章まとめる。 復習90分：小テストを解き直し、レポートにまとる。
第9回	島田美樹子	循環器疾患の病態生理と栄養食事療法① メタボリックシンドローム、動脈硬化症、高血圧症	メタボリックシンドロームと高血圧症をテキストとガイドラインから食事療法についてまとめる。	予習90分：教科書4章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第10回	島田美樹子	循環器疾患の病態生理と栄養食事療法② 虚血性心疾患、うっ血性心不全、脳卒中		予習90分：教科書4章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。

第11回	島田美樹子	呼吸器疾患と慢性腎臓病の病態生理と栄養食事療法 呼吸器疾患、慢性腎臓病	COPDの病態と食事療法についてまとめ発表する。	予習90分：教科書5,6章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第12回	島田美樹子	腎臓疾患の病態生理と栄養食事療法① 慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群	CKDをテキストとガイドラインから病期分類についてまとめペアワークする。	予習90分：教科書6章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第13回	島田美樹子	腎臓疾患の病態生理と栄養食事療法② 糖尿病性腎症、腎盂腎炎、急性腎不全		予習90分：教科書6章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第14回	島田美樹子	腎臓疾患の病態生理と栄養食事療法③ 循環器疾患と腎疾患の総復習 人工透析療法 循環器疾患と腎疾患の病態生理と食事療法について、小テストと解説を実施する。小テストをレポートにまとめ次回提出する。		予習90分：教科書4～6章をまとめる。 復習90分：小テストを解き直し、レポートにまとる。
第15回	島田美樹子	各疾患の栄養管理まとめ 消化器疾患、肝・胆・膵、代謝・内分泌、循環器、呼吸器、腎臓		予習90分：教科書や配布プリントの不明な点を復習する。 復習90分：資料とノートをまとめる。

教科書

佐藤和人・本間健・小松龍史 編 「臨床栄養学 第8版」(医歯薬出版)

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上。
筆記試験、80%、小テスト・レポート・課題15%、授業への参加度5%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題、テストを実施することがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業に沿った資料を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

自ら栄養計画を立案するために、何か必要で重要であるのかを考え、目的意識を持って積極的に授業に取り組むこと。

オフィス・アワー

火曜日～木曜日 12：30～13：10 研究室12

科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R252

講義コード	20780001
講義名	臨床栄養学III
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床栄養学IとII、専門基礎科目にて学習した知識を基に、栄養管理を必要とする各領域別疾患の発症機序および病態生理を概説し、臨床施設における栄養管理の専門職として活躍するために、有効な栄養療法の意義とその内容を解説する。各疾病における栄養療法を理解し、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチを実践するために必要な基礎知識を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得することを目指す。臨床栄養学Iを基本的に理解し実習と統合、発展させ、実践でも活躍できる人材の育成をする。

到達目標

１．各疾病の病態や栄養状態の特徴を理解する。
２．各疾病の発症機序と栄養食事療法の関係を理解する。
３．各疾病の診断基準やガイドラインを理解する。
４．これまでの学習で得た知識から適切な栄養管理計画を立案できるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	島田美樹子	オリエンテーション 血液疾患の病態生理と栄養食事療法 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、出血性疾患、白血病		予習90分：教科書7章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
	島	免疫・アレルギー疾患の		予習90分：教科

第2回	田美樹子	病態生理と栄養食事療法 アレルギー疾患、自己免疫疾患、免疫不全症候群		書7章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第3回	島田美樹子	感染症の病態生理と栄養食事療法 7～9章まとめ 急性熱性疾患、慢性消耗性疾患 【課題】 7～9章での病態別に臨床栄養で学んだことをまとめ,次回レポート提出する。	病態別臨床栄養についてまとめグループディスカッションする。	予習90分：教科書9章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第4回	島田美樹子	骨・関節疾患の病態生理と栄養食事療法 骨粗鬆症、くる病・骨軟化症、サルコペニア、廃用性筋萎縮		予習90分：教科書10章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第5回	島田美樹子	歯科疾患の病態生理と栄養食事療法、栄養障害 歯科疾患、栄養失調症、ビタミン欠乏症および過剰症 【課題】 ペアワークの結果をふまえ次回レポート提出する。	各種ビタミン欠乏と過剰についてまとめペアワークする。	予習90分：教科書11、12章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第6回	島田美樹子	心身症の病態生理と栄養食事療法 神経性の摂食障害	神経性やせ症と過食症について症状をまとめ発表する。	予習90分：教科書13章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第7回	島田美樹子	外科疾患の病態生理と栄養食事療法① 胃の手術と術後後遺症、肝・胆・膵、小腸・大腸の手術		予習90分：教科書14章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第8回	島田美樹子	外科疾患の病態生理と栄養食事療法② 基礎疾患と外科手術、クリティカルケア		予習90分：教科書14章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第9回	島田美樹子	小児疾患の病態生理		予習90分：教科書15章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第10回	島田美樹子	小児疾患の栄養食事療法 【課題】 ペアワークの結果をふまえ次回レポート提出する。	小児疾患の病態生理シートに栄養食事療法を追記しまとめ、ペアワークでより理解を深める。	予習90分：教科書15章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
		妊産婦・授乳婦疾患の病		

第11回	島田美樹子	態生理と栄養食事療法 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病 【課題】 次回レポートを提出する。	ガイドラインや妊産婦のための食生活指針を用いて栄養食事指導のポイントをディスカッションしレポートにまとめる。	予習90分：教科書16章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第12回	島田美樹子	高齢者疾患の病態生理と栄養食事療法① 高齢者の特異性、高齢者の症候と疾患、高齢者に多くみられる障害		予習90分：教科書17章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第13回	島田美樹子	高齢者疾患の病態生理と栄養食事療法② 高齢者の褥瘡、栄養問題	高齢者の特徴についてまとめ発表する。	予習90分：教科書17章を読む。 復習90分：資料とノートをまとめる。
第14回	島田美樹子	災害時における栄養管理 災害時の食事対応、防災マニュアルについて 症例に応じた臨床栄養学的アプローチ ケーススタディ 糖尿病 【課題】 ケーススタディを仕上げて次回提出する	患者情報からスクリーニング、アセスメント、栄養評価をまとめる。	予習90分：事前配布資料を読む。 復習90分：レポートとノートをまとめる。
第15回	島田美樹子	各疾患の栄養管理まとめ 感染症、骨・関節、歯科、栄養障害、心身症、外科、小児、妊産婦・授乳婦、高齢者疾患		予習90分：教科書や配布プリントの不明な点を復習する。 復習90分：資料とノートをまとめる。

教科書

佐藤和人・本間健・小松龍史 編 「臨床栄養学 第8版」(医歯薬出版)

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上。
筆記試験、80%、レポート・課題10%、授業への参加度10%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題を実施することがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料を配布するので、授業内容の理解に役立て積極的に取り組むこと。

履修のポイント

自ら栄養計画を立案するために何が必要・重要であるのかという目的意識を持って履修し、積極的に授業に参加し発言することを望みます。

オフィス・アワー

火曜日～木曜日 昼休み 研究室12

科目区分

専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R253

講義コード	20790001
講義名	臨床栄養学IV
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床に関する栄養管理専門職として実践力を身に付けるために、傷病者の病態を理解し、臨床所見や臨床検査から栄養状態を把握したうえで、治療に適した栄養管理を行う力を身につける。栄養評価・判定に関する総合的な栄養ケアマネジメントを学ぶ。
さらに、傷病者の疾病の治療・予防に貢献し、QOLの向上に寄与することも視野に入れ、実践に活用できる知識や技術を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得することを目指す。臨床栄養学の集大成として実習と統合、発展させ、実践でも活躍できる人材の育成をする。

到達目標

１．本講義で栄養食事療法に関する知識を深め、説明できる。
２．病態の発症機序、病態生理などの知識を他者に伝え、食事療法の重要性やポイントを説明できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	ガイダンス（授業の概要と成績評価） 栄養療法の意義と目的 栄養障害の栄養食事療法	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第2回	消化器疾患の栄養食事療法① ・胃炎、胃・十二指腸潰瘍、腸炎	症例に関するグループワークを行	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。

		い発表する。	復習90分：配布プリントをまとめる。
第3回	消化器疾患の栄養食事療法② ・たんぱく質漏出性胃腸症、過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病、便秘 課題：消化器疾患の栄養食事療法をレポートにまとめ、次回提出する。	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第4回	肝臓疾患の栄養食事療法 ・肝炎、肝硬変、脂肪肝	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第5回	胆のう・膵臓疾患の栄養食事療法 ・胆石症、胆嚢炎、膵炎 課題：肝臓・胆のう・膵臓疾患の栄養食事療法をレポートにまとめ、次回提出する。	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第6回	循環器疾患の栄養食事療法 ・高血圧、虚血性心疾患、うっ血性心不全、動脈硬化症	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第7回	腎・尿路疾患の栄養食事療法① ・腎炎、ネフローゼ症候群	症例に関するグループワークを行い発表する	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第8回	腎・尿路疾患の栄養食事療法② ・糖尿病性腎症、腎不全、慢性腎臓病、尿路結石 課題：循環器、腎疾患の栄養食事療法をレポートにまとめ、次回提出する。	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第9回	代謝疾患の栄養食事療法① ・糖尿病	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第10回	代謝疾患の栄養食事療法② ・脂質異常症、高尿酸血症、痛風	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第11回	内分泌疾患・アレルギーの栄養食事療法 課題：代謝・内分泌疾患、アレルギーの栄養食事療法をレポートにまとめ、次回提出する。	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第12回	脳・神経疾患、精神疾患の栄養食事療法 ・脳血管障害、神経性やせ症、神経性大食症	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。

第13回	呼吸器疾患の栄養食事療法 ・肺炎、慢性呼吸器疾患	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第14回	手術前後の栄養食事療法 ・外科手術、クリティカルケア	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。
第15回	妊産婦・婦人科疾患、乳幼児、小児疾患、高齢者の栄養管理	症例に関するグループワークを行い発表する。	予習90分：栄養食事療法必携使用テキストを読んでおく。 復習90分：配布プリントをまとめる。

教科書

栄養食事療法必携 第3版（改訂予定あり）

参考書

臨床栄養学第8版、改訂臨床栄養学実習フローチャートで学ぶ臨床栄養学管理、糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上。
筆記試験、80%、レポート・課題15%、授業への参加度5%

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートや課題、小テストを実施することがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

臨床栄養学、臨床栄養学実習の総まとめとして臨地実習へも繋げるよう理解を深めるために積極的な態度で授業に取り組むことを期待します。

オフィス・アワー

火曜日～木曜日 昼休み 研究室12
※講義前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R262

講義コード	20800001
講義名	臨床栄養学実習I（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複①）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 町田 大輔	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療機関や介護施設において管理栄養士としての役割を果たせるよう、関連専門職と多職種連携を理解し病態・疾患別の栄養アセスメント（スクリーニング、栄養アセスメント、栄養補給量、補給方法の選択、栄養状態モニタリング）の方法と手技を学び、管理栄養士が行う具体的な栄養状態の評価・判定、栄養介入の方法を活用し体得する。また、アクティブラーニングを取り入れた演習に能動的に参加して栄養ケア・マネジメントおよび栄養ケアプロセスを修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得する。臨床栄養学IならびにIIを基本的に理解し実習と統合、発展させ、実践でも活躍できる人材の育成をする。

到達目標

1.栄養スクリーニングツールの利用ができる。
2.栄養アセスメント及びその結果に基づいた栄養評価ができる。
3.栄養評価に基づき、栄養介入計画を立案・作成できる。
4.モニタリングの経過を記録できる。
5.傷病者に対する栄養改善に向け、積極的に関わる姿勢を身に付ける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	町田大	ガイダンス（授業の概要と成績評		予習：スクリーニングやアセスメント、

第1回	輔島田美樹子	価） ・臨床情報の収集 ・患者への問診 ・栄養スクリーニング、臨床検査	医療コミュニケーションをロールプレイングする。SGAレポートをグループ内発表する。	臨床検査について復習する。 45分 復習：SGAの項目をまとめる。 45分
第2回	町田大輔島田美樹子	栄養アセスメント① ・身体計測（身長、体重、上腕周囲長、上腕三頭筋部皮下脂肪厚など） 課題：1日分の自己食事記録をし次回の授業時に持ってくる。	グループワークで栄養アセスメントをする。	予習：身体計測項目と手技についてまとめる。 45分 復習：アセスメント項目の算出を復習する。 45分
第3回	町田大輔島田美樹子	栄耀アセスメント② ・エネルギー必要量の算出 ・食事調査及び栄養計算 ・聞き取り調査の演習 ・食品成分表を用いた栄養計算	食事聞き取り調査を栄養計算し自己評価レポートを作成する。 電卓、記録表、栄養算出記録（第3回使用）、食品成分表を持参する。	予習：テキスト18-21を予習し、1日分の食事を記録する。45分 復習：聞き取り調査のポイントをまとめる。 45分
第4回	町田大輔島田美樹子	栄養補給法 ・栄養補給法の分類と選択基準 ・経腸栄養剤の分類や特徴を学ぶ（試飲とレポート） 課題：レポート仕上げて提出する。	経腸栄養剤を試飲し、症例に合わせた選択や特徴、自分が患者にどのように提供していくかも含めレポートにまとめる。	予習：栄養補給法は臨床栄養学Iのテキストで復習する。45分 復習：疾患別の特徴をまとめる。 45分
第5回	町田大輔島田美樹子	栄養管理計画書の作成 ・栄養管理計画書の作成と計画 ・症例患者の栄養管理計画を立案する	症例患者についてグループディスカッションし栄養管理計画を立案する。	予習：栄養管理計画書の作成に必要な項目をまとめる。45分 復習：立案した事例を復習しまとめる。45分
第6回	町田大輔島田美樹子	症例検討 ・栄養管理計画書における栄養不良症例のモニタリング ・病棟訪問の実際	病棟訪問をロールプレイする。課題症例について発表と討論を実施する。	予習：病棟訪問のポイントと身体計測を予習する。 45分 復習：症例と併せて病棟訪問からの対応を復習する。 45分
	町			

第7回	田大輔島田美樹子	栄養診断に基づいた管理計画 ・栄養介入 ・栄養ケアプロセスと栄養診断	実際の栄養診断をSOAP記載し演習する。	予習：栄養ケアプロセスについて臨床栄養学Iのテキストで復習する。 45分 復習：SOAP記載についてまとめる。 45分
第8回	町田大輔島田美樹子	栄養管理計画書の作成 ・様々な疾患・病態別の栄養管理計画書を作成 課題：栄養管理計画書を提出する。	症例の栄養管理計画をグループワークにて検討し発表し、再度検討する。	予習：疾患ガイドラインや臨床検査値の復習。 45分 復習：グループワーク発表後のまとめをする。 45分
第9回	町田大輔島田美樹子	糖尿病食事療法① ・糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 ・交換表による栄養指導 課題：交換表の指定献立を計算して次回発表する。	ロールプレイによる交換表を用いた栄養指導を演習する。	予習：食品交換表の表分類を予習する。 45分 復習：糖尿病患者の栄養管理の復習する。 45分
第10回	町田大輔島田美樹子	糖尿病食事療法② ・課題の指定献立を表ごとに発表する ・食事の聞き取り調査 ・交換表を用いて栄養計算する。	課題の献立をグループ発表する。食事をペアワークにより聞き取り、交換表で計算する。その後改善ポイントをペアワークにて指導する。	予習：食品交換表を利用して課題献立を計算する。 45分 復習：糖尿病ガイドライン、栄養指導の復習をする。 45分
第11回	町田大輔島田美樹子	糖尿病の食事療法③ ・献立作成と栄養指導 ・特別治療食の試食とレポート 課題：レポートと献立を完成させて次回提出する。	特別治療食をグループで試食し、活用方法などグループワークする。	予習：食品交換表利用の栄養管理を予習する。 45分 復習：糖尿病ガイドライン、栄養指導の復習をする。 45分
第12回	町田大輔島田美樹子	腎臓病の食事療法① ・腎臓病食事療法のための食品交換表の使い方 ・交換表を用いた栄養指導	ロールプレイによる交換表を用いた栄養指導を演習する。	予習：食品交換表の表分類を予習する。 45分 復習：慢性腎臓病患者の栄養管理をまとめる。 45分
	町	腎臓病の食事療法②		

第13回	町田大輔 島田美樹子	・CKDの栄養管理 ・食事療法を用いた献立作成と栄養指導 ・CKD治療食品の試食とレポート 課題：レポートと献立を完成させて次回提出する。	特別治療食をグループで試食し、活用方法などグループワークする。	予習：食品交換表利用の栄養管理の予習うる。 45分 復習：CKD栄養指導の復習をする。 45分
第14回	町田大輔 島田美樹子	摂食嚥下の食事療法 ・咀嚼嚥下障害の判定および栄養管理の方法 ・嚥下調整食、とろみ調整食 ・試食と評価 課題：レポートを完成させて次回提出する。	特別治療食をグループで試食し、活用方法などグループワークする。	予習：嚥下障害をまとめる。 45分 復習：嚥下調整食の特徴をまとめる。 45分
第15回	町田大輔 島田美樹子	疾患別栄養管理 ・脂質異常症、肝硬変、胃切除、肺がん、クローン病	栄養管理計画書及び栄養評価を演習し、グループごとに発表する。	予習：臨床栄養学実習Iのまとめをする。 45分 復習：実習の資料を整理しノートにまとめる。 45分

教科書

中村富予、高岸和子 「改訂臨床栄養学実習フローチャートで学ぶ臨床栄養学管理」 建帛社

参考書

「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」 （日本糖尿病学会）
黒川清監修、中尾俊之、小沢尚、酒井謙 編集 「腎臓病食品交換表 第9版 治療食の基準」（医歯薬出版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
レポート・課題の提出90%、授業への参加度10%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業ではテキストに補足する資料を配布するので、臨床栄養学実習1で学んだ内容の理解に役立てること。

履修のポイント

臨地実習（臨床栄養学実習III）に向けて、臨床栄養学I、II、IIIとともに教育効果をあげるため、積極的に演習に取り組み専門的知識及び技術を修得すること。

オフィス・アワー

町田：授業の前後に対応 臨床栄養学実習室にて対応。
島田：火曜日～木曜日 昼休み 研究室12にて対応。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R254

講義コード	20800002
講義名	臨床栄養学実習I（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期（重複②）
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 町田 大輔	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療機関や介護施設において管理栄養士としての役割を果たせるよう、関連専門職と多職種連携を理解し病態・疾患別の栄養アセスメント（スクリーニング、栄養アセスメント、栄養補給量、補給方法の選択、栄養状態モニタリング）の方法と手技を学び、管理栄養士が行う具体的な栄養状態の評価・判定、栄養介入の方法を活用し体得する。また、アクティブラーニングを取り入れた演習に能動的に参加して栄養ケア・マネジメントおよび栄養ケアプロセスを修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関して必要な知識や技術を修得する。臨床栄養学IならびにIIを基本的に理解し実習と統合、発展させ、実践でも活躍できる人材の育成をする。

到達目標

1.栄養スクリーニングツールの利用ができる。
2.栄養アセスメント及びその結果に基づいた栄養評価ができる。
3.栄養評価に基づき、栄養介入計画を立案・作成できる。
4.モニタリングの経過を記録できる。
5.傷病者に対する栄養改善に向け、積極的に関わる姿勢を身に付ける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	町田大	ガイダンス（授業の概要と成績評		予習：スクリーニングやアセスメント、

第1回	輔島田美樹子	価） ・臨床情報の収集 ・患者への問診 ・栄養スクリーニング、臨床検査	医療コミュニケーションをロールプレイングする。SGAレポートをグループ内発表する。	臨床検査について復習する。 45分 復習：SGAの項目をまとめる。 45分
第2回	町田大輔島田美樹子	栄養アセスメント① ・身体計測（身長、体重、上腕周囲長、上腕三頭筋部皮下脂肪厚など） 課題：1日分の自己食事記録をし次回の授業時に持ってくる。	グループワークで栄養アセスメントをする。	予習：身体計測項目と手技についてまとめる。 45分 復習：アセスメント項目の算出を復習する。 45分
第3回	町田大輔島田美樹子	栄耀アセスメント② ・エネルギー必要量の算出 ・食事調査及び栄養計算 ・聞き取り調査の演習 ・食品成分表を用いた栄養計算	食事聞き取り調査を栄養計算し自己評価レポートを作成する。 電卓、記録表、栄養算出記録（第3回使用）、食品成分表を持参する。	予習：テキスト18-21を予習し、1日分の食事を記録する。45分 復習：聞き取り調査のポイントをまとめる。 45分
第4回	町田大輔島田美樹子	栄養補給法 ・栄養補給法の分類と選択基準 ・経腸栄養剤の分類や特徴を学ぶ（試飲とレポート） 課題：レポート仕上げて提出する。	経腸栄養剤を試飲し、症例に合わせた選択や特徴、自分が患者にどのように提供していくかも含めレポートにまとめる。	予習：栄養補給法は臨床栄養学Iのテキストで復習する。45分 復習：疾患別の特徴をまとめる。 45分
第5回	町田大輔島田美樹子	栄養管理計画書の作成 ・栄養管理計画書の作成と計画 ・症例患者の栄養管理計画を立案する	症例患者についてグループディスカッションし栄養管理計画を立案する。	予習：栄養管理計画書の作成に必要な項目をまとめる。45分 復習：立案した事例を復習しまとめる。45分
第6回	町田大輔島田美樹子	症例検討 ・栄養管理計画書における栄養不良症例のモニタリング ・病棟訪問の実際	病棟訪問をロールプレイする。課題症例について発表と討論を実施する。	予習：病棟訪問のポイントと身体計測を予習する。 45分 復習：症例と併せて病棟訪問からの対応を復習する。 45分
	町			

第7回	田大輔島田美樹子	栄養診断に基づいた管理計画 ・栄養介入 ・栄養ケアプロセスと栄養診断	実際の栄養診断をSOAP記載し演習する。	予習：栄養ケアプロセスについて臨床栄養学Iのテキストで復習する。 45分 復習：SOAP記載についてまとめる。 45分
第8回	町田大輔島田美樹子	栄養管理計画書の作成 ・様々な疾患・病態別の栄養管理計画書を作成 課題：栄養管理計画書を提出する。	症例の栄養管理計画をグループワークにて検討し発表し、再度検討する。	予習：疾患ガイドラインや臨床検査値の復習。 45分 復習：グループワーク発表後のまとめをする。 45分
第9回	町田大輔島田美樹子	糖尿病食事療法① ・糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 ・交換表による栄養指導 課題：交換表の指定献立を計算して次回発表する。	ロールプレイによる交換表を用いた栄養指導を演習する。	予習：食品交換表の表分類を予習する。 45分 復習：糖尿病患者の栄養管理の復習する。 45分
第10回	町田大輔島田美樹子	糖尿病食事療法② ・課題の指定献立を表ごとに発表する ・食事の聞き取り調査 ・交換表を用いて栄養計算する。	課題の献立をグループ発表する。食事をペアワークにより聞き取り、交換表で計算する。その後改善ポイントをペアワークにて指導する。	予習：食品交換表を利用して課題献立を計算する。 45分 復習：糖尿病ガイドライン、栄養指導の復習をする。 45分
第11回	町田大輔島田美樹子	糖尿病の食事療法③ ・献立作成と栄養指導 ・特別治療食の試食とレポート 課題：レポートと献立を完成させて次回提出する。	特別治療食をグループで試食し、活用方法などグループワークする。	予習：食品交換表利用の栄養管理を予習する。 45分 復習：糖尿病ガイドライン、栄養指導の復習をする。 45分
第12回	町田大輔島田美樹子	腎臓病の食事療法① ・腎臓病食事療法のための食品交換表の使い方 ・交換表を用いた栄養指導	ロールプレイによる交換表を用いた栄養指導を演習する。	予習：食品交換表の表分類を予習する。 45分 復習：慢性腎臓病患者の栄養管理をまとめる。 45分
	町	腎臓病の食事療法②		

第13回	町田大輔 島田美樹子	・CKDの栄養管理 ・食事療法を用いた献立作成と栄養指導 ・CKD治療食品の試食とレポート 課題：レポートと献立を完成させて次回提出する。	特別治療食をグループで試食し、活用方法などグループワークする。	予習：食品交換表利用の栄養管理の予習うる。 45分 復習：CKD栄養指導の復習をする。 45分
第14回	町田大輔 島田美樹子	摂食嚥下の食事療法 ・咀嚼嚥下障害の判定および栄養管理の方法 ・嚥下調整食、とろみ調整食 ・試食と評価 課題：レポートを完成させて次回提出する。	特別治療食をグループで試食し、活用方法などグループワークする。	予習：嚥下障害をまとめる。 45分 復習：嚥下調整食の特徴をまとめる。 45分
第15回	町田大輔 島田美樹子	疾患別栄養管理 ・脂質異常症、肝硬変、胃切除、肺がん、クローン病	栄養管理計画書及び栄養評価を演習し、グループごとに発表する。	予習：臨床栄養学実習Iのまとめをする。 45分 復習：実習の資料を整理しノートにまとめる。 45分

教科書

中村富予、高岸和子 「改訂臨床栄養学実習フローチャートで学ぶ臨床栄養学管理」 建帛社

参考書

「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」 （日本糖尿病学会）
黒川清監修、中尾俊之、小沢尚、酒井謙 編集 「腎臓病食品交換表 第9版 治療食の基準」（医歯薬出版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
レポート・課題の提出90%、授業への参加度10%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業ではテキストに補足する資料を配布するので、臨床栄養学実習1で学んだ内容の理解に役立てること。

履修のポイント

臨地実習（臨床栄養学実習III）に向けて、臨床栄養学I、II、IIIとともに教育効果をあげるため、積極的に演習に取り組み専門的知識及び技術を修得すること。

オフィス・アワー

町田：授業の前後に対応 臨床栄養学実習室にて対応。
島田：火曜日～木曜日 昼休み 研究室12にて対応。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R254

講義コード	20810001
講義名	臨床栄養学実習II（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし
教 員	町田 大輔	指定なし

授業の概要と教育目標

医療の場において、各疾患・病態に合わせた適切な栄養管理を実施するために、日本人の食事摂取基準（2020年版）および各疾患のガイドラインをもとにエネルギー量や各栄養素の設定について理解し、献立作成と給食管理を行う上で基礎となる常食から各食種への展開ができるようになることを目指す。また、各食種の献立に合わせた食材の選定や適切な調理方法を理解し、それに基づき献立作成や調理作業ができるようになることを目標とする。また、グループディスカッションや発表を行い、互いに理解を深め、知識の定着を図る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養管理を行うために、これまでの臨床栄養学で学んだ内容を基礎知識とし、実践に活用できる知識の統合・発展をさせ多様な対象の身体状況、栄養状態に必要な知識や技術を養う。

到達目標

１．栄養食事療法が有効な疾病に応じた栄養・食事管理を行うことができる。
２．患者のQOLに則した適切な献立展開と献立作成ができる。
３．治療食の調理を身に着け、検食、評価することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	町田大輔島田	ガイダンス、臨床栄養学実習について（授業の進め方、評価について） 常食の献立作成① ・食種、食形態、疾患別分類、栄養成分別分	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：常食の

	美樹子	類について ・常食の献立作成 【課題】常食の献立作成を進める。		献立作成を進める。
第2回	町田大輔島田美樹子	常食の献立作成② ・常食の献立作成 ・常食の発注書作成 【課題】常食の献立を完成させ、次回提出する。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：常食の献立を仕上げる。
第3回	町田大輔島田美樹子	一般食の実習① ・常食 ・検収、調理、評価	常食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。
第4回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開① ・塩分コントロール食の考え方 ・減塩食品について ・塩分コントロール食の献立作成 【課題】塩分コントロール食の献立作成を進める。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：塩分コントロール食の献立作成を進める。
第5回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開② ・エネルギーコントロール食（糖尿病食）の考え方 ・食品交換表の使い方 ・甘味料の使い方 ・エネルギーコントロール食（糖尿病食）の献立作成 ・塩分コントロール食の献立作成 ・塩分コントロール食の発注 【課題】塩分コントロール食の献立を完成させ、次回提出する。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：塩分コントロール食の献立を仕上げる。
第6回	町田大輔島田美樹	治療食の実習① ・塩分コントロール食 ・検収、調理、評価	減塩食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。

	子			
第7回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開③ ・たんぱく質コントロール食（腎臓食）の考え方、交換表の使い方 ・低たんぱく質食品、特殊食品について ・たんぱく質コントロール食（腎臓食）の献立作成 ・エネルギーコントロール食（糖尿病食）の献立作成 ・エネルギーコントロール食の発注作業 【課題】エネルギーコントロール食の献立を完成させ、次回提出する。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：エネルギーコントロール食の献立を仕上げる。
第8回	町田大輔島田美樹子	治療食の実習② ・エネルギーコントロール食 ・検収、調理、評価	エネルギーコントロール食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。
第9回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開④ ・たんぱく質コントロール食（腎臓食）の献立作成 ・たんぱく質コントロール食の発注作業 【課題】たんぱく質コントロール食の献立を完成させ、次回提出する。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：たんぱく質コントロール食の献立を仕上げる。
第10回	町田大輔島田美樹子	治療食の実習③ ・たんぱく質コントロール食 ・検収、調理、評価	たんぱく質コントロール食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。
第11回	町田大輔島田	治療食の展開⑤ ・糖尿病4種、腎臓病4種の献立展開の考え方 ・糖尿病4種、腎臓病4種の献立展開の献立作成	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：糖尿病4種、腎臓病4種

	美樹子	【課題】糖尿病 種、腎臓病4種の献立展開を進める（次回完成させて提出）。		の献立展開を進める。
第12回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開⑥ ・糖尿病4種、腎臓病4種の献立展開の考え方 ・糖尿病4種、腎臓病4種の献立展開の献立作成 ・脂質コントロール食・易消化食の考え方 ・脂質コントロール食・易消化食の献立作成 【課題】脂質コントロール食の献立作成を進める。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：脂質コントロール食の献立作成を進める。
第13回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開⑦ ・脂質コントロール食・易消化食の献立作成 ・脂質コントロール食の発注作業 【課題】脂質コントロール食の献立を完成させ、次回提出する。	グループワークでディスカッションをして献立を完成させる。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：脂質コントロール食の献立を仕上げる。
第14回	町田大輔島田美樹子	治療食の実習④ ・脂質コントロール食 ・検収、調理、評価	脂質コントロール食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。
第15回	町田大輔島田美樹子	各疾患の栄養管理のまとめ ・各食種のポイントや調理の工夫などをまとめる	グループワークで各食種のポイントや調理の工夫をまとめ発表する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストを読んでおく。 復習60分：献立の展開を総復習する。

教科書

三訂 臨床栄養学実習（建帛社）
担当教員作成プリント及び帳票類

参考書

栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表
日本標準食品成分表

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。 疾患別献立の立案・課題献立80%、授業への参加度・貢献度20%。
課題等に対する フィードバックの方法
献立の展開は基準に沿っているかを確認し評価後、ポイントをアドバイスして返却する。再度修正して今後の実習や臨床栄養学の学びに生かすこと。
履修のポイント
課題については提出期限を厳守し、臨床調理や献立の展開に関しては積極性をもって臨むこと。 臨地実習に向けて教育効果をあげるため、専門的知識及び技術を修得するよう心がける。
オフィス・アワー
町田：授業の前後 臨床栄養学実習室にて対応。 島田：火曜日～木曜日 昼休み 研究室12にて対応。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R263

講義コード	20810002
講義名	臨床栄養学実習II（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし
教 員	町田 大輔	指定なし

授業の概要と教育目標

医療の場において、各疾患・病態に合わせた適切な栄養管理を実施するために、日本人の食事摂取基準（2020年版）および各疾患のガイドラインをもとにエネルギー量や各栄養素の設定について理解し、献立作成と給食管理を行う上で基礎となる常食から各食種への展開ができるようになることを目指す。また、各食種の献立に合わせた食材の選定や適切な調理方法を理解し、それに基づき献立作成や調理作業ができるようになることを目標とする。また、グループディスカッションや発表を行い、互いに理解を深め、知識の定着を図る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養管理を行うために、これまでの臨床栄養学で学んだ内容を基礎知識とし、実践に活用できる知識の統合・発展をさせ多様な対象の身体状況、栄養状態に必要な知識や技術を養う。

到達目標

１．栄養食事療法が有効な疾病に応じた栄養・食事管理を行うことができる。
２．患者のQOLに則した適切な献立展開と献立作成ができる。
３．治療食の調理を身に着け、検食、評価することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	町田大輔島田	ガイダンス、臨床栄養学実習について（授業の進め方、評価について） 常食の献立作成① ・食種、食形態、疾患別分類、栄養成分別分	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：常食の

	美樹子	類について ・常食の献立作成 【課題】常食の献立作成を進める。		献立作成を進める。
第2回	町田大輔島田美樹子	常食の献立作成② ・常食の献立作成 ・常食の発注書作成 【課題】常食の献立を完成させ、次回提出する。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：常食の献立を仕上げる。
第3回	町田大輔島田美樹子	一般食の実習① ・常食 ・検収、調理、評価	常食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。
第4回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開① ・塩分コントロール食の考え方 ・減塩食品について ・塩分コントロール食の献立作成 【課題】塩分コントロール食の献立作成を進める。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：塩分コントロール食の献立作成を進める。
第5回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開② ・エネルギーコントロール食（糖尿病食）の考え方 ・食品交換表の使い方 ・甘味料の使い方 ・エネルギーコントロール食（糖尿病食）の献立作成 ・塩分コントロール食の献立作成 ・塩分コントロール食の発注 【課題】塩分コントロール食の献立を完成させ、次回提出する。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：塩分コントロール食の献立を仕上げる。
第6回	町田大輔島田美樹	治療食の実習① ・塩分コントロール食 ・検収、調理、評価	減塩食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。

	子			
第7回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開③ ・たんぱく質コントロール食（腎臓食）の考え方、交換表の使い方 ・低たんぱく質食品、特殊食品について ・たんぱく質コントロール食（腎臓食）の献立作成 ・エネルギーコントロール食（糖尿病食）の献立作成 ・エネルギーコントロール食の発注作業 【課題】エネルギーコントロール食の献立を完成させ、次回提出する。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：エネルギーコントロール食の献立を仕上げる。
第8回	町田大輔島田美樹子	治療食の実習② ・エネルギーコントロール食 ・検収、調理、評価	エネルギーコントロール食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。
第9回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開④ ・たんぱく質コントロール食（腎臓食）の献立作成 ・たんぱく質コントロール食の発注作業 【課題】たんぱく質コントロール食の献立を完成させ、次回提出する。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：たんぱく質コントロール食の献立を仕上げる。
第10回	町田大輔島田美樹子	治療食の実習③ ・たんぱく質コントロール食 ・検収、調理、評価	たんぱく質コントロール食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。
第11回	町田大輔島田	治療食の展開⑤ ・糖尿病4種、腎臓病4種の献立展開の考え方 ・糖尿病4種、腎臓病4種の献立展開の献立作成	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：糖尿病4種、腎臓病4種

	美樹子	【課題】糖尿病 種、腎臓病4種の献立展開を進める（次回完成させて提出）。		の献立展開を進める。
第12回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開⑥ ・糖尿病4種、腎臓病4種の献立展開の考え方 ・糖尿病4種、腎臓病4種の献立展開の献立作成 ・脂質コントロール食・易消化食の考え方 ・脂質コントロール食・易消化食の献立作成 【課題】脂質コントロール食の献立作成を進める。	グループディスカッションをして献立を作成する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：脂質コントロール食の献立作成を進める。
第13回	町田大輔島田美樹子	治療食の展開⑦ ・脂質コントロール食・易消化食の献立作成 ・脂質コントロール食の発注作業 【課題】脂質コントロール食の献立を完成させ、次回提出する。	グループワークでディスカッションをして献立を完成させる。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストの該当箇所を読んでおく。 復習60分：脂質コントロール食の献立を仕上げる。
第14回	町田大輔島田美樹子	治療食の実習④ ・脂質コントロール食 ・検収、調理、評価	脂質コントロール食をグループで調理する。実習後にグループディスカッションをして献立を振り返る。	予習20分：作成する献立を確認する。 復習70分：実習後の献立を修正する。
第15回	町田大輔島田美樹子	各疾患の栄養管理のまとめ ・各食種のポイントや調理の工夫などをまとめる	グループワークで各食種のポイントや調理の工夫をまとめ発表する。	予習30分：臨床栄養学実習IIテキストを読んでおく。 復習60分：献立の展開を総復習する。

教科書

三訂 臨床栄養学実習（建帛社）
担当教員作成プリント及び帳票類

参考書

栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表
日本標準食品成分表

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。 疾患別献立の立案・課題献立80%、授業への参加度・貢献度20%。
課題等に対する フィードバックの方法
献立の展開は基準に沿っているかを確認し評価後、ポイントをアドバイスして返却する。再度修正して今後の実習や臨床栄養学の学びに生かすこと。
履修のポイント
課題については提出期限を厳守し、臨床調理や献立の展開に関しては積極性をもって臨むこと。 臨地実習に向けて教育効果をあげるため、専門的知識及び技術を修得するよう心がける。
オフィス・アワー
町田：授業の前後 臨床栄養学実習室にて対応。 島田：火曜日～木曜日 昼休み 研究室12にて対応。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R263

講義コード	20820001
講義名	公衆栄養学I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期（重複①）
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての県庁・保健所での勤務経験に基づき、公衆栄養マネジメントについて具体的に教授する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養学の意義と目的、生態系と食料・栄養、保健・医療・福祉システムと公衆栄養活動などの概念を理解する。また、国や地域、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題に関する動向および現状・課題に対応した栄養政策について公衆栄養活動の歴史、国際比較をしながら習得する。政策展開のためのヘルスプロモーションの考えに沿って、国や地域、諸外国における生活習慣病予防、健康寿命の延伸を目的とした具体的な健康づくりのための公衆栄養活動についても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る公衆栄養分野に関する必要な知識を修得することを目指し、公衆栄養学の概念や健康・栄養問題の現状と課題、種々の栄養政策を理解することを通じてその目的達成に資する知識を養う。将来的な展望としては、多様な社会のニーズ及び変化に対応できる知識及び技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる基盤を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.認知の観点：「公衆栄養の概論、公衆栄養活動の必要性について説明ができる」「わが国、諸外国の健康・栄養の問題点の現状について説明ができる」「わが国、諸外国の公衆栄養政策の現状について説明ができる」
2.態度の観点：「わが国、諸外国の健康・栄養の問題点の要因について図・表を見て探求と分析力、読解力を表現できる」「わが国、諸外国の健康・栄養の問題点の要因の討論で学生間のチームワーク、協調性を発揮できる」
3.技能の観点：「わが国、諸外国の健康・栄養の問題点をもとに公衆栄養政策や事業の必要性について、批判的・創造的思考力、問題解決力が発揮できる」

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		ガイダン		予習90分：公衆栄養学Iでの学習範囲

第1回	橘陽子	ス 公衆栄養学Iでの学びと本授業の概要	公衆栄養学Iでの学習内容を理解し、公衆衛生学、栄養教育論、医療保健統計学等の他教科との関連について検討する。	（第1章～第3章）を教科書で確認する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第2回	橘陽子	公衆栄養学の概念① 公衆栄養の概念	健康と公衆栄養の関連について理解し、コミュニティにおける公衆栄養活動の実際を調べる。	予習90分：教科書「公衆栄養の概念」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第3回	橘陽子	公衆栄養学の概念② 公衆栄養活動	公衆栄養活動の意義や目的を理解し、地域づくりやヘルス・プロモーションのための公衆栄養活動の実際を調べる。	予習90分：教科書「公衆栄養活動」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第4回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題① 健康状態の変化	人口構成や死因別死亡、平均寿命等の変遷と現在の課題を理解し、栄養・食生活との関連を検討する。	予習90分：教科書「健康状態の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第5回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題② 食事の変化(1)	国民健康・栄養調査の結果を確認し、エネルギー・栄養素摂取量の変化とその要因を検討する。	予習90分：教科書「食事の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第6回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題③ 食事の変化(2)	国民健康・栄養調査の結果を確認し、食品群別摂取量の変化とその要因を検討する。	予習90分：教科書「食事の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。 復習90分：
第7回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題④ 食生活の変化	国民健康・栄養調査の結果を確認し、食行動・食態度・食知識・食スキルの変化とその要因を検討する。	予習90分：教科書「食生活の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第8回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題⑤ 食環境の	食料自給票の結果を確認し、食料自給率の変化とその要因を検討する。	予習90分：教科書「食環境の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に

		変化		教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第9回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題⑥ 諸外国の健康・栄養問題の現状	先進諸国、開発途上国の栄養問題を確認し、地域間格差に向けた解決法について検討する。	予習90分：教科書「諸外国の健康・栄養もんだの現状」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第10回	橘陽子	栄養政策① わが国の公衆栄養活動と関連法規	公衆栄養活動の役割について理解し、それを支持する法規や栄養政策の実際を調べる。	予習90分：教科書「わが国の公衆栄養活動と関連法規」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第11回	橘陽子	栄養政策② 公衆栄養活動と組織・人材育成	公衆栄養活動の具体例を調べ、どのような組織・人材が活躍しているかを知り、公衆栄養活動における連携の重要性について検討する。	予習90分：教科書「公衆栄養活動と組織・人材育成」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第12回	橘陽子	栄養政策③ 国民健康・栄養調査	国民健康・栄養調査の概要を理解し、我が国の栄養政策にとっての重要性・今後の方向性について検討する。	予習90分：教科書「国民健康・栄養調査」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第13回	橘陽子	栄養政策④ 実施に関する指針、ツール	食生活指針、運動指針、食育ガイド、健康な食事等の指針・ツールについて理解し、実際の活用例について調べる。また、食事バランスガイドを活用し、自らの食事診断を行う。	予習90分：教科書「実施に関する指針、ツール」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第14回	橘陽子	栄養政策④ わが国の健康増進基本方針と地方計画	健康日本21、特定健康診査・特定保健指導、食育推進計画について理解し、国及び地方公共団体におけるそれぞれの役割と連携について調べる。	予習90分：教科書「わが国の健康増進基本方針と地方計画」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第15回	橘陽子	栄養政策⑤ 諸外国の健康・栄	諸外国の食事摂取基準やフードガイドを理解し、我が国との違いについて比較検討する。	予習90分：教科書「諸外国の健康・栄養政策」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に

		養政策		教科書等で復習し、 知識の定着を図る。

教科書
健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第6版：南江堂
参考書
国民衛生の動向 日本人の食事摂取基準[2020年版]
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。定期試験を実施します。 （原則定期試験100％評価だが課題等の未提出者は10％まで減点する）
課題等に対する フィードバックの方法
授業内での課題は返却の際に解説を行う。
履修のポイント
授業内容に連続性があり、習得度に合わせた内容変更の可能性もあるので欠席はしないこと。
オフィス・アワー
月曜日 昼休み 11号館栄養教育準備室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R264

講義コード	20830001
講義名	公衆栄養学II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	４時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての県庁・保健所での勤務経験に基づき、公衆栄養マネジメントについて具体的に教授する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

「公衆栄養学I」で学んだ公衆栄養の概念、健康栄養問題の現状と課題、栄養政策を理解したうえでの「公衆栄養学II」では、地域、職域における公衆栄養活動の展開に向けて、必要な栄養疫学、公衆栄養マネジメント、また具体的な公衆栄養プログラムの展開についての理解、知識を身につけることを目的とした学びとする。「公衆栄養学II」での学びが「公衆栄養学実習I」での実践学習、「公衆栄養学実習II（臨地実習）」での応用的学習につながる。
栄養疫学では、栄養疫学の必要性と意義、基本的な考え方とその役割、曝露情報としての栄養・食事摂取量の取り扱い、栄養調査における食事摂取量の測定方法、栄養疫学の科学的根拠の活用方法について学ぶ。
公衆栄養マネジメントでは、公衆栄養マネジメントの基本的な考え方、その必要性、アセスメントの目的や方法、公衆栄養プログラムにおける目標設定の方法、公衆栄養プログラムの立案・実施・評価の各段階に応じた対応について学ぶ。
公衆栄養プログラムの展開では、具体的な事例を通じて地域特性、食環境づくり、集団特性を考慮したプログラム展開、より客観的・総合的視野から対応する力量形成を目指した学びとする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る公衆栄養分野に関する必要な知識を修得することを目指し、地域集団への公衆栄養アセスメントおよび公衆栄養プログラムの実施を通じてその目的達成に資する知識を養う。将来的な展望としては、多様な社会のニーズ及び変化に対応できる知識及び技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる基盤を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.認知の観点：「栄養疫学・食事調査の必要性について理解し、説明ができる」「公衆栄養マネジメントについて理解し、説明ができる」「公衆栄養マネジメント理論による具体的な公衆栄養プログラムの展開について理解し、説明ができる」
２.態度の観点：「栄養疫学・食事調査について探求力と分析力、読解力、表現力を獲得できる」「公衆栄養マネジメント理論から具体的な公衆栄養プログラムの展開に至るまでの探求力と分析力、読解力、表現力を獲得できる」
３.技能の観点：「栄養疫学・食事調査、および公衆栄養マネジメント理論から具体的な公衆栄

養プログラムの展開に至るまでの探求力、分析力、読解力、表現力の獲得から事例等の批判的・創造的思考力が発揮できる」

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橘陽子	ガイダンス 公衆栄養学Iでの学びの振り返りと公衆栄養学IIでの学びの概要	公衆栄養学Iでの学習内容を振り返り、知識の定着を確認し、不足している部分について復習する。	予習90分：公衆栄養学Iでの学習範囲を教科書で復習する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第2回	橘陽子	栄養疫学① 栄養疫学の概要	歴史上の疫学の業績に関する映像を視聴し、公衆栄養における栄養疫学の重要性について自分の考えをまとめ、ディスカッションする。	予習90分：教科書「栄養疫学の概要」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第3回	橘陽子	栄養疫学② 栄養疫学の指標(1)	罹患率、累積罹患率、有病率、致命率、生存率等の計算を行い、知識の確認を行うとともに、値の意味について比較検討する。	予習90分：教科書「栄養疫学の指標」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第4回	橘陽子	栄養疫学③ 栄養疫学の指標(2)	相対危険、寄与危険、寄与危険割合、集団清き兼割合、オッズ比等の計算を行い、知識の確認を行うとともに、値の意味について比較検討する。	予習90分：教科書「栄養疫学の指標」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第5回	橘陽子	栄養疫学④ 栄養疫学の方法	記述疫学、分析疫学の各種研究内容の違いについて理解し、エビデンスレベルの違いと実際の研究例について比較検討する。	予習90分：教科書「栄養疫学の方法」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第6回	橘陽子	栄養疫学⑤ 栄養疫学のための食事調査法	食事調査における個人内変動と個人間変動、偶然誤差と系統誤差等の違いについて理解し、実際の食事調査により得られるデータ取り扱い上の留意点について検討する。	予習90分：教科書「栄養疫学のための食事調査法」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。 復習90分：
第7回	橘陽	栄養疫学⑥ 食事摂取量の	食事記録法、24時間食事思い出し法、食物摂取頻度調査法等の各種食事調査の違いを比較検討する。また、食事歴法の調	予習90分：教科書「食事摂取量の測定方法」を熟読する。 復習90分：理解が不

	子	測定方法	査票に回答し、調査票により誤差が生じる要因について検討する。	十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第8回	橘陽子	栄養疫学⑦ 食事摂取量の評価方法(1)	日本人の食事摂取基準（2020年版）を活用した集団の評価におけるエネルギーと栄養素の違いを理解し、異なる指標を用いる意味について検討する。	予習90分：教科書「食事摂取量の評価方法」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第9回	橘陽子	栄養疫学⑧ 食事摂取量の評価方法(2)	栄養素密度法、残差法、多変量解析による総エネルギー調整栄養素摂取量の算出の意義について理解し、データの処理と解析を行う上での留意点について検討する。	予習90分：教科書「食事摂取量の評価方法」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第10回	橘陽子	公衆栄養マネジメント① 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス 公衆栄養アセスメント	PDCAサイクルやプリシード・プロシードモデルを活用した公衆栄養マネジメントについて理解し、実際の公衆栄養施策にどのように反映されているかを検討する。	予習90分：教科書「公衆栄養マネジメントの概念とプロセス」「公衆栄養アセスメント」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第11回	橘陽子	公衆栄養マネジメント② 公衆栄養プログラムの目標設定 公衆栄養プログラムの計画	自治体の健康増進計画等を参照し、目標設定、立案がどのように行われているかを調べる。	予習90分：教科書「公衆栄養プログラムの目標設定」「公衆栄養プログラムの計画」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第12回	橘陽子	公衆栄養マネジメント③ 公衆栄養プログラムの評価	自治体の健康増進計画等を参照し、評価がどのように行われているかを調べる。	予習90分：教科書「公衆栄養プログラムの評価」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第13回	橘陽子	公衆栄養プログラムの展開① 地域特性に対応したプログラムの展開	自治体の健康増進計画等を参照し、健康づくり、食育等の課題に対し、どのような公衆栄養プログラムが展開されているかを調べる。	予習90分：教科書「地域特性に対応したプログラムの展開」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第14回	橘陽	公衆栄養プログラムの展開② 食環境づくり	自治体の健康増進計画等を参照し、栄養成分表示の活用、保健機能食品の活用等の課題に対し、どのような公衆栄養プロ	予習90分：教科書「食環境づくりのためのプログラムの展開」を熟読する。 復習90分：理解が不

	子	のためのプログラムの展開	グラムが展開されているかを調べる。	十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第15回	橘陽子	公衆栄養プログラムの展開③ 地域集団の特性別プログラムの展開	自治体の健康増進計画等を参照し、母子、成人、高齢者等の対象者に対し、どのような公衆栄養プログラムが展開されているかを調べる。	予習90分：教科書「地域集団の特性別プログラムの展開」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。

教科書

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第6版：南江堂
公衆栄養学2018年版 地域・国・国際レベルでの栄養マネジメント 第5版：医歯薬出版株式会社
日本人の食事摂取基準[2020年版]

参考書

国民衛生の動向

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。定期試験を実施します。
（原則定期試験100％評価だが課題等の未提出者は10％まで減点する）

課題等に対するフィードバックの方法

授業内での課題は返却の際に解説を行う。

履修のポイント

授業内容に連続性があり、習得度に合わせた内容変更の可能性もあるので欠席はしないこと。

オフィス・アワー

月曜日 昼休み
11号館栄養教育準備室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R271

講義コード	20840001
講義名	公衆栄養学実習I（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての県庁・保健所等での勤務経験に基づき、公衆栄養マネジメントについて具体的に教授する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養活動は、地域住民の健康の維持・増進を目的として綿密なる計画を堅実に実行し、その結果を的確に評価するという行為の繰り返しである。そのためには、正確な情報の収集による問題点の把握（公衆栄養アセスメント）及びヘルスプロモーションの考えに基づく計画・実施・評価・改善（公衆栄養マネジメント）の技術が必須となる。本授業では、地域集団の健康・栄養状態を把握する技術の修得、問題解決のための論理的な公衆栄養プログラムの樹立方法及び実施方法の修得及びそれらを支持する法的根拠の正しい理解を目指し、成果の見える公衆栄養施策を行うための技術を養うことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る公衆栄養分野に関する必要な知識や技術を修得することを目指し、地域集団への公衆栄養アセスメントおよび公衆栄養プログラムの実施を通じてその目的達成に資する知識を養う。将来的な展望としては、多様な社会のニーズ及び変化に対応できる知識及び技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる基盤を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.地域集団の健康状態及び食事・栄養素等摂取状況などの分析方法及び・診断方法、優先すべき課題の抽出の実際、その改善のための活動・事業のマネジメント方法を理解し、実践できるようになる。
2.各種食事調査法の長所・欠点と活用、「日本人の食事摂取基準」の活用の実際、国民健康・栄養調査データの解析、食事・栄養素摂取量のデータ処理・統計解析方法を理解し、実践できるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		◆公衆栄養マネジメントと		予習15分：公衆栄養マ

第1回	橘陽子	モデルの理解 ガイダンス PDCAサイクル プリシード・プロシードモデル 自治体の計画の位置づけ	市町村における健康分野の各種計画について、それぞれの相互関係を検討し、意見交換する。	ネジメントの理論的モデル、健康日本21（第2次）について教科書等で理解しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第2回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント① 年齢調整死亡率による健康課題のアセスメント	都道府県別性別疾患別年齢調整死亡率から、対象となる地域の課題となる疾患を抽出する。また、その原因となる栄養・食生活要因について意見交換を行い、仮説を設定する。	予習15分：年齢調整死亡率について教科書等で理解しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第3回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント② 標準化死亡比（SMR）による健康課題のアセスメント	対象となる保健所管内の標準化死亡比から、地域の健康課題となる疾患を抽出する。また、その原因となる栄養・食生活要因について意見交換を行い、仮説を設定する。	予習15分：標準化死亡比について教科書等で理解しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第4回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント③ 国民健康・栄養調査結果からのアセスメント（栄養素等摂取状況）	最新の国民健康・栄養調査の結果から、栄養素等摂取量に関するデータ分析を行う。また、健康課題との関連について意見交換する。	予習15分：最新の国民健康・栄養調査の結果を厚労省HPで確認しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第5回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント④ 国民健康・栄養調査結果からのアセスメント（生活習慣）	最新の国民健康・栄養調査の結果から、生活習慣に関するデータ分析を行う。また、健康課題との関連について意見交換する。	予習15分：最新の国民健康・栄養調査の結果を厚労省HPで確認しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第6回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント⑤ ターゲット層・要因となる食生活の明確化	健康課題と国民健康・栄養調査結果を関連付け、健康課題のターゲット層を明確化するとともに、食生活上の問題点とその背景を確認する。	予習15分：これまでのアクティブラーニングの内容を整理しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第7回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの目標設定 長期・中期・短期目標の設定 優先順位付け	アセスメント結果を基に、健康課題に対する長期・中期・短期目標を設定する。また、重要度と実現可能性を踏まえた優先順位付けを行う。	予習15分：長期・中期・短期計画の違いについて教科書等で確認しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。

第8回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの計画 地域社会資源の把握と管理 運営面・政策面のアセスメント	公衆栄養プログラムを実践する際に連携できる人的・物的資源と予算について検討する。また、運営面・政策面のアセスメントを行い、プログラム実施の障壁にならないか等を検討する。	予習15分：地域における社会資源の種類や対象地域の実際について調べておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第9回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの策定 事業計画書の作成 評価の計画	公衆栄養プログラムの中から、1事業について、事業計画書を作成する。また、評価の方法・時期等についても検討し、計画書に反映する。	予習15分：事業計画書の書き方について教科書等で理解しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第10回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの提案① 提案資料の作成	関係者に公衆栄養プログラムを提案するための資料を作成し、発表に備える。	予習15分：効果的なプレゼンテーションの方法について復習しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第11回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの提案② 発表・評価	作成した資料に基づき、発表する。また、他者の発表を評価する。	予習15分：発表練習する。 復30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第12回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの提案③ 発表・評価	作成した資料に基づき、発表する。また、他者の発表を評価する	予習15分：発表練習する。 復30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第13回	橘陽子	◆集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用① 確率法とカットポイント法	食事摂取基準を集団に活用する場合の、確率法とカットポイント法の違いを踏まえ、カットポイント法による栄養素摂取不足者の割合を求める。	予習15分：食事摂取基準の集団への活用について、熟読しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第14回	橘陽子	◆集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用② 栄養素摂取の提案	栄養素のアセスメント結果に基づき、不足する栄養素の摂取を促すリーフレットを作成する。	予習15分：栄養素に関する理解を深め、資料作成に備える。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第15回	橘陽子	◆集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用③ まとめ	作成したリーフレットを評価する。また、本授業のまとめを行う。	予習15分：これまでの授業の振り返りを行う。 復習30分：意見交換により得た学びを整理し、将来に活かせるよ

				うにする。

教科書
健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第6版：南江堂 公衆栄養学2018年版 地域・国・国際レベルでの栄養マネジメント 第5版：医歯薬出版株式会社 日本人の食事摂取基準[2020年版]
参考書
日本食品標準成分表2015年版（七訂） 調理のためのベーシックデータ 第5版
成績評価の方法・基準
課題85%、授業への参加度15%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内での課題は返却の際に解説を行う。
履修のポイント
授業内容に連続性があり、習得度に合わせた内容変更の可能性もあるので欠席はしないこと。
オフィス・アワー
月曜日～金曜日 昼休み 11号館栄養教育準備室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R272

講義コード	20840002
講義名	公衆栄養学実習I（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての県庁・保健所等での勤務経験に基づき、公衆栄養マネジメントについて具体的に教授する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養活動は、地域住民の健康の維持・増進を目的として綿密なる計画を堅実に実行し、その結果を的確に評価するという行為の繰り返しである。そのためには、正確な情報の収集による問題点の把握（公衆栄養アセスメント）及びヘルスプロモーションの考えに基づく計画・実施・評価・改善（公衆栄養マネジメント）の技術が必須となる。本授業では、地域集団の健康・栄養状態を把握する技術の修得、問題解決のための論理的な公衆栄養プログラムの樹立方法及び実施方法の修得及びそれらを支持する法的根拠の正しい理解を目指し、成果の見える公衆栄養施策を行うための技術を養うことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る公衆栄養分野に関する必要な知識や技術を修得することを目指し、地域集団への公衆栄養アセスメントおよび公衆栄養プログラムの実施を通じてその目的達成に資する知識を養う。将来的な展望としては、多様な社会のニーズ及び変化に対応できる知識及び技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる基盤を修得することを目指すものとする。

到達目標

1.地域集団の健康状態及び食事・栄養素等摂取状況などの分析方法及び・診断方法、優先すべき課題の抽出の実際、その改善のための活動・事業のマネジメント方法を理解し、実践できるようになる。
2.各種食事調査法の長所・欠点と活用、「日本人の食事摂取基準」の活用の実際、国民健康・栄養調査データの解析、食事・栄養素摂取量のデータ処理・統計解析方法を理解し、実践できるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		◆公衆栄養マネジメントと		予習15分：公衆栄養マ

第1回	橘陽子	モデルの理解 ガイダンス PDCAサイクル プリシード・プロシードモデル 自治体の計画の位置づけ	市町村における健康分野の各種計画について、それぞれの相互関係を検討し、意見交換する。	ネジメントの理論的モデル、健康日本21（第2次）について教科書等で理解しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第2回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント① 年齢調整死亡率による健康課題のアセスメント	都道府県別性別疾患別年齢調整死亡率から、対象となる地域の課題となる疾患を抽出する。また、その原因となる栄養・食生活要因について意見交換を行い、仮説を設定する。	予習15分：年齢調整死亡率について教科書等で理解しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第3回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント② 標準化死亡比（SMR）による健康課題のアセスメント	対象となる保健所管内の標準化死亡比から、地域の健康課題となる疾患を抽出する。また、その原因となる栄養・食生活要因について意見交換を行い、仮説を設定する。	予習15分：標準化死亡比について教科書等で理解しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第4回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント③ 国民健康・栄養調査結果からのアセスメント（栄養素等摂取状況）	最新の国民健康・栄養調査の結果から、栄養素等摂取量に関するデータ分析を行う。また、健康課題との関連について意見交換する。	予習15分：最新の国民健康・栄養調査の結果を厚労省HPで確認しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第5回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント④ 国民健康・栄養調査結果からのアセスメント（生活習慣）	最新の国民健康・栄養調査の結果から、生活習慣に関するデータ分析を行う。また、健康課題との関連について意見交換する。	予習15分：最新の国民健康・栄養調査の結果を厚労省HPで確認しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第6回	橘陽子	◆公衆栄養アセスメント⑤ ターゲット層・要因となる食生活の明確化	健康課題と国民健康・栄養調査結果を関連付け、健康課題のターゲット層を明確化するとともに、食生活上の問題点とその背景を確認する。	予習15分：これまでのアクティブラーニングの内容を整理しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第7回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの目標設定 長期・中期・短期目標の設定 優先順位付け	アセスメント結果を基に、健康課題に対する長期・中期・短期目標を設定する。また、重要度と実現可能性を踏まえた優先順位付けを行う。	予習15分：長期・中期・短期計画の違いについて教科書等で確認しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。

第8回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの計画 地域社会資源の把握と管理 運営面・政策面のアセスメント	公衆栄養プログラムを実践する際に連携できる人的・物的資源と予算について検討する。また、運営面・政策面のアセスメントを行い、プログラム実施の障壁にならないか等を検討する。	予習15分：地域における社会資源の種類や対象地域の実際について調べておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第9回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの策定 事業計画書の作成 評価の計画	公衆栄養プログラムの中から、1事業について、事業計画書を作成する。また、評価の方法・時期等についても検討し、計画書に反映する。	予習15分：事業計画書の書き方について教科書等で理解しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第10回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの提案① 提案資料の作成	関係者に公衆栄養プログラムを提案するための資料を作成し、発表に備える。	予習15分：効果的なプレゼンテーションの方法について復習しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第11回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの提案② 発表・評価	作成した資料に基づき、発表する。また、他者の発表を評価する。	予習15分：発表練習する。 復30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第12回	橘陽子	◆公衆栄養プログラムの提案③ 発表・評価	作成した資料に基づき、発表する。また、他者の発表を評価する	予習15分：発表練習する。 復30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第13回	橘陽子	◆集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用① 確率法とカットポイント法	食事摂取基準を集団に活用する場合の、確率法とカットポイント法の違いを踏まえ、カットポイント法による栄養素摂取不足者の割合を求める。	予習15分：食事摂取基準の集団への活用について、熟読しておく。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第14回	橘陽子	◆集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用② 栄養素摂取の提案	栄養素のアセスメント結果に基づき、不足する栄養素の摂取を促すリーフレットを作成する。	予習15分：栄養素に関する理解を深め、資料作成に備える。 復習30分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第15回	橘陽子	◆集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用③ まとめ	作成したリーフレットを評価する。また、本授業のまとめを行う。	予習15分：これまでの授業の振り返りを行う。 復習30分：意見交換により得た学びを整理し、将来に活かせるよ

				うにする。

教科書
健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第6版：南江堂 公衆栄養学2018年版 地域・国・国際レベルでの栄養マネジメント 第5版：医歯薬出版株式会社 日本人の食事摂取基準[2020年版]
参考書
日本食品標準成分表2015年版（七訂） 調理のためのベーシックデータ 第5版
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 課題85%、授業への参加度15%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内での課題は返却の際に解説を行う。
履修のポイント
授業内容に連続性があり、習得度に合わせた内容変更の可能性もあるので欠席はしないこと。
オフィス・アワー
月曜日～金曜日 昼休み 11号館栄養教育準備室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R272

講義コード	20850001
講義名	給食経営管理論I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	小中学校・学校給食センター及び教育委員会における給食経営管理の指導・実践に基づき指導する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食施設における管理栄養士の役割は、対象（喫食）者の健康の保持・増進、心身の健全な成長及び疾病予防と治療を促すための食事管理と栄養教育を行うことである。そのため、給食施設における給食業務を円滑に管理･経営するための基本な知識と技術（方法）について学習する。なお、給食施設の概要及び給食施設における管理栄養士の役割を理解し、さらに、特定多数の人々の健康状態・栄養状態の改善・維持・向上・ＱＯＬの向上を目標とした栄養・食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくための生産、安全・衛生について理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象に沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育に関して給食経営管理に必要な知識や技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

１．給食の意義及び運営について説明できる。
２．特定多数の人々に食事を提供する給食施設における食事の提供にかかわる栄養・食事管理について説明できる。
３．給食経営における品質管理について説明できる。
４．安全・衛生な給食の経営管理について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	神戸美	オリエンテーション 給食の概念(1) 給食経営管理論について		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行

	恵子	給食の概要 課題：授業のまとめプリント		い、給食の概要について理解を深める。
第2回	神戸美恵子	給食の概念(2) 給食システム 給食施設の特徴と管理栄養士の役割・関連法規 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食システム、給食施設の特徴と管理栄養士の役割・関連法規について理解を深める。
第3回	神戸美恵子	栄養・食事管理(1) 栄養・食事のアセスメント 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。復習60分：課題プリントによる復習を行い、栄養・食事のアセスメントについて理解を深める。
第4回	神戸美恵子	栄養・食事管理(2) 食事の計画 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、食事の計画について理解を深める。
第5回	神戸美恵子	栄養・食事管理(3) 食事計画の実施、評価、改善 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、食事計画の実施、評価、改善について理解を深める。
第6回	神戸美恵子	給食経営における品質管理(1) 品質と標準化 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、品質と標準化について理解を深める。
第7回	神戸美恵子	給食経営における品質管理(2) 食材管理 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、食材管理 について理解を深める。
第8回	神戸美恵子	給食経営における品質管理(3) 生産管理① 課題：授業のまとめプリン		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、生産管理について理解を深める。

		ト		
第9回	神戸美恵子	給食経営における品質管理(4) 生産管理② 提供管理 課題：授業のまとめプリント	大量調理と少量調理の違いについてディスカッションを行う。	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、提供管理について理解を深める。
第10回	神戸美恵子	給食の安全・衛生(1) 安全・衛生の概念 課題：授業のまとめプリント	食中毒事例についてディスカッションを行う。	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、安全・衛生の概念について理解を深める。
第11回	神戸美恵子	給食の安全・衛生(2) 安全・衛生の実際 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、安全・衛生の実際について理解を深める。
第12回	神戸美恵子	給食の安全・衛生(3) 大量調理施設衛生管理マニュアル 課題：数値管理表	マニュアルに示されている数値管理項目についてまとめる。	予習60分：第10～11回の内容を復習する。 復習60分：大量調理施設衛生管理マニュアルについて理解を深める。
第13回	神戸美恵子	給食の安全・衛生(4) 事故・災害対策 課題：授業のまとめプリント	災害時の給食の役割と対策についてディスカッションを行う。	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、事故・災害対策、災害時の給食の役割と対策について理解を深める。
第14回	神戸美恵子	給食経営管理の概念(1) 経営管理の概念 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、経営管理の概念について理解を深める。
第15回	神戸美恵子	給食経営管理の概念(2) 給食の資源と管理 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食の原価構成、収入と原価管理について理解を深める。

教科書

サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論 第一出版
講義のスライドを随時プリントして配布する。

参考書

日本人の食事摂取基準
日本標準食品成分表
給食のための基礎からの献立作成
はじめての大量調理
調理のためのベーシックデータ（第5版）
給食経営管理用語辞典

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験90%、レポート10%、平常点（授業参加度・貢献度等）を加味して総合的に判断する。
評価方法の基準を講義初回時にアナウンスする。

課題等に対するフィードバックの方法

課題提出時に模範解答を配布する。
定期試験に課題を一部反映させる。

履修のポイント

給食経営管理論実習I、給食経営管理論実習II（臨地実習）に臨むうえで必要な基礎的知識を得るための科目ですので、積極的に取り組むこと。
予習・復習の時間数：不足分については試験前の学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日 昼休み 研究室15
質問はメールでも受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R232

講義コード	20860001
講義名	給食経営管理論II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	小中学校・学校給食センター及び教育委員会における給食経営管理の指導・実践に基づき指導する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食施設における管理栄養士の役割は、対象（喫食）者の健康の保持・増進、心身の健全な成長及び疾病予防と治療を促すための食事管理と栄養教育を行うことである。そのため、給食経営管理の概念について理解し、給食運営や関係の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。なお、給食運営や関係の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般のマネジメントについて理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、多様な対象に沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育に関して給食経営管理に必要な知識や技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

１．給食経営管理の概念について説明することができる。
２．給食における原価管理について説明できる。
３．栄養管理・食事管理に関するマネジメントについて説明できる。
４．各施設、対象（喫食）者に応じた給食の概要について説明できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	栄養・食事管理の実際(1) アセスメントに基づく食事計画 課題：食事計画ワークシート	アセスメント結果に基づく食事計画の作成手順についてグループディスカッションを行う。	予習60分：1年次の食事設計計画実習で行った特定の集団を対象とした給与栄養目標量の考え方、給食経営管理論I第3回について復習する。 復習120分：ワークシートを仕上げる。

第2回	栄養・食事管理の実際(2) 食事計画から献立計画へ 課題：献立計画ワークシート	前回作成した食事計画にそった献立計画についてグループディスカッションを行う。	予習60分：1年次の食事設計計画実習で学習した献立作成の手順や要点、給食経営管理論I第4・5回について復習する。 復習120分：ワークシートを仕上げる。
第3回	栄養・食事管理の実際(3) 栄養教育教材としての給食 課題：栄養教育教材	前回作成した献立計画にそった栄養教育教材をグループで考える。	予習60分：給食経営管理論I第4回について復習する。 復習120分：栄養教育教材を仕上げる。
第4回	栄養・食事管理の実際(4) 計画（予定献立・作業計画・作業工程・作業動線・発注等） 課題：計画書作成	各計画書の作成手順についてグループで確認し、計画書を作成する。	予習60分：給食経営管理論I第5～12回を確認する。 復習120分：計画書を仕上げる。
第5回	栄養・食事管理の実際(5) 作業管理（検収・下処理・調理・配膳配食・洗浄等）	各作業内容及び全体の流れについてグループで確認する。	予習60分：給食経営管理論I第5～12回を確認する。 復習120分：各作業について配布資料を確認し、理解を深める。
第6回	栄養・食事管理の実際(6) 評価・改善（実施献立・インシデントレポート・評価表等）	喫食者評価の方法や、予定献立と実施献立の違いについてディスカッションする。	予習60分：給食経営管理論I第5～12回を確認する。 復習120分：配布資料を確認し、理解を深める。
第7回	給食経営管理の概念(3) 給食の原価構成と収支構造 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食の原価構成と収支構造について理解を深める。
第8回	給食経営管理の概念(4) 給食とマーケティング 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食とマーケティングについて理解を深める。
第9回	給食経営管理の概念(5) 給食経営と組織 課題：授業の		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、給食経営と組織について理解を

	まとめプリント		深める。
第10回	給食施設の特徴と関連法規(1) 医療施設 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、医療施設の特徴と関連法規について理解を深める。
第11回	給食施設の特徴と関連法規(2) 高齢者・介護福祉施設 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、高齢者・介護福祉施設の特徴と関連法規について理解を深める。
第12回	給食施設の特徴と関連法規(3) 児童福祉施設、障害者福祉施設 課題：授業のまとめプリント		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、児童福祉施設、障害者福祉施設の特徴と関連法規について理解を深める。
第13回	給食施設の特徴と関連法規(4) 学校 課題：給食経営管理論のまとめチェックシート		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、学校の特徴と関連法規について理解を深める。給食経営管理論のまとめチェックシートを仕上げる。
第14回	給食施設の特徴と関連法規(5) 事業所、その他の施設 課題：給食経営管理論のまとめチェックシート		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：課題プリントによる復習を行い、事業所、その他の施設の特徴と関連法規について理解を深める。給食経営管理論のまとめチェックシートを仕上げる。
第15回	給食経営管理論のまとめ	グループで、給食経営管理論のまとめチェックシートを基に、課題を出し合い、ディスカッションする。 グループごとにディスカッションした内容を発表する。	予習120分：給食経営管理論のまとめチェックシートをもとに自己課題を挙げ、調べ学習をする。 復習60分：ディスカッションした内容を整理する。

教科書
サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論

参考書
日本食品標準成分表、給食施設のための献立作成マニュアル、管理栄養士栄養士必携、給食経営管理用語辞典
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 筆記試験90%、課題10%、平常点（授業参加度・貢献度等）を加味して総合的に判断する。
課題等に対する フィードバックの方法
課題提出時に模範解答を配布する。 定期試験に課題を一部反映させる。
履修のポイント
給食経営管理論実習I、給食経営管理論実習II（臨地実習）へ繋がるよう理解を深めること。 予習・復習の時間数：不足分については試験前の学習で補完すること。
オフィス・アワー
月曜日～金曜日昼休み 研究室15 質問はメールでも受け付けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R244

講義コード	20870001
講義名	給食経営管理論実習I（Aクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	小中学校・学校給食センター及び教育委員会における給食経営管理の指導・実践に基づき指導する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食現場での管理栄養士の実践力を身につけるために、関連教科で学習した基本的な知識や技術をもとに、給食経営管論で学習した給食運営のPDCA(マネジメント)サイクルを活用し、健康な学生を対象とした約100食の給食提供実習を行うことより、アセスメントから評価までの一連の業務について理解する。給食提供実習は班編制、班内の役割分担により行う。さらに、実習献立を活用した期間献立を作成する。なお、給食提供実習を通して、アセスメントから評価までの一連の業務について理解するとともに、栄養面・安全面・経済面などを統合した給食経営管理マネジメントを行う能力を養うこと、給食経営管理論実習II（臨地実習）に向けて個人個人が給食経営管理に関するスキルや意欲を高めることを目標とする。
また、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する実習を通して、フードサービスシステムやマーケティングを理解するとともに、給食経営管理の基本的な考え方や技法を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、健康な人を対象として、身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育等給食経営管理に必要な技術を修得している。

到達目標

１．健康な人を対象とした給食提供を経営管理のPDCAサイクルに従い計画することができる。
２．「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づく衛生管理について確認することができる。
３．給食組織運営やチームワークやコミュニケーション力を身に付けることができる。
４．給食運営業務に関する基本的な方法、技術を取得することができる。
５．栄養面、安全面、経済面全般について円滑にマネジメントすることができる。
６．提供する給食を活用した栄養教育を実施することができる。
７．実施給食を活用した期間献立を作成することができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション ・実習の目的、方法、日程、実習室説明等		予習90分：給食経営管理論Iの内容を復習する。 復習90分：実習室配置図をもとに、設備、動線等について確認する。
第2回	予定献立案作成・給与栄養目標量に基づく献立作成・検討	給与栄養目標量に基づく献立作成・検討を行う。（グループワーク）	予習90分：献立資料を参考に、テーマに沿った献立案を考える。 復習60分：献立の見直しをする。
第3回	試作 ・作成した献立案の試作 ・給食経営管理実習室設備等説明	作成した献立案の試作を行う。（グループワーク）	予習30分：使用する食材や器具、調理手順の確認をする。 復習60分：試作の結果に基づき、献立の修正案を考える。
第4回	予定献立作成 ・試作の結果に基づく献立案の修正、決定	試作の結果に基づき献立案を修正し予定献立を決定する。（グループワーク）	予習30分：献立修正案の確認をする。 復習60分：決定した献立を仕上げる。
第5回	予定献立に基づく作業計画作成 ・作業計画表、作業工程表、作業動線図等	予定献立に基づき、作業計画表、作業工程表、作業動線図等を作成する。（グループワーク）	予習60分：決定した献立の食材の使用量、作り方を整理する。 復習60分：各作業工程表を仕上げる。
第6回	予定献立に基づく帳票、栄養指導資料作成 ・発注書、衛生管理チェック表、栄養指導資料等	予定献立に基づき、発注書、衛生管理チェック表、栄養指導資料等を作成する。（グループワーク）	予習60分：献立に基づく栄養指導に参考になる資料を集め、案を作成する。 復習60分：栄養指導資料等を仕上げる。
第7回	給食提供実習事前準備､確認 補助グループとの作業確認、準備	100食の給食提供実習に向け、補助グループに説明を行い、作業確認、準備を行う。	予習90分：給食提供実習の流れについて説明できるよう準備する。 復習60分：給食提供実習に向け、担当作業について整理する。
第8回	給食提供実習（1） 管理栄養士（献立、栄養指導）担当	計画に基づき給食提供実習を行う。	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第9回	給食提供実習（2） 検収・下処理・洗浄担当	計画に基づき給食提供実習を行う。	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
			予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の

第10回	給食提供実習（3） 主食・主菜担当	計画に基づき給食提供実習を行う。	確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第11回	給食提供実習（4） 副菜・汁物・デザート担当	計画に基づき給食提供実習を行う。	予習60分：アンケート調査の集計やまとめ方、事務処理方法の確認をする。 復習60分：振り返りを行い、記録をする。
第12回	給食提供実習の評価とまとめ(1) アンケート集計 実施献立表作成	アンケート集計、給食提供実習結果に基づき実施献立表を作成（グループワーク）	予習60分：実習記録を整理する。 復習60分：実施献立表を仕上げる。期間献立を考える。
第13回	給食提供実習の評価とまとめ(2) 評価表に基づく給食提供実習の評価	個人評価表に基づき給食提供実習の評価とまとめを行う。（グループワーク）	予習60分：個人評価表を整理する。 復習60分：実施評価とまとめを参考に振り返りを行う。期間献立を考える。
第14回	給食提供実習の評価とまとめ(3) 給食提供実習報告会 ・給食提供実習の評価とまとめについて報告 ・各グループの報告に対し、評価を行う ・報告に対する評価をまとめる	給食提供実習の評価とまとめを報告する。報告に対する評価をグループでまとめ、共有する。（グループワーク）	予習60分：報告準備をする。 復習60分：各グループの報告を整理する。 期間献立を考える。
第15回	新調理システム、期間献立作成 ・真空調理法 ・実習献立を活用した期間献立作成		予習60分：新調理システムについて教科書で確認する。 復習180分：実習献立を活用した期間献立を完成させる。

教科書

担当教員作成実習書（プリント）及び帳票類
サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論
日本標準食品成分表

参考書

日本人の食事摂取基準
給食施設のための献立作成マニュアル
栄養・食事管理のための施設別給食献立集
大量調理

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上

課題（期間献立等）30%、ワーク10%、平常点（授業参加度・貢献度等）60%として総合的に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題は、添削しコメント・アドバイスをつけて返却する。また、必要に応じて、受講者間で共有しディスカッションを行う。

履修のポイント

グループワークが中心の実習なので、各自主体的に取り組む。
給食の特性を考慮し、健康管理、衛生的な身支度・行動を心がける。
大型の厨房機器も使用するため、作業に関する注意点を守り、安全に作業を行う。
課題は提出期限を厳守する。
課題（期間献立）作成は、授業時間では不足するため、家庭学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日昼休み 研究室15（神戸研究室）
質問はメールでも受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R245

講義コード	20870002
講義名	給食経営管理論実習I（Bクラス）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	小中学校・学校給食センター及び教育委員会における給食経営管理の指導・実践に基づき指導する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食現場での管理栄養士の実践力を身につけるために、関連教科で学習した基本的な知識や技術をもとに、給食経営管論で学習した給食運営のPDCA(マネジメント)サイクルを活用し、健康な学生を対象とした約100食の給食提供実習を行うことより、アセスメントから評価までの一連の業務について理解する。給食提供実習は班編制、班内の役割分担により行う。さらに、実習献立を活用した期間献立を作成する。なお、給食提供実習を通して、アセスメントから評価までの一連の業務について理解するとともに、栄養面・安全面・経済面などを統合した給食経営管理マネジメントを行う能力を養うこと、給食経営管理論実習II（臨地実習）に向けて個人個人が給食経営管理に関するスキルや意欲を高めることを目標とする。
また、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する実習を通して、フードサービスシステムやマーケティングを理解するとともに、給食経営管理の基本的な考え方や技法を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、健康な人を対象として、身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育等給食経営管理に必要な技術を修得している。

到達目標

１．健康な人を対象とした給食提供を経営管理のPDCAサイクルに従い計画することができる。
２．「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づく衛生管理について確認することができる。
３．給食組織運営やチームワークやコミュニケーション力を身に付けることができる。
４．給食運営業務に関する基本的な方法、技術を取得することができる。
５．栄養面、安全面、経済面全般について円滑にマネジメントすることができる。
６．提供する給食を活用した栄養教育を実施することができる。
７．実施給食を活用した期間献立を作成することができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	オリエンテーション ・実習の目的、方法、日程、実習室説明等		予習90分：給食経営管理論Iの内容を復習する。 復習90分：実習室配置図をもとに、設備、動線等について確認する。
第2回	予定献立案作成・給与栄養目標量に基づく献立作成・検討	給与栄養目標量に基づく献立作成・検討を行う。（グループワーク）	予習90分：献立資料を参考に、テーマに沿った献立案を考える。 復習60分：献立の見直しをする。
第3回	試作 ・作成した献立案の試作 ・給食経営管理実習室設備等説明	作成した献立案の試作を行う。（グループワーク）	予習30分：使用する食材や器具、調理手順の確認をする。 復習60分：試作の結果に基づき、献立の修正案を考える。
第4回	予定献立作成 ・試作の結果に基づく献立案の修正、決定	試作の結果に基づき献立案を修正し予定献立を決定する。（グループワーク）	予習30分：献立修正案の確認をする。 復習60分：決定した献立を仕上げる。
第5回	予定献立に基づく作業計画作成 ・作業計画表、作業工程表、作業動線図等	予定献立に基づき、作業計画表、作業工程表、作業動線図等を作成する。（グループワーク）	予習60分：決定した献立の食材の使用量、作り方を整理する。 復習60分：各作業工程表を仕上げる。
第6回	予定献立に基づく帳票、栄養指導資料作成 ・発注書、衛生管理チェック表、栄養指導資料等	予定献立に基づき、発注書、衛生管理チェック表、栄養指導資料等を作成する。（グループワーク）	予習60分：献立に基づく栄養指導に参考になる資料を集め、案を作成する。 復習60分：栄養指導資料等を仕上げる。
第7回	給食提供実習事前準備､確認 補助グループとの作業確認、準備	100食の給食提供実習に向け、補助グループに説明を行い、作業確認、準備を行う。	予習90分：給食提供実習の流れについて説明できるよう準備する。 復習60分：給食提供実習に向け、担当作業について整理する。
第8回	給食提供実習（1） 管理栄養士（献立、栄養指導）担当	計画に基づき給食提供実習を行う。	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第9回	給食提供実習（2） 検収・下処理・洗浄担当	計画に基づき給食提供実習を行う。	予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
			予習60分：各計画書に目を通し、担当する作業の

第10回	給食提供実習（3） 主食・主菜担当	計画に基づき給食提供実習を行う。	確認をする。 復習60分：インシデントレポート、個人評価表、実習記録をまとめる。
第11回	給食提供実習（4） 副菜・汁物・デザート担当	計画に基づき給食提供実習を行う。	予習60分：アンケート調査の集計やまとめ方、事務処理方法の確認をする。 復習60分：振り返りを行い、記録をする。
第12回	給食提供実習の評価とまとめ(1) アンケート集計 実施献立表作成	アンケート集計、給食提供実習結果に基づき実施献立表を作成（グループワーク）	予習60分：実習記録を整理する。 復習60分：実施献立表を仕上げる。期間献立を考える。
第13回	給食提供実習の評価とまとめ(2) 評価表に基づく給食提供実習の評価	個人評価表に基づき給食提供実習の評価とまとめを行う。（グループワーク）	予習60分：個人評価表を整理する。 復習60分：実施評価とまとめを参考に振り返りを行う。期間献立を考える。
第14回	給食提供実習の評価とまとめ(3) 給食提供実習報告会 ・給食提供実習の評価とまとめについて報告 ・各グループの報告に対し、評価を行う ・報告に対する評価をまとめる	給食提供実習の評価とまとめを報告する。報告に対する評価をグループでまとめ、共有する。（グループワーク）	予習60分：報告準備をする。 復習60分：各グループの報告を整理する。 期間献立を考える。
第15回	新調理システム、期間献立作成 ・真空調理法 ・実習献立を活用した期間献立作成		予習60分：新調理システムについて教科書で確認する。 復習180分：実習献立を活用した期間献立を完成させる。

教科書

担当教員作成実習書（プリント）及び帳票類
サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論
日本標準食品成分表

参考書

日本人の食事摂取基準
給食施設のための献立作成マニュアル
栄養・食事管理のための施設別給食献立集
大量調理

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上

課題（期間献立等）30%、ワーク10%、平常点（授業参加度・貢献度等）60%として総合的に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題は、添削しコメント・アドバイスをつけて返却する。また、必要に応じて、受講者間で共有しディスカッションを行う。

履修のポイント

グループワークが中心の実習なので、各自主体的に取り組む。
給食の特性を考慮し、健康管理、衛生的な身支度・行動を心がける。
大型の厨房機器も使用するため、作業に関する注意点を守り、安全に作業を行う。
課題は提出期限を厳守する。
課題（期間献立）作成は、授業時間では不足するため、家庭学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日昼休み 研究室15（神戸研究室）
質問はメールでも受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R245

講義コード	20880001
講義名	管理栄養士総合演習I
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践栄養活動を行った経歴を有する教員が、臨地実習に必要な知識や技術を総合的にサポートする。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし
教員	関谷 果林	指定なし

授業の概要と教育目標

給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の専門的知識と技術を統合し、課題発見（気づき）、問題解決をしていく過程を学ぶ。それにより、専門職である管理栄養士が身につけるべき態度や行動について意識を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

専門的な知識や技術の学習を統合・発展させ、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる知識及び技術を身につけ、実践活動の場での課題発見、解決できる知識・技術を修得する。

到達目標

①臨地実習の意義や目的を理解し、実習に向けての意欲を高めることができる。
②課題発見力と問題解決能力を身に付けために自己課題の設定ができる。
③大学での学びと臨地における学習内容を統合する準備ができる。
④管理栄養士として専門的な知識や技術を修得できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
1	増野	・教員紹介 ・授業の概要 ・前期・後期授業の概要		予習：臨地実習と授業の関係いついて理解を 60

第　回	弥生	・職業人としての管理栄養士・栄養士の職業倫理とは		しておく　　分 復習：授業内容の復習60分
第2回	宮原公子	・管理栄養士養成課程におけるカリキュラムと必要なスキル ・臨地実習の位置づけと重要性 ・臨地実習と校外実習の相違点 ・研究課題の意義・目的、課題設定	臨地実習をとおして、何を学びたいかグループ内で発表し合い、目的を明らかにする。	予習：栄養士法第1条、第2条を理解しておく60分 復習：臨地実習の意義、重要性をノートにまとめる 60分
第3回	関谷果林	・臨地実習にふさわしい服装、身だしなみ ・電話のかけ方	臨地実習に向けてふさわしい服装、身だしなみ、実習先への電話のかけ方、事前訪問の仕方など、グループでロールプレイングを通して、課題を明確にしてアドバイスを行う。	予習：服装、身だしなみ、電話のかけ方について想定する 60分 復習：授業内容をもとに各自の服装、持ち物などを確認する 60分
第4回	関谷果林	・レポートを書くために必要なスキル ・注意したい表現や留意点 ・誤字脱字、誤表現を訂正 課題：当日の授業スケジュールを含め実習日誌に記載し次回提出する。	レポート例をグループディスカッションにて適切な言葉を用いた文章に修正し仕上げる。	予習：実習に用いる用語を調べる 60分 復習：実習日誌を参考にレポートの書き方を復習 60分
第5回	関谷果林	・敬語の種類及び活用方法 ・礼状のマナーおよび書き方	目上の方への礼状を検討し、実際に書き上げ、投函する。	予習：敬語に関する基礎的知識を調べ、礼状の下書きをする 90分 復習：礼状を仕上げ、投函する 60分
第6回	神戸美恵子	給食経営管理論復習① ・栄養・食事管理 ・品質管理	講義内容についてグループディスカッションを行い、課題発見につなげる。	予習：2年次に学習した給食経営管理論（栄養・食事管理、品質管理）の復習を行う 30分 復習：授業内容の復習を行う 30分
第7回	神戸美恵子	給食経営管理論復習② ・財務管理、食材管理、生産（調理） ・提供管理 ・安全・衛生管理 ・施設設備管理	講義内容についてグループディスカッションを行い、課題発見につなげる。	予習：2年次に学習した給食経営管理論（財務管理、食材管理、生産（調理）・提供管理）の復習を行う 30分 復習：授業内容の復習を行う 30分
第8回	神戸美恵	給食施設の概要と管理栄養士の役割① ・学校 ・事業所 ・自己研究課題設定①	学校、事業所の管理栄養士の役割の特徴についてグループディスカッションを行い、課題発見につなげる。	予習：学校給食、事業所給食に関する法規の確認をする 30分 復習：授業内容の復習

	子			を行う 30分
第9回	増野弥生	給食施設の概要と管理栄養士の役割② ・福祉施設 ・自己研究課題設定②	高齢者施設の管理栄養士の役割と業務、給食の概要、高齢者の特徴についてグループワークを行い、課題発見につなげる。	予習：福祉施設給食に関する法規の確認をする 60分 復習：授業内容の復習を行う 30分
第10回	神戸美恵子増野弥生	自己研究課題解決の取組の検討① ・自己研究課題設定の明確化 ・研究方法・内容の計画 課題：自己研究課題計画書（計画用）	自己研究課題計画書にそって、課題設定の理由、研究方法・内容についてまとめる。	予習：自己研究課題に決定したい内容を挙げておく 30分 復習：自己研究課題計画書（計画用）を仕上げる 30分
第11回	神戸美恵子増野弥生	実習に向けた準備と確認 ・事前訪問の連絡 ・事前訪問（オリエンテーション） 課題：事前訪問（オリエンテーション）の記録	実習施設グループで、事前訪問の詳細について計画する。	予習：第3回、第5回の内容を復習しておく 30分 復習：事前訪問（オリエンテーション）の記録を仕上げる、添削された自己研究課題計画書（計画用）を修正する 60分
第12回	神戸美恵子増野弥生	自己研究課題解決の取組の検討② ・自己研究課題テーマ・研究内容の共有化 ・自己研究課題の研究方法・研究内容の整理 課題：自己研究課題計画書（提出用）	実習施設グループで、自己研究課題テーマ・研究内容の発表を行い、アドバイスを行う。	予習：自己研究課題テーマ・研究内容を説明できるようにする 30分 復習：自己研究課題計画（提出用）を仕上げる 30分
第13回	増野弥生神戸美恵子	実習ノートの概要 ・実習ノートの書き方、まとめ方	実習ノートの内容確認及び書き方、要点のまとめ方、記録方法を確認する。	予習：実習ノートの内容を確認する 30分 復習： 施設概要など実習ノートにまとめる 30分
第14回	増野弥生神戸美恵子	給食経営管理実習II（臨地実習）に向けた確認①	実習施設ごとに、実習内容、施設課題、所持品等の確認をする。	予習：実習ノートを参考に給食経営管理実習II（臨地実習）内容を確認する 30分 復習：実習ノートの整理 30分
	神戸美	給食経営管理実		予習：自己研究課題に

第15回	恵子 増野弥生	習II（臨地実習）に向けた確認② ・自己研究課題の研究方法・研究内容の進め方	自己研究課題について、実習前に必要な準備、資料・文献検索を行う。	必要な資料を収集しておく 30分 復習：自己研究課題に必要な資料を整理する 30分
第16回	増野弥生	・実習終了の報告・確認 ・お礼状作成	実習施設ごとにお礼状を作成、清書する。	予習：お礼状の下書きをする 60分 復習：実習ノートを整理する 60分
第17回	神戸美恵子 増野弥生	給食経営管理論実習IIのまとめ ・自己研究課題 ・実習ノート	自己研究課題、実習ノートを整理する。	予習：実習メモを整理する 30分 復習：実習ノートを仕上げる 60分
第18回	神戸美恵子 増野弥生	実習報告会発表準備 ・資料及び原稿の作成	実習報告会に向けて、施設の概要及び実習内容、各自の研究課題をﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄにまとめる。	予習：実習報告に使用する内容を整理する 30分 復習：実習報告資料・原稿を仕上げる 30分
第19回	橘陽子 宮原公子	公衆栄養学実習II（臨地実習）報告会の聴講	発表内容についての情報を整理し、質疑応答を行う。	予習：居住地及び出身地の保健所・保健センターの名称及び役割について調べる 60分 復習：報告会で得た知識とこれまでの知識を統合し、地域保健の場での管理栄養士活動について理解を深める 60分
第20回	橘陽子 宮原公子	公衆栄養学実習II（臨地実習）報告会のまとめ	報告会での学びについてディスカッションし、選択希望について検討する。	予習：保健所・保健センターでの管理栄養士の役割について調べる 60分 復習：ディスカッションの内容を整理し、今後の学習の方向性を定める 60分
	島田	臨床臨地実習の目的及び目標と心構え ・感染対策管理及びワクチン接種スケジュールの立案と書類の確認（ワクチン接種済、予定、母子手帳の整理、インフルエンザワクチンの予定）		予習：第１～5回で学んだ内容を復習する 30分 復習：守秘義務、接

第21回	美樹子	医療施設の仕組みについての復習 ・施設の概要 ・組織図 ・栄養部門の役割 ・チーム医療 ・認定資格 課題：実習先の施設概要を仕上げ次回提出する	施設概要をまとめグループディスカッションをする。	遇、感染抗体価についての復習と医療施設の仕組みを復習し、施設概要を仕上げる 60分
第22回	島田美樹子	栄養管理計画についての復習 ・栄養スクリーニング ・栄養アセスメント ・栄養補給法（経口・経腸・経静脈） ・治療食について（疾患別、成分栄養別） 課題：治療食の種別と特徴をまとめる	治療食についてグループディスカッションを行い、ワークシートを仕上げる。	予習：栄養管理や栄養補給について復習しておく 30分 復習：治療食についてのレポートを理解してまとめ上げる 60分
第23回	島田美樹子	自己課題の設定① ・復習内容を踏まえ、自己課題を設定する 事前訪問の準備① ・グループ内で日程を調整する ・連絡方法 課題：自己課題の必要箇所のみ記入し提出する	グループ内で多くのことが学べるようにディスカッションし、自己課題の設定や内容を深めるように協同する。	予習：自己課題のテーマをいくつか候補を挙げて必要と思われる詳細な情報をまとめておく 60分 復習：ディスカッションの内容を基に自己課題のテーマを決め、概要を仕上げる 60分
第24回	島田美樹子	栄養教育・指導、栄養ケア記録についての復習 ・栄養ケアとPOS ・SOAP記載 診療報酬 ・栄養部門の関わる診療報酬や体制について 自己課題の設定② ・提出した課題を修正をする	SOAP記載をペアワークにて実施しレポートに書き上げる	予習：SOAP記載を復習しておく 30分 復習：自己課題の修正 60分
第25回	島田美樹子	事前準備① ・事前挨拶①の日程調整の連絡 ・事前挨拶①の報告書作成（終了した施設） ・自己課題の修正 ・事前報告の施設別発表 ・書類作成（個人票など） ・実習の手引きを概説	電話のかけ方をロールプレイングする。事前挨拶の報告書を用いて発表し、聴講し要点をまとめることで他施設の事例を知り、情報共有をする。	予習：報告書作成のために事前訪問の内容を個々にまとめる 60分 復習：発表後の指摘事項を改善し仕上げる 60分
		事前準備② ・事前挨拶①の日程調		

第26回	島田美樹子	整の連絡 ・事前挨拶①の報告書作成（終了した施設） ・ワクチンスケジュールの確認 施設課題の準備① ・施設課題 ・献立展開 自己課題の仕上げ ・自己課題は添付資料とともにそろえて事前部分を完成させる	施設課題のために必要な事項をグループワークし、施設から求められていることを正しく共通理解し、学びを深めより良いものができるように協同作業をする。	予習：施設課題をするために必要な事項をを個々にまとめる 60分 復習：施設課題のために不足していた情報を収集し、発展させる 60分
第27回	島田美樹子	事前準備③ ・実習の手引きの記録説明（事前部分） 施設課題の準備② ・施設課題の修正 ・内容を詳細にまとめ整理する ワクチンスケジュールの確認 課題：施設課題や献立作成を仕上げて次回提出する		予習：手引きを読む 30分 復習：施設課題や献立を仕上げる 60分
第28回	島田美樹子	事前準備④ ・提出書類（誓約書、交通手段、感染報告書、個人票、健康診断書、課題等）の管理 ・ワクチンスケジュールの確認（書類の仕上げ） 事前挨拶②の準備 ・日程調整 ・報告書	感染対策についてグループワークし、リスクマネジメントをする。	予習：感染に関する自己結果シックデイの対応を学ぶ 30分 復習：実習日程までのワクチン接種スケジュールを組み直し調整する、体調不良時の対応を想定し実行できるようにする、テストメール実施 60分
第29回	島田美樹子	・事前挨拶②の報告書作成 ・自己課題と施設課題、献立作成 ・事前報告の施設別発表	事前挨拶の報告書を用い、発表内容を傾聴し要点をまとめることで、他施設の事例から学ぶ。	予習：課題や献立作成に必要な分野を予習する 60分 復習：授業で指導された不足していた内容を検討する 60分
第30回	島田美樹子	・マナー、敬語、守秘義務、身だしなみ ・体調不良時の対応 ・実習ノートの書き方 ・実習準備（検便検査、感染報告、衛生管理） ・物品の確認 ・事後報告のための準備	実習先によって指示されたことが理解して取り組めているかグループワークにて確認し、不足があれば改善する。	予習：実習ノートや物品、備品の確認 60分 復習：実習内容の復習と事後のための準備 60分

教科書

給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の専門教科の教科書。
各臨地実習の手引き及び臨地実習ノート。

参考書
給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の専門実習教科の教科書。管理栄養士・栄養士必携等。
成績評価の方法・基準
単位認定試験60点以上。給食経営管理論・給食の運営、臨床栄養学、公衆栄養学分野の課題とレポートの提出を80%、平常点（授業参加度・貢献度）20%として総合的に判断する。
課題等に対する フィードバックの方法
レポート（ワークシート）は確認後、返却するので各臨地実習記録に綴じ、臨地実習で活用する。
履修のポイント
到達目標を達成するよう努力をして、遅刻・欠席をしない。 臨地実習の意義や目的を理解し、課題発見力と問題解決能力を身に付る。 大学での学びと各臨地における学習内容を統合し、管理栄養士として専門的な知識や技術を修得する。
オフィス・アワー
宮原 神戸 月曜日～金曜日 昼休み 研究室15 増野 月曜日～金曜日 昼休み 研究室18 島田 火曜日～木曜日 昼休み 研究室17 橘 月曜日～金曜日 昼休み 栄養教育準備室 関谷 月曜日～金曜日 昼休み 給食経営管理準備室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R350

講義コード	20890001
講義名	管理栄養士総合演習II
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	２時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践栄養活動を行った経歴を有する教員が、応用力・実践力を習得できるように演習を進める。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	増野 弥生	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

本演習は、これまで学習してきた基礎専門および専門科目での学びを統合し、管理栄養士としての高度な専門的な知識や技術を向上させるための基礎力を高める学習を進めていく。学生自ら、問題発見能力と問題解決能力を伸ばし、今、社会が求める管理栄養士として必要なスキルを身に付けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、管理栄養士の実践活動の場での課題発見、解決を通して、多様な社会ニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得する。そのために、基礎専門科目および専門科目を横断した学習をすることで、応用力・実践力を養う。

到達目標

１．管理栄養士に求められるスキルである「栄養教育能力」、「マネジメント能力」および「コミュニケーション能力」を演習をとおして実践的に習得する。
２．基礎専門科目で習得した知識を基に、専門実践科目である「臨床栄養学」「公衆栄養学」および「給食経営管理論」につなげることができる。
３．専門科目を横断して得た知識・技術を統合し、総合的な応用力を習得する。
４．栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行うために、基礎専門分野および専門分野を横断して総合力を養い、実践活動の場で生かすことができる。
５．管理栄養士に必要なスキルの習得方法として、プレゼンテーションをとおして、課題発見・問題解決力を身に付ける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	宮原公子島田美樹子橘陽子神戸美恵子	○オリエンテーション：授業概要の説明 （内容・到達目標・授業の進め方等） ○21世紀を担う高度な管理栄養士の役割と必要なスキル：栄養教育能力、マネジメン能力、コミュニケーション能力 ○実践分野における管理栄養士に求められるスキル：実践科目における具体的に求められるスキルとその実際	講和：管理栄養士の実践活動の場で求められるスキルの実際の講和から、課題発見・解決のためのディスカッションを行う。	予習：管理栄養士の求められるスキルを予習する 15分 復習：実践分野における具体的なスキルを復習し、学習ノートにまとめる。 30分
第2回	宮原公子島田美樹子	〇基礎専門分野の学びを専門分野に生かす：影山晴秋教授 人体の構造と機能および疾病の成り立ち （解剖生理学分野） ・解剖生理学で修得した知識の整理と他の器官系や疾病との関連づける	グループワークによるディスカッションとプレゼンテーションを実施：日常の生理的現象をディスカッションすることで、知識の定着を図る。	予習：実習で使ったときのプリントを再確認する。10分 復習：他のグループのプレゼンテーションについて、教科書を見直し、再確認する。35分
第3回	宮原公子橘陽子	〇専門分野の学びを専門実践科目に生かす：榮 昭博教授 基礎栄養学の知識を実践専門科目の理解につなげる。具体的には、食品成分と生体内で合成される栄養素の関係および栄養アセスメントの視点から、血液成分と疾病の関係を学ぶ。	事前配布プリント内容について学生より説明し、これに対して、教員および学生より質疑応答を行い、学習内容の理解を深める。	予習：事前配布のプリントを読み理解すること。30分以上 復習：左記の内容について講義ノートを作成すること。15分以上
第4回	増野弥生	○専門分野における「応用栄養学」の学びを専門実践分野に生かす：知識と技術 ・ライフステージ別（特に妊娠期・授乳期、乳幼児期、高齢期）、の栄養アセスメント ・栄養アセスメントの手法、考慮が必要なポイントの共有	小グループでのプレゼンテーション実施： ・ケーススタディをとおして、課題発見、問題解決を図る。 ・応用栄養学分野における応用力を共有する。	予習：栄養アセスメント、マネジメントの流れを予習しておく。15分 復習：ライフステージ別の復習し、自己課題を設定する。30分
第5回	増野弥生	○専門分野における「応用栄養学」の学びを専門実践分野に生かす：課題発見・問題解決 ・ライフステージ別にみた食に関する課題発見・問題解決 ・日本人の食事摂取基準（2020年版）の理解 ・特殊環境別の栄養アセスメントについての手法 ・プレゼンテーションをとおし	小グループでのプレゼンテーション実施： ・ケーススタディをとおして、課題発見、問題解決を図る。 ・応用栄養学分野における応用力を共有する。	予習：ライフステージ別栄養マネージメント、アセスメントのポイントを予習しておく。15分 復習：特殊環境別の自己課題を設定

		た応用栄養学分野の知識と技能の共有		する。30分
第6回	宮原公子齋藤陽子	○専門分野における「栄養教育論」の学びを専門実践分野に生かす（1）：課題発見のために必要な知識と技術 ・栄養教育マネジメント、栄養アセスメント、PDCAサイクル ・行動科学の理論・モデル・概念：個人および集団に用いる手法 ・栄養教育計画と評価	○Web上に公開されている二次データをアセスメントとして用い、健康課題を出し合う。	予習：栄養アセスメントに基づく、マネジメントの流れを予習しておく。15分 復習：個人・集団に応じた行動科学の理論・モデルを復習し、自己課題を設定する。45分
第7回	齋藤陽子宮原公子	○専門分野における「栄養教育論」の学びを専門実践分野に生かす（2）：課題解決、応用力への展開 ・栄養教育論における課題発見・問題解決 ・プレゼンテーションをとおした栄養教育分野の知識と技能の共有	○小グループでのプレゼンテーション実施： ・ディスカッションをとおして、課題発見、問題解決を図る。 ・栄養教育分野における応用力を共有する。	予習：自己の課題発見・問題解決の流れをプレゼンできるようにしておく。45分 復習：プレゼンテーションやディスカッションで得た学びを課題解決としてまとめる。15分
第8回	島田美樹子	○専門分野における「臨床栄養学」の学びを専門実践分野に定着させる（1）：課題発見に必要な知識の復習 ・栄養ケアプロセス ・栄養スクリーニング、アセスメント ・栄養状態の判定	○小グループでのプレゼンテーション実施： ・ケーススタディをとおして、課題を発見し、問題解決に向けて必要な知識を共有しまとめる。	予習：栄養ケアプロセスの手法、栄養管理計画について、疾患ごとに教科書等で復習する。30分 復習：症例について検討し、プレゼンテーションに備える。90分
第9回	島田美樹子	○専門分野における「臨床栄養学」の学びを専門実践分野に定着させる（2）：課題解決 ・症例における課題発見・問題解決 ・プレゼンテーションをとおした臨床栄養学分野の知識と技能の共有	○小グループでのプレゼンテーション実施： ・ディスカッションをとおして、課題発見、問題解決を図る。 ・臨床栄養学分野における応用力を共有する。	予習：自己の課題発見・問題解決の流れをプレゼンできるようにしておく。60分 復習：プレゼンテーションやディスカッションで得た学びを課題解決としてまとめる。30分
第10回	橘陽子	○専門分野における「公衆栄養学」の学びを専門実践分野に定着させる（1）：課題解決に必要な知識の復習 ・栄養疫学 ・公衆栄養マネジメント	○小グループでのプ事例検討： ・事例における課題を発見し、問題解決に向けて必要な知識を共有しまとめる。	予習：栄養疫学の手法、公衆栄養マネジメントの流れについて、教科書等で確認する。60分 復習：事例内容について検討し、プレゼンテーション

				に備える。90分
第11回	橘陽子	○専門分野における「公衆栄養学」の学びを専門実践分野に定着させる（２）：課題解決 ・事例における課題発見・問題解決 ・プレゼンテーションをとおした公衆栄養学分野の知識と技能の共有	○小グループでのプレゼンテーション実施： ・ディスカッションをとおして、課題発見、問題解決を図る。 ・公衆栄養学分野における応用力を共有する。	予習：自己の課題発見・問題解決の流れをプレゼンできるようにしておく。60分 復習：プレゼンテーションやディスカッションで得た学びを課題解決としてまとめる。30分
第12回	神戸美恵子	○専門分野における「給食経営管理論」の学びを専門実践分野に定着させる（１）： ・栄養・食事管理、品質管理、安全・衛生管理、施設・設備管理 ・臨地実習で発見した課題を出し合い、各管理項目１テーマの抽出とその解決策	○学習した内容に関する臨地実習時に発見した課題を出し合う。	予習：栄養・食事管理、品質管理、安全・衛生管理、施設・設備管理について教科書を復習しておく。30分 復習：4つのテーマについて、これまでに学んだ知識を統合し、解決策をまとめる。45分
第13回	神戸美恵子	○専門分野における「給食経営管理論」の学びを専門実践分野に定着させる（２）： ・栄養・食事管理、品質管理、安全・衛生管理、施設・設備管理に関する課題に対する解決策 ・プレゼンテーションをとおした給食経営管理分野の知識と技能の共有	○グループで、課題に対する解決策を発表し、ディスカッションする。 ○グループでの意見をまとめ、全体で発表しあい、給食経営管理分野における応用力を共有する。	予習：問題解決策について発表できるようにしておく。30分 復習：ディスカッションで得た学びをまとめる。30分
第14回	宮原公子島田美樹子橘陽子神戸美恵子	○専門実践分野の知識・技能の統合（１）： ・専門5分野で習得した知識と技術を栄養管理の実践場面において理論と実践を結びつける ・管理栄養士の知識・技術を統合した総合力・応用力の習得	○応用力・総合力の習得度確認のための実践演習を行う。 ○プレゼンテーションを実施し、実践力を養う。 ○演習課題に対して、適切なアドバイスを各教員が行う。	予習：管理栄養士の実践活動の場で求められる能力を予習する。45分 復習：管理栄養士が果たすべき多様な専門領域における知識・技能をまとめる。15分
	宮原公子島田	○専門実践分野の知識・技能の	○応用力・総合力の習得	予習：管理栄養士が果たすべき多様な専門領域におけ

第15回	美樹子 橘陽子 神戸美恵子	統合（2）： ・専門5分野で習得した知識と技術を栄養管理の実践場面において理論と実践を結びつける ・管理栄養士の知識・技術を統合した総合力・応用力の習得	度確認のための実践演習を行う。 〇プレゼンテーションを実施し、実践力を養う。 〇演習課題に対して、適切なアドバイスを各教員が行う。	る知識・技能を予習する。45分 復習：21世紀を担う高度な管理栄養士に必要な能力を実践現場で生かせるようにまとめる。15分

教科書

「管理栄養士総合演習学習ノート」 桐生大学作成（2020版）

参考書

○解剖生理学、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学および給食経営管理論の各授業で使用した教科書
○クエスチョンバンク「管理栄養士」国家試験問題解説 （2020版）メディック・メディア

成績評価の方法・基準

単位認定は、60点以上とする。定期試験80%、課題やレポートの提出および平常点（授業参加度・貢献度）20%として評価する。前期開講科目であるが、後期に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業は能動的学習を取り入れるので、積極的に参加してもらいたい。また、教員作成による学習ノートを活用し、確実に基礎から専門さらに応用を繋ぐ学習になるよう取り組んで欲しい。授業終了時に授業の要点をまとめるので、確認・課題・予習を行い、管理栄養士として実践活動の場で応用力・実践力が発揮できるような学びのまとめとなるようにしていただきたい。授業概要コメント欄によりフィードバックする。

履修のポイント

管理栄養士養成課程の4年間の学びの集大成として位置づける意義を理解する。そのために、基礎専門・専門・専門実践科目を横断し、応用力・実践力が習得できるように、自己努力をする姿勢で臨み知識と技術を統合することがポイントとなる。

オフィス・アワー

宮原 火曜日～金曜日昼休み 研究室19
神戸 月曜日～金曜日昼休み 研究室15
増野 月・火・水・金 昼休み 研究室18
島田 火曜日～木曜日 昼休み 研究室12
橘 月曜日 昼休み 栄養教育準備室
齋藤 月曜日～金曜日昼休み 研究室6

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R370

講義コード	20900001
講義名	給食経営管理論実習II（臨地実習）
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	５時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	小中学校・学校給食センター及び教育委員会における給食経営管理の指導・実践に基づき指導する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし
教員	増野 弥生	指定なし
教員	野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

給食現場での管理栄養士の実践力を身につけるために、給食経営管理論I・II、給食経営管理論実習I、管理栄養士総合演習Iおよび関連科目で学んだ基本的な知識や技術をもとに、給食施設において対象者のニーズや施設の条件に適した給食経営管理について、実習先にて、到達目標達成に向けて10日間（90時間）実習を行う。
給食運営や関連する資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を身につける。また、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、本実習を通して、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得するとともに、これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

１．施設の特徴や管理栄養士業務について説明できる。
２．栄養・食事・食材管理（献立作成）について説明できる。
３．安全で衛生的に食事を提供することができる。
４．施設の特徴に応じた給食全般のマネジメントについて説明できる。
５．実践活動の場での課題解決に取り組むことができる。
６．多（他）職種との連携について説明できる。

授業計画

	担当	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な

	者			時間
第1回	神戸美恵子増野弥生野沢弘子	事前指導(1) ・衛生管理の確認（大量調理施設衛生管理マニュアル）		予習30分：大量調理施設衛生管理マニュアルを熟読する 復習60分：大量調理施設衛生管理マニュアルについて理解を深める
第2回	神戸美恵子増野弥生野沢弘子	事前指導(2) ・実習内容の確認（給食施設における管理栄養士の役割、実習施設の特徴・給食の内容等）	実習施設ごとのグループで、給食施設における管理栄養士の役割、実習施設の特徴・給食の内容等について確認し、共通理解する。	予習30分：実習施設、事前訪問（オリエンテーション）の内容を確認する 復習60分：確認した内容を整理する
第3回	神戸美恵子増野弥生野沢弘子	事前指導(3) ・自己研究課題の確認 ・実習に向けた最終確認	実習施設ごとのグループで、自己研究課題について説明しあい、実習に向けた最終確認を行う。	予習30分：自己研究課題について説明できるようにしておく 復習60分：確認した内容を整理する
第4回	神戸美恵子増野弥生野沢弘子	実習先管理栄養士の指導を受ける(1) ・実習施設の概要、施設の特性、給食の目標、目的 ・実習施設における給食業務の法的根拠 ・実習施設における管理栄養士の役割	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	予習30分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習60分：実習内容を整理する
	神戸			

第5回	美恵子増野弥生野沢弘子	実習先管理栄養士の指導を受ける(2) ・栄養・食事計画と評価 ・献立作成 ・栄養教育	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	予習30分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習60分：実習内容を整理する
第6回	神戸美恵子増野弥生野沢弘子	実習先管理栄養士の指導を受ける(3) ・食材の計画と管理 ・会計・原価管理と評価	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	予習30分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習60分：実習内容を整理する
第7回	神戸美恵子増野弥生野沢弘子	実習先管理栄養士の指導を受ける(4) ・生産（調理）の計画と実際 ・提供の計画と実際	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	予習30分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習60分：実習内容を整理する
第8回	神戸美恵子増野弥生増野弥生	実習先管理栄養士の指導を受ける(5) ・マニュアルに基づく安全・衛生管理の実際 ・事故対策・災害対策	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	予習30分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習60分：実習内容を整理する
	神戸美恵子増	実習先管理栄養士の指		予習30分：実習内容を確認し、これ

第9回	野弥生野沢弘子	導を受ける(6) ・実習施設の給食経営とマネジメント	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	までに学習した内容の復習を行う 復習60分：実習内容を整理する
第10回	神戸美恵子増野弥生野沢弘子	実習先管理栄養士の指導を受ける(7) ・給食の組織、人事管理と労務管理	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	予習30分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習60分：実習内容を整理する
第11回	神戸美恵子増野弥生野沢弘子	実習先管理栄養士の指導を受ける(8) ・調理施設・設備・機器の整備と保全管理	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	予習30分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習60分：実習内容を整理する
第12回	神戸美恵子増野弥生	実習先管理栄養士の指導を受ける(9) ・多（他）職種との連携	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	予習30分：実習内容を確認し、これまでに学習した内容の復習を行う 復習60分：実習内容を整理する
第13回	神戸美恵子増野弥生野沢弘子	実習先管理栄養士の指導を受ける(10) ・課題解決に向けた調査研究	実習施設において管理栄養士業務を体験する。	予習30分：課題について、実習中にいただいた指導や気づき等を整理する 復習60分：調査研究内容をまとめる

第14回	神戸美恵子 増野弥生	事後指導 ・実習ノートの整理 ・自己研究課題のまとめ ・報告会準備	グループごとに、発表会の準備を行う。	予習30分：実習ノート、自己研究課題を整理する 復習60分：実習ノート、自己研究課題を仕上げる
第15回	神戸美恵子 増野弥生 野沢弘子	実習のまとめと報告	施設ごとにプレゼンテーションを行う。 各プレゼンテーションについて評価を行う。	予習60分：報告会に向けた準備をする 復習60分：報告会資料を参考に他施設について理解を深める。

教科書

給食経営管理論I・Ⅱで使用した教科書
実習の手引き 実習ノート

参考書

日本人の食事摂取基準 日本標準食品成分表
給食のための基礎からの献立作成 はじめての大量調理
調理のためのベーシックデータ（第5版）
実習に関係する教科書や資料

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
実習施設の指導者の評価と実習記録及びプレゼンテーション、事前準備・事後報告等の内容を含めて総合評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題、実習ノートは、コメントを付して返却する。
実習報告会に向けて作成した資料は資料集として配布する。

履修のポイント

実習先にて10日間（1日9時間（1時間を45分として換算）、到達目標達成に向けて実習を行う。
そのため、関連科目を予習・復習および十分な準備を行うこと。
常に問題意識や課題を持って積極的に臨み、自ら考え、行動すること。
予習・復習の時間数：不足分については各自の学習で補完すること。

オフィス・アワー

神戸：月曜日～金曜日昼休み 11号館3F研究室15
増野：月曜日～金曜日昼休み 11号館3F研究室18
野沢：月曜日～金曜日昼休み 11号館2F調理準備室
質問はメールでも受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R351

講義コード	20910001
講義名	臨床栄養学実習III（臨地実習）H30入学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療現場での管理栄養士の実践力を身に付けるために、臨床栄養学I・II・III・IV、臨床栄養学実習I・II、管理栄養士総合演習I及び関連科目で学んだ基本的な知識や技術を元に実習を行う。さらに、実践活動の場での課題発見、解決をとして、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行う力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関してこれまでの学びを基礎知識として、実践の場でさらに必要な知識や技術を修得することを目指す。チーム医療の重要性を理解し、多職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を養い、実践でも活躍できる人材の育成をする。

到達目標

１．実習施設における栄養マネジメントシステムを学び理解し説明できる。
２．医療機関における管理栄養士業務を、実践を通して医療機関の管理栄養士業務を学ぶ。
２．チーム医療における管理栄養士の役割について理解し、自らが選択した課題の解決を通して理解を深め、他者に説明できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実習の準備① ・施設概要をまとめる ・資格やチーム医療を調べる ・自己課題の確認	グループワークで病院の施設概要をまとめ発表する	予習：病院・福祉施設の概要とその施設 の特徴について理解する。 30分 復習：施設概要をまとめる。 60分

第2回	実習の準備② ・自己課題と施設課題の確認 ・事前指導の内容を確認する	グループワークで自己課題と施設課題をまとめる	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第3回	事前学習③ ・直前指導（細菌検査結果や書類の確認） ・備品や課題の確認 ・初日の流れと緊急対応マニュアル、SNSの利用ガイドラインの確認	緊急対応やSNSの利用、接遇などをグループディスカッションで共通理解する。	予習：実習先からの事前指導内容について確認する。30分 復習：事前体調管理票の記録をする。実習日程、学修内容、反省まとめなど実習ノートを熟読する。 60分
第4回	実習先の指導を受ける① ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際 ・	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第5回	実習先の指導を受ける② ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第6回	実習先の指導を受ける③ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分

	・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際		
第7回	実習先の指導を受ける④ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第8回	実習先の指導を受ける⑤ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第9回	実習先の指導を受ける⑥ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第10回	実習先の指導を受ける⑦ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分

	・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際		
第11回	実習先の指導を受ける⑧ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第12回	実習先の指導を受ける⑨ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第13回	実習先の指導を受ける⑩ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第14回	実習の事後指導① ・実習ノートの仕上げ ・自己課題の解決 ・施設課題の解決 ・報告会の準備	実習施設で学んだことや自己課題や施設課題の解決を報告するために、グループディスカッションをし、報告会の内容をまとめる。	予習：報告会に向けて、実習ノートを仕上げる。40分 復習：報告会のシナリオを仕上げる。50分

第15回	実習の事後指導② ・実習ノートの仕上げと提出 ・自己課題の解決 ・施設課題の解決 ・報告会の準備	実習施設で学んだことや自己課題や施設課題の解決を報告するために、グループディスカッションをし、報告会の資料を仕上げる。	予習：報告会に向けて、時間内に報告ができるように準備する。30分 復習：実習全体を振り返り、ノートと報告会の資料を仕上げ指定日に提出できるようにする。60分

教科書

臨地実習の手引き、臨地実習ノート
臨床栄養学の教科書と臨床栄養学実習で使用したテキスト、栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表

参考書

日本標準食品成分表

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
事前指導への参加度10%、臨地実習施設での実習修得80%、実習ノート提出と報告会への参加10%

課題等に対する
フィードバックの方法

実習の手引きとノートを配布するので熟読すること。実習施設の特徴、診療科目、栄養管理、栄養指導について課題を出すが返却するため、その後の学修のために必ず確認し理解を深めておく。

履修のポイント

医療の現場での実習が充実した実習となるよう、積極的に発言をし、コミュニケーションをとり協同する努力をすること。傷病者の病態や栄養状態に基づいた適正な栄養管理をするために、事前事後指導も主体的に取り組むこと。

オフィス・アワー

島田 火・木 昼休み

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R360

講義コード	20910002
講義名	臨床栄養学実習III（臨地実習）H29入学
(副題)	【管理栄養士必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

医療現場での管理栄養士の実践力を身に付けるために、臨床栄養学I・II・III・IV、臨床栄養学実習I・II、管理栄養士総合演習I及び関連科目で学んだ基本的な知識や技術を元に実習を行う。さらに、実践活動の場での課題発見、解決をとして、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行う力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人体の構造ならびに疾病の成り立ちを理解し、多様な対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養の分野に関してこれまでの学びを基礎知識として、実践の場でさらに必要な知識や技術を修得することを目指す。チーム医療の重要性を理解し、多職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を養い、実践でも活躍できる人材の育成をする。

到達目標

１．実習施設における栄養マネジメントシステムを学び理解し説明できる。
２．医療機関における管理栄養士業務を、実践を通して医療機関の管理栄養士業務を学ぶ。
２．チーム医療における管理栄養士の役割について理解し、自らが選択した課題の解決を通して理解を深め、他者に説明できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実習の準備① ・施設概要をまとめる ・資格やチーム医療を調べる ・自己課題の確認	グループワークで病院の施設概要をまとめ発表する	予習：病院・福祉施設の概要とその施設 の特徴について理解する。 30分 復習：施設概要をまとめる。 60分

第2回	実習の準備② ・自己課題と施設課題の確認 ・事前指導の内容を確認する	グループワークで自己課題と施設課題をまとめる	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第3回	事前学習③ ・直前指導（細菌検査結果や書類の確認） ・備品や課題の確認 ・初日の流れと緊急対応マニュアル、SNSの利用ガイドラインの確認	緊急対応やSNSの利用、接遇などをグループディスカッションで共通理解する。	予習：実習先からの事前指導内容について確認する。30分 復習：事前体調管理票の記録をする。実習日程、学修内容、反省まとめなど実習ノートを熟読する。 60分
第4回	実習先の指導を受ける① ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際 ・	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第5回	実習先の指導を受ける② ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第6回	実習先の指導を受ける③ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分

	・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際		
第7回	実習先の指導を受ける④ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第8回	実習先の指導を受ける⑤ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第9回	実習先の指導を受ける⑥ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第10回	実習先の指導を受ける⑦ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分

	・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際		
第11回	実習先の指導を受ける⑧ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第12回	実習先の指導を受ける⑨ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第13回	実習先の指導を受ける⑩ ・施設概要と特徴 ・栄養部門の機能と役割 ・栄養管理システムの実際 ・臨床調理の実際 ・栄養指導の実際 ・チーム医療の実際	実習施設の業務内容と指導方針に従って実施する。	予習：翌日に行う実習内容について復習する。30分 復習：実習日程、学修内容、反省まとめなどを実習ノート、実習日誌にまとめる。 60分
第14回	実習の事後指導① ・実習ノートの仕上げ ・自己課題の解決 ・施設課題の解決 ・報告会の準備	実習施設で学んだことや自己課題や施設課題の解決を報告するために、グループディスカッションをし、報告会の内容をまとめる。	予習：報告会に向けて、実習ノートを仕上げる。40分 復習：報告会のシナリオを仕上げる。50分

第15回	実習の事後指導② ・実習ノートの仕上げと提出 ・自己課題の解決 ・施設課題の解決 ・報告会の準備	実習施設で学んだことや自己課題や施設課題の解決を報告するために、グループディスカッションをし、報告会の資料を仕上げる。	予習：報告会に向けて、時間内に報告ができるように準備する。30分 復習：実習全体を振り返り、ノートと報告会の資料を仕上げ指定日に提出できるようにする。60分

教科書

臨地実習の手引き、臨地実習ノート
臨床栄養学の教科書と臨床栄養学実習で使用したテキスト、栄養食事療法必携 糖尿病食品交換表 腎臓病食品交換表

参考書

日本標準食品成分表

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
事前指導への参加度10%、臨地実習施設での実習修得80%、実習ノート提出と報告会への参加10%

課題等に対する
フィードバックの方法

実習の手引きとノートを配布するので熟読すること。実習施設の特徴、診療科目、栄養管理、栄養指導について課題を出すが返却するため、その後の学修のために必ず確認し理解を深めておく。

履修のポイント

医療の現場での実習が充実した実習となるよう、積極的に発言をし、コミュニケーションをとり協同する努力をすること。傷病者の病態や栄養状態に基づいた適正な栄養管理をするために、事前事後指導も主体的に取り組むこと。

オフィス・アワー

島田 火・木 昼休み

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R360

講義コード	20920001
講義名	公衆栄養学実習II（臨地実習）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての県庁・保健所等での勤務経験に基づき、公衆栄養マネジメントについて具体的に教授する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

「公衆栄養学」分野の臨地実習においては、地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善に関する施策が法律および関連規則等に基づいてどのように実施されているかを理解する必要がある。本授業では、地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする行政栄養士の実際を学び、これらの技術の習得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、実践的な管理栄養士として活躍するため、また多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけるため、これまでの学習を統合･発展させることを目指し、地域保健の場を通してその目的達成に資する技術を養う。将来的な展望としては、地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養うことを目指すものとする。

到達目標

1.地方公共団体における法律に基づいた健康・栄養行政の様々な施策の実際について説明することができる。
2.保健師等の他職種との連携や組織内での管理栄養士の立場と役割について説明することができる。
3.住民への栄養・食生活の改善に関連する様々なサービス事業について説明することができる。
4.事業計画の立案・実施・評価に関するマネジメントサイクルについて理解し、シュミレーションすることができる。
5.「健康日本21（第2次）」「食育推進基本計画」等の国の施策が、地方公共団体でどのように計画、施策化、実践されているか説明することができる。
6.地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針を踏まえ、地方公共団体が行っている具体的な施策の基本指針での位置づけと必要性について説明することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橘陽子	1日目 実習施設の概要 実習施設における管理栄養士の役割 管理栄養士の業務内容 法的根拠	実習施設における管理栄養士の役割と業務内容についてまとめ、求められる資質について意見交換する。	予習60分：実習施設の概要等について再度確認する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第2回	橘陽子	1日目 実習内容の確認・準備	実習日程および課題を再度確認し、必要な学習・準備をする。	予習60分：実習日程について再度確認する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第3回	橘陽子	1日目 課題解決のための調査、方法の検討	施設課題及び自己課題解決に向けて、不明点等を洗い出し、施設の管理栄養士とディスカッションする。	予習60分：施設課題及び自己課題の解決に向け、これまでの学習内容を振り返る。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第4回	橘陽子	2日目 地域診断と健康増進計画、食育推進計画	地域診断の手法を調べ、地域の健康増進計画や食育推進計画にどのように活かされているかまとめ、ディスカッションする。	予習60分：実習施設地域における健康増進計画および食育推進計画について再度確認する。 復習6分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第5回	橘陽子	2日目 生活習慣病対策	実習施設管内における生活習慣病の現状とその対策について調べ、具体的な公衆栄養プログラムの例から施策のあり方と今後の課題についてディスカッションする。	予習60分：実習施設地域における生活習慣病対策について再度確認する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第6回	橘陽子	2日目 食育の推進	実習施設管内における食育推進の現状とその対策について調べ、具体的な公衆栄養プログラムの例から施策のあり方と今後の課題についてディスカッションする。	予習60分：実習施設地域における食育推進施策について再度確認する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
				予習60分：実習施設地域における高齢者の健

第7回	橘陽子	3日目 高齢者の健康対策	実習施設管内における高齢者の健康の現状とその対策について調べ、具体的な公衆栄養プログラムの例から施策のあり方と今後の課題についてディスカッションする。	康対策施策について再度確認する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第8回	橘陽子	3日目 人材育成	実習施設管内における栄養分野の人材育成の現状とその対策について調べ、具体的な公衆栄養プログラムの例から施策のあり方と今後の課題についてディスカッションする。	予習60分：実習施設地域における人材育成プログラムについて再度確認する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第9回	橘陽子	3日目 食環境整備	実習施設管内における食環境整備の現状とその対策について調べ、具体的な公衆栄養プログラムの例から施策のあり方と今後の課題についてディスカッションする。	予習60分：実習施設地域における食環境整備施策について再度確認する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第10回	橘陽子	4日目 多職種連携	実習施設管内における多職種連携の具体例を調べ、公衆栄養プログラムにおける多職種連携の必要性と今後の課題についてディスカッションする。	予習60分：実習施設に所属する職種とそれらの役割について再度確認する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第11回	橘陽子	4日目 健康危機管理	実習施設管内における健康危機管理の体制整備について調べ、有事及び平時の対策の在り方と今後の課題についてディスカッションする。	予習60分：実習施設地域における健康危機管理体制について再度確認する。 復60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第12回	橘陽子	4日目 施設課題および自己課題のまとめ	課題に関する情報を整理し、まとめ、発表に備える。また、不明点や新たな課題について施設の管理栄養士とディスカッションする。	予習60分：施設課題、自己課題について学習内容をまとめておく。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第13回	橘陽子	5日目 発表準備	発表資料を仕上げ、プレゼンテーションに向けて準備する。練習を踏まえ、改善する。	予習90分：発表用資料を作成する。 復習60分：アクティブラーニングの内容について復習し、理解を深める。
第14回	橘陽	5日目 施設課題および自	準備した資料に基づき発表する。また、質疑応答により学びを深め、共有する。	予習90分：発表に備え、練習する。 復習60分：アクティブラーニングの内容につ

	子	己課題の発表		いて復習し、理解を深める。
第15回	橘陽子	5日目まとめおよび評価	5日間の実習内容を総括し、得られた知識・技術について自己評価する。また、実習を経て明らかになった今後の課題についてディスカッションする。	予習60分：これまでの授業の振り返りを行う。 復習90分：意見交換により得た学びを整理し、将来に活かせるようにする。

教科書

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第6版：南江堂
公衆栄養学2018年版 地域・国・国際レベルでの栄養マネジメント 第5版：医歯薬出版株式会社

参考書

臨地実習に関する各種統計資料等（国民衛生の動向、各自治体の統計資料等）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
臨地実習の内容について臨地実習先施設からの評価も加味する。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内発表については、その都度コメントする。
実習ノートについては、提出後確認し、返却時にコメントする。

履修のポイント

事前学習として公衆衛生学・公衆栄養学の学習内容を復習して実習に臨むこと。
実習前の事前の準備も含めて授業に連続性がある。
また臨地実習のため遅刻・欠席は通常授業とは異なる。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日 昼休み 栄養教育準備室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-C371

講義コード	20930001
講義名	特別演習I
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし
教員	影山 晴秋	指定なし
教員	榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養学科専門基礎科目（特別演習）の選択科目である。特別演習Iは、「時代が求める管理栄養士としての質の確保」を目的とする。栄養士法改正に伴い、専門職種として今まで以上に保健･医療サービスの担い手として､医学を基調とした人間栄養学を実践できる人材としての管理栄養士が求められている。そこで管理栄養士としての基礎力を高めるために、特別演習Iでは、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「基礎栄養学」について、アクティブラーニングの手法を用いて、基礎知識の定着を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」にもとづいて、人体の構造と機能および疾病の成り立ちおよび基礎栄養学について、これまでに修学した知識を体系づけてアウトプットできるようにする。

到達目標

1. 「人体と構造と機能及び疾病の成り立ち」と「基礎栄養」の範囲で弱点を見つけ、解決できる。
2. 基礎科目のキーワードや仕組みについて、具体的に説明できる。
3. 生化学、基礎栄養学、解剖生理学および病理学を横断的に関係づけることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
				予習90分：配布プリン

第1回	小林葉子	アミノ酸・タンパク質・糖質・脂質・ヌクレオチドの物質の化学	予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	トの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリントで、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第2回	小林葉子	アミノ酸・タンパク質・糖質・脂質・ヌクレオチドの代謝	予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	予習90分：配布プリントの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリントで、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第3回	小林葉子	細胞・生体エネルギー・細胞内情報伝達	予習・復習によって、未解決の部分があった場合には、時間内で質問、議論を行い解決する。	予習90分：配布プリントの問題を解き、クエスチョンバンクを利用してキーワードを調べたノートを作る。 復習90分：授業で配布したプリントで、知識があいまいなところを再度確認し、正しい知識の定着を図る。
第4回	榮昭博	栄養の概念とその歴史、食行動、消化吸収、糖の栄養	左記の内容が記してある事前配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員で質疑応答を行う。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を基礎栄養学の教科書およびQBにてチェックを行い、正文誤文を整理する。
第5回	榮昭博	脂質の栄養、たんぱく質の栄養	左記の内容が記してある事前配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員で質疑応答を行う。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を基礎栄養学の教科書およびQBにてチェックを行い、正文誤文を整理する。
第6回	榮昭博	ビタミンの栄養、ミネラルの栄養	左記の内容が記してある事前配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員で質疑応答を行う。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を基礎栄養学の教科書およびQBにてチェックを行い、正文誤文を整理する。
第7回	榮昭博	水と電解質、遺伝と栄養、エネルギー代謝	左記の内容が記してある事前配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員で質疑応答を行	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を基礎栄養学の教科書およびQBにて

			う。	チェックを行い、正文誤文を整理する。
第8回	影山晴秋	消化器系の構造と機能およびその関連疾患	事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第9回	影山晴秋	呼吸器系の構造と機能およびその関連疾患	事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第10回	影山晴秋	筋系および循環器系の構造と機能およびその関連疾患	事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第11回	影山晴秋	泌尿器系の構造と機能およびその関連疾患	事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第12回	影山晴秋	内分泌系の構造と機能およびその関連疾患	事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第13回	影山晴秋	生殖系および免疫系の構造と機能およびその関連疾患	事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第14回	影山晴秋	神経系の構造と機能およびその関連疾患	事前に配布したプリントの問題について、学生各自が解説を行う。学生および教員からの質疑に答えてもらう。	予習90分：配布プリントの問題を解く。 復習90分：演習で行った内容を教科書をつかって、確認しながらまとめる。
第15回	小林葉子影山晴秋榮昭	人体と構造と機能、その疾病の成り立ち 及び 基礎栄養の内容について総合的に学習する。そして、総合的に学習の理解度を測る。	自らの学習の弱点を知り、今後の学習に反映させる。	予習90分：1回から14回までの内容を、配布プリントと個人でまとめたノートを使いながら、総まとめを行う 復習90分：まとめのプリントを使って、見直し、できていない箇所はもう一度調べ直す。

	博			

教科書

クエスチョンバンク2020 メディックメディア社

参考書

生化学：シンプル生化学 林典夫/廣野治子 南江堂
サイエンスビュー生物資料牛 木 辰男 (監修), 長野 敬 実教出版
エキスパート管理栄養士養成シリーズ 分子栄養学 金本 龍平 編 化学同人
基礎栄養学：Nブックス三訂基礎栄養学（建帛社）
解剖生理学：管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト（文光堂）

成績評価の方法・基準

人体の構造と機能、その疾病の成り立ち、基礎栄養学の範囲の総合的な理解度を測る試験で正解率が60%以上

課題等に対する
フィードバックの方法

授業時間内で、受講者に説明をする。必要な場合には、個別指導をおこなう。

履修のポイント

生化学：授業の前に自ら学習し、不明点を授業内で解決するようにする。各自ノートを作成し、必要事項を「覚える」。
基礎栄養学：国家試験過去問題について、基礎栄養学の教科書を読み正文誤文のまとめ、その内容をよく理解する。
解剖生理学：必ず教科書を読んでキーワードを学修すること。教科書やこれまでに作成してきた自作ノートを利用し、自分の学習スタイルを確立すること。人体を仕組みを全体的に捉えながら理解するために、演習内容は連続性があるので欠席はしないこと。

オフィス・アワー

小林：月～金 お昼休み（3限授業の場合は不可） 3限 11号館3階16研究室
影山：月～木 9:00-17:00 11号館3階第10研究室 または演習終了時、講義室で適宜対応。
榮：月～金 12:30～13:20（3限授業の場合は13:10まで）および校務が重複しない時間 11号館3階14研究室

科目区分

専門科目 選択

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-C372

講義コード	20940001
講義名	特別演習II
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院における臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士の役割、各疾病の対象者に合わせた病態別の臨床栄養管理について解説し、卒後の栄養管理業務にも対応した実践的な教育を実施する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし
教員	島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

これまでの学びで修得した専門知識と技術を関連付けて考え、管理栄養士としての業務を遂行できるよう、さらに専門かつ実践的能力を身につけることを目標とする。特別演習IIでは、「臨床栄養学」、「応用栄養学」について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

多様な対象や人間のライフステージ・ライフスタイルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る必要な知識や技術を習得することを目的とする。

到達目標

修得した専門知識を総復習し、管理栄養士養成課程修了の水準に達するための総合力を身につけることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	島田美樹子	オリエンテーション（授業の進め方、評価） 臨床栄養学 ・意義と目的 ・医療介護制度の基本 ・医療と臨床栄養 ・福祉・介護と臨床栄養	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 臨床栄養学にて使用したテキスト読み復習しておく 復習：60分 配布資料をグループワークの内容を踏まえてまとめる
	島田	臨床栄養学 傷病者・要介護者の栄養ケアマネジメント① ・栄養アセスメントの意義と方	ケーススタディによるグループワー	予習：30分 臨床栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく

第2回	美樹子	法 ・栄養ケアの目標設定と計画作成 ・栄養・食事療法と栄養補給法	クを行い、発表する	復習：60分 配布資料をグループワークの内容を踏まえてまとめる
第3回	島田美樹子	臨床栄養学 傷病者・要介護者の栄養ケアマネジメント② ・傷病者・要支援者・要介護者への栄養教育 ・モニタリングと再評価 ・薬と栄養・食事の相互作用 ・栄養ケアの記録	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 臨床栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料をグループワークの内容を踏まえてまとめる
第4回	島田美樹子	臨床栄養学 疾患・疾病別栄養ケア・マネジメント① ・栄養障害 ・肥満と代謝疾患 ・消化器疾患	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 臨床栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料をグループワークの内容を踏まえてまとめる
第5回	島田美樹子	臨床栄養学 疾患・疾病別栄養ケア・マネジメント② ・循環器疾患 ・腎・尿路疾患	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 臨床栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料をグループワークの内容を踏まえてまとめる
第6回	島田美樹子	臨床栄養学 疾患・疾病別栄養ケア・マネジメント③ ・内分泌疾患 ・神経疾患 ・摂食障害	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 臨床栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料をグループワークの内容を踏まえてまとめる
第7回	島田美樹子	臨床栄養学 疾患・疾病別栄養ケア・マネジメント④ ・呼吸器疾患 ・血液系疾患 ・筋・骨格疾患 ・免疫・アレルギー疾患	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 臨床栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料をグループワークの内容を踏まえてまとめる
第8回	島田美樹子	臨床栄養学 疾患・疾病別栄養ケア・マネジメント⑤ ・感染症疾患 ・癌疾患 ・手術、周術期患者 ・クリティカルケア ・摂食機能障害	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 臨床栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料をグループワークの内容を踏まえてまとめる
第9回	増野弥生	①栄養ケア・マネジメントの概念 ②ライフステージ別栄養管理 乳幼児 妊産婦・授乳婦 高齢者の特性	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 応用栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料及びグループワークの内容をまとめる
10	増野	①妊婦・授乳婦のための各期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄	ケーススタディによるグループワー	予習：30分 応用栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく

第　回	弥生	養ケア ③妊婦・授乳婦のための食生活指針・食事バランスガイド	クを行い、発表する	復習：60分 配布資料及びグループワークの内容をまとめる
第11回	増野弥生	①新生児・乳幼児期の生理的特徴 ②授乳・離乳の支援ガイド	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 応用栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料及びグループワークの内容をまとめる
第12回	増野弥生	①学童期・思春期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③神経性食欲不振症診断基準	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 応用栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料及びグループワークの内容をまとめる
第13回	増野弥生	①成人期・高齢期の生理的特徴 ②各期の栄養アセスメントと栄養ケア ③メタボリックシンドローム診断基準④更年期障害・日常生活動作（ADL）・老年症候群	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 応用栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料及びグループワークの内容をまとめる
第14回	増野弥生	①運動時の生理的特徴とエネルギー代謝 ②運動と栄養ケア ③運動指針アクティブガイド	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 応用栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料及びグループワークの内容をまとめる
第15回	増野弥生	①ストレスと栄養ケア ②特殊環境と栄養ケア ③災害時の栄養ケア	ケーススタディによるグループワークを行い、発表する	予習：30分 応用栄養学にて使用したテキストを読み復習しておく 復習：60分 配布資料及びグループワークの内容をまとめる

教科書

臨床栄養学分野、応用栄養学分野で使用した教科書
クエスチョンバンク

参考書

臨床栄養学：臨床栄養学、栄養食事療法必携、糖尿病食品交換表、腎臓病食品交換表
応用栄養学：応用栄養学分野で使用した教科書、 「日本人の食事摂取基準（2020年版）」

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
定期試験90％、授業への参加度10％

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題、小テストを実施することがある。返却するので、学習の参考にすること。また、授業の振り返りの資料とその解答を配布するので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

授業の前には予習をし、不明な点は授業で解決するよう努め、復習ではキーワードをまとめるなど最終的には各自でノートを完成させる。臨床栄養学、応用栄養学の総まとめとして理解を深め

るために積極的な態度で授業に取り組むことを期待する。

オフィス・アワー

増野 月曜日～金曜日 昼休み 研究室18
島田 火曜日～木曜日 昼休み 研究室12

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-C373

講義コード	20950001
講義名	特別演習III
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	４時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校給食や食品会社において、勤務した経験を生かし指導する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし
教員	野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

1年～2年に掛けて開講された食べ物と健康（食品学・調理学分野）および給食経営管理論についての復習を行うともに、管理栄養士として働く上で必要な知識の再確認および理解を深めることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、食品学および基礎栄養学分野について管理栄養士として第一歩を踏み出す際の、基本的知識の再構築を目的とする。

到達目標

既に習得した専門知識を総復習し、管理栄養士養成課程修了の水準に達するための総合力を養う。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	荒井勝己	人間と食品（食べ物） ①食分化と食生活 ②食生活と健康 ③食料と環境問題 ④食品成分表の理解	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：事前に配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
				予習45分：前回の授業で配布された課題

第2回	荒井勝己	食品の分類と食品の成分I ①分類の種類 ②植物性食品（加工を含む）	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第3回	荒井勝己	食品の分類と食品の成分II ①動物性食品（加工を含む） ②油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料 ③微生物利用食品	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第4回	荒井勝己	食品の機能I ①一次機能（たんぱく質、炭水化物、脂質、ﾋﾞﾀﾐﾝ、ﾐﾈﾗﾙ）	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第5回	荒井勝己	食品の機能II ①二次機能（色素成分、呈味成分、香気成分、ﾃｸｽﾁｬｰ） ②三次機能（消化管内で作用する機能） ③表示の種類	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第6回	荒井勝己	食品の表示と規格基準 ①健康や栄養に関する表示の制度 ②基準	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第7回	荒井勝己	食品の生産・加工・保存・流通と栄養 ①食料生産と栄養 ②食品加工と栄養、加工食品とその利用 ③食品流通・	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まと

		保存と栄養 ④器具と容器包		める。
第8回	野沢弘子	食品の成分と調理変化 ①植物性食品 ②動物性食品 ③その他の食品	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる	予習45分：事前に配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第9回	野沢弘子	①調理操作と調理機器 ②調理と食生活	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第10回	神戸美恵子	給食経営管理の概念 ①給食システム ②給食経営と献立 ③給食とマーケティング ④給食経営と組織	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第11回	神戸美恵子	栄養・食事管理 ①栄養・食事のアセスメント ②食事の計画 ③食事計画の実施、評価、改善	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第12回	神戸美恵子	品質管理 ①品質と標準化 ②原価 ③食材 ④生産（調理）と提供	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第13回	神戸美恵	安全・衛生管理 ①安全・衛生の概念 ②安全・衛生の実際 ③事故・災害時対策 施設・設備管	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさ	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内

	子	理 ①生産（調理）設計・設備計画 ②食事環境の設計と設備	せる。	容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第14回	神戸美恵子	人事管理 給食施設の特徴と関連法規	事前に配布された課題に基づき、学生に解答および調べた内容について発表してもらう。教員はその内容について補足を行い、単元内容についての理解を深めさせる。	予習45分：前回の授業で配布された課題を解き、説明ができるようまとめる。 復習45分：講義中に理解できなかった内容について参考書等を利用し調べ、まとめる。
第15回	荒井勝己神戸美恵子野沢弘子	食べ物と健康および給食経営管理論のまとめ		

教科書

クエスチョンバンク 管理栄養士 国家試験問題解説
授業毎にプリントを配布する。

参考書

各科目で使用した教科書
食品学：栄養科学イラストレイテッド 食品学I、II（羊土社）
調理学： 調理学 食品の調理特性を正しく理解するために 化学同人
給食経営管理論：サクセス管理栄養士講座 給食経営管理論（第一出版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験100％

課題等に対する
フィードバックの方法

予習：シラバスに従って、予め各講義内容に関してこれまでの知識を整理しておくこと。
復習：講義の内容を十分理解するとともに、今まで学んできた内容について再構築できるようにしておくこと。

履修のポイント

管理栄養士として働くのに必要な知識について、講義・小テスト等の内容を各自ノートにまとめ、理解度を向上させる。

オフィス・アワー

神戸：月曜日～金曜日の昼休み 研究室15
野沢：月曜日～金曜日の昼休み 調理準備室
荒井：月曜日～金曜日の昼休み 研究室13

科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-C374

講義コード	20960001
講義名	特別演習IV
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての現場での勤務経験を有する教員が、具体例を示しながら教授する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし
教員	橘 陽子	指定なし
教員	齋藤 陽子	指定なし
教員	岩田 昇	指定なし

授業の概要と教育目標

本演習は、「社会・環境と健康」、「栄養教育論」「公衆栄養学」の各分野に重点を置き、管理栄養士として具備すべき必要な知識を習得し、実践活動の即戦力となる能力を身に付けることを目指す。
また、これまでの学習の総まとめをし、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を備えた、実践的な管理栄養士として活躍できる能力を身に付けることを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、実践的な管理栄養士として活躍するため、また多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけるため、「社会・環境と健康」、「栄養教育論」「公衆栄養学」の各分野の知識の習得と実践力を養うとともに、これまでの学習を統合･発展させることを目指す。将来的な展望としては、管理栄養士としての実践活動の即戦力となる能力を身に付けることを目指すものとする。

到達目標

1.「社会・環境と健康(公衆衛生学分野）」における最新の情報を確認し、管理栄養士として必要な知識と技術を説明することができる。
2.「公衆栄養学」における最新の情報を確認し、管理栄養士として必要な公衆栄養に関する知識と技術を説明することができる。
3.「栄養教育論」における理論及び実践を確認し、管理栄養士として必要な知識と技術を説明することができる。
4.これまでの学習の総まとめをし、管理栄養士としての多角的な知識と技術を統合し、説明することができる。

授業計画

	担当	授業内容と方	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時

	者	法、課題		間
第1回	岩田昇	【社会・環境と健康】(1)	社会保障の動向と衛生行政の体系および衛生の主要指標について、事前学習に基づいて質疑討論を行い、現在の保健衛生行政システムおよび国民の保健関連指標の概要を整理し理解する。	予習60分：国民衛生の動向第1～2編を読んでおく。 復習60分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第2回	岩田昇	【社会・環境と健康】(2)	保健と医療の動向、医療提供体制と医療保健、ならびに介護保険に関して、事前学習に基づいて質疑討論を行い、現在の生活習慣病、感染症、高齢者介護の現状および国の対策の概要を整理し理解する。	予習60分：国民衛生の動向第3～5編を読んでおく。 復習60分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第3回	岩田昇	【社会・環境と健康】(3)	生活環境、労働衛生、環境保健、学校保健に関して、事前学習に基づいて質疑討論を行い、マクロからミクロレベルでの環境保全のための対策ならびに労働・学校現場の保健衛生の概要を整理し理解する。	予習60分：国民衛生の動向第7～10編を読んでおく。 復習60分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第4回	橘陽子	【公衆栄養学】(1) 国民健康・栄養調査	国民健康・栄養調査の概要及び最新年度の結果を踏まえ、日本人の食生活のあり方と今後の課題について討議する。	予習15分：平成30年度国民健康・栄養調査の結果（概要版）を読んでおく。 復習30分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第5回	橘陽子	【公衆栄養学】(2) 健康日本21（第2次）	健康日本21（第2次）の概要及び中間評価を踏まえ、最終目標を達成するための今後の課題等について討議する。	予習15分：健康日本21（第2次）中間報告を読んでおく。 復習30分：最新のデータを確認し、ポイントを整理する。
第6回	橘陽子	【公衆栄養学】(3) 日本人の食事摂取基準（2020年版）	日本人の食事摂取基準（2020年版）の集団への活用方法を理解し、地域集団の栄養評価について事例検討する。	予習15分：日本人の食事摂取基準（2020年版）の総論を読んでおく。 復習30分：不明確な部分を整理し、再度日本人の食事摂取基準を読み込む。
第7回	橘陽子	【公衆栄養学】(4) 公衆栄養マネジメント	地域課題に対応した公衆栄養マネジメントと公衆栄養プログラムの展開方法について事例検討する。	予習15分：教科書の公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムに関する章を読んでおく。 復習30分：不明確な部分を整理し、再度教科書を読み込む。
	宮原	【栄養教育論】(1) 栄養教育における行動科学		予習30分：栄養カウンセリングに関す

第8回	公子 齋藤陽子	の理論とモデル① 栄養教育の分野における必要性と役割 栄養教育におけるカウンセリング	重要な用語をまとめ、理論と技術を統合できるようプレゼンテーションと事例演習を行う。	る理論を理解しておく。 復習45分：カウンセリングに関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第9回	宮原公子 齋藤陽子	【栄養教育論】(2) 栄養教育における行動科学の理論とモデル② 行動変容技法と概念と技法（集団や社会）	重要な用語をまとめ、理論と技術を統合できるようプレゼンテーションと事例演習を行う。	予習30分：行動変容技法の理論を理解しておく。 復習45分：集団や社会に対する行動変容技法に関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第10回	宮原公子 齋藤陽子	【栄養教育論】(3) 栄養教育における行動科学の理論とモデル③ 栄養教育における組織・地域・食環境づくり	重要な用語をまとめ、理論と技術を統合できるようプレゼンテーションと事例を行う。	予習30分：組織・地域・食環境づくりの重要性を理解しておく。 復習45分：栄養教育における組織・地域・食環境づくりに関するプレゼンと事例演習の準備をする。
第11回	宮原公子 齋藤陽子	【栄養教育論】(4) 栄養教育におけるマネジメント 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	重要な用語をまとめ、理論と技術を統合できるようプレゼンテーションと事例を行う。	予習30分：課題を解き、わからない問題は調べ学習をする。 復習45分：課題を見直し、理解を深める。
第12回	宮原公子	【総まとめ】(1) 生化学・解剖生理学・病理学・基礎栄養学	これまでの学習内容をもとに、生化学・解剖生理学・病理学・基礎栄養学分野の課題を解決するとともに、自らの弱点を見出す。	予習45分：教科書等で該当分野の学習を振り返る。 復習45分：課題を見直し、不明確な部分は調べ学習し、理解を深める。
第13回	宮原公子	【総まとめ】(2) 臨床栄養学・応用栄養学	これまでの学習内容をもとに臨床栄養学・応用栄養学分野の課題を解決するとともに、自らの弱点を見出す。	予習45：教科書等で該当分野の学習を振り返る。 復習45分：課題を見直し、不明確な部分は調べ学習し、理解を深める。
第14回	宮原公	【総まとめ】(3) 食品学・給食	これまでの学習内容をもとに、食品学・給食経営管理論・調理学分野の課題を解決するとともに、自らの弱点を見出す	予習45分：教科書等で該当分野の学習を振り返る。 復習45分：課題を

	子	経営管理論・調理学		見直し、不明確な部分は調べ学習し、理解を深める。
第15回	宮原公子	【総まとめ】(4) 公衆衛生学・栄養教育論・公衆栄養学	これまでの学習内容をもとに、公衆衛生学・栄養教育論・公衆栄養学分野の課題を解決するとともに、自らの弱点を見出す。	予習45分：教科書等で該当分野の学習を振り返る。 復習45分：課題を見直し、不明確な部分は調べ学習し、理解を深める。

教科書

国民衛生の動向 2020/2021(2020年8月末刊行予定の最新版)

参考書

各科目（公衆衛生学、公衆栄養学、栄養教育論）の教科書
日本人の食事摂取基準（2020年版）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上（授業時間内の課題の評価100%）

課題等に対するフィードバックの方法

基本的には実習時間内での作業となるが、課題の進捗状況により自宅での学習も必要となる。
各科目の課題の取り組みに対しては、コメントをつけるので参考に学習を深める。

履修のポイント

授業内容を各自ノートにまとめ、理解度を向上させる。

オフィス・アワー

岩田 火曜日～木曜日 昼休み 研究室5
宮原 火曜日～金曜日 昼休み 研究室19
齋藤 月曜日～金曜日 昼休み 研究室6
橘 月曜日～金曜日 昼休み 栄養教育準備室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-C380

講義コード	20970001
講義名	卒業研究（大澤）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

【授業の概要】主に心理学研究法に基づく調査・実験の手法を用いて実際にデータを収集・分析し、結果を出し、その結果を考察するという一連の研究の流れを学習する。研究テーマは、自分の興味関心のある事柄を中心に検討するが、興味関心のある事柄を科学的な方法論に基づいて研究の形にしていくことは、意外と容易ではない。研究するとはどういうことか、研究テーマを形にする方法にはどのようなものがあるのか、一連の研究の流れを記述するときにはどのような文章で記述すればよいのかなどにも触れながら、自分の興味関心のある事柄を“研究”の形に整えていくことを体験する。
【教育目標】研究をまとめるためには、事象を捉える幅広い視野、批判的思考、問題解決能力、事象を客観的に文章化する能力などが必要となる。それは社会に出てからも役立つものと考えられる。卒業研究では、学生は最終的には各自が設定した研究テーマをレポートにまとめる。そのために必要なスキルを意識し実践することを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指す。また、学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得するために“研究”の形で栄養学科の学修の「総まとめ」の一端を担うことを目指す。

到達目標

１．自らの興味関心のあるテーマが、心理学の研究の中でどのような位置づけになるかを考えることができる。
２．自らが決めた研究テーマに基づいて、調査・実験計画を立てることができる。
３．調査・実験を行い、その結果ならびに考察をレポートにまとめることができる。
４．研究テーマに仮説があれば、その検証を通して仮説が認められたかどうかを実証することができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間

第1回	１回～４回 研究テーマに関する指導（１）	ガイダンス、興味関心の確認と研究の方向性の指導	予習90分：テーマ設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第2回	５回～８回 研究テーマに関する指導（２）	具体的なテーマ決定のための指導、研究テーマに関する図書や論文（先行研究）の紹介 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッションを通した文献検索とクリティーク。	予習90分：テーマ設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第3回	９回～１２回 研究テーマに関する指導（３）	先行研究の検索、文献の収集、研究テーマの決定 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッションを通した文献検索とクリティーク。	予習90分：テーマ設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第4回	１３回～１６回 研究方法に関する指導（１）	先行研究や関連書籍の紹介・指導 【アクティブラーニングの内容】 ディスカッションを通した文献検索とクリティーク。	予習90分：研究方法設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第5回	１７回～２０回 研究方法に関する指導（２）	実験か調査かなどの大きな方向性の決定	予習90分：研究方法設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第6回	２１回～２４回 研究方法に関する指導（３）	研究法についての指導、具体的な研究法の決定	予習90分：研究方法設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第7回	２５回～２８回 研究計画の作成	研究実施スケジュールの決定	予習90分：研究方法設定の調べ学習。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第8回	２９回～３２回 研究の実施（１）	データ収集の時期の決定、調査・実験に必要な材料・質問紙などの準備 【アクティブラーニングの内容】 調査。実験に必要な材料（調査用紙、実験機材）作成のためのディスカッション。	予習90分：データ収集の準備、質問紙や実験計画の作成。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第9回	３３回～３６回 研究の実施（２）	調査・実験の実施（データ収集の実施） 【アクティブラーニングの内容】 調査計画、実験計画に基づく、調査対象者に対する調査・実験の実践。調査対象者への教示に対するサジェスチョン。	予習90分：データ収集、データ入力。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第10回	３７回～４０回 研究の実施（３）	データの入力方法、分析方法の指導と実施 【アクティブラーニングの内容】 エクセルによるデータ入力の実践、ディスカッションを通した論文掲載のための適正なデータ分析方法や結果の読み取りの実践。	予習90分：データ収集、データ入力。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
		データ分析とその結果の中間報告	

第11回	４１回～４４回 研究の実施（４）	【アクティブラーニングの内容】 エクセルによるデータ分析の実践、ディスカッションを通した論文掲載のための適正なデータ分析方法や結果の読み取りの実践。	予習90分：データ分析と結果のまとめ。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第12回	４５回～４８回 研究の実施（５）	必要に応じて追加分析の実施、データ分析の完了 【アクティブラーニングの内容】 エクセルによるデータ分析の実践、ディスカッションを通した論文掲載のための適正なデータ分析方法や結果の読み取りの実践。	予習90分：データ分析と結果のまとめ。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第13回	４９回～５２回 卒業研究レポートの執筆・作成（１）	論文の書き方、引用参考文献、論文フォーマットの指導	予習90分：研究結果のまとめ、論文フォーマットに沿った論文作成。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第14回	５３回～５６回 卒業研究レポートの執筆・作成（２）	アウトラインの作成、図表作成の指導 【アクティブラーニングの内容】 エクセルによる図表作成の実践、ディスカッションを通した論文掲載のための適正な図形作成の実践。	予習90分：研究結果のまとめ、論文フォーマットに沿った論文作成。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。
第15回	５７回～６０回 卒業研究レポートの執筆・作成（３）	教員による添削、卒業研究レポートの最終的な修正と完成	予習90分：研究結果のまとめ、論文フォーマットに沿った論文作成。 復習90分：教員との面談内容・指導内容の整理・まとめ。

教科書

特になし。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
授業への参加度50%、提出論文（レポート）50%を総合して評価します。

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、レポートや課題についてはその内容を添削して返却しさらにディスカッションを通して研究の方向づけをしていくので、内容の理解や論文作成に役立てること。

履修のポイント

各自が問題意識を持ち、問題解決をはかれるような積極的・主体的な取組を期待します。積極的に自分の研究テーマに関わる情報を収集すること、教員とのディスカッションを通して自ら研究を進めることが授業時間外の学習となります。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30〜13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。 ※その他、教員の空き時間であれば適宜受け付けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R375

講義コード	20970002
講義名	卒業研究（荒井）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食品会社における生産現場および研究所で勤務した経験を活かし、食品の機能や栄養について最新の情報を交えて解説する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

ひとつの食品および成分にターゲットを絞って成分分析を行い、その機能性や食品としての価値を再認識することを目的とした実験を行います。実験（主に夏期休暇期間に実施）を中心に進めるため、実験や成分分析等に興味のある学生の履修を希望します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」ならびに「4. これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。」に基づき、食品学および食品学実験で学んだ知識や技術を利用して実験を行い、論文検索やデータ処理、論文のまとめ方などについての習得を目指します。

到達目標

各グループで決めたテーマに沿って実験を行い、その結果について論文にまとめることを目標とします。また、グループが複数ある場合、報告会を行います。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	実験内容の決定、文献検索、実験スケジュールの作成など（14回）	文献等を調べ、自分の行いたい実験の方法や内容について検討を行い、実験の準備を行う。	予習・復習をあわせて90分
第2回	ある食品および食品成分について分析実験を行う		予習・復習をあわ

	（30回）		せて90分
第3回	卒業研究実験において得た結果（データ）について解析し、論文にまとめる。（16回）	実験結果についてデータを読み取り、論文をまとめるために必要な知識や方法論を身につけ、協力して論文をまとめる。	予習・復習をあわせて90分

教科書
食品学実験書（食品学実験IおよびIIで使用した実験書）
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 実験・論文作成 100%
課題等に対する フィードバックの方法
配布した参考文献やデータ等は必ず目を通し理解すること。
履修のポイント
食品や食品成分分析等に興味のある学生または食品学に自信のない学生の履修を希望します。
オフィス・アワー
月～金曜日のお昼休み（12:30～13:20）に11号館3F研究室13で受け付ける。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R375

講義コード	20970003
講義名	卒業研究（小林）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小林 葉子	指定なし

授業の概要と教育目標

テーマに沿って、各自、論文を読み、実験を組み立てて、実験を行う。実験結果から、考察し、卒業論文としてまとめる。
論文を読み、口頭や研究論文として研究をまとめることを目標とする。同時に、科学倫理を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、実践的な管理栄養士として活躍するため、また多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけるため、これまでの学習を統合･発展させる栄養学科専門科目選択科目である。卒業研究を通して、研究の組み立て、口頭発表や論文の書き方を学ぶ。

到達目標

テーマに沿った和・英文論文を読み、実験を遂行する。結果から、自分の考えをまとめ、卒業論文を書くことを目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	小林葉子	卒業論文の具体的なテーマを決める。	自分の興味のある研究テーマについて、考える。	予習90分：情報収集 復習90分：議論内容をもとにまとめる
第2回	小林葉子	卒業論文の具体的なテーマに関連する論文の調査	自ら関連論文を見つけ、論文を読む。	予習90分：情報収集 復習90分：関連論文講読
	小林	卒業論文の具体的なテーマに関連す	自ら関連論文を見つけ、論文を	予習90分：情報収集

第3回	葉子	る論文の調査	読む。	復習90分：関連論文講読
第4回	小林葉子	卒業論文の具体的なテーマに関連する論文の調査	自ら関連論文を見つけ、論文を読む。	予習90分：情報収集 復習90分：関連論文講読
第5回	小林葉子	卒業論文の具体的なテーマに関連する論文の調査	自ら関連論文を見つけ、論文を読む。	予習90分：情報収集 復習90分：関連論文講読
第6回	小林葉子	卒業論文の具体的なテーマに関連する論文の調査	自ら関連論文を見つけ、論文を読む。	予習90分：情報収集 復習90分：関連論文講読
第7回	小林葉子	論文をもとに実験計画を組む。	自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第8回	小林葉子	論文をもとに実験計画を組む。	自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第9回	小林葉子	論文をもとに実験計画を組む。	自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第10回	小林葉子	論文をもとに実験計画を組む。	自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第11回	小林葉子	論文をもとに実験計画を組む。	自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第12回	小林葉子	論文をもとに実験計画を組む。	自分の遂行できる実験計画を組む。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：計画の見直し
第13回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第14回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第15回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
	小			予習90分：実験計画の

第16回	林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	作成 復習90分：行った実験のまとめ
第17回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第18回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第19回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第20回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第21回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第22回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第23回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第24回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第25回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第26回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第27回	小林葉子	計画をした実験を遂行する	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第28回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
	小	計画をした実験を		予習90分：実験計画の

第29回	林葉子	遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	作成 復習90分：行った実験のまとめ
第30回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第31回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第32回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第33回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第34回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第35回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第36回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第37回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第38回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第39回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第40回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第41回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
	小林	計画をした実験を	自ら実験に必要な試薬・器具を	予習90分：実験計画の作成

第42回	葉子	遂行する。	準備し、実験を遂行する。	復習90分：行った実験のまとめ
第43回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第44回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第45回	小林葉子	計画をした実験を遂行する	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第46回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第47回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第48回	小林葉子	計画をした実験を遂行する。	自ら実験に必要な試薬・器具を準備し、実験を遂行する。	予習90分：実験計画の作成 復習90分：行った実験のまとめ
第49回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第50回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第51回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第52回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第53回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第54回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第55回	小林	実験結果をもとに、考察し、論文	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に

	葉子	を書く。	自分の考えをまとめる。	関する情報の再収集、データーのまとめ
第56回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第57回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第58回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第59回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ
第60回	小林葉子	実験結果をもとに、考察し、論文を書く。	実験結果をもとに、関連論文との関連をディスカッションし、自分の考えをまとめる。	予習90分：結果の整理 復習90分：実験内容に関する情報の再収集、データーのまとめ

教科書

特になし

参考書

シンプル生化学 林典夫/廣野治子著 南江堂
エキスパート管理栄養士養成シリーズ 分子栄養学 金本 龍平 編 化学同人

成績評価の方法・基準

卒業論文の評価が60点以上 (卒業論文の評価100％)

課題等に対するフィードバックの方法

提出された卒業論文に対して、訂正箇所を指摘する。これを繰り返す。

履修のポイント

科学倫理の基本を理解し、研究を行う。自分で考えて、実験を行う。失敗を恐れず、実験に取り組む。結果を読み考察する。

オフィス・アワー

月～金 お昼休み（ただし、3限に授業がある日は不可） 11号館3階16研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R375

講義コード	20970004
講義名	卒業研究（野沢）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての実務経験を活かし、調理に関する実験を通して科学的・分析的素養を身に着けさせる。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

自分の研究テーマについて、指導教員と連絡相談を繰り返しながら計画的に研究を進め、卒業論文を作成する。
「調理科学」や「食文化」「郷土料理」に関することについて、これまで学修した基礎的・専門的知識を用いて、その課題を解決するための計画を立て、実験・調査を行い、論理的思考および手法によって総合的に判断する力を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、1.人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの側面から理解している。に基づき、特に食文化の知識の獲得を目指す科目である。 2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識をふまえ、食事作りの基礎となる食品の調理過程における変化や現象を科学的に捉えて説明できることを目指すものとする。

到達目標

1. 研究計画を立てることができる。
2. 自ら意欲的に実験・調査を実施することができる。
3. 論理的思考や手法を用いて総合的に判断することができる。
4. 課題解決に取り組むことができる。
5. 得られた結果を適切な手法を用いて表現することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	野沢弘子	○論文の書き方、調査方法、統計処理の方法を学ぶ	インターネット等で、先行文献を調べる。	予習 ９０分 論文の書き方を読む 復習 ９０分 論文の書き方、調査方法についてまとめる

第2回	野沢弘子	○研究内容の決定、研究のスケジュールの作成	決定した研究の調査方法や実験方法について検討を行う。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第3回	野沢弘子	○文献を調べ、自分の行いたい研究の方法や内容について研究の準備を行う。	研究に必要な先行文献をインターネット等で調べる。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第4回	野沢弘子	○文献を調べ、自分の行いたい研究の方法や内容について研究の準備を行う。	研究に必要な先行文献をインターネット等で調べる。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第5回	野沢弘子	○卒業研究の実験及び資料の分析を行う。	実験や調査した内容について分析を行う。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第6回	野沢弘子	○卒業研究の実験及び資料の分析を行う。	実験や調査した内容について分析を行う。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第7回	野沢弘子	○卒業研究の実験及び資料の分析を行う。	実験や調査した内容について分析を行う。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第8回	野沢弘子	○卒業研究の実験及び資料の分析を行う。	実験や調査した内容について分析を行う。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第9回	野沢弘子	○卒業研究の実験及び資料の分析を行う。	実験や調査した内容について分析を行う。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第10回	野沢弘子	○卒業研究において得た結果（データ）について解析し、論文にまとめる。	データの解析を行う。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第11回	野沢弘子	○卒業研究において得た結果（データ）について解析し、論文にまとめる。	データの解析を行う。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第12回	野沢弘子	○卒業研究において得た結果（データ）について解析し、論文にまとめる。	データの解析を行う。	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 研究内容について
第13回	野沢弘子	○卒業研究において得た結果（データ）について解析し、論文にまとめる。	論文にまとめる	予習 ９０分 研究内容について 復習 ９０分 論文にまとめる
第14回	野沢弘子	○卒業研究において得た結果（データ）について解析し、論文にまとめる。	論文にまとめる	予習 ９０分 論文にまとめる 復習 ９０分 論文にまとめる
	野			予習 ９０分 論文にま

第15回	沢弘子	○卒業研究のまとめ	最終仕上げの論文のチェックをする	とめる 復習 ９０分 論文にまとめる

教科書

必要に応じて、資料等を配布する。

参考書

初めての栄養学研究論文 第一出版
わかる統計学 同人化学
食の文化を知る事典 東京堂出版

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
研究貢献度50%、論文内容30%、研究発表20%

課題等に対する
フィードバックの方法

提出された課題にはコメントともに返却する。また、ゼミ内でディスカッションを行う。

履修のポイント

日頃から、自身の研究に関連する研究論文をできるだけたくさん読むようにする。
自己のテーマであるので、主体的に取組むことが求めらる。
予習・復習の時間数：不足分については各自の学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日 昼休み 調理学準備室
質問はメールでも受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R375

講義コード	20970005
講義名	卒業研究（宮原）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校教育現場において食育と給食管理、さらに指導的立場の経験を有する教員が研究指導を行う。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の機会と場には、様々なライフステージ・ライフスタイル別がある。健康増進法、栄養教諭制度創設および食育基本法の成立を契機にわが国の食育・栄養教育の重要性が高まった。この背景には、栄養すなわち食生活の仕方で、健康を損なうことが種々のエビデンスとして示されており、その改善には、食生活をとおした一次・二次・三次予防を行うことが必要とされてきた。特に、近年生活習慣病の低年齢化が懸念されている中、学校における食育に期待が寄せられ、その中核的な役割をする栄養教諭の役割は大きい。
本研究は、学校の食育と給食管理の範ちゅうである献立を一体的にとらえ、教材となる献立マネジメントし教材研究を深め、生活習慣病一次予防としての食育の研究をすることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養教諭は、管理栄養士養成課程で教職課程を履修することで、管理栄養士の資質をもった教員として免許状が取得でき得る。これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる栄養教諭としての資質を修得している。

到達目標

１．学校給食法を理解し、食育と給食管理を一体的にとらえることができる。
２．学校における食に関する指導計画に基づく献立計画が作成できる。
３．献立計画と連動させた給食時間の学習指導計画案の作成ができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		○オリエンテーション：卒業研究概要（研究内容、研究の進め方、評価など）の		

第1回	宮原公子	説明 ○研究の骨子の理解：全授業60回を15段階に分けて研究を深めることの説明により研究意欲の向上 ○15段階による研究区分の理解：1段階概ね4回授業 ○1段階：学校教育と学校給食の理解	学校給食に関する法律を調べ、研究メンバーとディスカッションをする。	予習60分：学校の食育に期待されていることを調べておく。 復習60分：学校給食が教育の一環として実施されている法的根拠をまとめる。
第2回	宮原公子	○2段階：栄養教諭の職務と使命の理解	栄養教諭の職務の実際を調べ、研究内容に生かせる情報を収集し、研究メンバーとディスカッションをする。	予習60分：栄養教諭に期待されてい ることを調べておく。 復習60分：栄養教諭の職務をまとめ、具体的な事例を整理する。
第3回	宮原公子	○3段階：学校の食育と給食管理に関する研究内容の情報収集	学校の食育と給食管理に関する研究内容に役立つ情報を収集し、研究メンバーとディスカッションをする。	予習60分：学校給食の献立の役割を調べておく。 復習60分:学校給食の献立の教材化の理論をまとめる。
第4回	宮原公子	○4段階：学校教育における学校給食の位置づけ 学校教育法、学習指導要領の理解	学校教育のシステムを理解することで学校給食の役割と使命を踏まえた栄養教諭の活動を研究メンバーとディスカッションす る。	予習60分：小中学校学習指導要領に目をとおしておく。 復習60分：学校教育における学校給食の位置づけをまとめる。
第5回	宮原公子	○5段階：学校給食における献立の位置づけとマネジメント	献立マネジメントの必要性を各自まとめ、研究メンバーと協力 して論文形式にまとめる。	予習60分：Web上に公開されている献立計画様式を調べておく。 復習60分：献立マネジメントの様式の構築の必要性をまとめる。
第6回	宮原公子	○6段階：学校給食献立計画と学習指導計画案の理解 アセスメントに基づく手法の研究	学術的なまとめのための手法を研究メンバーとディスカッションする。	予習60分：栄養アセスメントの種類 を調べておく。 復習60分：アセスメントの手法と二次データの活用をまとめる
第7回	宮原公子	○7段階：学校給食献立計画の立案研究 食に関する指導年間計画を踏まえた	食育目標に基づく献立計画の作成を研究メンバーとディスカッションして仕上げる。	予習60分：食に関する指導年間の事例を収集しておく。 復習60分：食育目標の設定の仕方をまと

		献立教材の作成		める。
第8回	宮原公子	○8段階：給食時間における学習指導案の作成研究 食に関する指導年間計画に基づく給食時間の指導研究	食育目標に基づく学習指導案の作成を研究メンバーとディスカッションして仕上げる。	予習60分：学習指導案の様式を数種、収集しておく。 復習60分：学習指導案の書き方を熟 知する。
第9回	宮原公子	○9段階：献立の教材化と指導案の作成の実際①	献立の教材化研究に向けて試作を行い、研究メンバーとディス カッションを行う。	予習60分：教材化する献立の試作研究をしておく。 復習60分：試作した献立の品質管理の観点からまとめる。
第10回	宮原公子	○10段階：献立の教材化と指導案の作成の実際②	献立の教材化研究に向けて試作を行い、研究メンバーとディ カッションを行う。	予習60分：教材化する献立の試作研究しておく。 復習60分：試作した献立の品質管理の観点からまとめる。
第11回	宮原公子	○11段階：研究内容の評価・改善①	月刊「学校給食」掲載原稿を研究メンバーと協議して、修正・改善しまとめる。	予習60分：掲載原稿案を作成してお く。 復習60分：掲載原稿を修正し、投稿できるように準備する。
第12回	宮原公子	○12段階：研究内容の評価・改善②	月刊「学校給食」掲載原稿を研究メンバーと協議して、修正・ 改善しまとめる。	予習60分：掲載原稿案を作成してお く。 復習60分：掲載原稿を修正し、投稿できるように準備する。
第13回	宮原公子	○13段階：研究のまとめ① 月刊「学校給食」掲載投稿	掲載投稿する原稿を確認し合い、教材や料理等の写真撮影を行 い評価し合う。	予習60分：1学期（4月－7月）の教材作成を確認しておく。 復習60分：投稿原稿を確認する
第14回	宮原公子	○14段階：研究のまとめ② 月刊「学校給食」掲載投稿	掲載投稿する原稿を確認し合い、教材や料理等の写真撮影を行 い評価し合う。	予習60分：2学期（8月－12月）の教材作成を確認しておく。 復習60分：投稿原稿を確認する
第15回	宮原公子	○15段階：研究のまとめ③ 月刊「学校給食」掲載投稿	掲載投稿する原稿を確認し合い、教材や料理等の写真撮影を行 い評価し合う。	予習60分：3学期（1月－3月）の教材作成を確認しておく。 復習60分：投稿原稿を確認する

教科書

献立の教材化の理論と実践 東山書房 宮原公子編著
エクセル栄養君（最新版） 建帛社
食に関する指導の手引き 文部科学省

参考書
月刊「学校給食」雑誌（これまでの刊行物）
成績評価の方法・基準
単位取得基準60点以上 研究内容 70% 研究への参加度 30%
課題等に対する フィードバックの方法
毎月、1主題に基づき研究を進める。計画書（献立計画、学習指導案）や教材作成に対して、コメントをつけて返却する。双方向のディスカッションを行い、フィードバックできるようにする。
履修のポイント
月刊」学校給食」雑誌に連載執筆する機会を得ているので、全国の読者にアピールできるように、積極的に取り組んでもらいたい。斬新なアイディアを出していただきたい。
オフィス・アワー
火曜日から金曜日 昼休み（12:30-13:20） 11号館3階19研究室（宮原研究室）
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R375

講義コード	20970006
講義名	卒業研究（榮）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

生活習慣病予防を目的とする成分の生理的効果その作用機序について調べる。本年度の実験予定は次のとおりである①肥満を防止する効果をもつ成分を確かめるため消化酵素活性（リパーゼ、アミラーゼ、グルコシダーゼの阻害を調べる。②コラーゲンの消化に関する研究を本年度より新たに行う ③生体内における抗酸化作用をモデルとした試験管内における食品成分の抗酸化試験を行う。④痛風の成因に深くかかわっている生体成分は尿酸である。尿酸生成を抑制するであろう食品成分の検索を目的として、食品中のキサンチンオキシダーゼ活性阻害物質についての研究を引き続き行う。これらの実験を行い、データ分析、文献検索を行い卒業論文を作成することが目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

卒業認定・学位授与の方針は「「専門科目」の中に、実践的な管理栄養士として活躍するため、また多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけるため、これまでの学習を統合･発展させる科目を配置する。」であるが、卒業研究は、今まで学修してきた基礎栄養学・解剖生理学・生化学・食品学等の科目を統合発展させるものである。

到達目標

学士としての研究に対する姿勢と計画性を持つことを目標とする。具体的には、生活習慣病の予防や治療に寄与する食品成分を検索することと論文をまとめ上げる力を持てるようになることを目標達成とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	前期1～15週分：実験に対する基礎知識の習得と研究関連文献の検索および内容の理解をする。また、統計処理方法を学習する。ゼミは一部英文で行う	予習は実験用語や専門用語について事前に調べ教員とディ	復習は当日行った実験やゼミ内容をノートに記録する。

	ことがある。また、実験に対しては、その手技の訓練や試薬の調製を行う。ゼミは質疑応答形式で行う。	スカッションする。	合わせて1時間以上学習する。
第2回	前期16～30週分：本実験に向け、あらかじめいくつかの予備実験を行い、実験の条件や試料の選択を行う。ゼミは引き続き行う。	実験について事前に調べる。当日行った実験やゼミ内容をノートに記録する(実験ノートの作成）。その内容について教員とディスカッションする。	復習・復習合わせて1時間以上行う
第3回	夏休み15回分：予備実験の結果を基にして、本実験を行う。予習は実験用語や専門用語について事前に調べる。復習は当日行った実験やゼミ内容をノートに記録する。	実験について事前に調べノートに記載する。当日行った実験やゼミ内容をノートに記録する（実験ノート作成）。教員がノートについて質問し学生がこれに対して回答する。	復習・復習合わせて1時間以上行う
第4回	後期15週分：本実験結果のデータ分析を行う。統計処理を行い、論文を作成する。ゼミは引き続き行う。	予習は実験結果を計算しておく。復習は当日行ったゼミ内容をノートに記録する。文献を引用しながら論文を作成し提出する。教員は論文を確認し、その内容について、学生とディスカッションする。	復習・復習合わせて４時間以上行う

教科書

なし

参考書

各関連項目の論文等（文献検索）

成績評価の方法・基準

実験遂行の状態（５０％）、卒業論文の内容（５０％）を点数化して行う。60点以上

課題等に対する
フィードバックの方法

実験デザイン・実験は教員と連携して行う。データ分析を行い担当教員に報告をし、その都度、指示・示唆を受ける。毎週のゼミの中でディスカッションして相互に確認する。

履修のポイント

英文文献を読むことが多いので、英語になれておくこと。

オフィス・アワー

12:30～13:20に第14研究室にて行う。担当教員の授業や校務のない時間においても随時研究室で行うことができる。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R375

講義コード	20970007
講義名	卒業研究（影山）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし

授業の概要と教育目標

生活習慣病の1つである肥満を理解するためには、正常の食欲のメカニズムを理解する必要がある。食欲は中枢神経系（脳）における満腹中枢、摂食中枢と摂食調節中枢で情報が統御されるだけで無く、グレリンやレプチンといったホルモンによっても制御されている。その食欲のメカニズムについて、個人またはグループで、最新の英語論文を読み、本卒業研究のテーマである「中枢神経系（脳）における摂食調節機構」についてまとめる。
研究テーマを進めるにあたり、文献検索、議論の進め方、まとめ方等について修得する。ディスカッションを行いながら、最新の肥満研究に対して理解を深めていくことを目標とする。必要であれば、齧歯類を使った動物実験を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」ならびに「3. これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。」に基づき、食欲という生理現象を研究していく。さらに、実践的な職業人として活躍するために、理論的な思考力の育成を目指すものとする。

到達目標

1. 中枢神経系における食欲のメカニズムを説明することができる。
2. 自ら疑問に思ったことを調べることができる。
3. 自らが積極的に考えることができる。
4. 調べたものを理論的に組み立て、まとめることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	影山 晴秋	実験の決定と実験の準備（10回）	文献等を検索し、発表する。	予習：文献を読んでまとめる。 45分

第2回	影山 晴秋	実験（30回）	結果のまとめと進捗状況の報告	予習と復習：文献を読んでまとめる。 あわせて45分間
第3回	影山 晴秋	実験のまとめ（20回） 論文の作成	結果のまとめと進捗状況の報告	予習と復習：結果をまとめる。 あわせて45分間

教科書

適宜、プリントしたものを渡します。

参考書

使用しません

成績評価の方法・基準

60点以上
進捗状況の発表（40%）、課題（60%）
前期の終わりと後期の15回目（通年で45回目）に進捗状況を発表してもらいます。最終演習日に提出してもらう課題を総合的に評価します。

課題等に対する
フィードバックの方法

成績発表時にコメントを付して作成した課題レポートを返却します。

履修のポイント

英語の論文を読みますので、英語の読解力が必要となります。また卒業研究なので、自ら考え、積極的に自ら行動に移せるようにしてください。

オフィス・アワー

月から木曜日、5限目（16:40から18:00）、11号館研究室10で対応いたします。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R375

講義コード	20970008
講義名	卒業研究（増野）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増野 弥生	指定なし

授業の概要と教育目標

ライフステージ別の栄養を対象とし、妊娠期・授乳期、乳児期の栄養の方法、母の出生体重と子の体重との関係、高齢期の栄養、特殊な環境にある船員の栄養管理などに着目し、文献検索やデータ収集を行い、最近の動向や問題点などについて学ぶ。また、幼児期において多く見られる「食物アレルギー」について、現状や問題点、原因食品などについて学び、代替食品や活用法などに着目し、レシピ作成を行い、食物アレルギーについて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、「3.多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している」「4.これまでの学習を統合・発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している」に基づき、応用栄養学で学んだ知識を基礎としてデータ処理を行い、論文検索や論文のまとめ方などを習得する。また、代替食レシピ作成では代替食品について調べ、パワーポイントにまとめ、知識・技術を身につけ、プレゼンテーション能力を養うことを目指す。

到達目標

・各自が決めたテーマごとに先行研究を調べ、データを分析することができる。
・食物アレルギーの原因食品、代替食品についての知識を身につけることができる。
・自らレシピを考案し実施、検討することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	増野弥	・各自が興味を持っているテーマをどのように進めていくか、今後の方向性について話し合う。	具体的に作成例を用いて発表を行い、検討する。（プレゼンテーション、ディス	予習：テーマに関係する資料を集める。90分 復習：調べ学習をノートな

	生	前期 1～8回（8回）	カッション、グループワーク）	どにまとめる。90分
第2回	増野弥生	・関係する論文を集め勉強会を行う。 ・レシピに基づいて調理を行い、改善点について検討する。 前期 9～20回（12回）	具体的に作成例を用いて発表を行い、検討する。（プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク）	予習：テーマに関係する資料を集める。90分 復習：調べ学習をノートなどにまとめる。90分
第3回	増野弥生	・データ収集・調査をする。 .レシピに基づいて調理を行い、改善点について検討する。 前期～夏季休暇期間 20～30回（10回）	具体的に作成例を用いて発表を行い、検討する。（プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク）	予習：データ分析と結果のまとめ。90分 復習：調べ学習をノートなどにまとめる。90分
第4回	増野弥生	・文献検索や調査などから得られたデータをまとめる。 ・統計解析、分析を行う。 .レシピに基づいて調理を行い、改善を加え、レシピを完成させる。 後期 30～45回（15回）	具体的に作成例を用いて発表を行い、検討する。（プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク）	予習：研究結果のまとめ、論文作成、 データ分析と結果のまとめ 90分 復習90分：データの整理、まとめ。90分
第5回	増野弥生	・データをまとめて、検討し論文形式にまとめる。 ・レシピ、活動経過などをパワーポイントにてまとめる。 ・発表準備 後期 45～60回（15回）	具体的に作成例を用いて発表を行い、検討する。（プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク）	予習：研究結果のまとめ 90分 復習：発表準備 90分

教科書

随時、プリント、資料を渡す。

参考書

国民健康・栄養調査(最新版）
「日本人の食事摂取基準（2020年版）」
応用栄養学で使用している教科書
レシピ集
食品成分表
伊藤浩明監修、新 食物アレルギーの基礎と対応、株式会社みらい、2019

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
進捗状況、貢献度(40%）レシピの作成、調査・論文作成、パワーポイント作成などの取り組み(60%）

課題等に対する
フィードバックの方法

提出課題、パワーポイント、論文の作成、図表などについては添削しフィードバックするので、次回までに訂正すること。

履修のポイント
興味を持っている対象に関して、自ら積極的に取り組み、文献を読むこと。 研究の方法、時期などについては相談すること。卒業研究の進捗については必ず報告すること。
オフィス・アワー
前期：月・火・水・木・金曜日の昼休み 後期：月・火・水・金曜日の昼休みに11号館１８研究室で対応する。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R375

講義コード	20970009
講義名	卒業研究（田口）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

子どもの「食」と人間形成を結びつけながら、「食」「農」「社会」「自然」の観点から考える。今日の子どもたちの「食」をめぐる情況を把握し、そこで何が問題となっているかについて自分自身の問題意識を明確にさせながら、人間形成論・人間関係論の視点から考えていく。「今日の子どもたちの『食』をめぐる情況」を把握するに当たっては、「ぐんま食育こころプラン＜1次＞＜2次＞＜3次＞」なども参考にする。
子どもの「食」が、人間形成に深く関わっていることを理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーと関連して、「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している。」「多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。」に関連して、子どもの「食」と人間形成について考える。そして、主体的で、対話的な学習を通じて、理論的・実践的な資質と能力を育成することを目指すものとする。

到達目標

１．自分自身の問題意識を明確にする。
２．子どもの「食」が、人間形成に深く関わっていることを理解する。
３．行動力をもって研究に取り組む。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	「子どもの「食」と人間形成」のテーマのもと、自分の問題意識をレポートにしたものを報告する。	問題意識の報告	予習90分：「食」あるいは「子ども」についてのニュースを調べる。復習90分：資料を見直す。
第2回	「子どもの「食」と人間形成」のテーマのもと、自分の問題意識をレ	問題意識	予習90分：「食」あるいは「子ども」についてのニュースを調べ

	ポートにしたものを報告する。 【2】	の報告	る。復習90分：資料を見直す。
第3回	「子どもの「食」と人間形成」のテーマのもと、自分の問題意識をレポートにしたものを報告する。	問題意識の報告	予習90分：「食」あるいは「子ども」についてのニュースを調べる。復習90分：資料を見直す。
第4回	「子どもの「食」と人間形成」のテーマのもと、自分の問題意識をレポートにしたものを報告する。	問題意識の報告	予習90分：「食」あるいは「子ども」についてのニュースを調べる。復習90分：資料を見直す。
第5回	「子どもの「食」と人間形成」のテーマのもと、自分の問題意識をレポートにしたものを報告する。	問題意識の報告	予習90分：「食」あるいは「子ども」についてのニュースを調べる。復習90分：資料を見直す。
第6回	「子どもの「食」と人間形成」のテーマのもと、自分の問題意識をレポートにしたものを報告する。	問題意識の報告	予習90分：「食」あるいは「子ども」についてのニュースを調べる。復習90分：資料を見直す。
第7回	「子どもの「食」と人間形成」のテーマのもと、自分の問題意識をレポートにしたものを報告する。 第8回以降は、各自の問題意識を先鋭化させて、できるだけ長めの報告を行う。 最終的には、A4２枚の論文形式のレポートを作成する。	問題意識の報告	予習90分：「食」あるいは「子ども」についてのニュースを調べる。復習90分：資料を見直す。

教科書

適宜、資料・プリントを配布します。

参考書

「ぐんま食育こころプラン＜1次＞＜2次＞＜3次＞」など。

成績評価の方法・基準

60点以上
問題意識についての報告（40%）、レジュメを用いた研究の報告（60%）
最終的にまとめたものを総合的に評価します。

課題等に対する
フィードバックの方法

成績発表時に、最終的にまとめたものにコメントをつけて、返却します。

履修のポイント

自分自身の問題意識を持つことを大切にします。そして、主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第７研究室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R375

講義コード	20970011
講義名	卒業研究（島田）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院での臨床栄養管理業務の実務経験と専門性を活かし、管理栄養士として各疾病の対象者に合わせた臨床栄養管理や研究方法について実践的な教育を実施する
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 島田 美樹子	指定なし

授業の概要と教育目標

生活習慣病と臨床栄養を関連付けて学び、各疾患ごとの栄養管理や食事提供に関する工夫、患者の立場に立って疾患と向き合い長く付き合っていくための食事療法など医療に貢献できる栄養学に視点をあてた研究を行っている。個人またはグループで、最新の論文を読み、本卒業研究のテーマである「疾患と栄養」「チーム医療」「嚥下障害」「システマティックレビュー」などについてまとめる。 研究テーマを進めるにあたり、文献調査、まとめ方等について、ディスカッションを行いながら、最新の臨床栄養研究に対して理解を深めていくことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「2. 人間の健康を規定する要因とし て幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」ならびに「3. これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、 実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得している。」に基づき、食欲という生理現象を研究していく。さらに、実践的な職業人として活躍するために、理論的な思考力の育成を目指すものとする。

到達目標

1. テーマに沿った疾患のメカニズムを説明することができる。
2. 学びから自ら疑問に思ったことを調べることができる。
3. 自らが積極的に考えまとめることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		第1回から第20回 研究倫理 研究計画の作成 ・わかりやすい具体的な研究課題を作成す		

第1回	島田美樹子	る。 ・先行研究の論文を収集し読む。 ・明確な研究目的の作成する。 ・詳しい研究方法の検討する。 ・実現可能な研究計画とする。 ・予測される結果の仮説をたてる。 ・専門外の者にも伝わる文章で書く。	ディスカッション形式で実施し、実現可能な研究計画をたてる。 研究計画のプレゼンテーションを行う。	予習：20分 研究計画に必要な知識をまとめる。 復習：30分 授業の課題をまとめる。
第2回		第21回から40回 研究の実施 ・必要があればプレ実習を実施する。 ・研究計画の修正をする。 ・研究方法の実施（集中講義とする）。 ・結果をまとめる。	ディスカッションにより研究を進める。 研究経過のプレゼンテーションを行う。	予習：20分 研究実施に必要な知識をまとめる。 復習：30分 授業の課題をまとめる。
第3回		第41回から60回 研究のまとめ ・データを収集する。 ・データをまとめる。 ・考察を作成する。 ・研究成果発表として公表する。 ・希望があれば、学会発表や学会誌へ投稿、査読を受ける。	ディスカッションにより研究を進める。 研究成果のプレゼンテーションを行う。	予習：20分 研究計画に必要な知識をまとめる。 復習：30分 授業の課題をまとめる。研究の論文を仕上げる。

教科書

講義や実習に使用した教科書と配布するプリントを使用します。

参考書

大学のテキスト、各疾患のガイドライン

成績評価の方法・基準

60点以上
進捗状況の発表（40%）、課題（60%）
前期の終わりと後期の15回目に進捗状況を発表してもらいます。最終演習日に提出してもらう課題を総合的に評価します。

課題等に対する
フィードバックの方法

成績発表時にコメントを付して作成した課題レポートを返却します（2部提出、1部返却、1部保管）。

履修のポイント

日本語でも多くの論文を読みますので、読解力が必要となります。また卒業研究なので、自ら考え、積極的に自ら行動に移せるようにしてください。

オフィス・アワー

月曜日、水曜日、木曜日 5限 研究室12

科目区分

専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R375

講義コード	20970012
講義名	卒業研究（橘）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての県庁・保健所での勤務経験に基づき、公衆栄養や栄養行政について具体的に教授する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養活動は、地域住民の健康の維持・増進を目的として綿密なる計画を堅実に実行し、その結果を的確に評価するという行為の繰り返しである。そのためには、正確な情報の収集による問題点の把握（公衆栄養アセスメント）及びヘルスプロモーションの考えに基づく計画・実施・評価・改善（公衆栄養マネジメント）の技術が必須となる。卒業研究では、地域集団に対する公衆栄養活動の展開方法等に関する論文を読み、まとめる。文献調査とそのまとめ方等について、ディスカッションを行いながら、最新の公衆栄養に関する理解を深めていくことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿った、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る公衆栄養分野に関する必要な知識や技術を修得することを目指し、地域集団の公衆栄養アセスメントの研究を通じてその目的達成に資する知識及び技術を養う。将来的な展望としては、多様な社会のニーズ及び変化に対応できる知識及び技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる、理論的思考力の育成を目指すものとする。

到達目標

1.地域集団に対する公衆栄養活動の展開方法について説明することができる。
2.自ら疑問に思ったことを調べることができる。
3.自らが積極的に考えることができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	橘陽子	テーマ設定（1～10回）	文献検索によるテーマ設定	予習45分：自ら取り組みたいテーマに関する文献を読み解く。 復習45分：文献により得られた知見をまとめる。
	橘	研究計画書の	参考文献を参照し	予習45分：定めたテーマに必要な研究計画

第2回	陽子	作成 （11～20回）	た研究計画書の作成	を立案する。 復習45分：不足している情報等を再度調べる。
第3回	橘陽子	研究の実施 （21～40回）	研究計画書に沿った研究の遂行 中間報告書の作成と発表	予習45分：研究に必要な知識を再度調べる。また、必要物品等を準備する。中間報告書を作成し、発表準備をする。 復習45分：行った研究を記録する。また、中間報告の際のコメントを参考に、必要に応じて研究計画書を修正する。
第4回	橘陽子	研究報告書の作成 （41～55回）	研究結果をまとめ、研究報告書を作成する。	予習45分：研究報告書を作をする。 復習45分：研究報告書作成に不足している情報等を再度調べる。
第5回	橘陽子	研究発表、まとめ （56～60回）	研究成果を発表する。研究全体をまとめ、総括する。	予習45分：発表資料を作成し、準備する。 復習45分：発表の際のコメントを参考に、必要に応じて修正する。

教科書

国民衛生の動向
公衆栄養学Iおよび公衆栄養学IIで用いた教科書
食事摂取基準（2020年版）

参考書

適宜提示します

成績評価の方法・基準

60点以上
中間報告書30%、研究報告書30%、発表30%、参加度10%

課題等に対する
フィードバックの方法

報告書返却時、発表時にコメントを付します。

履修のポイント

公衆栄養に対する理解や関心、自ら考え、積極的に行動できる姿勢を求めます。

オフィス・アワー

月曜～木曜 昼休み 栄養教育準備室

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R375

講義コード	20970013
講義名	卒業研究（吉村）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

スポーツ栄養はトップアスリートだけで無く、健康の維持・増進のために運動をしている人を含め幅広く対象とする。よってプロスポーツ選手だけで無く高校生や中学生・小学生等を対象と行ったアマチュアスポーツを対象にも栄養マネージメントに基づいた栄養サポートが実施されている。特に将来、トップアスリートになったときに自己管理出来るように食育の重要性は高い。なかでもバランス食や通学時間と食事時間の関係から補食サポートなどが顕著である。
本研究では、スポーツ栄養マネジメントにおける基本的なプログラム作成や、アセスメントなど理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学科のディプロマポリシーの関連として②での生理学的な理解と③でのライフステージ別での必要な知識と技術、④実践的な管理栄養士として活躍できるための知識や技術を学ぶ。
卒業後には、スポーツ栄養の現場等での活躍出きるように修得する。

到達目標

１．スポーツ栄養マネジメントを理解すること。
２．それぞれ必要なアセスメント等の技術・知識を身につける。
３．世代別のプログラム作成を行える。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	吉村英悟	・各自が興味を持っているテーマをどのように進めていくか、今後の方向性について話し合う。 ・関係する論文を集め勉強会を行う。 前期	【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて発表を行い、検討する。 （プレゼンテーション、ディスカッション、グループワー	予習：テーマに関係する資料を集める。90分 復習：調べ学習をノートなどにまとめる。90分

		1～8回（8回）	ク）	
第2回	吉村英悟	・関係する論文を集め勉強会を行う。 ・ケーススタディを用い、栄養プログラムの検討を行う。 ・実際にフィールドで調査をするにあたり、準備を行う。 前期 9～20回（12回）	【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて発表を行い、検討する。 （プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク）	予習：テーマに関係する資料を集める。90分 復習：調べ学習をノートにまとめる。90分
第3回	吉村英悟	・関係する論文を集め勉強会を行う。 ・実際にフィールドで調査をするにあたり、準備を行う。 ・フィールドでアセスメントや栄養教育、調査等を行う。 前期～夏季休暇期間 20～30回（10回）	【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて発表を行い、検討する。 （プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク）	予習：テーマの分析方法などを調べる。90分 復習：データを整理する 90分
第4回	吉村英悟	.文献検索や調査などから得られたデータをまとめる。 後期 30～45回（15回）	【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて発表を行い、検討する。 （プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク）	予習：テーマの分析方法などを調べる。90分 復習：データを整理する 90分
第5回	吉村英悟	・データをまとめて、検討し論文形式にまとめる。 ・内容をまとめパワーポイントにてまとめる。 後期 45～60回（15回）	【アクティブラーニング】 具体的に事例を用いて発表を行い、検討する。 （プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク）	予習：先行研究の論文を参考にテーマに関係する資料を集める。90分 復習：調べ学習をノートにまとめる。90分

教科書

適宜、プリントを配ります。

参考書

エクセル栄養君建帛社。
エクセル栄養君FFQｇ 建帛社
健康づくりと競技力向上のための スポーツ栄養マネジメント．日本医療企画．鈴木 志保子 (著)他
アスリートの栄養アセスメント．第一出版．田口 素子 (著)他

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
進捗状況の発表、レシピの作成(40%）調査・論文作成、パワーポイント作成などの取り組み(60%）

課題等に対する
フィードバックの方法

1主題に基づき研究を進める。進捗状況に対して、コメントをつけて返却する。双方向のディスカッションを行い、フィードバックできるようにする。

履修のポイント

日本語論文等を読みます。積極的に自己課題を見つけ行動できるようにする事。
研究の方法、時期などについては相談すること。卒業研究の進捗については必ず報告すること。

オフィス・アワー

曜 日：月曜日～金曜日
時 間：12：30～13：15
場 所：11号館3階 研究室6

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R375

講義コード	20970014
講義名	卒業研究（齋藤）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校教育現場において食育と給食管理、さらに指導的立場の経験を有する教員が研究指導を行う。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 齋藤 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育の機会と場には、様々なライフステージ・ライフスタイル別がある。健康増進法、栄養教諭制度創設および食育基本法の成立を契機にわが国の食育・栄養教育の重要性が高まった。この背景には、栄養すなわち食生活の仕方で、健康を損なうことが種々のエビデンスとして示されており、その改善には、食生活をとおした一次・二次・三次予防を行うことが必要とされてきた。特に、近年生活習慣病の低年齢化が懸念されている中、学校における食育に期待が寄せられ、その中核的な役割をする栄養教諭の役割は大きい。
本研究は、学校の食育と給食管理の範ちゅうである献立を一体的にとらえ、教材となる献立マネジメントし教材研究を深め、生活習慣病一次予防としての食育の研究をすることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養教諭は、管理栄養士養成課程で教職課程を履修することで、管理栄養士の資質をもった教員として免許状が取得でき得る。これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる栄養教諭としての資質を修得している。

到達目標

１．学校給食法を理解し、食育と給食管理を一体的にとらえることができる。
２．学校における食に関する指導計画に基づく献立計画が作成できる。
３．献立計画と連動させた給食時間の学習指導計画案の作成ができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		○オリエンテーション：卒業研究概要（研究内容、研究の進め方、評価など）の説明		

第1回	齋藤陽子	○研究の骨子の理解：全授業60回を15段階に分けて研究を深める ことの説明により研究意欲の向上 ○15段階による研究区分の理解：1段階概ね4回授業 ○1段階：学校教育と学校給食の理解	学校給食に関する法律を調べ、研究メンバーとディスカッションをする。	予習60分：学校の食育に期待されていることを調べておく。 復習60分：学校給食が教育の一環として実施されている法的根拠をまとめる。
第2回	齋藤陽子	○2段階：栄養教諭の職務と使命の理解	栄養教諭の職務の実際を調べ、研究内容に生かせる情報を収集し、研究メンバーとディスカッションをする。	予習60分：栄養教諭に期待されてい ることを調べておく。 復習60分：栄養教諭の職務をまとめ、具体的な事例を整理する。
第3回	齋藤陽子	○3段階：学校の食育と給食管理に関する研究内容の情報収集	学校の食育と給食管理に関する研究内容に役立つ情報を収集し、研究メンバーとディスカッションをする。	予習60分：学校給食の献立の役割を調べておく。 復習60分:学校給食の献立の教材化の理論をまとめる。
第4回	齋藤陽子	○4段階：学校教育における学校給食の位置づけ 学校教育法、学習指導要領の理解	学校教育のシステムを理解することで学校給食の役割と使命を踏まえた栄養教諭の活動を研究メンバーとディスカッションする。	予習60分：小中学校学習指導要領に目をとおしておく。 復習60分：学校教育における学校給食の位置づけをまとめる。
第5回	齋藤陽子	○5段階：学校給食における献立の位置づけとマネジメント	献立マネジメントの必要性を各自まとめ、研究メンバーと協力して論文形式にまとめる。	予習60分：Web上に公開されている献立計画様式を調べておく。 復習60分：献立マネジメントの様式の構築の必要性をまとめる。
第6回	齋藤陽子	○6段階：学校給食献立計画と学習指導計画案の理解 アセスメントに基づく手法の研究	学術的なまとめのための手法を研究メンバーとディスカッションする。	予習60分：栄養アセスメントの種類 を調べておく。 復習60分：アセスメントの手法と二次データの活用をまとめる
第7回	齋藤陽子	○7段階：学校給食献立計画の立案研究 食に関する指導年間計画を踏まえた献立教材の作成	食育目標に基づく献立計画の作成を研究メンバーとディスカッションして仕上げる。	予習60分：食に関する指導年間の事例を収集しておく。 復習60分：食育目標の設定の仕方をまとめる。
		○8段階：給食時間に		予習60分：学習指導

第8回	齋藤陽子	おける学習指導案の作成研究 食に関する指導年間計画に基づく給食時間の指導研究	食育目標に基づく学習指導案の作成を研究メンバーとディスカッションして仕上げる。	案の様式を数種、収集しておく。 復習60分：学習指導案の書き方を熟 知する。
第9回	齋藤陽子	○9段階：献立の教材化と指導案の作成の実際①	献立の教材化研究に向けて試作を行い、研究メンバーとディスカッションを行う。	予習60分：教材化する献立の試作研究をしておく。 復習60分：試作した献立の品質管理の観点からまとめる。
第10回	齋藤陽子	○10段階：献立の教材化と指導案の作成の実際②	献立の教材化研究に向けて試作を行い、研究メンバーとディカッションを行う。	予習60分：教材化する献立の試作研究しておく。 復習60分：試作した献立の品質管理の観点からまとめる。
第11回	齋藤陽子	○11段階：研究内容の評価・改善①	月刊「学校給食」掲載原稿を研究メンバーと協議して、修正・改善しまとめる。	予習60分：掲載原稿案を作成しておく。 復習60分：掲載原稿を修正し、投稿できるように準備する。
第12回	齋藤陽子	○12段階：研究内容の評価・改善②	月刊「学校給食」掲載原稿を研究メンバーと協議して、修正・ 改善しまとめる。	予習60分：掲載原稿案を作成しておく。 復習60分：掲載原稿を修正し、投稿できるように準備する。
第13回	齋藤陽子	○13段階：研究のまとめ① 月刊「学校給食」掲載投稿	掲載投稿する原稿を確認し合い、教材や料理等の写真撮影を行 い評価し合う。	予習60分：1学期（4月－7月）の教材作成を確認しておく。 復習60分：投稿原稿を確認する
第14回	齋藤陽子	○14段階：研究のまとめ② 月刊「学校給食」掲載投稿	掲載投稿する原稿を確認し合い、教材や料理等の写真撮影を行い評価し合う。	予習60分：2学期（8月－12月）の教材作成を確認しておく。 復習60分：投稿原稿を確認する
第15回	齋藤陽子	○15段階：研究のまとめ③ 月刊「学校給食」掲載投稿	掲載投稿する原稿を確認し合い、教材や料理等の写真撮影を行い評価し合う。	予習60分：3学期（1月－3月）の教材作成を確認しておく。 復習60分：投稿原稿を確認する

教科書

献立の教材化の理論と実践 東山書房 宮原公子編著
エクセル栄養君（最新版） 建帛社
食に関する指導の手引き 文部科学省

参考書

月刊「学校給食」雑誌（これまでの刊行物）

成績評価の方法・基準
単位取得基準60点以上 研究内容 70% 研究への参加度 30%
課題等に対する フィードバックの方法
毎月、1主題に基づき研究を進める。計画書（献立計画、学習指導案）や教材作成に対して、コメントをつけて返却する。双方向のディスカッションを行い、フィードバックできるようにする。
履修のポイント
月刊「学校給食」雑誌に連載執筆する機会を得ているので、全国の読者にアピールできるように、積極的に取り組んでもらいたい。斬新なアイディアを出していただきたい。
オフィス・アワー
月曜日から金曜日 昼休み（12:30-13:20） 11号館3F 6研究室
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-R375

講義コード	20970015
講義名	卒業研究（神戸）
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育委員会及び学校における勤務経験に基づき、給食経営管理及び食育について研究指導を行う。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

自分の研究テーマについて、指導教員と連絡相談を繰り返しながら計画的に研究を進め、卒業論文を作成する。
「給食」や「食育」に関する課題について、これまで学修した基礎的・専門的知識を用いて、その課題を解決するための計画を立て、実験・調査を行い、論理的思考および手法によって総合的に判断する力を習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、対象者のの身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得し、これまでの学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

1. 研究計画を立てることができる。
2. 自ら意欲的に実験・調査を実施することができる。
3. 論理的思考や手法を用いて総合的に判断することができる。
4. 課題解決に取り組むことができる。
5. 得られた結果を適切な手法を用いて表現することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	神戸美恵子	文献検索と抄読（1回～6回）	興味関心のあるテーマに関する先行研究や図書を検索し、抄読会を行う。	予習90分：興味関心のあるテーマについて調べ学習を行う。 復習90分：教員との面談内容・指導内容、査読会での内容の整理を行う。
				予習90分：研究テーマに関す

第2回	神戸美恵子	研究課題の明確化（7回～12回）	研究テーマに関する資料を収集し、ディスカッションを行う。	る資料を収集する。 復習90分：収集した資料の整理、ディスカッション内容の整理を行う。
第3回	神戸美恵子	研究計画作成（13回～20回）	収集した資料等を参考に、ディスカッションを通して、研究計画を作成する。	予習90分：研究を進めるために参考となる資料を収集する。 復習90分：参考資料、ディスカッション内容を基に研究計画の作成を進める。
第4回	神戸美恵子	研究実施（20回～50回）	研究計画に基づきディスカッションを通して研究を進める。	予習90分：研究の準備を行う。 復習90分：研究内容、ディスカッション内容について整理しまとめる。
第5回	神戸美恵子	論文作成（51～60回）	研究結果に基づきディスカッションを通して論文を作成する。	予習90分：研究データの整理、論文作成に必要な資料を収集する。 復習90分：研究結果、ディスカッション内容について整理し論文をまとめる。

教科書

必要に応じて、資料等を配布する。

参考書

初めての栄養学研究論文 第一出版
管理栄養士・栄養士のための統計処理入門

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
研究貢献度50%、論文内容30%、研究発表20%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。提出された課題にはコメントともに返却するとともに、ディスカッションを通して研究の方向付けの参考に活用する。

履修のポイント

日頃から、自身の研究に関連する研究論文をできるだけたくさん読むようにする。
自己のテーマであるので、主体的に取組むことが求めらる。
予習・復習の時間数：不足分については各自の学習で補完すること。

オフィス・アワー

月曜日～金曜日 昼休み 11号館3F研究室15
質問はメールでも受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-R375

講義コード	20980001
講義名	薬理学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	２時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 影山 晴秋	指定なし
教員	山科 章	指定なし

授業の概要と教育目標

近年、高血圧症、糖尿病などの生活習慣病や認知症が大きな課題となっている。多くの疾患の治療に医薬品が使われている。そのような中で、本講義では、薬に対する基礎知識を十分身につけるために、疾患の治療薬の作用機序や薬と食品との相互作用を中心に講義を行い、管理栄養士としての知識の幅を広げることを目標とする。
授業は講義形式で行い、「食」を通して健康に関わる管理栄養士にとっての医薬品の基礎知識及び薬と食品との相互関係を理解することを本科目の教育目標とする。病理学や臨床栄養学で学修した化学的治療法を補完する内容となる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「3. 多様な対象や人間のライフステージ・ライフサイクルに沿って、利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣に係る栄養・食事管理、栄養教育、臨床栄養ならびに公衆栄養、給食経営分野に関して必要な知識や技術を修得している。」に基づき、生活習慣病を代表とする疾患に対する医薬品の基本的な知識及び医薬品と食品の相互作用を理解することを目指すものとする。

到達目標

1. 医薬品のカテゴリーと作用を具体的に述べることができる。
2. 管理栄養士として薬と栄養・食事の相互作用について説明できる。
3. 修得した知識を、臨床の現場で応用できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	影山晴秋	医薬品の総論	予習90分：教科書第17と18章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解でき

			るようにする。
第2回	影山晴秋	医薬品の作用機序、自律神経作動薬と遮断薬	予習90分：教科書第1と2章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第3回	影山晴秋	炎症時に使用する医薬品（副腎皮質ステロイド薬と非ステロイド性抗炎症薬）	予習90分：教科書第3と4章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第4回	影山晴秋	抗リウマチ薬・免疫抑制薬 輸液と中心静脈栄養法	予習90分：教科書第4と6章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第5回	影山晴秋	呼吸器：気管支喘息治療薬（リリーバーとコントローラー）、去痰薬、鎮咳・感冒薬 消化器（１）：消化性潰瘍治療薬、健胃薬、制吐薬、瀉下薬、止痢薬	予習90分：教科書第8と9章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第6回	影山晴秋	消化器（２）：肝疾患、その他の消化器疾患に対する医薬品 代謝（１）：糖尿病、インスリン治療	予習90分：教科書第9と10章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第7回	影山晴秋	代謝（２）：経口血糖降下薬、痛風、抗脂質異常症薬、骨粗鬆症薬	予習90分：教科書第10章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第8回	影山晴秋	内分泌：ホルモン製剤、妊娠中の薬剤投与	予習90分：教科書第11章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第9回	影山晴秋	中枢神経（１）：パーキンソン病に対する医薬品、抗不安薬、睡眠薬、抗精神病薬	予習90分：教科書第12章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第10回	影山晴秋	中枢神経（２）：抗うつ薬、抗てんかん薬 麻酔（１）：麻薬性鎮痛薬、非合法麻薬、吸入・静脈麻酔薬	予習90分：教科書第12と13章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第11回	影山晴秋	麻酔（２）：局所麻酔薬、麻酔の種類、特殊な鎮痛剤 抗菌薬（１）：抗菌薬の種類、ペニシリン系	予習90分：教科書第13と14章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
12	山	血液：貧血、輸血と輸液に使う医薬品	予習90分：教科書第5と7章をよく読む。

第　回	科章	循環器（1）：降圧剤、血管拡張薬	復習　分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第13回	影山晴秋	抗菌薬（2）アミノ配糖体系抗菌薬、マクロライド系抗菌薬、抗真菌薬、耐性菌、抗ウィルス薬、日和見感染 抗がん薬：様々な抗がん薬、抗がん薬の副作用と投与法	予習90分：教科書第14と15章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第14回	山科章	循環器（2）：カルシウム拮抗薬、狭心症・心筋梗塞治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬	予習90分：教科書第7章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。
第15回	影山晴秋	特殊な薬：散瞳薬・縮瞳薬、緑内障治療薬、解毒薬、消毒薬	予習90分：教科書第16章をよく読む。 復習90分：教科書と授業ノートを活用し、授業内容を理解できるようにする。

教科書

イラストで学ぶ薬理学 田中越郎 著（医学書院）

参考書

使用しない

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上。
レポート・課題100%。

課題等に対するフィードバックの方法

提出した課題レポートに関しては、レポートにコメントを入れて返却するので、成績発表後、研究室10まで取りに来ること。コメントに対して、もう一度教科書などで調べ直しておくこと。

履修のポイント

医薬品の名前がたくさん出てきますが、薬のカテゴリーで作用を分類し、主に作用点と作用機序といった基礎知識を理解する。また医薬品の作用機序を通して、解剖生理学の復習を行う。

オフィス・アワー

月曜日から木曜日、9:00-16:00、11号館研究室10にて対応します。講義前後にも、適宜受け付けます。
上記のじかんであれば、Teamsでも受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-C381

講義コード	20990001
講義名	食品バイオテクノロジー
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食品会社における生産現場および研究所で勤務した経験を活かし、食品の機能や栄養について最新の情報を交えて解説する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

地球温暖化、エネルギー問題、食料問題などを解決する方法のひとつにバイオテクノロジーの応用がある。その中で、食品分野における食品バイオテクノロジーの役割と応用食品についての学ぶものである。また、分子生物学、遺伝子工学の基礎、遺伝子組み換え農作物、クローン技術、バイオリアクターなどについて理解を深め食品、医薬品（創薬）、農畜産物、環境における分野にバイオテクノロジーが利用されていることについての理解も深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、「２．人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。」に基づき、バイオテクノロジー全般の基礎的知識と食品の加工特性・保存性・嗜好性・生理機能・栄養性の向上においてバイオテクノロジーを利用した食品についてこの食品バイオテクノロジーの講義から習得することを目指すものとする。

到達目標

食品バイオテクノロジーの現状と問題点などについて、管理栄養士として食品の安全性を科学的視点から評価できる能力を養うことを到達目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	生物と無生物、遺伝学と遺伝子、遺伝子組換え、バイオテクノロジーにおける技術革新	“バイオテクノロジー”ということばについて、イメージしたものを挙げてもらい、今後の授業内容とすり合わせる。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった

			内容について調べる。
第2回	微生物の種類とその性質、微生物の生育条件、醸造や発酵食品製造における微生物の利用 ①	食品学で習得した微生物利用食品を挙げてもらい、その特徴について発表させる。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第3回	微生物の種類とその性質、微生物の生育条件、醸造や発酵食品製造における微生物の利用 ②		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第4回	酵素とは、酵素の生産と利用技術、酵素の利用	“酵素”とは何かを具体的に発表してもらい、復習した上で講義を行う。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第5回	ゲノムとは、クローニング技術、遺伝子組換え技術、有用物質の生産、遺伝子組換えの応用例 ①	“クローニング”からイメージできるものを発表してもらい、食品開発にどのように取り込まれているかを講義する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第6回	ゲノムとは、クローニング技術、遺伝子組換え技術、有用物質の生産、遺伝子組換えの応用例 ②		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
			予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容につ

第7回	植物の組織培養技術、植物の遺伝子組換え技術、遺伝学的手法を用いた植物遺伝子解析法、新品種の育成 ①		いて調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第8回	植物の組織培養技術、植物の遺伝子組換え技術、遺伝学的手法を用いた植物遺伝子解析法、新品種の育成 ②		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第9回	様々な組換え技術と組換えマウスを用いた医療・病理への応用、家畜におけるバイオテクノロジー、小型魚類を用いた遺伝子組換え技術の水産分野への応用、RNA干渉とその応用		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第10回	水の浄化・環境修復、環境汚染物質とモニタリングと処理、バイオエネルギー、バイオプラスチック		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第11回	食品の機能性とは、保健機能食品、特別用途食品、機能性食品、機能性食品の制度、健康食品とその問題点	“食品の機能性”についてイメージするものを発表してもらい、その内容を基に講義を行う。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第12回	食の安全・安心とセンシング、食環境への応用、遺伝子組換え食品、食品衛生への応用	“遺伝子組換え食品”についてイメージすること、安全性などについて検討する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった

			内容について調べる。
第13回	抗生物質、インスリン、血栓溶解剤、造血剤、インターフェロン、モノクローナル抗体、新しいがん治療、遺伝子診断		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第14回	幹細胞とは、iPS細胞の誕生、これからの再生医療 最新の医療で用いられている		予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第15回	食品バイオテクノロジー分野の現状と問題点などについて評価する管理栄養士の役割	まとめとして、食品におけるバイオテクノロジーが管理栄養士の業務としてどのように役立つかについて検討する。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した試料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

教科書

バイオテクノロジー入門 高畑京也・蔡晃植・齊藤修 編著 建帛社

参考書

単元ごとにプリント教材を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上。筆記試験 100%

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内に問題を提示したり、課題を課すことがある。学期末の筆記試験にも関与する事柄なので、必ず復習しておくこと。また、単元ごとに復習問題を配付するので、必ず問題を解いて授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力となり、試験対策にもつながっていく。教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。

オフィス・アワー

授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。

科目区分

専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-C352

講義コード	21000001
講義名	調理科学実験
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての実務経験を活かし、調理科学実験において、調理科学の基本・分析的素養を身に着けさせる。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

日常食品を用いた調理に関する基礎的実験をとおして、調理過程に起きる諸現象を科学的に理解し、実際の調理や食事提供の場面に応用できる力を養う。また、おいしさの評価である主観的手法（官能検査）および客観的手法（機器測定）について実験を通して理解するとともに、食品や食べ物の鑑別の能力を養うことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

保健医療学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、２、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識をふまえ、食事作りの基礎となる食品の調理過程における変化や現象を科学的に捉えて説明できることを目指すものとする。

到達目標

１．食品の調理性について、条件を変えた比較実験を通して、科学的にとらえてその理論を理解することができる。
２．官能評価や機器測定を通して、おいしさを評価することおよび食品や食べ物の鑑別についてその方法を理解できる。
３．食品のテクスチャーの違いについて学び、摂食機能障害に対応した食事形態のあり方を理解できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	野沢弘子	調理学実験の目的 実験の進め方 レポートの書き方等 調理科学実験の目的を知る	実験の進め方や実験の注意点をレクチャーする。	予習30分 教科書 復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出

		レポートの形式を学ぶ		
第2回	野沢弘子	計測とｐＨ ・測定 〇粒状、粉状食品の容量と重量 〇固形食品の体積，膨化率、形均率、密度について 〇比重、形状 〇ｐＨの測定,温度の測定、色の測定	実験データを共有して、実験レポート作成するためにディスカッションする。	予習30分 教科書復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出
第3回	野沢弘子	植物性食品の調理特性 米 ・実験 〇浸水による給水量 〇うるち米の炊飯と粥 〇もち米の蒸し加熱	実験データを共有して、実験レポート作成するためにディスカッションする。	予習30分 教科書復習60分 結果及び考察を書いてレポート提
第4回	野沢弘子	植物性食品の調理特性 小麦粉 ・実験 〇強力粉と薄力粉の観察 〇グルテンの採取 〇小麦粉の膨化調理	実験データを共有して、実験レポート作成するためにディスカッションする。	予習30分 教科書復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出
第5回	野沢弘子	植物性食品の調理特性 芋 ・実験 〇じゃがいものマシュポテト、でんぷんの観察 〇じゃがいもの過熱温度が軟化に及ぼす影響 〇サツマイモの温度上昇速度と食味	実験データを共有して、実験レポート作成のディスカッション	予習30分 教科書復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出
第6回	野沢弘子	植物性食品の調理特性 野菜 豆 ・実験 〇野菜の色とｐＨ 〇生野菜の放水と吸水 〇野菜の過熱軟化に及ぼす調味料の影響	実験データを共有して、実験レポート作成するためにディスカッションする。	予習30分 教科書復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出
第7回	野沢弘子	動物性食品の調理特性 鶏卵 生クリーム ・実験 〇鶏卵調理特性 〇生クリームの調	実験データを共有して、実験レポート作成するためにディスカッションする。	予習30分 教科書復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出

		理特性		
第8回	野沢弘子	抽出素材の調理特性 寒天 ・実験 〇寒天ゲルの凝固に及ぼす砂糖の影響 〇ゼラチンゼリーの接着性 〇寒天ゼリーの接着性	実験データを共有して、実験レポート作成するためにディスカッションする。	予習30分 教科書 復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出
第9回	野沢弘子	抽出素材の調理特性 砂糖 ・実験 〇砂糖の加熱温度とそのときの砂糖の状態を観察 〇フォンダンの条件 〇カラメルソースの状態を観察	実験データを共有して、実験レポート作成するためにディスカッションする。	予習30分 教科書 復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出
第10回	野沢弘子	抽出素材の調理特性 油脂 ・実験 〇ドレッシングの調製 〇揚げ物の吸油	実験データを共有して、実験レポート作成するためにディスカッションする。	予習30分 教科書 復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出
第11回	野沢弘子	高齢者の食物 嚥下困難者の食事 ・実験 〇隠し包丁の効果 〇人参を用いた嚥下困難者用食事の調製 〇軟食、粥の調製	実験データの共有と、実験レポート作成のディスカッション	予習30分 教科書 復習60分 結果及び考察を書いてレポート提出
第12回	野沢弘子	実験のまとめ 〇実験で学んだことをまとめ パワーポイントにまとめプレゼンを作成する。	この実験を通じて学んだことや感想をまとめプレゼンを作成するためのディスカッションをする。	予習30分 教科書 復習60分 プレゼンのまとめ

教科書

改訂 食事設計と栄養のための 調理科学実験
奥田弘枝 畑江敬子 吉岡慶子 編著 光生館

参考書

随時紹介

成績評価の方法・基準

単位認定 60点 プレゼン 30% 課題レポート70%

課題等に対する
フィードバックの方法

プリントや教科書を使った予習を行う。授業前に必ず該当する実験内容に目を通して、授業に臨むこと。復習では、実験の経過と結果をまとめ、テーマに関連する研究事項や興味をもった事

項について調べて記述してレポートして提出する。

履修のポイント

食品を口にすることが多いため、身支度の不備は減点とし、実験不適切とみなす。各自が自己管理の自覚を持って実験すること。

オフィス・アワー

月曜日・火曜日・水曜日 12：45〜13：15（昼休み）
11号館 調理準備室
＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-C340

講義コード	21010001
講義名	調理学実習III
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての実務経験を活かし、調理の技術や確かな知識と技術を習得できる授業を展開する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

調理学実習では、食物摂取の最終段階である調理を通して、食品が人に摂取されるまでの過程を理解するとともに、人々の健康をサポートする管理栄養士として必要な調理の基礎について、実習をとおして学び、確かな知識と技術を習得する。「調理学実習I」及び「調理学実習II」で修得したことをもとに、調理作業や操作の幅をさらに広げる。季節に応じた献立や行事食、供応食のほか、様々な食様式の実習を行い、献立構成の流れをつかむ。また、調理特性を科学的、具体的に把握できるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーの関連として、、2、人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を科学的に理解し、さらに健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な人体の構造並びに疾病の成り立ちから食べ物と健康の知識や技能を修得している。に基づき、調理科学の知識と調理技術並びに献立作成やその評価など食事設計の方法の修得を目指すものとする。「調理学実習I」及び「調理学実習II」で修得したことをもとに、調理作業や操作の幅をさらに広げる。世界の料理を学び、様々な食様式や調理操作を学び、献立構成の流れをつかむ。また、調理特性を科学的、具体的に把握できるようにする。

到達目標

１．調理に関する基礎知識や技術を、応用することができる。
２．食品の調理特性について科学的に理解することができる。
３．様々な国の食様式を実習を通して理解できる。
４．様々な国で使用されている食材や調味料を知り、調理操作習得することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	野沢	オリエンテーション 〇調理・献立作成の基礎の確	日本料理、中国料理、西洋料理の特徴について話し合う。	予習60分 調理学実習IIIの復習 復習60分 実習結果の考察（レポー

第1回	弘子	認 ・調理学実習IIIで学んだこと	・興味のある国の料理の特徴を話合い、献立を考える。	ト） 家庭での技術の向上 レポート作成
第2回	野沢弘子	各国の料理(１) ベトナム料理 〇ベトナム風春巻き（ゴイ クン）フォー ガー（鶏の米麺）鶏のベトナム風唐揚げ（ガークアイ） ・ベトナム料理の特徴を知る 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。(Teamsを活用して)	予習60分 ベトナム料理の特徴を調べる 復習60分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上
第3回	野沢弘子	各国の料理(２) タイ料理 ○エビのトムヤムスープ（トムヤムクン）グリーンカレー（ケーン キアオ ワーンガイ）焼きビーフン（パットタイ） ・タイ料理の特徴を知る 食材 調味料 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。(Teamsを活用して)	予習60分 タイ料理の特徴を調べる 復習60分 実習結果の考察（レポート） 栄養計算をして栄養価を知る 家庭での技術の向上
第4回	野沢弘子	各国の料理(３) インド料理 ○キーマカレー タンドリーチキン ナン ・インド料理の特徴を知る 食材 調味料 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。(Teamsを活用して)	予習60分 インド料理の特徴を調べる 復習90分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第5回	野沢弘子	各国の料理(４) 韓国料理 〇ビビンバ ナムル キムチチゲ ・韓国料理の特徴を知る 食材 調味料 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。(Teamsを活用して)	予習60分 韓国料理の特徴を調べる 復習60分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第6回	野沢弘子	各国の料理(５) スペイン料理 〇スペイン風オムレツ パエリア ガスパチョ ・スペイン料理の特徴を知る 食材 調味料 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。(Teamsを活用して)	予習60分 スペイン料理の特徴を調べる 復習60分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第7回	野沢弘子	各国の料理(６) メキシコ料理 〇トルティーヤ タコス 若鶏メキシカンソース ・メキシコ料理の特徴を知る 食材 調味料 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。(Teamsを活用して)	予習60分 メキシコ料理の特徴を調べる 復習60分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算

第8回	野沢弘子	各国の料理(７) イタリア料理 〇ミネストローネ ピッツア トマトとモッツアレラのサラダ パスタ（ジェノベーゼ）ラザニア スズキのオーブン焼き ・イタリア料理の特徴を知る 食材 調味料 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。(Teamsを活用して）	予習60分 イタリア料理の特徴を調べる 復習60分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第9回	野沢弘子	各国の料理(８） ロシア料理 〇ボルシチ ピロシキ ビーフストロガノフ ・ロシア料理の特徴を知る 食材 調味料 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。(Teamsを活用して）	予習60分 ロシア料理の特徴を調べる 復習60分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第10回	野沢弘子	行事食（３） お祝い事（洋風ディナー） ○前菜 スープ 魚料理 肉料理 サラダ デザート パン コーヒー 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。(Teamsを活用して）	予習60分 洋風ディナーの特徴を調べる 復習60分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上 栄養計算
第11回	野沢弘子	献立作成 ・選択した国の料理について調べ、料理の特徴を話合い、献立を考える 課題：レポート作成	・選択した国の料理について調べ、料理の特徴を話合い、献立を考える （グループワーク）	予習60分 配布プリント読む 復習60分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上
第12回	野沢弘子	調理実習 ・食材の選択を学ぶ ・調味料の使い方 ソースの作り方 味付けの特徴に留意して実習を行う。 課題：レポート作成	実習した内容について、学んだことや理解したことをグループディスカッションする。	予習60分 実習レポートを読む 復習60分 実習結果の考察（レポート） 家庭での技術の向上

教科書

プリント配布

参考書

これからの調理学実習 基本手法から各国料理・行事食まで 新調理研究会編
オーム社

成績評価の方法・基準

単位認定 ６０点以上
レポート５０％ 実習への参加度５０％

課題等に対する
フィードバックの方法

実習後のレポートに、調理のポイントと実習内容に関連した事項を調べてまとめる。
実習した献立の栄養計算をする。

履修のポイント
基礎技術の習得と実習への積極的な取り組み 献立の栄養計算ができる
オフィス・アワー
月曜日・火曜日・水曜日 12：45～13：15（昼休み） 11号館 調理準備室 ＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-C375

講義コード	21020001
講義名	健康スポーツ栄養学
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉村 英悟	指定なし

授業の概要と教育目標

スポーツ栄養はトップアスリートだけで無く、健康の維持・増進のために運動をしている人を含め幅広く対象とする。よってプロスポーツ選手だけで無く高校生や中学生・小学生等を対象と行ったアマチュアスポーツを対象にも栄養マネージメントに基づいた栄養サポートが実施されている。特に将来、トップアスリートになったときに自己管理出来るように食育の重要性は高い。そこで、本授業ではスポーツ選手の栄養管理について学び、マネジメントにおける基本的なプログラム作成や、アセスメントなど理解を深める。
よって①～⑤を学ぶ。
①スポーツ選手に必要な各栄養素の生理的作用について
②スポーツ選手に必要なエネルギーや栄養素の補給量について
③スポーツ選手の食事について
④試合期とトレーニング期の食事について
⑤ケーススタディについて

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学科のディプロマポリシーの関連として②での生理学的な理解と③でのライフステージ別での必要な知識と技術、④実践的な管理栄養士として活躍できるための知識や技術を学ぶ。
卒業後には、スポーツ栄養の現場等での活躍出きるように修得する。

到達目標

１．スポーツ栄養マネジメントを理解すること。
２．それぞれ必要なアセスメント等の技術・知識を身につける。
３．世代別のプログラム作成を行える。
４．スポーツ選手の栄養サポートが出来るようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	吉			予習30分（スポーツ栄養をしらべる）

第1回	村英悟	授業概要説明 スポーツ栄養の概要		復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第2回	吉村英悟	スポーツ栄養に関する科学的理論と根拠		予習30分（運動生理学や運動時の栄養について調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第3回	吉村英悟	スポーツ選手の身体組成（種目別身体組成の特徴）とエネルギー補給量		予習30分（種目別の代謝の特徴をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第4回	吉村英悟	糖質、脂質、たんぱく質の補給量		予習30分（運動時の糖質や脂質、たんぱく質の補給量をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第5回	吉村英悟	ビタミン、ミネラルの補給量		予習30分（運動時のビタミン、ミネラルの補給量をしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第6回	吉村英悟	・スポーツドリンクのエネルギー及び栄養素量 ・スポーツ時の栄養補助食品の利用		予習30分（スポーツドリンクの種類や特徴を調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第7回	吉村英悟	・種目別食事献立の基礎		予習30分（競技毎の栄養補給の違いを調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第8回	吉村英悟	・食事のタイミング ・試合前・当日・試合後の栄養管理		予習30分（栄養摂取のタイミングや違いを調べる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第9回	吉村英悟	スポーツ栄養マネジメントの概要１		予習30分（栄養マネジメントをしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第10回	吉村英悟	スポーツ栄養マネジメントの概要２		予習30分（スポーツ栄養マネジメントをしらべる） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確

				認する）
第11回	吉村英悟	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践	ケアプランの作成グループでのプログラムづくりするためアクティブラーニングを行う。	予習30分（ケアプランの作成に向けての資料集めを行う。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第12回	吉村英悟	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成１	グループでのプログラム(献立）づくりするためアクティブラーニングを行う。	予習30分（ケアプランの作成に向けての資料集めを行う。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第13回	吉村英悟	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成２	グループでのプログラム(献立）づくりするためアクティブラーニングを行う。	予習30分（ケアプランの作成に向けての資料集めを行う。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第14回	吉村英悟	ケーススタディによるスポーツ栄養マネジメントの実践 ケアプランに基づく献立作成３	スポーツ栄養マネジメント実習（グループ研究）発表準備 グループでの発表を行うためアクティブラーニングを行う。	予習30分（ケアプランの作成に向けての資料集めを行う。） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第15回	吉村英悟	スポーツ栄養マネジメント実習（グループ研究）発表・評価		予習30分（発表を行うための準備を行う） 復習60分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

適宜プリント

参考書

健康づくりと競技力向上のための スポーツ栄養マネジメント．日本医療企画．鈴木 志保子 (著)他
エクセル栄養君建帛社。
エクセル栄養君FFQｇ 建帛社
アスリートの栄養アセスメント．第一出版．田口 素子 (著)他

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
提出物50% 発表50%

課題等に対する
フィードバックの方法

課題や発表に対してコメント付け返却する。

履修のポイント

スポーツ選手等の栄養管理の実際について検討する各研究発表において、各自が積極的に発言し意見交換を行うこと。

オフィス・アワー

曜 日：月曜日～金曜日
時 間：12：30～13：15

場 所：11号館3階 研究室6
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-C382

講義コード	21030001
講義名	クックチルシステム概論演習
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 関谷 果林	指定なし

授業の概要と教育目標

現在のフードビジネス業界における課題として顧客満足度の向上、厨房要員の確保、原価率の維持・管理、厳格な衛生管理などがあり、これらの課題解決のために、ハード面、ソフト面の両面から開発や改善が進んでいる。
従来の調理法であるクックサーブに、新たな調理法である真空調理法や、クックチル、クックフリーズといった保存法を取り入れた『新調理システム』はこれらの課題を解決する仕組みのひとつであり、新調理システムを導入する施設・企業は増加傾向にある。管理栄養士は特に集団給食施設における経営、生産、衛生管理などの維持向上を果たすべき人材であることから、新調理システムの仕組みを理解し、施設及び対象者に応じた活用方法を身につけることを目教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、継続的に食事を供給する施設で利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理をおこなえる管理栄養士の育成に基づき、クックチルシステムを中心とした『新調理システム』の手法や、システム活用に重要なHACCPの概念と手順を学修する。また知識を身に付けた上で演習に取り組み活用方法の理解を深めることで、実践的な栄養・食のスペシャリストの育成を目指すものとする。

到達目標

1.新調理システムの概要について理解し、説明することができる。
2.新調理システムを取り入れた献立を計画・立案し工程表が作成できる。
3.新調理システム導入時に重要な衛生管理について、HACCPの概念を理解し、HACCPプランを作成できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
		【オリエンテーション】		

第1回	関谷果林	シラバスについて、授業の進め方 【復習】 ・大量調理施設衛生管理マニュアル ・新調理システムに重要な業務用厨房機器		予習：給食経営管理論分野における管理項目について復習する。 90分 復習；ノート、テストをみなおす。90分
第2回	関谷果林	【新調理システム①】 ・新調理システムの定義 ・調理・保存法 ・導入のポイント		予習：給食経営管理論分野におけるオペレーションシステムについて復習する。 90分 復習；ノート、小テストをみなおす。 90分
第3回	関谷果林	【新調理システム②】 ・新調理システムの加温と過熱 ・衛生管理（記録、HACCPの概要） ・原価管理		予習：HACCPシステム、給食経営管理論分野における衛生管理、原価管理について復習する。 90分 復習；ノート、小テストをみなおす。90分
第4回	関谷果林	【新調理システム③】 ・真空調理法とは ・真空調理法の基本工程と各工程の留意点 ・加熱条件と衛生管理		予習：クックサーブシステムの作業工程を復習する。 90分 復習；ノート、小テストをみなおす。90分
第5回	関谷果林	【新調理システム④】 ・クックチルシステムとは ・クックチルシステムの基本工程と各工程の留意点 ・メリットと導入効果		予習：クックサーブシステムの作業工程を復習する。 90分 復習；ノート、小テストをみなおす。 90分
第6回	関谷果林	【新調理システム⑤】 ・ニュークックチルシステムとは ・導入のポイント ・レシピ（例）の確認		予習：クックサーブシステムの作業工程を復習する。 90分 復習；ノート、小テストをみなおす。 90分
第7回	関谷果林	【新調理システム⑥-1】 ・衛生管理の基本と重要性 ・HACCPシステムの運用 ・新調理システムを利用した調理工		予習：第1回から第5回の授業ノートを見直す。HACCPシステム、給食経営管理論分野における衛生管理について復習する。 90分 復習；ノート、小テストをみなおす。 90分

		程、HACCPプランの作成方法		
第8回	関谷果林	【新調理システム⑥-2】 ・新調理システムを利用した調理工程、HACCPプラン、CCP整理表の作成	献立例を用いて、各資料を作成する（グループワーク）	予習：第1回から第5回の授業ノートを見直す。個人で調理工程、HACCPプラン、CCP整理表を考える。 90分 復習；作成した資料を見直す。 90分
第9回	関谷果林	【新調理システム⑥-3】 ・新調理システムを利用した調理工程、HACCPプラン、CCP整理表の作成	献立例を用いて、各資料を作成する（グループワーク） 作成したHACCPプランについて発表をおこなう（ディスカッション）	予習：グループで作成した資料を見直す。発表の練習を行う。 90分 復習；ノート、小テストをみなおす。 90分
第10回	関谷果林	【新調理システムの応用①-1】 ・新調理システムの調理テクニック ・新調理システムを用いた嚥下食		予習：応用栄養学における高齢期の栄養、および臨床栄養学における摂食・栄養障害について復習する。90分 復習；ノート、小テストをみなおす。 90分
第11回	関谷果林	【新調理システムの応用①-2】 ・新調理システムを用いた比較調理 ・新調理システムを用いた嚥下食		予習：応用栄養学における高齢期の栄養、および臨床栄養学における摂食・栄養障害について復習する。90分 復習；ノート、小テストをみなおす。 90分
第12回	関谷果林	【新調理システムの応用①-3】 ・新調理システムを用いた比較調理 ・新調理システムを用いた嚥下食		予習：応用栄養学における高齢期の栄養、および臨床栄養学における摂食・栄養障害について復習する。90分 復習；ノート、小テストをみなおす。 90分
第13回	関谷果林	【新調理システムの応用②-1】 ・新調理システムを用いた給食実習献立の提案 ・調理工程、HACCPプラン、CCP整理表の作成		予習：第1回から第5回の授業ノートを見直す。HACCPシステム、給食経営管理論分野における衛生管理について復習する。 90分 復習；ノート、小テストをみなおす。 90分
第14回	関谷果林	【新調理システムの応用②-2】 ・新調理システムを用いた給食実習献立の提案 ・調理工程、HACCPプラン、CCP整理表の作成		予習：第1回から第5回の授業ノートを見直す。HACCPシステム、給食経営管理論分野における衛生管理について復習する。 90分 復習；作成した献立を見直す。 90分

第15回	関谷果林	【新調理システムの応用②-3】 ・新調理システムを用いた給食実習献立の発表	作成した献立ついて発表をおこなう（ディスカッション）	予習：作成した資料を見直す。発表の練習を行う。 90分 復習；これまで学習したことをノートにまとめる。 90分

教科書

配布資料

参考書

・フードサービスの課題とクックチルの活用法 楠見五郎著 幸書房
・改訂新版 大量調理ー品質管理と調理の実際ー 殿塚婦美子編 学建書院
・新調理システムの概念とリテールHACCP完全解説 一般社団法人新調理システム推進協会
・その他献立立案資料

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
小テスト30%、提出物20%、発表20%、授業参加度30%（ディスカッションへの参加度、質疑応答など）

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業の中で小テストに関する答え合わせを行うので、授業内容の理解に役立てること。

履修のポイント

理論をふまえ、演習を通して新調理システム活用に当たっての留意点を理解する。
課題については提出期限を守ること。
給食経営管理論だけでなく、調理科学、献立作成能力も必須のため、しっかりと復習しておくこと。

オフィス・アワー

月曜日・火曜日・水曜日 12；45〜13：15
11号館 給食経営管理準備室
＊講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

専門科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-C361

講義コード	21040001
講義名	フードスペシャリスト論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	５時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食のスペシャリストとして、群馬県の商工会連合会の専門家である立場から、幅広い知識が要求されるフードスペシャリストについて、様々な角度からアプローチしながら講義する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 金澤 亜希子	指定なし

授業の概要と教育目標

我々が食生活を営めるといういうことは、生産者がいて、それを流通させる人がいて、販売する人がいて、調理する人がいてという一連の流れの元に成り立っている。また、食生活の歴史の元に成り立っている。この教科では、食に関連する事項を生産、流通、販売、食文化など幅広く講義することで、広い視野をもった食のスペシャリストを育成することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、これまでの学習を統合・発展させ、社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身に付け、実践的な職業人として活躍できる知識・技術の修得を目指す。

到達目標

現在の食の生産・開発・流通・消費に至るあらゆる分野でどのような問題点があるか考え、どう改善に取り組んでいけるか、また、今後食の産業に於いてどのようなニーズがあるのか考え、解決に取り組めるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	金澤亜希子	・オリエンテーション（授業の進め方、成績の評価方法など） ・フードスペシャリスト概論	・今後注目される食の分野、そこで必要となる食のスペシャリストについてｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝし、指定の用紙にまとめる。	＜予習：90分＞ ・教科書P１～P１５までを読んでおく ＜復習：90分＞ ・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝした内容をまとめ、翌授業の発表の準備をする

第2回	金澤亜希子	・フードスペシャリストの責務を４つ理解する ・食育について理解する	・前回の講義でまとめた課題をグループごとに発表し、意見交換をする ・食育のイベントをグループになって企画し、指定の用紙にまとめる。	＜予習：90分＞ ・教科書P１５～２８までを読んでおく ＜復習：90分＞ ・食育のイベント企画について内容をまとめ、翌授業の発表の準備をする
第3回	金澤亜希子	・人類の歩みと食物の関係を理解する ・食品加工・保存技術について理解する。	・食育イベントの発表と意見交換 ・未来の食品加工について考え、指定の用紙にまとめて提出する。	＜予習：90分＞ ・教科書P２９～４６までを読んでおく ＜復習：90分＞ ・日常の食生活の中で、使用されている食品加工技術、保存技術に注目する
第4回	金澤亜希子	・世界の三大食作法を知る ・食の禁忌と忌避について知る	・箸の使い方、和食のマナーの動画を視聴し、実際に箸を使用して正しい箸使いを学ぶ。	＜予習：90分＞ ・教科書P４７～５４までを読んでおく ・日本の箸使いのタブーを調べておく ＜復習：90分＞ ・日常の食生活の中で、正しい箸使いを行うよう、心がける
第5回	金澤亜希子	・世界各国の食の特徴について理解する ・世界各国の代表的な料理を知る	・予習してきた内容をもとに、融合料理（フュージョン料理）を５つ考え、指定の用紙にまとめ、意見交換をする	＜予習：90分＞ ・教科書P５５～６２までを読んでおく ・自分の興味がある世界の料理について５つ以上作り方を調べておく ＜復習：90分＞ ・フュージョン料理の課題を指定の用紙にまとめる
第6回	金澤亜希子	・日本の食物史の流れを理解する ・現代の食生活の特徴について考える	・現代日本の食生活の問題点について、その時代的背景についても考え、指定の用紙にまとめ、グループ内で発表し合う	＜予習：90分＞ ・教科書P６３～７３までを読んでおく ・日本の歴史年表を見ておく ＜復習：90分＞ ・課題をまとめ、翌授業の際に提出する
				＜予習：90分＞ P

第7回	金澤亜希子	・日本の食の地域差を野菜、調味料、料理の視点かあら理解する ・群馬の食の地域性について理解する	・自分の出身地の郷土料理についてまとめる ・自分の家のお雑煮についてイラストも書いて指定用紙にまとめる	・教科書　７３～８０までを読んでおく ・日本地図を見ておく ・自分の家のお雑煮の作り方を調べておく ＜復習：90分＞ ・課題をまとめ、翌授業の際に提出する
第8回	金澤亜希子	・戦後の食生活の変化について理解する ・食生活の現状と消費生活について理解する	・自分自身の食事一日分を書き出し、食の外部化に頼っている部分を洗い出す。その後グループで食の外部化の利用についてメリット、デメリットをディスカッションする。	＜予習：90分＞ ・教科書P８１～９５までを読んでおく ＜復習：90分＞ ・課題をまとめ、翌授業の際に提出する ・スーパーやコンビニで食の外部化の動向について注目する
第9回	金澤亜希子	・食生活の変化と食産業について理解する ・食料の供給と食料自給率について理解する	・身の回りの地産地消の取り組みについて、調べてきたことを発表し合う	＜予習：90分＞ ・教科書P９６～１０４までを読んでおく ・身の回りの地産地消の取り組みを調べてまとめておく ＜復習：90分＞ ・食をとりまく環境問題について、問題意識をもち、食品ロスを減らす努力をする
第10回	金澤亜希子	・フードシステムと食品産業の関係を理解する ・食品製造業の規模・動向・目的・特徴を理解する ・食品卸売業の規模・動向・目的・特徴を理解する ・新たな産業として注目されている6次産業化について理解する	・6次産業化について、６次産業化に関する動画を視聴し、理解する	＜予習：90分＞ ・教科書P１０５～１１７を読んでおく ＜復習：90分＞ ・教科書を読み返し、深く理解しておく
				＜予習：90分＞

第11回	金澤亜希子	・食品小売業について理解する ・外食産業について理解する	・今後の外食産業について、利用した経験、アルバイト経験などをもとに、発表する。	・教科書P１１７～１２４を読んでおく ＜復習：90分＞ ・教科書を読み返し、深く理解しておく
第12回	金澤亜希子	・食品の品質規格、表示にかかわる法律を知る ・食品表示法施行によって変更された食品表示を理解する	・持参した食品表示の切り抜きを指定の用紙に貼り、食品表示法施行に伴う変更点などを理解する	＜予習：90分＞ ・教科書P１２５～１５６を読んでおく ・お菓子や弁当、清涼飲料水などの食品表示を切り抜いて３つ持参する ・のり持参 ＜復習：90分＞ ・日常の生活の中で、食品を購入する際、食品表示を見るように習慣付ける
第13回	金澤亜希子	・食品表示法の添加物表示、栄養成分に関する表示を理解する ・健康や栄養に関する表示制度を理解する	・食品表示法に関する動画を視聴し、食品表示の理解を深める	＜予習：90分＞ ・教科書P１５６～１６８を読んでおく ＜復習：90分＞ ・日常生活の中で、機能性表示食品、特定保健用食品を見つけたら表示を確認する
第14回	金澤亜希子	・JAS法について知る ・国際的な食品基準（コーデックス、GAP）について理解する	・動画の視聴を通してGAPへの理解を深める	＜予習：90分＞ ・教科書P１６８～１７２を読んでおく ＜復習：90分＞ ・J－GAPの認証、コーデックス規格について調べ、深く理解しておく
第15回	金澤亜希子	・情報の発信、受容について理解する ・情報の氾濫について考える	・食のスペシャリストとして、食の安全性をどのように守るかをｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝする。	＜予習：90分＞ ・教科書P１７３～１８９を読んでおく ＜復習：90分＞ ・日常の生活の中で、広い視野をもって食に関わるように努力する

教科書

フードスペシャリスト論第４版
日本フードスペシャリスト協会編
建帛社

参考書
適宜紹介する
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 レポート６０％ 課題への取り組み３０％ 授業への参加度１０％
課題等に対する フィードバックの方法
提出された課題につき、A、B、Cで評価し、返却するので、学習の参考にすること。
履修のポイント
食への関心、探究力が旺盛であること。グループ討議でも食知識を活かし発言が活発であること。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室などで相談に応じる。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-C341

講義コード	21050001
講義名	フードマーケティング論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	１時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

授業では、フードビジネスの視点から農水産物や加工食品などの流通を中心に学んでいきます。また、世界の食料事情、食の安全・安心、食料消費と環境問題など私たちと関わりの深い問題についても説明します。授業は、講義形式で行いますが、授業内容が理解できているかどうかを確認するために「確認プリント」を実施する予定です。本講義は、授業を通じて社会や環境などをより深く理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、１．人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなど諸側面から理解している、４．これまでの学習を統合・発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得しているの2項目と関連しています。本講義を通して、社会や環境などをより深く理解するとともに、変化に対応できる知識を身につけることを目指します。

到達目標

１．私たちの食生活とその変化について説明できるようになる。
２．農水産物や加工食品の流通について説明できるようになる
３．流通の担い手である卸売業・小売業について説明できるようになる。
４．食の安心・安全などの身近な食料問題についても説明できるようになる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	フードビジネスとは何か オリエンテーション（授業内容と進め方、成績評価等） フードビジネス、フードマーケティングとは何かについて学びます。	予習90分：シラバスをよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
	食生活の変化（１）	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこ

第2回	日本の食生活の変化とその要因について学びます。	と。復習90分：授業の授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第3回	食生活の変化（2） 食生活の変化が食料の生産・消費にどのような変化を及ぼしたのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	食品流通（1） 食品流通と他の商品流通との違いについて学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	食品流通（2） 卸売市場の仕組みと現状について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	食品流通（3） 生鮮食品（青果物・水産物・食肉）の流通と近年の状況について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	食品流通（4） 食品業界の特徴と加工食品の流通について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	食品流通（5） 食品卸売業の役割と近年の状況について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	食品流通（6） 食品小売業の変遷とスーパー・コンビニ等の登場について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	食品流通（7） 1990年代以降の食品小売業の多様化について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	外食産業 外食産業の発展と現状について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	世界の食料事情 今日の世界の食料事情がどのようになっているのかを学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	日本の食料生産 日本の農業・水産業の現状と問題点について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	食の安心・安全 食料の輸入大国である日本の食の安心・安全について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	食料消費と環境問題 食料消費と環境問題との関係について学びます。	予習90分：プリント資料をよく読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

使用しません。プリントを配布します。

参考書

日本フードスペシャリスト協会編『三訂食品の消費と流通』建帛社

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上

筆記試験70%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組みなど）30%
課題等に対する フィードバックの方法
授業で実施した確認プリント等については、原則として次週返却します。
履修のポイント
授業の重要事項の整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-C362

講義コード	21060001
講義名	フードコーディネート論
(副題)	
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	フードコーディネーターとして、レシピ開発、フードスタイリング、商品開発、料理講師など、幅広間行ってきた経験をもつ。フードコーディネーターとして、実務で役立つ知識、技術を講義する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 金澤 亜希子	指定なし

授業の概要と教育目標

フードコーディネーターとしての仕事内容を、教員の経験をもとに、実践的な部分も交えて講義する。食事文化、マナー、テーブルコーディネート、レストランプロデュースなど、幅広く実習なども取り入れた講義内容ですすめていく。写真を撮る際の美しく料理を盛り付けるコツ、流行のコーディネートなど、フードスタイリングに関しては、実際にコーディネートをし、写真を撮影できるよう実習する。試験はレポート形式で、各自フードスタイリングをし、写真も撮り、評価する。
食をコーディネートしていく際の幅広い知識を、広い視野から学ぶ態度を望む。

卒業認定・学位授与の方針との関連

管理栄養士を目指して学んできた知識、技術を発展させ、現在必要性が高まっている「食の情報発信」の仕方を学ぶことで、管理栄養士＋αの知識、技術を習得できる。講義の内容は実践的な部分が多く、社会に出てからすぐに使える技術になるであろう。

到達目標

基本的なﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰとしての専門知識を身に付けたうえで、フードスタイリングができるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	金澤亜希	ﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ概論フードコーディネートとは何か、また、フードコーディネーターの仕事とはどのようなものがあるのか講じる。基本的な知識となる、	フードコーディネーターの仕事に関するDVDを鑑賞し、フードコーディネーターとして必要な要素を考え、各自プリント	＜予習（90分）＞フードコーディネーターとは何か調べべ、必要な資質、要素とは何か考えておく。＜復習（90分）＞フードコーディ

	子	おいしさとの本質、ホスピタリティについても講じる。	にまとめる。	ネーターとして必要な資質、要素について意識し、考える。
第2回	金澤亜希子	主に日本の食文化の歴史について講じ、現在の食文化の問題点を考える	現在の食文化の問題点として、環境問題について資料をもとに調べ、それぞれ調べたことを発表し、環境問題についてディスカッションする。	＜予習（90分）＞ 日本の歴史年表を見て、時代の流れを復習しておく。 ＜復習（90分）＞ 食と環境について考え、常に環境に配慮した行動が取れるよう心掛ける。
第3回	金澤亜希子	テーブルコーディネートの基本を、日本料理の様式に合わせたセッティング、食器の種類を講じる。	実際に日本料理に使用される食器、食具を使用して、セッティングを体験する。	＜予習（90分）＞ 日常の食事で使用する食器、食具に注目しておく。 ＜復習（90分）＞ 日常の食事の中で、セッティングに気を付けて食事をする。また、器の種類や素材に興味をもつこと。
第4回	金澤亜希子	世界各国の食器、テーブルウェア、テーブルコーディネートの特徴などを講じ、理解する。	実際にハロウィンのテーブルコーディネートを体験し、テーブルコーディネートとはどういうことかを理解する。	＜予習（90分）＞ 日常の食事で使用する食器、食具に注目しておく。 ＜復習（90分）＞ 日常の食事の中で、テーブルコーディネートを取り入れること。
第5回	金澤亜希子	食卓に於けるホスピタリティの精神を中心に、サービス、マナーの基本理念を講じる。	実際にサービスする側、サービスされる側をロールプレイを通して体験する。また、日本食のマナーの基本となるお箸の使い方の動画を見て、忌み箸について理解する。	＜予習（90分）＞ ホスピタリティとは何か調べておく。 ＜復習（90分）＞ 日常の食事のマナーに気を付けること。特に箸の使い方については正しく使えるようになること。
第6回	金澤亜希子	メニュープランニングの３つの軸、売れるメニューの作り方、レストランの業種、業態に合ったメニューの組み立て方を講じる。	実際にランチメニューのプランニングを考え、発表する。	＜予習（90分）＞ 自分の良く行く外食産業のメニューに注目しておく。 ＜復習（90分）＞ メニュープランニングの課題を完成させる。外食産業のメニューに興味をもち、どのよう

				な意味があるのか常に考える。
第7回	金澤亜希子	フードビジネスに於いて重要となるカラーコディネートについて、身近なもののカラーコディネートを題材にしながら講じる。	色鉛筆を使用し、「まんだら塗り絵」の実習を通し、色彩感覚を身に付ける。	＜予習（90分）＞ 色相環を見ておくこと。 ＜復習（90分）＞ 日常生活の中でカラーコーディネートの知識を活かし、洋服のコーディネート、食事の盛り付け等を工夫する。
第8回	金澤亜希子	食事空間、厨房設備のコーディネートについて、基本的なコンセプトから、音響設備、照明設備に至るまで講じる。	店舗計画を雰囲気、インテリア、店の間取り図を書いてイメージする。	＜予習（90分）＞ 教科書P９９～P１２１までを予め読むこと。 色鉛筆持参 ＜復習（90分）＞ 店舗計画の課題を仕上げ、翌講義の際に提出する。
第9回	金澤亜希子	フードサービスの動向と特性、外食産業の出店方法について講じる。	レストランの出店計画を作り、フードマネジメントの基本を理解する。	＜予習（90分）＞ 教科書P１２３～P１３４までを予め読むこと。 色鉛筆持参 ＜復習（90分）＞ 出店計画の課題を仕上げ、翌講義の際に提出する。
第10回	金澤亜希子	実際に外食産業を出店する際の費用の計算方法を、投資計画、収支計画について講じる。	実際に出店する際の費用の計算をし、特に損益分岐点についての計算を確実にできるようにする。	＜予習（90分）＞ 教科書P１３４～P１４４までを予め読むこと。 計算機持参 ＜復習（90分）＞ 教科書P１４３、１４４の演習問題を3回以上行う
第11回	金澤亜希子	食企画の種類、実際にイベントを行う際の手順について講じる。	グループで食育イベントの企画を立て、それを行う場合の手順、注意点などについて理解する。	＜予習（90分）＞ 教科書P１４５～P１６３までを予め読むこと。 ＜復習（90分）＞ 食企画の課題を仕上げ、翌講義の際に提出する。
第12回	金澤亜	料理写真を撮影する際のﾌｰﾄﾞｽﾀｲﾘﾝｸﾞについて、使用する道具、配置、見せ方について、講	実際に様々なスタイリングをしながら、どうスタイリングしたら美味しそ	＜予習（90分）＞ SNSや料理雑誌などに目を通し、どういったスタイリングが美味しそうに見えるのかを考えておく

	希子	じる。	うに見えるのかを理解する。	＜復習（90分）＞ 日常の食事の中で、どうスタイリングしたら写真に美しく収まるかを考える。
第13回	金澤亜希子	美味しく見える料理写真の撮り方の基本と、スマホで美味しく料理写真を撮る方法を講じる。	りんごをスマホで撮影してみて、どう撮ったら美味しく見えるかを理解する。	＜予習（90分）＞ SNSや料理雑誌などに目を通し、どういった料理写真が美味しく見えるのかを考えておく。 ＜復習（90分）＞ 日常の食事の中で、料理写真を10枚以上撮影する
第14回	金澤亜希子	12回目、13回目の講義で行った内容を復習し、料理スタイリングと料理写真の撮影方法を実践する。	予め準備した食材を、スタイリングし、料理写真を撮影する。	＜予習（90分）＞ SNSや料理雑誌などに目を通し、どういった料理写真が美味しく見えるのかを考えておく。 カメラ持参 ＜復習（90分）＞ 撮影した写真をプリントアウトし、レポートにまとめる。
第15回	金澤亜希子	教員の経験をもとに、フードコーディネーターとして働く際の仕事の運び方を講じる。また、14回目の講義で行ったスタイリング写真についても、評価する。	実際にレシピ提案をし、フードスタイリングした写真とレシピを各自持参し、発表する。	＜予習（90分）＞ 日常の生活の中で、ﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの仕事にどのようなものがあるのか注目しておく。 ＜復習（90分）＞ 講義で学んだことを日常の勉強、生活に活かすように努める。

教科書
フードコーディネート論日本フードスペシャリスト協会編（建帛社）
参考書
適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。レポート６０％、課題３０％、授業の参加度１０％
課題等に対する フィードバックの方法
提出した課題についてはA,B,Cの三段階の評価で返却するので、学習の参考にすること。
履修のポイント

フードコーディネートに興味をもち、実践的に学びたい学生、食のトレンドを知りたい学生を期待します。知識がなくても、この講義を受けて、食のトレンドについて関心を持っていただけたらと期待します。
オフィス・アワー
授業日の授業開始もしくは終了後に教室等で相談に応じます。
科目区分
専門科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-C383

講義コード	21070001
講義名	現代教職論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 佐々木 尚毅	指定なし

授業の概要と教育目標

教職についての理解を深め、自らの教職への意欲、適性等を熟考し、将来教職に就くことについて多角的に考察するために、教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識を修得することを目標とする。さらに予定されている学習指導要領改訂の中で重要な改訂点となる「カリキュラム・マネジメント」、「アクティブ・ラーニング」、「外国語(英語)の教科化」などについて、その導入理念を理解する。これらを通じて「時代の変化に対応した新しい学びを支える教育・教師」について理解し自らの適正を考え、どのような教師となるかキャリア・デザインできる事が目標である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部のディプロマ・ポリシーのひとつである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを第一に内容を精選する。人は年齢を重ねただけでは大人にはなれない。人は人のなかで人になっていく。その人のなかでも、教師は重要な機能と役割をもって子どもが大人になることを見守り、支え励ます。そうした教員の職務内容を理解し、教職の意義及び役割を学ぶ。また、受講者が自分自身の適正について熟考し、進路を考える。

到達目標

１)現代日本の子どもの状況と公教育の目的とを説明できる。
２)教職の意義や教員の役割、職務内容・服務内容等を説明できる。
３)ひとり一人の子どもの成長を支える「チーム学校」、「学校内外の専門家等との連携と分担」の必要性とその運営・活用について説明できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	何を学ぶのか、何のために学ぶのか。「自らと向き合い適正を考える」	学校現場のビデオを試聴後、グループ討議、発表。	復習90分:レポート作成「教師志望の動機」作成

第2回	親・教師・学校・社会の変化、世界の中の日本の子ども	グループ討議	予習30分:第1回配布資料の通読 復習30分:『子ども・若者白書』指定個所を読む
第3回	子どもを中心にした、連携と教師の役割の拡大		予習20分:『白書』指定個所のまとめと課題文書作成 復習20分:『白書』指定個所のまとめと課題文書作成
第4回	教育関連法規－日本国憲法・教育関連法規－		予習20分:教育基本法通読 復習30分:教基法確認テストに向けた学習
第5回	我が国の教育－中央教育審議会の教育構想－		予習30分:配布中教審答申を読む 復習30分:答申案のポイントまとめ
第6回	学習指導要領－学習指導要領改訂の理念とポイント－		予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第7回	新しい学校－学校の組織運営(校務分掌／新しい職による組織の変化)－		予習20分:調べ学習「1条校」の変遷 復習30分:校内職名の確認(次回確認テスト)
第8回	教師の役割－学級担任の職務と教科指導－		予習20分:『子ども・若者白書』の指定個所を読む 復習60分:配布資料に関する感想文作成
第9回	教師の役割－養護教諭・栄養教諭の職責と協働・連携－		予習60分:現職教師の日記を読む 復習60分:視聴映像の感想文作成
第10回	教師の役割－職務、研修、「学び続ける教師」－		予習20分:調べ学習「生涯学習」 復習20分:配布資料の再読
第11回	「特別な支援を必要とする子ども」		予習30分:調べ学習「障害者総合支援法」 復習60分:視聴映像感想文作成
第12回	「特別な支援を必要とする子ども」－事例の検討を含む－	グループ討議	予習20分:調べ「チーム学校」 復習90分:課題作成「私が目指す教師像」
第13回	学校－開かれた学校、学校安全の具体例とその検討－		予習20分:配布資料を読む 復習60分:課題作成「私が目指す家庭と地域と教師の関係」
第14回	教師の仕事－教科指導、生活指導、学級経営等－		予習20分:配布資料を読む 復習90分:作文「私が目指す教師像」
第15回	教師と生涯学習－学び続ける教		予習90分:作文「教師とは学校とは教育とは」

	師ー		復習90分:総復習

教科書

『中学校学習指導要領』(文科省、平成29年3月)、『高等学校学習指導要領』(文科省、平成29年)

参考書

各種法規、審議会答申は適宜配布する。

成績評価の方法・基準

定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)
単位認定60点以上

課題等に対する
フィードバックの方法

授業では持ち帰り課題を多く課す。その自宅学習の成果を次の授業時間内に発表者を指名して受講者の前で発表させる。その発表内容について意見交換を行う。このアクティブ・ラーニングへの取り組み姿勢とその内容を評価に加える。提出された課題文章はすべて添削し、文章作成能力の向上を図る。仲間と協働することの意義と楽しさを体得させる。

履修のポイント

大学は教育・研究機関である。自ら課題を発見し、その課題にどの様に取り組み、そして解決するかを学びとることにこそ大学での学びである。「仲間とともに、積極的に」という姿勢を自ら育てていくこと。

オフィス・アワー

講義時間の前後の時間及び休み時間

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-F420

講義コード	21080001
講義名	教育心理学
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	5時限
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育機関での心理臨床活動やスクールカウンセラーの経験を基にして、より具体的な児童生徒理解に関する授業を行う
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

教師が学校現場で児童・生徒と対応する際には、彼らが、今現在発達的にどのような状況におかれてるのか、また、そのときの心の状態はいかなるものなのか、ということに配慮しながら接することが求められる。この科目では、人は環境と相互に作用しあう存在であることを踏まえて、人の発達過程、学習過程、教授過程について講義する。授業は講義形式で行うが、授業後半では実習も取り入れ、学生による「模擬授業」を実施する。なお、青年期までの人の発達過程とその特徴、学習のしくみと学習を規定する要因と障がい、教授の類型について理解を深めることを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部看護学科・栄養学科のディプロマポリシーとの関連として、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から人に対する理解を深めることを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的な展望としては、心身の発達理論を理解しつつ、多様な人間のライフステージ、ライフサイクルを理解するという発達の側面、そして知識を収めていく学習の側面、発達課題に直面した際の課題未達成からくる適応の問題の側面から教職実践の基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

1．教育心理学で使用されるさまざまな専門用語の意味を理解できる。
2．青年期までの人の発達過程とその特徴について理解できる。
3．学習のしくみと学習を規定する要因、および障がいについて理解できる。
4．「教える」ということを体験を通じて実感し、自ら「教える」立場をシュミレーションする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
			予

第1回	オリエンテーション 教育心理学の概要	教育心理学で取り扱う内容について、その概要（発達・学習・教授）を取り上げる。よい授業とは何かについてグループで話し合いながら、心理学における教育心理学の位置づけについて考える。	予習90分：教科書pp.12-21を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第2回	発達の基本原理と人生初期の発達 発達の基本的な原理、発達の最近接領域の発達について取り上げる。	発達を促進する要因についてグループで話し合い、考究する。	予習90分：教科書pp.22-25、31-39 復習90分：配布資料を見直す。
第3回	発達段階の特徴 乳児期から成人期までの発達の特徴について取り上げる。	発達の特徴を前提に学校教育の意義について、グループで検討し、考究する。	予習90分：教科書pp.25-31を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第4回	さまざまな学習理論① 刺激と反応の結びつきを重視する学習の連合理論と認知の変容を重視する学習の認知理論を中心に、学習のしくみを取り上げる。	学習理論から生まれたソーシャル・スキルトレーニングを体験し、12・13・14回目で行う模擬授業の展開の仕方について理解する。	予習90分：教科書41-54を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第5回	さまざまな学習理論② 記憶、思考を取り上げる。	記憶のメカニズムを理解することで、どのように教授するのがよいのかについて熟考する。	予習90分：教科書pp.55-70を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
			予習90分：

第6回	学習の規定因① 学習の規定因としての動機づけ理論と、動機づけ向上に必要な事項について取り上げる。	やる気を高めたり維持するためには何が必要なのかについて、グループで意見交換し、自身の考えを深める。	教科書pp.72-88を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第7回	学習の規定因② 学習を規定する要因としてのパーソナリティの理論、知能の構造、測定方法を取り上げる。		予習90分：教科書pp.89-102を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第8回	人間関係と社会性 子どもは人間関係の中でどのように成長するのかについて取り上げる。	愛着が発達に及ぼす意義について、グループ意見交換しながら、自身の考えを掘り下げる。	予習90分：教科書pp.104-119を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第9回	学級集団 集団形成や教師のリーダーシップやバイアス等について取り上げる。発達を促す集団の力は教師の働きかけによるところが大きいことを理解する。	望ましい学級集団を形成するために教師が気を付けるべきことについて考究する。	予習90分：教科書pp.124-139を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	学校不適応および障がいの理解 学校における適応と不適応、さらに発達障がいの種類や特徴の理解について取り上げる。	グループでの意見交換を通して、児童生徒のつまずきやすさについての考えを広げる。	予習90分：教科書pp.141-171を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
			予習90分：

第11回	学習指導と教育評価 学習方法や評価の種類について取り上げる。		教科書pp.175-192を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	模擬授業①	教える技術、伝える技術、授業づくりの留意点をおさえて、「教える」ことをシュミレートする模擬授業を行う。他の履修者は、授業評価をし、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第13回	模擬授業②	第12回目の授業から、さらに発展させ、応答技法の留意点もおさえて、「教える」ことをシュミレートする模擬授業を行う。他の履修者は、授業評価をし、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第14回	模擬授業③	第12・13回目の授業から、さらに発展させ、応答技法の留意点もおさえて、「教える」ことをシュミレートする模擬授業を行う。他の履修者は、授業評価をし、授業担当者にフィードバックする。この経験を教育実習の参考として役立てられるようにする。	予習90分：模擬講義資料作り。 復習90分：模擬講義ふり返り。
第15回	授業のまとめ	まとめ及び模擬授業の振り返り。グループ発表の良かったこと改善すべきところについて話し合う。	復習90分：これまでの小テストを見返す。

教科書

桜井茂男監修 『実践につながる教育心理学』 北樹出版

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。
確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）40%、
レポート課題30%、

模擬授業・授業への参加度30%を総合して評価します。
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業で資料を配布するので、授業内容の理解に役立てること。
履修のポイント
授業への積極的な取り組みを期待します。予習として各回の主題に該当する教科書の章に目を通すこと、復習として配布資料・ノートのまとめを勧めます。
オフィス・アワー
水曜日・木曜日、12：30〜13：20（昼休み）、11 号館第 8 研究室。 ※講義終了前後にも、適宜受け付けます。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-F421

講義コード	21090001
講義名	教育課程論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 佐々木 尚毅	指定なし

授業の概要と教育目標

学校教育が所期の目的をより効果的に達成しようとする観点から、まず、教育課程の意義、構造、機能、歴史といった基本的な事項について学ぶ。次いで、学習指導要領を用いて、学校や地域、子どもの実情を踏まえたカリキュラムマネジメントの実際、評価の観点、教育計画と教育方法との接続について体験的学習を交えながら、理解を深めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部のディプロマ・ポリシーのひとつである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」ことを第一に内容を精選する。人は年齢を重ねただけでは大人にはなれない。人は人のなかで人になっていく。その人のなかでも、学校は児童生徒の発達段階に則して、その成長を支え見守り励ますという重要な機能と役割をもっている。そうした学校教育の背景にあるカリキュラム理論を理解し、教育の意義及び役割を学ぶ。また、受講者が自分自身の適正について熟考し、進路を考える。

到達目標

学校教育における教育課程の意義と構造・機能を理解し、編成に関する基本的な事項についての説明できる。また、学習指導要領を教育課程編成の基準としながら、各学校の実情に合ったカリキュラムマネジメントを行うことにより、社会に開かれた教育課程を実現していく意義と具体的な手立てについて説明できるようになる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	学校の性質と教育内容の組織化、教育課程の意義	グループによる討議	復習90分:レポート作成「教師志望の動機」作成
第2回	教育課程の定義、学習内容観と教育課程のタイプ	グループによる討議	予習30分:第1回配付資料の通読 復習30分:『子ど

			も・若者白書』指定個所を読む
第3回	哲学的条件、社会学的条件、心理学的条件、教育学的条件		予習30分:課題図書を読み課題文書作成 復習20分:教科書の指定個所を読む
第4回	社会の発展段階と教育課程の特徴		予習30分:教育基本法通読 復習30分:教基法確認テストに向けた学習
第5回	「知識基盤社会」の「人間化」された「社会に開かれた教育課程」		予習30分:配布課題図書を読む 復習30分:配布課題図書を読む
第6回	発達段階への対応、可塑性への働きかけ、社会化と教育内容		予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第7回	教科の構成、教育内容の精選と構造化、教科外の教育内容		予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第8回	単元の意義、教材単元と経験単元、単元の構成と教材の準備		予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第9回	全体的教育課程と個別的教育課程、教育課程編成に関する法令等		予習40分:調べ学習「指導要領の変遷」 復習50分:今次改定のポイントを学習
第10回	教育課程編成の基本的観点、内容の重点化と構造化		予習20分:調べ学習（学校「年間指導計画」） 復習20分:配布資料の再読
第11回	定量化の必要性と観点、配当時間との関係		予習30分:配付資料「評価」を読む 復習60分:「指導と評価の計画」の作成
第12回	年間計画と時間割・日課表、教材・教具との関係	グループに分かれ、作業を分担し年間指導計画を作成し、校務分掌表を作成する。	予習90分:「総合的な学習の時間」の指導案作成 復習90分:「総合的な学習の時間」の指導案修正
			予習90分:「道徳の

第13回	評価の視点と方法、教育課程の接続と改善		時間」の指導案作成 復習90分:「道徳の時間」の指導案修正
第14回	現代社会に対する学習指導要領の戦略		予習90分:「特別活動」の指導案作成 復習90分:「特別活動」の指導案修正
第15回	基準性と個別性の観点から振り返り		予習90分:作文「教師とは学校とは教育とは」 復習90分:総復習

教科書

平成29年3月31日公示小学校学習指導要領、中学校学習指導要領

参考書

広岡義之著『はじめて学ぶ教育課程』ミネルヴァ書房 2016年
無藤 隆著『新しい教育課程におけるｱｸﾃｨﾌﾞな学びと教師力・学校力』図書文化社 2017年

成績評価の方法・基準

定期試験50％、授業末に実施する小テストや課題提出物等50％の割合で総合評価し、60点以上合格。

課題等に対するフィードバックの方法

授業では持ち帰り課題を多く課す。その自宅学習の成果を次の授業時間内に発表者を指名して受講者の前で発表させる。その発表内容について意見交換を行う。このアクティブ・ラーニングへの取り組み姿勢とその内容を評価に加える。提出された課題文章はすべて添削し、文章作成能力の向上を図る。仲間と協働することの意義と楽しさを体得させる。

履修のポイント

大学は教育・研究機関である。自ら課題を発見し、その課題にどの様に取り組み、そして解決するかを学びとることにこそ大学での学びである。「仲間とともに、積極的に」という姿勢を自ら育てていくこと。

オフィス・アワー

講義時間の前後の時間及び休み時間

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-F430

講義コード	21100001
講義名	教育方法論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	盲学校、小学校教員としての勤務経験を活かし、より深い学びにつながる教育方法を考える講義を行う
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 山上 裕子	指定なし
教 員	宮内 洋	指定なし

授業の概要と教育目標

教育の方法は、学ぶ者、学ばれる内容に関連するリアルタイムのものである。子どもの成長を考えた学びをどう実現していくのかを問い、授業を創意工夫していく必要がある。現在は、自ら主体的に考え、深い学びにつながるアクティブラーニングが求められている。本講義では、教育方法の基礎理論、授業の構成要素、学習評価、基礎的な技術、指導案の作成ポイント及び模擬授業を行う。
そして、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。
よりよい授業を工夫できる基礎の修得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、国際化・情報化の社会変化において、人間の成長に携わる教職の科目である。栄養学科のディプロマポリシー「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に関連している。
教えるということは、学び手がどのような状況にあるか、という理解が不可欠である。そして、人としてどう成長することが望ましいのか、という問いと関連する。

到達目標

①教育方法の基礎理論について理解できる。
②授業の構成要素や多様な学習評価について理解できる。
③授業の指導技術のポイントを理解できる。
④授業の基礎理論を踏まえた指導案を作成できる。
⑤児童・生徒の興味・関心を高めたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用し、効果的に教材等を作成・提示することができる。
⑥児童・生徒の情報活用能力を育成するための指導法を理解し、情報モラル教育についても理解し、児童・生徒を指導できる。

授業計画

	担当	授業内容と方法、課題	アクティブラー	予習・復習とそのために必要な

	者		ニングの内容	時間
第1回	山上裕子	・講義内容について説明を受け、学習目標を確認する。 ・これまで受けてきた授業について情報交換し、よりよい授業について考える。 ・現在求められている学びについて知る。	・これまで受けてきた授業について、ディスカッションを行う。	・予習：シラバスを通読し授業内容を知る。これまで受けてきた授業について振り返る。（90分） ・復習：授業内容をノートにまとめる。（90分）
第2回	山上裕子	・子どもから学びが始まる、という教育観に立った先人たちの提案した教育方法の考え方とその実践について学ぶ。具体的には、ルソーの消極的な教育、ペスタロッチの直観教授法、デューイの問題解決学習などである。		・予習：配布資料を読んで、内容を確認する。（90分） ・復習：授業内容をノートにまとめる。（90分）
第3回	山上裕子	・前回の授業内容から、授業には多様な要素があることを見出し、授業の目的に応じて環境を構成する必要性を学ぶ。	・授業の構成要素について、ディスカッションを行う。	・予習：配布資料を読んで、内容を確認する。（90分） ・復習：授業内容をノートにまとめる。（90分）
第4回	山上裕子	・授業形態に応じた多様な評価について、基礎理論に立ちかえりつつ、何をどのように評価を行うのかを学ぶ。 ・模擬授業の内容をグループで話し合う。	・模擬授業について、ディスカッションを行う。	・予習：配布資料を読んで、内容を確認する。（60分） ・復習：模擬授業に向けて準備を進める（60分）
第5回	山上裕子	・基礎理論を踏まえて、指導案を作成する。 ・指導案の作成の仕方について、学習指導要領の総則に則り、具体的に学ぶ。 ・協力して指導案を作成する。	・模擬授業について、ディスカッションを行う。	・予習：模擬授業の準備を進める（90分） ・復習：模擬授業に向けて準備を進める（90分)
第6回	山上裕子	・話し方、板書の仕方等に留意し、作成した指導案を試してみる。 ・より善い授業についてディスカッションを行う。	・より善い授業についてディスカッションを行う。	・予習：模擬授業の準備を進める（120分） ・復習：これまでの学修を振返り、レポートにまとめる。（120分）
第7回	宮内洋	情報機器とネットの活用	情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する方法とその注意点を学ぶ。	予習：情報機器の練習（30分） 復習：授業の振り返り（30分）
第8回	宮内	情報機器とネットの問題点	児童・生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する	予習：情報機器の練習（30分） 復習：授業の振り

	洋		ための指導法を学ぶ。	返り（30分）

教科書
中学校学習指導要領総則（平成29年3月告示 文部科学省）
参考書
佐藤学『教育の方法』左右社、2012年。 古藤泰弘『教育方法学の実践研究』教育出版、20013年。 今度珠美ほか『スマホ世代の子どものための主体的・対話的で深い学びにむかう情報モラルの授業』日本標準 その他、授業で適宜資料を配布する。
成績評価の方法・基準
単位認定 60点以上 レポート80％ 授業参加度20％
課題等に対する フィードバックの方法
授業で実施したワークは、次回授業時にコメントし返却するので、各自の復習に役立てること。
履修のポイント
小学校以降受けてきた授業を振り返り、よりよい授業とは何か、という問いをもつこと。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。また、下記のメールアドレスでも受けつけます。 yamakami@koriyama-kgc.ac.jp
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-F440

講義コード	21110001
講義名	生徒指導論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

①教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解すると同時に、教育課程全般のなかでの生徒指導の位置づけを理解する。
②集団指導・個別指導また「個人と集団」という概念のもとで、生徒指導について考える。
③子どもの成長発達の段階を踏まえながら、基本的生活習慣や規範意識の重要性について考える（養護教諭・栄養教諭の立場から）。
④学校教育における体罰、いじめ、不登校、インターネットや性、また児童虐待に関する問題などを具体的に取り上げながら、これらへの対応について考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	「生徒指導とは何か？」について、これまで受けてきた学校教育の記憶やイメージをたどりながら、教育課程のなかでのその位置付けについて理解する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
			予習90分：教育に

第2回	生徒指導の経験的なイメージを踏まえながら、教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について考える。		関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第3回	学校教育また学校生活の具体的な場面をイメージしながら、生徒指導の有り様について考える。― 視聴覚教材を用いる ―		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	特別活動・総合的な学習の時間における生徒指導の様態について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	児童生徒の問題行動に対する生徒指導の対応の仕方ついて学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	学校教育・部活動でなくならない体罰の実態について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	校則及び不登校（引きこもり）について考える。	校則及び不登校（引きこもり）について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	「いじめ（いじめ自殺）」の視聴覚教材をみて、感想・意見をレポートする。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第9回	第８回での感想・意見をもとに、「いじめ」問題についての理解を相互に深める。	第８回での感想・意見をもとに、「いじめ」問題についての理解を相互に深める。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第10回	児童生徒を取り巻くインターネットや性に関する問題について考える。	児童生徒を取り巻くインターネットや性に関する問題について考える。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第11回	養護教諭・栄養教諭を前提として、基礎的生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた生徒指導について考える。― 朝食欠食問題・不規則な生活習慣などを事例に ―		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第12回	養護教諭・栄養教諭が担任教諭との協力で進める生徒指導について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

第13回	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション。	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第14回	第13回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。	第13回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第15回	学校教育における生徒指導に関する総合的な理解を深める。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『生徒指導提要』（平成22年）『小学校学習指導要領』（平成29年）
『中学校学習指導要領』（平成29年）
岩城隆次・森嶋昭伸編著『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房

成績評価の方法・基準

定期試験（80%）、授業時のレポート（20%）
単位認定基準60%以上

課題等に対する
フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので、授業の振り返りとして役立てること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30〜13：20（昼休み） 11号館第7研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-F441

講義コード	21111001
講義名	特別支援教育論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験を活かして実践力を育成する授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 小林 徹	指定なし

授業の概要と教育目標

担当者の中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。
１．特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。
２．特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。
３．さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。
４．障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。
５．特別支援教育の実際について理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連としては、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から、さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもを理解することで人間理解を目ざす。
また、特別支援教育の理解を通して、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人となることを目ざす。

到達目標

１．履修学生が特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状について説明できる。
２．履修学生が障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画を作成し、評価することができる。
３．履修学生がさまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	小	「特別支援教育の考え方、制度と仕組み」 障がい児、特別な配慮を要する子ども、		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授

第1回	林徹	特別支援教育の基礎概念、特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。		業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第2回	小林徹	「障がいとの出合いと子育て、保護者支援」 保護者と障がいとの出合いと保護者支援、障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第3回	小林徹	「障がい児の理解と支援①発達障がい・知的障がい・情緒障がい」 映像を通して発達障がい、知的障がい、情緒障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第4回	小林徹	「障がい児の理解と支援②肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい」 肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第5回	小林徹	「障がい児の理解と支援③病弱・重複障がい・その他の特別な教育的ニーズ」 病弱・重複障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。また、障がいはないが、特別な教育的ニーズをもつ子どもについて学び、その支援方法を考える。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第6回	小林徹	「他機関との連携、幼保小中高の接続」 障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。また、幼保小中高の接続を含めたさまざまな機関との連携について学習する。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第7回	小林徹	「個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用」 子どもの有する特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成を通して学習する。また、作成した計画をもとにして具体的な支援を考察する。	特別な教育的ニーズを有する児童の個別の指導計画を作成し、発表する。	【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。
第8回	小林徹	「特別支援教育のこれまでとこれから」 特別支援教育の歴史的変遷について学習する。そして、今後のインクルーシブ教育システムの構築に向けた考察を行う。		【予習90分】当日の内容をテキストで確認する。 【復習90分】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。

教科書

小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 レポート試験（50%）、毎回提出する小レポート（30%）、小テスト（20%）
課題等に対する フィードバックの方法
毎回提出する小レポートや小テストを参考にして、期末のレポート試験を受けること。
履修のポイント
障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じる。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UM-F422

講義コード	21120001
講義名	道徳教育及び特別活動の研究
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	３時限
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	×
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解することを第一に行います。その上で、道徳教育と特別活動を一応区分したうえで、それぞれについて「グループ討議」を行います。また視聴覚教材を見て道徳の授業についての理解を深めます。
教育課程における道徳教育・特別活動の位置について理解すると同時に、今日の子どもたちが置かれた状況を考慮した場合に、どのような道徳教育・特別活動が求められるのかについて考えることを学習の目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

日本の道徳教育は1945年を境とする戦前・戦後では大きく変わりました。それは特別活動にも同様のことがいえます。何がどのように変わったのかについて理解することを一つの目標とします。その上で、今日の子どもたちが抱える様々な教育問題を想定しながら、求められる道徳教育・特別活動はどのようなものであるかについて、自分自身で考えることを二つ目の目標とします。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	道徳教育とは、特別活動とは（教育課程についての説明）。日本の近代教育における道徳教育と特別活動について考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第2回	教育活動の二つの形態（教授と陶冶）について学習する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資

			料を見直す。
第3回	今日の道徳の教科化を念頭に、学習指導要領と道徳教育・特別活動について学習する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	道徳の授業の視聴覚教材を見て、批判的な検討・学習を行う。	道徳の授業の視聴覚教材を見て、批判的な検討・学習を行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	学級活動、児童会活動及び生徒会活動、学校行事について学習する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	テーマを設定してグループごとに討議を行う。	テーマを設定してグループごとに討議を行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	グループ討議した内容を整理して、発表する。	グループ討議した内容を整理して、発表する。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	道徳教育と特別活動の現状と展望についてのまとめを行う。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

適宜、資料を配付します。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 筆記試験80%、授業中のレポート、発言20%で評価します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第７研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-F470

講義コード	21130001
講義名	教育相談論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	４時限
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	中学校や高等学校での教諭経験を活かし、教育相談に臨むにあたって必要な姿勢や在り方を解説する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 裕詞	指定なし

授業の概要と教育目標

学校における教育相談について、その目的の理解から入り、徐々に具体的技法や現実の児童生徒を想定した教育相談の在り方を明らかにしていきます。カウンセリングやソーシャルワークの技法にも学びながら、教師の専門性として教育相談が展開されることの意義について理解を深めていきます。
学生の皆さんが、上記の理解内容を、自らの言葉で説明するとともに、それらを基礎としての教育相談に関する自律的な学びが可能となることが教育目標です。

卒業認定・学位授与の方針との関連

ディプロマポリシーで重視されている「人間と環境の理解」との関係で、教育相談の必要性を理解し、基礎的知識を得るとともに、実践する際の基礎力を身に付けます。

到達目標

1.教育相談の必要性、学校教育上の位置付けについて理解し、説明できるようになる。
2.子どもの成長発達上の課題や、それに対する現代社会の影響を踏まえた対応を理解し、説明できるようになる。
3.教育相談の技法を支える人間観を理解し、説明できるようになる。
4.教育相談に係わる多様な専門職性を理解し、チームアプローチの基礎的知識を基にした議論ができるようになる。
5.事例を通して、教育相談を実践する基礎を培い、自律的に個別の具体的ケースを検討できるようになる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	山本裕	1.授業のねらい、方法、評価の在り方について 2.なぜ学校が必要で、なぜ学校で教	左記２について、自己の体験を省みて意見をまとめ、発表を通して学びを共有する。	復習180分

	詞	育相談が必要とされるのか		
第2回	山本裕詞	1.広義の教育相談と狭義の教育相談 2.近年の学校教育相談の動向	生徒指導と教育相談の関係を実感できた経験を、グループ間で話し合い、発表を通して学びを共有する。	生徒指導提要等によって、事前に教育相談と生徒指導の概念間の関係を下調べする。 復習。合計180分
第3回	山本裕詞	1.学校教育相談の４機能 2.学校内組織における教育相談の位置付け	自己の体験を左記１の４機能に分けてワークシートにまとめる。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第4回	山本裕詞	1.心理的事実の受容・共感と客観的指導 2.教育相談の「心」	グループ・ワークにより受容と共感を体験的に学ぶ。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第5回	山本裕詞	1.理論と技法に関する基礎知識の必要性 2.主な理論と技法に学ぶ	左記２について、個々人でワークシートに整理する。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第6回	山本裕詞	1.意義と分類 2.児童生徒理解の基本姿勢と具体的方法	ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第7回	山本裕詞	1.一般的理解の必要性 2.心に関わる疾病・障害・行動特性・言動	ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第8回	山本裕詞	1.「発達」という概念の特徴 2.発達課題の考え方	ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第9回	山本裕詞	1.「みる」「きく」ことによる理解 2.「探る」ための基礎知識	心理テストを体験し、その結果について自己分析し、効果と感想をワークシートにまとめる。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第10回	山本裕詞	1.管理職の役割と可能性 2.校内教育相談体制と担任の役割	ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第11回	山本裕詞	1.異なる専門職との連携 2.専門機関との連携	ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第12回	山本裕詞	1.教育相談と法令 2.専門団体の倫理規定と校内の申し合わせ	当該主題に関する教員採用試験既出問題を各自が解いて提出する。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
		1.自尊感情を育		

第13回	山本裕詞	て、共感力を高める支援 2.相互支援を進め、集団成長を促す	ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第14回	山本裕詞	1.発達障害のある児童生徒への対応 2.多様化する問題への対応	ケース事例について、教師として適当な対応を考察し、意見を述べ合う。	生徒指導提要等によって、当該主題の下調べを行う。 復習。合計180分
第15回	山本裕詞	1.授業のまとめ 2.小試験による学習効果の自己確認	グループワークにより学習内容を確認し、その後の個別小試験により教育目標の達成度を自己確認する。	復習180分

教科書

使用しません。授業中、必要に応じてプリント等を配布いたします。但し、下記「参考書」に示した『生徒指導提要』は予習復習に活用できますので、用意することを強く推奨します。

参考書

文部科学省『生徒指導提要』2010年、文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」（以上の2点は、文科省HPから入手可能）、島崎政男『入門 学校教育相談』学事出版2014年。

成績評価の方法・基準

60点以上の評価で単位を認定します。評価の割合は、授業中に数回実施予定の確認テストで50%、授業最終回のまとめの後に実施する試験によって50%です。欠席、遅刻、早退、課題の未提出等は減点の対象とします。詳細は、初回授業オリエンテーションにおいて説明します。

課題等に対するフィードバックの方法

授業内容の予習・復習を中心とした自主的な学びが必要となります。なお、各授業の終了間際10～20分で確認の小テストや小レポートを実施いたします。これらについては、採点・添削して、翌週の授業冒頭にて返却しますので、復習に活用するとともに、15回目の授業のまとめ時に使用できるように、配布プリントとともにファイリングすること。15回目の授業時に、自筆ノートとともに教員が確認します。

履修のポイント

「教育相談」の原理的理解に努めながらも、同時に、児童生徒の多様な状況・生活背景等を想像することが重要です。

オフィス・アワー

授業の前後で質問に応じます。また、文章で質問してくだされば、次回の授業時で回答をお渡しします。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UM-F472

講義コード	21140001
講義名	栄養教諭論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	１時限
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	小中学校及び教育委員会における勤務経験に基づき、栄養教諭の在り方について具体的に指導する。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 武井 弘美	指定なし
教員	神戸 美恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭のための科目です。栄養教諭は，管理栄養士・栄養士を基礎資格とした教員免許であり、「児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる」教員として、その専門性を生かし、食に関する指導における全体計画作成や実践等で中心的な役割を果たすとともに、学校給食の管理を行い、学校内における教職員間及び家庭や地域との連携・調整で要としての役割を果たすことが求められている。本授業では、教育課程における栄養教諭の教育活動や、栄養教諭に必要とされる資質能力を習得し、教師の視点で児童生徒や教育の今日的課題に関心を持てるようになることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療保健学部栄養学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、管理栄養士に必要なこれまでの学習を統合･発展させ、学校教育における多様なニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、実践的な職業人として活躍できる知識・技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

１．栄養教諭の役割について説明できる。
２．学校教育における学校給食の役割について説明できる。
３．学校給食と食に関する指導の一体化について説明できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	武井弘美神戸	オリエンテーション 栄養教諭の制度 ・栄養教諭制度創設の経緯		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直

	美恵子	・栄養教諭の資質能力 ・栄養教諭の身分と配置		し、理解を深める。
第2回	武井弘美神戸美恵子	栄養教諭の役割 ・栄養教諭の職務 ・学校給食の歴史 ・関係法規		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第3回	武井弘美神戸美恵子	学校組織と栄養教諭 ・学校組織と栄養教諭の位置づけ ・委員会活動等における栄養教諭の役割		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第4回	武井弘美神戸美恵子	学校給食と日本人の食生活 ・学校給食の食事内容の推移 ・地場産物の活用と郷土食	グループで、学校給食献立表をもとに、地場産物の活用および郷土料理をどのように取り入れているかディスカッションする。	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第5回	武井弘美神戸美恵子	子どもの発達と食生活 ・体位と健康 ・食習慣と健康 ・食生活の課題 ・学校給食での栄養摂取量	グループで、子どもの食生活の課題から、学校給食摂取基準を満たすためにどのような献立工夫が必要かディスカッションする。	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第6回	神戸美恵子武井弘美	学習指導要領の意義と食育のあり方 ・学習指導要領改訂の趣旨 ・学校における体育・健康に関する指導と食育 ・カリキュラムマネジメント ・栄養教諭に求められるもの	グループで、授業内容をふまえ栄養教諭に求められるものについてディスカッションする。	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。

第7回	神戸美恵子武井弘美	食に関する指導の全体計画 ・食に関する指導の全体計画作成の必要性 ・食に関する指導の目標と内容 ・全体計画作成の手順および内容 ・食育推進の評価		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第8回	神戸美恵子武井弘美	「食に関する指導」の展開 ・指導内容の整理と指導計画 ・年間指導計画に基づいた指導の成果 ・学習指導の評価 ・特別支援学校における食に関する指導		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第9回	武井弘美神戸美恵子	給食時間における食に関する指導 ・給食の時間における指導 ・指導における留意点	グループで、給食時間における留意点について具体例を挙げてディスカッションする。	予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第10回	武井弘美神戸美恵子	個別栄養相談指導の意義と方法 ・個別栄養相談の意義 ・個別栄養相談の方法 ・個別栄養相談指導の実際		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。
第11回	武井弘美神戸美恵子	家庭・地域社会との連携 ・家庭・地域社会との連携と栄養教諭の役割 ・地場産物を活用するための連携 ・連携の実践例		予習60分：教科書の該当箇所を読む。 復習60分：配布資料、教科書を見直し、理解を深める。

第12回	神戸美恵子 武井弘美	食に関する指導と学校給食(1) ・食に関する指導の全体計画と学校給食 ・学校給食年間指導 課題：給食年間指導計画作成	示された例についてディスカッションを行い、学校給食年間指導計画を作成する。	予習90分： 第1～11回の学習内容を確認する。 復習90分：給食年間指導計画を完成させる。
第13回	神戸美恵子 武井弘美	食に関する指導と学校給食(2) ・学校給食の教材化① 課題：年間指導計画に基づく献立作成	示された例についてディスカッションを行い、年間指導計画に基づく献立を作成する。	予習90分： 第1～12回の学習内容を確認する。 復習90分：年間指導計画に基づく献立を完成させる。
第14回	神戸美恵子 武井弘美	食に関する指導と学校給食(3) ・学校給食の教材化② 課題：献立に基づく給食時間の指導計画	示された例についてディスカッションを行い、献立に基づく給食時間の指導計画を作成する。	予習90分： 第1～13回の学習内容を確認する。 復習90分：献立に基づく給食時間の指導計画を完成させる。
第15回	神戸美恵子 武井弘美	食に関する指導と学校給食(4) ・計画の発表および評価 まとめ	第12～14回課題で作成した計画の発表を行い、評価しあう。	予習90分： 第12～14回課題で作成した計画の発表準備を行う。 復習60分：発表評価表を作成し提出する。

教科書

四訂 栄養教諭論 －理論と実際－
食に関する指導の手引 第二次改訂版

参考書

学習指導要領（文部科学省）、栄養教諭のための学校栄養教育論

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
課題60%、授業参加度・意欲40%とし総合的に評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

課題は、添削しコメント・アドバイスをつけて返却する。また、必要に応じて、受講者間で共有する。

履修のポイント

栄養教諭は、栄養に関する専門性と教育に関する資質を併せ持つことが要求される。学校給食の管理と食に関する指導とを結び付けられるよう意識して授業に臨んで欲しい。
予習・復習時間数：不足分については、自主的に子どもたちの食生活上の課題の解決案について研究すること

オフィス・アワー

武井：授業前後
神戸：月曜日～金曜日昼休み 11号館3F15研究室

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-F450

講義コード	21150001
講義名	学校食育指導論
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	３時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校教育現場での食育と給食管理の実務経験を活かし、学校の食育に必要な知識と技術が修得できるように授業を進める。
学年	3学年

担当教員

職種	氏名	所属
教 員	◎ 武井 弘美	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

『栄養教諭論』において学修した児童及び生徒の栄養の実態と課題、栄養教諭の役割、職務内容、食生活に関する歴史的、文化的事項を踏まえて、幼児、児童・生徒に食に関する指導を展開するために必要な知識・技術を習得し実践能力を養う。その場として教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動等の模擬授業を体験することで、その方法・知識・技術を習得し栄養教諭としての教育力を養う。さらに、教育課程に位置づけた「食に関する指導」と「学校給食管理」を一体化させた指導の重要性の学習を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これまでの教職課程の学習を統合･発展させ、多様な社会のニーズ、変化に対応できる知識・技術を身につけ、教育の場における実践的な職業人である管理栄養士の資質をもった「栄養教諭」として活躍できる知識・技術を修得している。

到達目標

教職に関する科目や栄養教諭論の学修内容を基に、幼児、児童・生徒に食に関する指導を展開する知識と技術を習得し、学校の食育における実践能力を養うことを到達目標とする。
１．教科、特別活動等における食に関する指導計画の立案ができ、専門的な対場から効果的な指導を展開することができる。
２．食に関する指導に必要な知識や技術を習得し、学校教育活動全般で実践できる能力を身につけている。
３．教科等で学習した内容を給食時間において体験学習をし、児童生徒が自己の食生活に生かすことができる教育場面を設定することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
	武			

第1回	井弘美宮原公子	○ガイダンス：授業概要（授業内容・進め方・評価法）の説明 ○栄養教諭の職務と使命	○栄養教諭の職務と役割をテーマにディスカッションする。	予習90分：栄養教諭の職務の確認をする。 復習90分：学校の食育と給食管理を役割をまとめる。
第2回	宮原公子武井弘美	○教科等と給食時間の関連指導 ○学校給食献立の教材化 ・アセスメントを基にした食育・献立計画から食育計画	○作成した給食時間の指導と献立計画の関連を発表し、ディスカッションをして教材化の意義を共有する。	予習90分：給食時間の指導の重要性を確認しておく。 復習90分：学校給食献立の教材化の理論を整理する。
第3回	宮原公子武井弘美	○教科における指導① ・家庭科（小学校） ・技術家庭科：家庭分野（中学校)	○小・中学校家庭分野教科書を用いて、食○食育の関連をディスカッションする。	予習90分：家庭科（小学校）、技術家庭科（中学校）の教科書を確認しておく。 復習90分：家庭分野における学習指導案の事例研究をする。
第4回	宮原公子武井弘美	○教科における指導② ・体育科：保健分野（小学校） ・保健体育科：保健分野（中学校） ・小・中学校保健分野の教科書を用いて、食育関連指導ができる単元等を調べる。	○小・中学校保健分野教科書を用いて、食育関連指導ができる単元を調べる。 ○食育の関連をディスカッションする。	予習90分：体育科（小学校）、保健体育科（中学校）の教科書を確認しておく。 復習90分：保健分野における学習指導案の事例研究をする。
第5回	宮原公子武井弘美	○教科における指導③ ・社会科、 理科、 生活科（小学校） ・社会科（地理・歴史・公民）、理科（中学校）	○小・中学校社会科、理科、生活科教科書を用いて、食育関連指導ができる単元を調べる。 ○食育の関連をディスカッションをする。	予習90分：小学校（社会科、理科、生活科）、中学校（社会科、理科）の教科書で食育と関連単元を確認しておく。 復習90分：保健分野における学習指導案の事例研究をる。
第6回	宮原公子武井弘美	○教科における指導④ ・道徳科 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間の指導	○総合的な学習時間において実践可能な指導の場や題材ををデスカッションする。	予習90分：総合的な学習の時間での指導分野を調べておく。 復習90分：総合的な学習の時間における学習指導案の事例研究をする。

第7回	宮原公子武井弘美	○特別活動(学級活動 、児童会・生徒会活動等)の指導 ・学級活動 ・児童会・生徒会活動 ・学校行事 ・クラブ活動	○アセスメントを基にした学級活動における題材や発達段階に応じた指導内容をディスカッションする。	予習90分：特別活動における学級活動の内容を調べておく。 復習90分：学級活動における学習指導案の事例研究をする。
第8回	武井弘美宮原公子	○教職員との連携・調整、学校給食と家庭地域との連携 ・教職員との連携 ・地域家庭との連携	○教職員との連携事例を基にディスカッションをする。そのこと により、具体的な方法を習得する。	予習90分：家庭における健康課題を整理しておく。 復習90分：栄養教諭の職務である連絡・調整・連携等の役割をまとめる。
第9回	宮原公子武井弘美	○個別栄養相談活動、栄養相談とカウンセリング技法 ・栄養教諭と個別指導 ・相談者：児童生徒、保護者等との信頼関係の構築	○二人１組になり、相談活動の模擬練習をする。	予習90分：栄養教諭の職務である個別指導の方法を調べておく。 復習90分：栄養相談におけるラポールの形成を要点をまとめ、実践力を高める。
第10回	武井弘美宮原公子	○教科・総合的な学習時間・特別活動の指導計画案の作成 ・学習指導案の様式と書き方 ・教科等の指導と給食時間の指導の関連 ・給食時間の指導と学校給食の献立の教材化 【	○教科等における学習指導案に作成に取り組み、アドバイスを基 に修正する。	予習90分：学習指導案の様式を調べ、プリントをしておく。 復習90分：アドバイスを受けた学習指導案を完成させる。
第11回	武井弘美宮原公子	○食に関する指導計画案作成、教材作成・教材研究(1) ・学習指導案の作成 ・教材作成 ・教材研究	○児童生徒のアセスメント結果より、食に関する課題を抽出し、小グループで検討し合う。（１）Plan	予習90分：教材作成、教材研究の意味を調べておく。 復習90分：教材作成、教材研究の要点をまとめる。予習したこととの違いを確認する。
第12回	武井弘美宮原公	○食に関する指導計画案作成、教材作成・教材研究(2) ・学習指導案の作成 ・教材作成	○児童生徒のアセスメント結果より、食に関する課題を抽出し、小グループで検討し合う。（２）Plan	予習90分：教材作成、教材研究の意味を調べておく。 復習90分：教材作成、教材研究を深める。

	子	・教材研究		
第13回	武井弘美宮原公子	○模擬授業の実践(1)：１組 ・食に関する全体計画の説明 ・展開・評価 ・授業反省会	○児童生徒のアセスメント結果より、食に関する課題を抽出し、小グループで検討し合う。 ○学習指導案を基に模擬授業を行い、相互に評価する。（１）Do	予習90分：模擬教育に向けて準備をする。 復習90分：模擬授業を体験し、相互に評価した点をまとめる。教育実習に生かすよう意欲を持つ。
第14回	武井弘美宮原公子	○模擬授業の実践(2): ２組 ・食に関する全体計画の説明 ・展開・評価 ・授業反省会	○児童生徒のアセスメント結果より、食に関する課題を抽出し、小グループで検討し合う。 ○学習指導案を基に模擬授業を行い、相互に評価する。（２）Do	予習90分：模擬教育に向けて準備をする。 復習90分：模擬授業を体験し、相互に評価した点をまとめる。教育実習に生かすよう意欲を持つ。
第15回	武井弘美宮原公子	○模擬授業の実践(3)：３組 ・食に関する全体計画の説明 ・展開・評価 ・授業反省会、まとめ	○児童生徒のアセスメント結果より、食に関する課題を抽出し、小グループで検討し合う。 ○学習指導案を基に模擬授業を行い、相互に評価する。Check＆Act	予習90分：模擬教育に向けて準備をする。 復習90分：模擬授業を体験し、相互に評価した点をまとめる。教育実習に生かすよう意欲を持つ。

教科書

栄養教諭論 建帛社 金田雅代編著
献立の教材化の理論と実践 東山書房 宮原公子編著
小学校 教科書（社会科 理科 生活科 家庭科 体育科：保健分野）
中学校 教科書（社会科 理科 技術家庭科 保健体育科：保健分野）

参考書

小学校学習指導要領、中学校学習指導要領

成績評価の方法・基準

認定基準60点以上
課題・レポート（50%）、模擬教育（30%）、授業に対する参加度（20%）とし
総合的な評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

毎回、授業概要として内容や授業目的を示すとともに、授業に対す評価や感想を記述することを求める。双方向（学生と教員）の授業の振り返りをとおしてフィードバックできるようにする。
課題・レポートは、コメントをつけて返却する。

履修のポイント

栄養教諭の職務である学校の食育の実践力を養う教科である。栄養教育実習に直結する授業であるため、指導案作成、教材作成、模擬授業などの一連の流れを理解しておくこと。また、そのために必要な知識と技術を習得することが重要となる。

オフィス・アワー

武井 水曜日 授業前後
宮原 火曜日～金曜日 昼休み 研究室19（宮原研究室）

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-F460

講義コード	21160001
講義名	教職実践演習（栄養教諭）
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	１時限
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	小中学校及び教育委員会における勤務経験に基づき、栄養教諭の在り方について具体的に指導する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教 員	武井 弘美	指定なし

授業の概要と教育目標

第1回は、教職担当教員によりオリエンテーションを行う。第2～3回は、栄養教育実習を振り返りながら、教師（栄養教諭）という仕事について考える。第4～6回は栄養教育実習での経験を踏まえ、学校給食（調理場）についての学習を深めることにより、栄養教諭としての資質向上に努める。第7～10回では、教師に求められる様々な指導力を伸ばすために、道徳、生徒指導、総合的な学習の時間、特別活動の指導を前提として、児童生徒に対する洞察力・観察力そして創造力を高めるため視聴覚教材を用いて学ぶ。第11～14回は栄養教育実習の研究授業を踏まえ、栄養教諭の指導的側面の向上を図る。第15回は、学校教育が抱える諸問題をふまえながら教師の役割について考え、最後に教職課程履修に関するまとめを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

履修カルテにより、個人別の履修状況や教諭になるための実践的指導力等を把握しながら、演習を通して受講者が栄養教諭になるために必要な能力を培うことを目的とする。また、組織の一員としての自覚や地域社会とのつながりを意識しながら（地産地消）、社会性や人間関係能力（コミュニケーション能力）を育成する。

到達目標

"①履修カルテにより、履修状況を確認する。
②栄養教諭になるために必要な資質・能力を、身につける。
③学校という組織の一員として自覚するとともに、教師としての豊かな感性や人間関係能力を高める。 "

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	田口和	教職実践演習の内容とスケジュールの確認。履修カル		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復

	人	テ」の確認。		習90分：配付資料を見直す。
第2回	武井弘美	教育実習を踏まえて、教師（栄養教諭）の役割について学び、考える。		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第3回	武井弘美	学習指導要領と教育課程について再度確認する。食育基本法・学校給食法の理解を含む。		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	田口和人	自校方式とセンター方式の双方から、学校給食の状況について学ぶ。		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	武井弘美	「食のバランス」「食事の大切さ」など学校給食についての指導について考える。		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	武井弘美	教育実習で経験した「献立」をもとに、お互いに検討する。	教育実習で経験した「献立」をもとに、お互いに検討する。	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	田口和人	教育実習報告会を受けて、学校給食・子どもの実態・子どもの生活についてディスカッションを行なう。	教育実習報告会を受けて、学校給食・子どもの実態・子どもの生活についてディスカッションを行なう。	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	田口和人	学校全体の問題として「いじめ」をとらえ、改めて考える。		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第9回	武井弘美	視聴覚教材を用いて、学校教育が抱える多様な問題（障がい児）を考える。		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第10回	武井弘美	視聴覚教材を見て、学校教育が抱える多様な問題（障がい児）ついて、ディスカッションを行なう。	視聴覚教材を見て、学校教育が抱える多様な問題（障がい児）ついて、ディスカッションを行なう。	予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第11回	武井弘美	全学年を対象とした食に関する指導計画の作成		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
	田			予習90分：食及び教

第12回	口和人	給食の場を利用した食育		育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第13回	田口和人	給食・教科等での指導案作成		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第14回	田口和人	給食・教科等での指導案検討		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第15回	田口和人	履修カルテを用いて、教職課程の総合的な確認を行う。		予習90分：食及び教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書
なし
参考書
適宜、資料を配付します。
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上 演習50％・発表内容50％を総合的に評価します。
課題等に対する フィードバックの方法
授業内で課したレポートを返却します。見直して自分自身の発言に役立てること。
履修のポイント
主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室 ※授業終了後も、適宜受け付けます。
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-F480

講義コード	21170001
講義名	栄養教育実習
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	実験・実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校教育現場において食育を実践した経験を生かし、教育実習（栄養教諭）が有意義で効果的にできるようにする。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教員	宮原 公子	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習事前事後指導を踏まえ、5日間の栄養教育実習に取り組む。学校現場での教育活動全般の実際について学ぶ。そして、栄養教諭の役割について、研究授業や子どもたちとの関わりを通じて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

栄養教諭であることを自覚したうえで、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員、の三つの観点を到達目標とします。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。
第2回	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。
第3回	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。
第4回	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。
第5回	実習校での指導の下、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なうこと。

教科書
なし
参考書
なし
成績評価の方法・基準
実習校での指導評価による。
課題等に対する フィードバックの方法
実習ノートを返却するので、それをもとに教育実習を振り返る。
履修のポイント
主体的、対話的で深い学びを期待します。
オフィス・アワー
火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室
科目区分
教職科目
当該授業科目の教育課程内での位置づけ
UE-F473

講義コード	21180001
講義名	教育実習事前事後指導
(副題)	【教職必修】
開講責任部署	栄養学科
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	5時限
必修/選択	自由
実務経験のある教員の有無	○
実務経験のある教員の経歴と授業内容	小中学校及び教育委員会における勤務経験に基づき、栄養教諭の在り方について具体的に指導する。
学年	4学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田口 和人	指定なし
教 員	武井 弘美	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習事前・事後指導は、教育実習の事前と事後に2年間を通じて行う。事前指導においては、実習を効果的なものにするために、学校組織についての学習をはじめ、心構え・態度・姿勢など、身につけておかなければならないことを中心に行う。事後指導においては、教育実習を終えての報告会を通じて、経験交流と意見交換を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、日常的「生活空間」そして社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

次の4つを学習目標とします。
①教育実習の意義を理解すること、②教育実習についての基礎的事項（知識・技能・心構え）を理解すること、③教育実習に自信をもって臨むための準備をすること、④教育実習の経験をみんなで共有し、自分なり成果等をまとめること。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習とそのために必要な時間
第1回	田口和人	学校とはどんなところか、教師の仕事（組織）がどのようになっているかについて学習する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第2回	武井弘美	学校の教育活動の1年間（3年間も含む）を学習する。 教師の1週間および1日の教育活動について学習する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

第3回	武井弘美	学習指導要領及び「解説」について学ぶ。 指導案とは、なにかについて学習する。 指導案を作成する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第4回	武井弘美	指導案を作成する。	「主体的・対話的で、深い学び」を意識して行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第5回	武井弘美	作成した指導案をもとに、模擬授業を行う。	「主体的・対話的で、深い学び」を意識して行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第6回	田口和人	作成した指導案をもとに、模擬授業を行う。	「主体的・対話的で、深い学び」を意識して行う。	予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第7回	田口和人	それぞれの教育実習経験を発表し、お互いに講評する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。
第8回	田口和人	それぞれの教育実習経験を発表し、お互いに講評する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

適宜、資料を配付します。

成績評価の方法・基準

授業時の発言50%、レポート50%。
単位認定基準60%以上

課題等に対するフィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第７研究室
※授業終了後も、適宜受け付けます。

科目区分

教職科目

当該授業科目の教育課程内での位置づけ

UE-F474